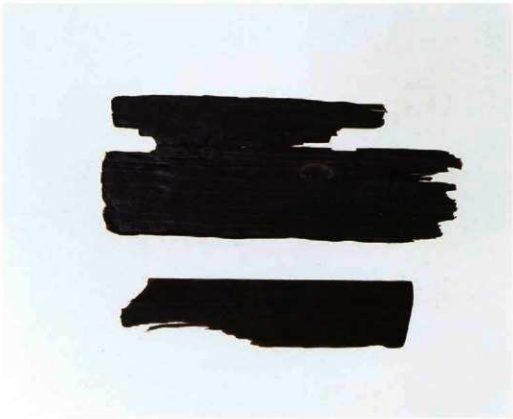
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第88集

下津北山遺跡（おりづきたやまいせき）

2000
愛知県埋蔵文化財センター

猿投産、常滑産の大型器種を中心とした一括廃棄資料。なかには水注、三筋壺など宗教色の濃い器種も含まれる。

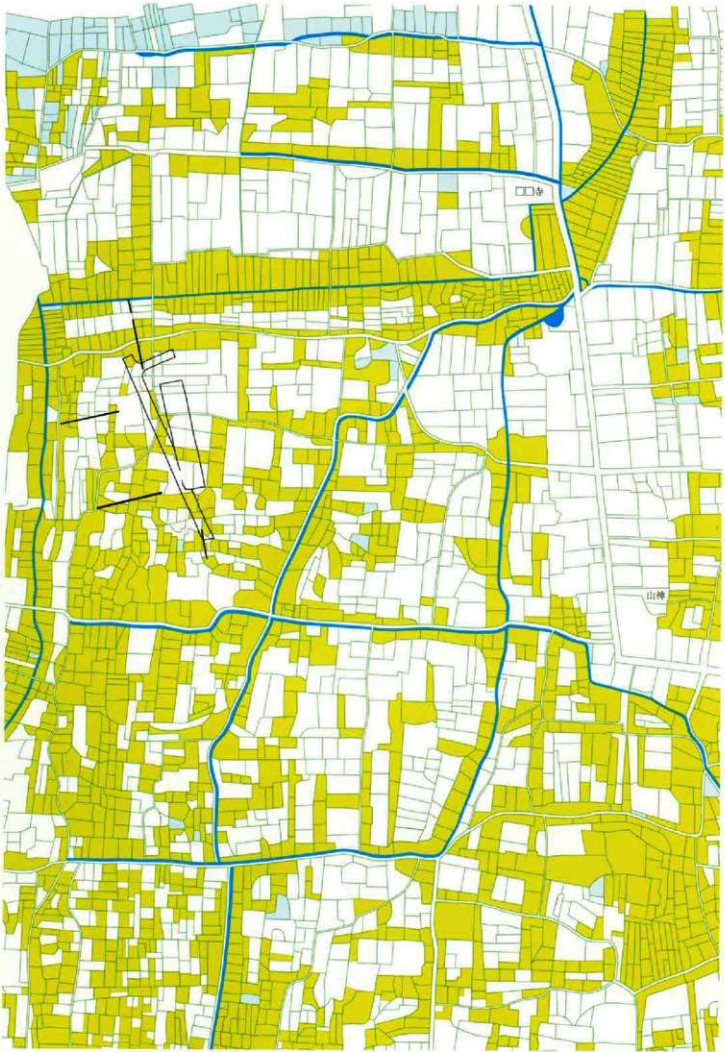
上：Ⅰ期方形区画溝出土遺物
「僧」、「佛」墨書陶器とともに緑釉円塔1点が出土した。400点以上の加工円盤も注目される。
下：96区SK18出土遺物
完形の風字硯1点、方形硯2点とともに40点以上の墨書陶器が一括廃棄されていた。



上：煤付着土器
I期の建物跡周辺からは煤が付着した土器が多く出土する。土器の破断面に煤が付着したものも多い。

下：下津木簡
方形区画南溝から出土した。楷書で「□郡□」「□部布祈□」と墨書される。泥塔修法に関連するものか。

カラー4　下津北山遺跡周辺地籍図



1．ガムシ Hydrophilus acuminatus Motschulsky
　左上翅　長さ24.0mm（標本24）
2．ヒメコガネ Anomala rufocuprea Motschulsky
　右上翅　長さ10.0mm（標本28）
3．ヒメコガネ Anomala rufocuprea Motschulsky
　右上翅　長さ5.0mm（標本26）
4．オオゴミムシ Lesticus magnus (Motschulsky)
　左上翅　長さ12.5mm（標本29）
5．オオゴミムシ Lesticus magnus (Motschulsky)
　左上翅（拡大）
6．マメコガネ Popillia japonica Newmann
　左上翅　長さ5.2mm（標本10）
7．サビキコリ Agrypnus binodulus (Motschulsky)

序

濃尾平野のほぼ中央に位置する愛知県稲沢市は現在、わが国の動脈幹線が交叉する交通の要衝として重要な位置を占めています。その容姿は古代・中世から現在に至るまで連綿と保ち続けられてきたものです。古代においては、市内松下町の推定国府、市内矢合町の国分寺が、中世には市内下津町の鎌倉街道宿駅や、守護所が置かれた下津城が、尾張国の政治・経済の中心地として栄え、そこにはさまざまな人や文化が往来したのです。

今回発掘調査を実施した下津北山遺跡では、中世尾張国の中心とするに相応しい内容豊かな中世の遺構・遺物が多数確認されました。なかでも、平安時代終わり頃の仏教に関連する施設や出土遺物は考古学のみならず、寺院史や仏教史をはじめとする文献史学の方面からも注目される成果と言えるでしょう。今後、本書に掲載した調査成果が学術的に活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり、地元住民の方々をはじめ、関係者及び関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対し、厚く御礼を申し上げる次第であります。

平成12年8月

財団法人愛知県教育サービスセンター

理事長 久留宮泰啓

例言

1．本書は、愛知県稲沢市下津北山町地内に所在する下津北山遺跡（遺跡番号09060；『愛知県遺跡分布地図Ⅰ（尾張地区）』1994）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、住宅都市整備公団中部支社より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3．調査期間は平成8年5月から9月、平成9年12月から平成10年3月で、調査面積はそれぞれ2000㎡、2100㎡である。

4．調査担当者は、平成8年度―高橋信明（課長補佐兼主査、現愛知県埋蔵文化財調査センター主査）、加藤博紀（調査研究員、現愛知県立蟹江高等学校教諭）、早野浩二（調査研究員）、平成9年度―大崎正敬（主査、現稲沢市立大塚小学校教諭）、早野浩二である。

5．発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。
愛知県教育委員会文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター、住宅都市整備公団中部支社、
国鉄清算事業団中部支社、稲沢市教育委員会

6．報告書作成にかかる整理作業には、次の方々の助力を得た。
八木佳美美、尾崎和美、岩本佳子（調査研究補助員）土井てる子、平野みどり、本多恵子、
宇佐美美幸、田中和子、服部恵子、山田有美子（整理補助員）、杉田紀久子、大藤妙子、山田芳美、
小崎暢子、山川和子、岡田真知子（整理作業員）
なお、出土遺物の写真撮影については深川進氏の手を煩わせた。

7．発掘調査・報告書作成の過程で、次の各氏をはじめ、多くの方々からご指導、ご協力を得た。
愛甲昇寛、赤羽一郎、伊藤淳史、稲葉伸道、上村喜久子、遠藤才文、追塩千尋、尾野善裕、河合忍、
清田善樹、小嶋芳孝、笹生衛、柴垣勇夫、城ケ谷和広、中島信親、中野晴久、橋崎彰一、西野元、
日野幸治、福岡猛志、藤澤良祐、北條献示、村岡幹夫、桃崎祐輔、山中敏史、吉澤悟

8．本書の執筆は、第3章（5）2～4を鈴木正貴（調査研究員）、第4章（1）を鬼頭剛・堀木真美子（調査研究員）・尾崎和美、第4章（3）を藍山誠一（調査研究員）、それ以外を早野浩二が担当した。なお、第4章（2）は株式会社パレオ・ラボ松葉礼子氏、第4章（4）は愛知県立明和高等学校森勇一氏より玉稿を賜った。

9．遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は、以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。
SK；土坑、SD；溝、SE；井戸、SB；建物、SA；柵、
NR；自然流路、SX；その他不明遺構

10、発掘調査及び本書で使用した座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠した。

11、本書で使用する土層の色調については、『新版標準土色帳』を参考に記述した。

12、発掘調査の記録（実測図、写真等）は愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

13、出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

14、本書の編集は、早野浩二が担当した。

目次

第1章 調査の概要 1
（1）調査の経緯 1
（2）調査の概要 2
（3）周辺の環境 4
第2章 遺構 10
（1）層序と時期区分 10
（2）Ⅰ期（中世初頭）の遺構 13
（3）Ⅱ期（中世前期）の遺構 29
（4）Ⅲ期（中世後期）の遺構 35
第3章 遺物 36
（1）土器・陶磁器 36
（2）土製品 52
（3）木製品 62
（4）石製品 64
（5）金属製品・鍛冶関連資料 65
第4章 自然科学分析 70
（1）下津北山遺跡における古環境解析 70
（2）12世紀末～15世紀に相当する木製品の樹種同定 82
（3）下津北山遺跡出土の植物遺体 86
（4）愛知県下津北山遺跡から産出した昆虫化石の語るもの 90
第5章 考察 94
（1）遺跡の変遷とその特質 94
（2）下津北山遺跡の墨書陶器について 105
（3）下津北山遺跡Ⅰ期をめぐる問題 114
—中世初頭における政治と宗教の連関への位置づけ
第6章 結語 124

別表
図版

図版目次

巻頭カラー
1 96区ＳＫ30出土遺物
2 Ⅰ期方形区画溝・96区ＳＫ18出土遺物
3 煤付着土器・木簡
4 下津北山遺跡周辺地籍図
5 昆虫化石の顕微鏡写真
図版1 下津北山遺跡調査区配置図（1：5000）
図版2 基本遺構割付図
図版3 基本遺構図1（1：250）
図版4 基本遺構図2（1：250）
図版5 基本遺構図3（1：250）
図版6 基本遺構図4（1：250）
図版7 古代以前の土器
図版8 96区ＳＤ07（方形区画北溝）出土土器
図版9 96区ＳＤ07（方形区画西溝）出土土器
図版10 97区ＳＤ08（方形区画南溝）出土土器
図版11 97区ＳＤ08（方形区画南溝）出土土器
図版12 96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器
図版13 96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器
図版14 96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器
図版15 96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器
図版16 96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器
図版17 Ⅰ期 掘立柱建物・溝出土土器
図版18 Ⅰ期 溝・土坑出土土器
図版19 Ⅰ期 土坑出土土器
図版20 96区ＳＫ30出土土器
図版21 96区ＳＫ30出土土器
図版22 96区ＳＸ02・96区ＳＫ19出土土器
図版23 96区ＳＫ18出土土器
図版24 96区ＳＫ18出土土器
＜写真図版＞
図版54 調査区遠景
図版55 96区建物群周辺
図版56 96区ＳＤ07周辺・96区ＮＲ01
図版57 96区ＳＤ07
図版58 96区方形区画溝
図版59 96区ＳＤ21
図版60 96区土坑遺物出土状況
図版61 96区土坑遺物出土状況
図版62 96区井戸遺物出土状況
図版63 97区
図版64 97区ＳＤ08
図版65 97区遺物出土状況
図版66 方形区画溝ほか出土壷、甕、鉢、鍋など
図版67 96区ＳＫ30ほか出土壷、甕、鉢、鍋など
図版68 96区ＳＫ18ほか出土壷、甕、鉢、鍋など
図版25 96区ＳＫ18出土土器
図版26 96区ＳＫ18出土土器
図版27 96区ＳＫ18出土土器
図版28 96区ＳＫ18出土土器
図版29 Ⅱ期 掘立柱建物・溝出土土器
図版30 Ⅱ期 溝出土土器
図版31 Ⅱ期 井戸出土土器
図版32 Ⅱ期 井戸出土土器
図版33 Ⅱ期 井戸出土土器
図版34 Ⅱ期 井戸・土坑出土土器
図版35 96区ＮＲ01ほか出土土器
図版36 96区ＮＲ01・97区ＳＤ18出土土器
図版37 97区ＮＲ01ほか出土土器
図版38 97区ＮＲ01出土土器
図版39 その他の土器
図版40 その他の土器
図版41 緑釉円塔・陶硯
図版42 加工円盤
図版43 加工円盤
図版44 加工円盤
図版45 加工円盤
図版46 加工円盤・陶丸・土錘
図版47 木簡と釈文
図版48 Ⅰ期木製品
図版49 Ⅱ期木製品
図版50 Ⅱ期木製品
図版51 石製品
図版52 金属製品・鍛冶関連資料
図版53 鍛冶関連資料
図版69 方形区画溝出土灰釉系陶器椀
図版70 土坑出土灰釉系陶器椀ほか
図版71 灰釉系陶器椀皿
図版72 墨書「上」ほか
図版73 墨書「上」「そう」？
図版74 墨書「そう」？
図版75 墨書「僧」
図版76 墨書「國」？、「見」
図版77 その他墨書、刻書「大」
図版78 Ⅱ期の墨書
図版79 緑釉円塔・陶硯
図版80 貿易陶磁器など
図版81 土製品など
図版82 木製品、石製品、金属製品

挿図目次

第１図　遺跡の位置（１：30万）
第２図　調査区周辺出土遺物（１：４）
第３図　周辺の遺跡（１：２万５千）
第４図　中世後期の尾張
第５図　調査区基本土層断面図（１：80）
第６図　96区ＳＤ07出土遺物分布図（１：100）
第７図　96区ＳＤ07土層断面図①（１：40）
第８図　96区ＳＤ07土層断面図②～④（１：40）
第９図　97区ＳＤ08出土遺物分布図（１：100）
第10図　97区ＳＤ08土層断面図（１：40）
第11図　96区ＳＤ21出土遺物分布図（１：100）
第12図　96区ＳＤ21土層断面図（１：40）
第13図　ＳＢ01、ＳＡ01遺構図（１：100）
第14図　Ⅰ期掘立柱建物遺構図（１：100）
第15図　96区ＳＥ04遺構図（１：20）
第16図　96区ＳＫ75、97区ＳＫ101遺構図（１：20）
第17図　96区ＳＸ01遺構図（１：40）
第18図　96区ＳＫ30（96区ＳＸ02）遺構図（１：40）
第19図　96区ＳＫ18遺構図１（１：40）
第20図　96区ＳＫ18遺構図２（１：40）
第21図　Ⅱ期掘立柱建物遺構図（１：100）
第22図　Ⅱ期掘立柱棚遺構図（１：100）
第23図　Ⅱ期井戸遺構図１（１：40）
第24図　Ⅱ期井戸遺構図２（１：40）
第25図　自然流路（96区ＮＲ01）土層断面図（１：80）
第26図　灰釉系陶器椀皿の分類
第27図　土師器皿（椀）の分類
第28図　椀Ⅰ、皿Ⅰの法量分布
第29図　椀Ⅲ、皿Ⅲの法量分布
第30図　土師器皿の法量分布
第31図　灰釉系陶器椀皿の製作技法
第32図　土器組成グラフ（Ⅰ期）
第33図　土器組成グラフ（Ⅱ期）
第34図　土器組成グラフ（Ⅲ期）
第35図　椀Ⅲの使用痕跡グラフ
第36図　緑釉円塔の法量の比較
第37図　加工円盤グラフ１
第38図　加工円盤グラフ２
第39図　土製品の分布
第40図　鍛冶関連資料の分布
第41図　96区深堀地点の層序と試料採取層準
第42図　97区ＳＤ08における試料採取層準
第43図　97区ＮＲ01における試料採取層準
第44図　96区東壁における試料採取層準
第45図　96区深堀Ｐ－２地点の花粉分析結果
第46図　96区深堀Ｐ－２地点の植物珪酸体分析結果
第47図　96区深堀Ｐ－２地点の珪藻分析結果
第48図　97区ＳＤ08・ＮＲ01の花粉分析結果
第49図　97区ＳＤ08・ＮＲ01の植物珪酸体分析結果
第50図　96区ＳＤ08・ＮＲ01の珪藻分析結果
第51図　96区東壁の花粉分析結果
第52図　96区東壁の植物珪酸体分析結果
第53図　96区東壁の珪藻分析結果
第54図　下津北山遺跡の古環境変遷
第55図　下津北山遺跡出土木材組織顕微鏡写真１
第56図　下津北山遺跡出土木材組織顕微鏡写真２
第57図　下津北山遺跡から産出したヒメコガネ（鞘翅）と現生標本の同一部位の大きさ比較
第58図　下津北山遺跡から産出したヒメコガネ（鞘翅以外）と現生標本の同一部位の大きさ比較
第59図　遺構の変遷１
第60図　遺構の変遷２
第61図　遺物出土分布１
第62図　遺物出土分布２
第63図　遺物出土分布３
第64図　下津北山遺跡における特殊器種
第65図　下津北山遺跡における特殊形態の椀皿
第66図　墨書陶器グラフ１
第67図　墨書陶器グラフ２
第68図　関連する墨書資料
第69図　下津北山遺跡周辺概念図
第70図　類似する性格の遺跡

表目次

第１表　下津関連年表
第２表　Ⅰ期掘立柱建物一覧表
第３表　Ⅱ期掘立柱建物一覧表
第４表　灰釉系陶器椀皿の構成
第５表　土錘分類表
第６表　加工円盤計測表１
第７表　加工円盤計測表２
第８表　加工円盤計測表３
第９表　加工円盤計測表４
第10表　金属製品・鍛冶関連資料一覧表１
第11表　金属製品・鍛冶関連資料一覧表２
第12表　金属製品・鍛冶関連資料一覧表３
第13表　下津北山遺跡96区深堀Ｐ－１地点の14Ｃ年代
第14表　植物遺体一覧表１
第15表　植物遺体一覧表２
第16表　植物遺体一覧表３
第17表　下津北山遺跡から産出した昆虫化石
第18表　下津北山遺跡から産出した昆虫化石
第19表　Ⅰ期の器種構成表
第20表　墨書陶器一覧表１
第21表　墨書陶器一覧表２
第22表　墨書陶器一覧表３
第23表　緑釉円塔一覧

編年対照表

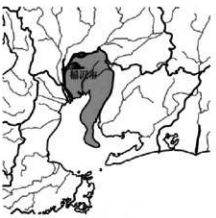
	尾張型			東濃型	古瀬戸	下津北山遺跡
	瀬戸	猿投	常滑			
1100	第3型式古	Ⅶ期第1型式古				
	第3型式新	Ⅶ期第1型式新				
	第4型式古	Ⅶ期第2型式古	1130 1a			
			1150 1b			
1150	第4型式新	Ⅶ期第2型式新	1175 2	谷迫間		
	第5型式古	Ⅶ期第3型式古	3	浅間窯下		Ⅰa期
	第5型式新	Ⅶ期第3型式新	1190	丸石3	前Ⅰa期	Ⅰb期
1200			4			
			1220	窯洞	前Ⅰb期	
	第6型式	Ⅷ期第1型式		白土原	前Ⅱa期	Ⅱa期
			5		前Ⅱb期	
1250			1250		前Ⅱc期	
	第7型式	Ⅷ期第2型式	1275 6a	明和	前Ⅲ期	Ⅱb期
			6b		前Ⅳ期	
1300	第8型式	Ⅷ期第3型式	1300	大畑大洞古	中Ⅰ期	Ⅱc期
					中Ⅱ期	
			7		中Ⅲ期	
1350	第9型式		1350	大畑大洞新	中Ⅳ期	
			8		1360	
					1380 後Ⅰ期	
1400	第10型式		1400	大洞東	1420 後Ⅱ期	Ⅲ期
			9		1440 後Ⅲ期	
1450	第11型式		1450	脇之島	1460後Ⅳ期(古)	
					後Ⅳ期(新)	
				生田	1485	
					大窯Ⅰ	

第１章 調査の概要

（１）調査の経緯

遺跡の位置

下津北山遺跡（遺跡番号09060）は、北緯35度15分10秒、東経136度49分30秒、愛知県稲沢市下津北山町地内に所在する古代から中世にかけての集落遺跡である。遺跡はJR稲沢駅東に隣接し、稲沢跨線橋から北に約300m隔てた位置にある。



第１図　遺跡の位置（１：30万）

調査の経緯

発掘調査は尾張西部都市拠点地区開発にともなう事前調査で、その端緒は国鉄分割・民営化施策後の昭和61年、35.2haという広大な面積を誇っていた稲沢操車場が売却の対象とされたことに求められる。すなわち、これを受け発足した稲沢駅周辺整備計画委員会が62年度末、操車場跡地35.2haを含む稲沢駅周辺200haの再開発に関する構想をまとめたことから、操車場跡地における遺跡の有無が問題とされた。

稲沢市教育委員会は国鉄清算事業団中部支社に跡地内での土木工事にかかる発掘の届出を依頼し、遺跡の試掘調査を市教委が実施することで合意。そのうち下津北山遺跡にかかる試掘調査については、４か年計画の最終年度に跡地の東半に位置する旧機関区部分を対象として実施された。その結果、下津北山遺跡の範囲が操車場跡地内に及んでいることが明らかとなったものの、遺跡の広がりについては十分明らかにされず、住宅都市整備公団中部支社尾張西部特定開発事務所と愛知県教育委員会・愛知県埋蔵文化財調査センターとの協議で下津北山遺跡の本調査を実施することで合意した。

翌平成８年度、下津北山遺跡の発掘調査は、住宅都市整備公団中部支社より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施し、さらに、平成８年度の調査結果を受けて、翌平成９年度も継続して調査を行った。

この間、平成７年３月29日には稲沢駅周辺地区土地区画整理事業の都市計画が決定、平成９年には事業計画が認可（市施行平成９年８月28日・公団施行平成９年11月20日）された。現在は新たなまちづくりに向け、それにかかる基盤施設等の工事が進められている。

稲沢市教育委員会 1991『旧国鉄操車場跡地内試掘調査報告書（Ⅰ）』稲沢市文化財調査報告ＸＸＸⅦ
稲沢市教育委員会 1992『旧国鉄操車場跡地内試掘調査報告書（Ⅱ）』稲沢市文化財調査報告ＸＸＸⅨ
稲沢市教育委員会 1994『旧国鉄操車場跡地内試掘調査報告書（Ⅲ）』稲沢市文化財調査報告ＸＬⅡ
稲沢市教育委員会 1996『稲沢市内発掘調査報告書（Ⅱ）―東畑廃寺跡（第１次）――旧国鉄操車場跡地内試掘（Ⅳ）―』稲沢市文化財調査報告ＸＸＸⅧ
稲沢市教育委員会 1999『稲沢市内発掘調査報告書（Ⅴ）―下津陰田・尾張西部都市拠点地区各土地区画整理事業に伴う試掘調査―――尾張国分寺跡第６次調査―』稲沢市文化財調査報告ＸＬⅦ
稲沢市役所都市開発部都市計画課計画グループ 1999『稲沢駅東 地区計画のしおり』

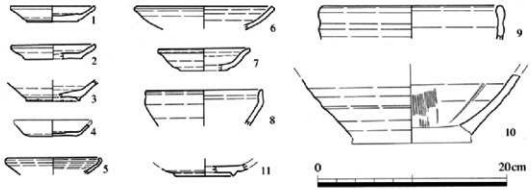
（2）調査の概要

1、平成８年度

平成８年度は、遺跡の残存状況を考慮して南北100ｍ×東西20ｍ、面積2000㎡の調査区が設けられ（96区）、５月中旬から９月初旬にかけて発掘調査を行った。調査にあたっては、調査区内を縦貫する旧排水路からの浸水が障害となったものの、通常のポンプアップでこれに対処した。

発掘区の表土を除去すると、ただちに黄褐色シルト層とともに中世の陶器片を多数確認、予想以上に遺構・遺物の残存が良好であることが確かめられた。さらに程なくして、調査区に南北約60ｍに達する方形区画が検出され、幅約５ｍという溝の規模から方形区画が中世の領主居館であるとの見通しを得た。

ところが調査が進行するにしたがって宗教関係の遺物が多数出土したため、当初の見通しには修正が迫られることになる。なかには尾張国府跡での出土が知られている緑釉円塔も含まれ、遺跡の性格の究明が課題とされた。加えて問題となったのが遺跡の範囲である。当初の予想よりも広く周囲に遺跡が展開していることが見込まれたため、次年度以降の調査に備え、発掘調査途中に調査区の北、西、南に幅約２ｍのトレンチを設定し、遺跡の範囲を確定した（範囲確認調査にともなう出土遺物は下図）。



第２図　調査区周辺出土遺物（1：4）

2、平成９年度

平成９年度は、跡地内にかかる工事用の敷設道路部分に調査区を設定した（97区）。道路部分の調査であったため、調査区は南北約200ｍにわたった。調査面積は2100㎡で、平成９年12月初旬～平成10年３月上旬にかけて発掘調査を実施。９年度調査も、８年度同様、場内からの浸水に悩まされながらの調査となった。

平成9年度は、微高地を南北に縦断する調査区であったため、８年度に確認した方形区画の空間的様相がいっそう明らかとなった。すなわち、方形区画南溝の延長部分は検出したものの、西溝については延長部分が検出されず、区画は途中で溝が途切れる不整形なものであることが判明、その立地から方形区画の性格究明がいよいよ重要な検討課題となった。

なお、平成10年２月11日（水）には、二か年にわたって実施した発掘調査の成果を公表する目的で、現地説明会を開催、緑釉円塔が話題を呼び、好天に恵まれたこともあって、地元の方々を中心に約500名の方々が遺構・遺物の見学に訪れた。

早野浩二 1996「下津北山遺跡」『埋蔵文化財愛知』№46（財）愛知県埋蔵文化財センター
早野浩二 1996「緑釉円塔」『埋蔵文化財愛知』№47（財）愛知県埋蔵文化財センター
加藤博紀・早野浩二 1997「下津北山遺跡」『年報 平成８年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
早野浩二 1998「下津北山遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報13 平成８年度』愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター
(財）愛知県埋蔵文化財センター 1998「下津北山遺跡現地説明会資料」
早野浩二 1998「下津北山遺跡」『年報 平成９年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
早野浩二 1999「下津北山遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報14 平成９年度』愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター

＜発掘調査参加者＞

飯野香代子 池山佳子 石黒美佐子 市川香津子 市橋久美子 伊藤雅美 稲垣美登里 今田利彦 岩田明美
岩田武夫 岩室一栄 植村輝美 牛田明美 内野知代子 大竹文子 小川順子 奥田美由岐 各務則子 片岡健二
片野百合子 苅谷晴代 小島弘好 後藤栄次 後藤喜久江 五藤むつ子 小幡すみ江 塩田美津子 清水多美子
下柱忍 白崎忠信 杉田千代子 杉村恵美子 杉村佳子 関田美千代 高野幸雄 竹市明代 竹川美知子 田治美子
棚橋豊子 塚本光子 堤陽子 東松道昭 徳永悟士 中村幸一 長屋靖子 西村澄子 野垣豊子 野々垣敬子
野々垣すず美 野々部一美 野村たみ子 羽田野明美 服部富子 服部礼二 早川久子 林浩江 林慶隆 日比芳子
平野加奈子 平野比芦子 平林八寿子 藤田静夫 前田有利子 松田典子 三輪美恵子 村瀬澄子 百瀬節子
森清和 森本千歳 山崎久美子 山之内なつ子 山本真紀子 吉田さよ子 渡辺康子 浅野知之（東海大学）
岩間弘樹（三重大学） 加賀智之（三重大学） 加藤優子（名古屋女子大学） 内藤栄穂子（愛知学院大学）
杉山恭也（愛知学院大学） 中村晋也（三重大学） 松本美和（奈良大学） 脇田真也（立命館大学）

（3）周辺の環境

1、地形・地質

濃尾平野は日本第三位の面積を有する広大な平野で、木曽川を隔てた左岸域の尾張平野主要部は、木曽川の分流派によるおびただしい堆積、第四紀沖積層に覆われている。稲沢市域は現在、濃尾平野のほぼ中央に位置するが、更新世、沖積下部砂層（濃尾層）の堆積が完了した晩氷期には、木曽川扇状地の扇端線にまたがっていたと推定される（15,000～10,000年B.P.）。

縄文海進

完新世、後氷期には縄文海進によって伊勢湾が内湾化し、高頂期の6000年前（縄文時代早～前期）には、下津地区を含む市域の東部付近に当時の海岸線（現在の海抜5～7.5m等高線に沿うあたり）が拡大する。このことは、遺跡から約400m南の稲沢跨線橋地点で、6490±150年B.P.、5720±180年B.P.の14C年代を示す多種類の貝化石が沖積上部砂層の下部で大量に見つかっていることが端的に示している。

下津城下層遺跡

海進が緩慢化すると、河川の粗粒堆積物（沖積上部砂層）の急速な拡大は、縄文時代後期までに現在よりも複雑で起伏に富んだ地形を生み出し、尾張平野は静穏な環境へと移行する。やや内陸化した下津地区周辺で人びとの営みの形跡が確認できるのもこの頃からで、市域で唯一の縄文時代の遺跡として知られる下津城下層遺跡では、後期末葉の深鉢などが出土している。なお、陸田自山遺跡では、標高4.5～5.0mの暗黒灰色粘質土より弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が出土していることから、下津地区周辺においては古墳時代初頭ころまでは静穏な堆積環境が継続していたものと考えられる（第4章 自然化学分析）。

自然堤防の形式

一方、現在の下津周辺の地表地形は、木曽川の分流、青木川がもたらす洪水氾濫堆積によって形成された自然堤防および自然堤防状微高地とそれらに囲まれた後背湿地から構成されたもので、下津北山遺跡をはじめ、下津城跡、鎌倉街道周辺遺跡、北丹波東流遺跡など下津周辺の古代以降の遺跡（第3図）は、これらの相対的に新しい自然堤防状微高地を選んで立地している。これらが顕著に発達するのは8～13世紀とされ、下津や陸田の集落立地も例外でない。

現在は、自然の営為とは乖離したかたちで、宅地などの都市的土地利用を目的とした後背湿地の埋め立て、造成が急速に進行していることから、かつての平野の景観を偲ぶことは不可能となってしまっている。

文献

井関弘太郎 1981『第1章 自然』『新修 稲沢市史』研究編三 地理 新修稲沢市史編纂会事務局
稲沢市教育委員会 1988『下津城跡発掘調査報告書（Ⅳ）』稲沢市文化財調査報告ＸＸＸⅠ
稲沢市教育委員会 1991『旧国鉄操車場跡地内試掘調査報告書（Ⅰ）』稲沢市文化財調査報告ＸＸＸⅦ
海津正倫 1992「濃尾平野における縄文・弥生時代の環境変化と朝日遺跡」『朝日遺跡Ⅱ（自然科学編）』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第31集 （財）愛知県埋蔵文化財センター
海津正倫 1994『沖積低地の古環境学』古今書院

2、歴史的環境

下津北山遺跡の歴史的環境と周辺の遺跡について、今回の調査成果にかかわる古代から中世を中心に概述する。

a．古代

尾張国府

尾張八郡のうち中島・丹羽・春部3郡の接点に位置する下津は、市内松下町付近に推定される尾張国府跡から東へ約2.5km隔てた位置にあたる。しかし、12次を数えた尾張国府跡の発掘調査は、10世紀以降の国府の存在を断じてはいるものの、8～9世紀における国府の所在については、それを明らかにする手だてを欠いている。一方で、「東国府」・「西国府」、「北調面」・「南調面」の字名から下津に国府を準える見方もある。水野時二は、鎌倉街道が通じる東西両国府を中心にその周囲方4町の国府域を設定したうえで松下町からの移転を想定し、一方、米倉二郎は尾張国の中国から上国への昇格に従って下津から松下町への移転したとする。

北丹波・東流遺跡

下津における古代の遺跡として知られるのが下津北山遺跡の南に隣接する北丹波・東流遺跡で、須恵器風字硯や土馬など7～9世紀の遺物が出土している。ほかにも古代の遺跡として登録されている遺跡は多いものの、遺物の散布が知られる程度で、下津と古代の尾張国府との関係を示す材料はごく限られたものとなっている。

b．中世

「折戸」から「下津」へ

文献における下津の初出は養和元年（1181）で、源行家、義円ら源氏方が墨俣合戦で平家方に大敗、下津（折戸）に退いたとある（『源平盛衰記』）。当時の下津は「折戸」と表記されたようで、鎌倉街道の宿駅「折戸宿」として史料に登場する。弘長二年（1262）に叡尊が（『関東往還記』）、建治三年（1177）には阿仏尼が（『十六夜日記』）折戸宿を通過、萱津宿に宿泊している。

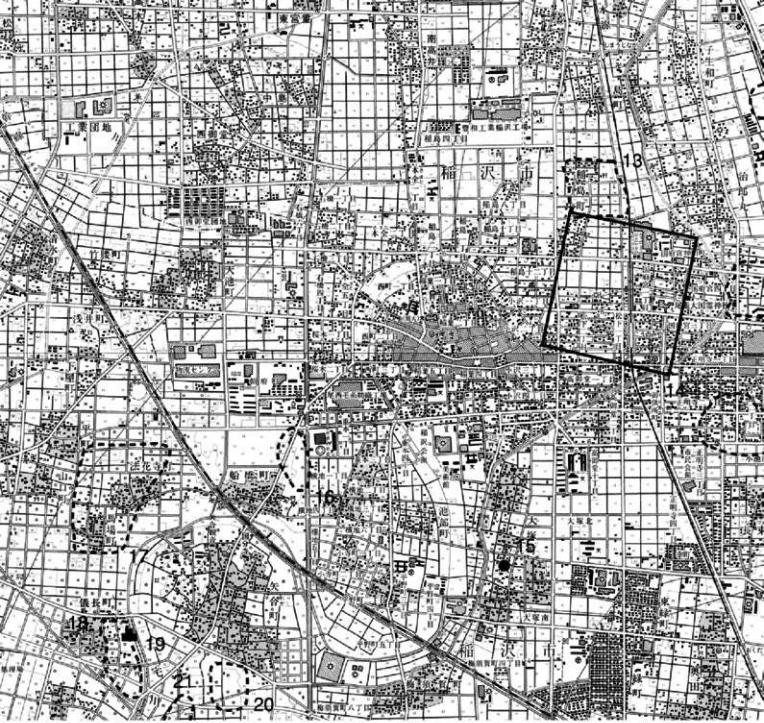
弘安年間以降、「折戸」は「下津」と表記されるようになり、下津は宿駅として発展する。その姿は、「下津ノ市」（『沙石集』）、「下津五日市」（『六波羅御教書案』）、「中下津僧」・「下津長者時房」（『尾張国在庁私領国領注進状案』）として史料に現れることからうかがい知れる。なお、『沙石集』に登場する「下津河」は青木川のことを指しているものと思われる。青木川、鎌倉街道の周辺に広く展開する鎌倉街道周辺遺跡をはじめとして、下津長田遺跡、下津小井戸遺跡、陸田東出遺跡などの遺跡の形成過程も宿駅の発展と無関係ではなかろう。

伊勢神宮領

貞治三年（1364）に作成された『神鳳鈔』には、「下津御厨」「陸田御厨」などがみえる。これらの所領は、建久三年（1192）の神領注文にはまったくみられず、その成立については明らかにされていない。

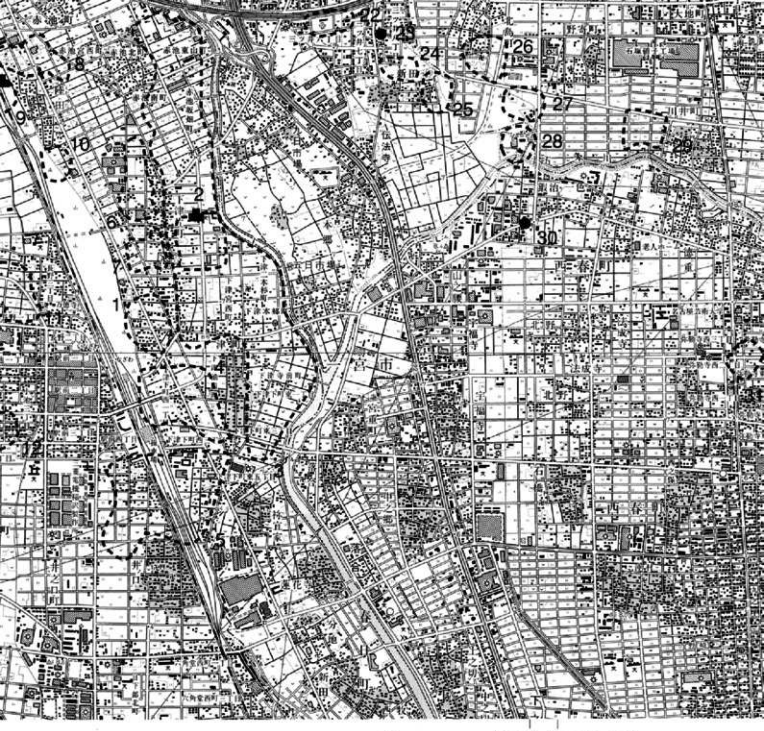
守護所下津

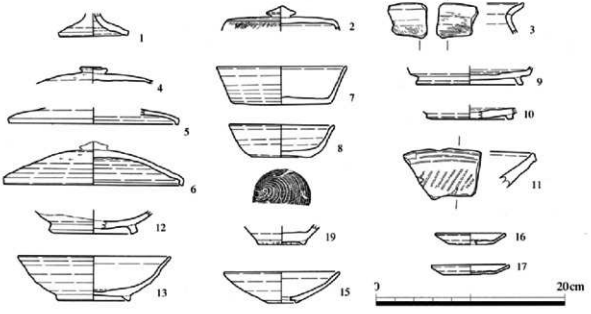
下津に守護所が構えられるようになるのは斯波氏が守護となる応永年間とされ、その初見史料は斯波義重の在京守護代織田常松が尾張在国のに宛てた書状（『尾張守護代織田常松書状』）である。守護所周辺の繁栄ぶりは、応永二十五年（1418）に守護所に滞在した歌僧正徹が記すところでもあり（『草』）、永享四年（1431）には、足利義教が富士遊覧の際に下津に宿泊している。



第3図　周辺の遺跡（1：2万5千）

1.下津北山遺跡　2.下津城跡（下津遺跡）　3.鎌倉街道周辺遺跡　4.北丹波・東流遺跡
5.大宮・北畑遺跡　6.下津長田遺跡　7.下津小井戸遺跡　8.陸田白山遺跡　9.陸田城跡
10.陸田宮前遺跡　11.塔の越遺跡　12.ハサバ遺跡　13.東畑廃寺跡　14.尾張国府推定地
15.稲沢大塚古墳　16.船橋宮裏遺跡　17.尾張国分尼寺跡　18.正楽寺跡　19.儀長城跡
20.尾張国分寺跡（堀之内花ノ木遺跡）　21.大縄遺跡　22.池之上遺跡
23.三ツ井稲荷山古墳　24.伝法寺廃寺　25.元屋敷遺跡　26.北島白山遺跡　27.権現山遺跡
28.伝法寺野田遺跡　29.薬師堂廃寺　30.西春高塚古墳　31.弥勒寺御申塚遺跡





下津北山遺跡周辺採集遺物（1：4）

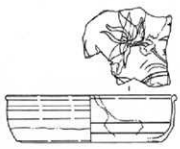
下津から清須へ

応仁の乱が巻き起こると、尾張守護斯波氏も義敏と義廉の間での家督を争い、文明七年（1475）には尾張にも戦乱が波及、織田敏定は下津の尾張守護代織田敏広を攻略、国府宮に退却させた（『和漢合符』）。このとき下津が被った戦禍によって、下津城も落城したとされる。その後尾張国は、清須城に居を構えた新守護代織田敏定、岩倉に本拠を移した織田敏広による分割統治へと移行、下津は衰退する。

下津城跡

下津城跡は下津北山遺跡から北東約500 mの位置、現在の下津小学校付近にあって、1980年から1987年にかけて、4次、計12地点の発掘調査が実施されている。それによると、下津城は東西約200m、南北約350mを範囲とする連郭式城館と推定されるが、災禍の痕跡は得られていないため、『和漢合符』の記述については疑問視する向きが強い。出土遺物には灰釉系陶器、古瀬戸陶器のほかに大窯陶器も含まれ、なかでも16世紀の遺構から出土した二彩盤（13世紀）が注目される。大窯陶器や16世紀の遺構は、この時期の下津城の存在を裏付けるものであるが、太田清蔵が天文九年（1550）に下津城を居城としたとする史実の直接的な証拠とするまでには至っていない。

『下津城址』碑



下津城跡出土の二彩盤（1：8）
『新修 稲沢市史』より

第4図　中世後期の尾張

文献

水野時二 1971『条里と村落の歴史地理学的研究』大明堂
横山義治 1976『下津史料集』
米倉二郎 1982『国の昇格と国府の変容』『史林』第66巻第1号
下津小学校 1986『下津雑話』
水野柳太郎 1990『律令国家の変貌と庄園制』『新修 稲沢市史』本文編上 新修稲沢市史編纂会事務局
稲葉伸道 1990『鎌倉時代の尾張の動向』『新修 稲沢市史』本文編上 新修稲沢市史編纂会事務局
稲葉伸道 1990『国衙・守護所周辺の社会と文化』『新修 稲沢市史』本文編上 新修稲沢市史編纂会事務局
北條顯示 1996『尾張国』『国府―畿内・七道の様相―』日本考古学協会三重県実行委員会（資料集）
稲沢市教育委員会 1980～1988『下津城跡発掘調査報告書（Ⅰ）～（Ⅳ）』稲沢市文化財調査報告書

西暦	年号	下津関連事項	備考
1181	養和元	源行家、墨俣合戦で折戸の宿に陣する	1180 源頼朝挙兵
1221	承久３	北条時房、下津に陣する	（承久の変）
		下津川洪水	
1270	文永７	下津宿に落雷	1274 文永の役
1162	弘長２	叡尊、折戸宿で食事	
1277	建治３	阿仏尼、折戸をすぐ	1281 弘安の役
1280	弘安３	飛鳥井雅有、折戸宿を通過	
1283	弘安６	下津の市の名見える	
		～「折戸」から「下津」の表記へ～	
1314	正和３	下津五日市の名見える	
1335	建武２	足利尊氏、下津に宿す（８月２日）	1334 建武中興
1336	延元元	寶満寺創建	
1347	正平２	頓乗寺創建（住吉神社の前）	
1353	〃 ８	中下津・下津下町屋の名見える	
1364	貞治３	下津御厨、陸田御厨の名見える	
1388	元中５	将軍義満、頓乗寺に泊す	
1394	応永元	青木直政、正眼寺を創建	
1396	〃 ３	正眼寺、勅願寺となる	
1397	〃 ４	中嶋郡国衙下津市の名見える	
1400	〃 ７	織田常竹、下津に居館	
1411	〃 18	守護所下津の初見	
	年未詳	斯波氏家臣坂井春智、下町屋、市保を知行	
1418	〃 25	歌僧正徹、下津に滞在	
1432	永享４	足利義教、富士遊覧の折、下津に泊す	
1435	〃 ７	下切下津橋の名見える	
1443	嘉吉３	下津住吉薬師堂の名見える	
1451	宝徳３	守護代織田敏広、下津城に居る	
1466	文正元	浪人蜂起して下津城を襲う	
1467	応仁元	下津の人、山田明長戦死	（応仁の乱）
1471	文明３	円光寺炎焼	
1476	〃 ８	織田敏定、敏広を国府宮に退却させる（下津落城）	
1478	〃 10	法華堂創建	
1479	〃 11	敏広、敏定と和し、岩倉に居城	
1524	大永４	円光寺炎焼	
1529	享禄２	広輝寺創建	
1531	〃 ４	法華堂、妙長寺となる	
1550	天文19	このころ太田資蔵下津城に拠る	1560 桶狭間の戦
1562	永禄５	阿弥陀寺長島一揆に味方し焼討される	
1573	天正元	元正年中円光寺炎焼	
1600	慶長５	起宿脇本陣某下津より移住	（関ヶ原の役）
		徳川家康、下津に休む	
1806	文化３	住吉寺子屋開塾される	
1868	慶応４	入鹿池堤決壊、下津浸水する	1867 大政奉還
1891	明治24	濃尾大地震（下津村99％罹災）	
1904	明治37	稲沢駅設立開業	
1925	大正14	稲沢操車場建工開場	
1970	昭和45	稲沢跨線橋完成	
1972	昭和47	下津小学校開校	
1980	昭和55	下津城跡の発掘調査始まる	
1987	昭和62	稲沢駅周辺再開発構想	1986 国鉄分割・民営化
1995	平成７	稲沢駅周辺土地区画整理事業の都市計画決定	

『新修稲沢市史』、『下津史料集』、『下津城跡発掘調査報告書（Ⅳ）』等を参考に作成

第１表　下津関連年表

第2章 遺構

(1) 層序と時期区分

1、層序（第5図）

概況

旧国鉄操車場跡地内は、「地盤上二呎乃至三呎の盛土をなし、場内勾配は水平若しくは千三百二十分の一」とする大規模な土工が施されているため、現状で地形の細かな起伏は認識できない。なお、跡地内の現在の標高は5～5.5mである。発掘調査によって、調査区は遺跡が立地する自然堤防状微高地の西端に位置することが判明し、さらに西側には青木川の旧流路を想定することができた。

つまり、現青木川の右岸域に立地する下津北山遺跡は、青木川の旧流路に対しては左岸域に立地することになる。なお、調査前に危惧された機関車庫などの建物基礎による撹乱は一部分に留まり、包含層、遺構ともに概ね残存は良好であった。

調査区中央

層序は調査区中央の微高地部分と、北西部および南部の後背湿地部分とでは若干異なる。微高地は96区の大部分と97区の中央部分が相当し、層序はきわめて安定的である。

操車場の造成にともなうガラ、バラス層は0.3～1.0m盛られており、それを除去すると旧耕作土（Ⅰ層）があらわれる。Ⅰ層は層厚40cm前後、黄灰色を呈する。Ⅰ層下位はにぶい黄褐色を呈するやや粗粒な堆積物を多く含むシルト層（Ⅱ層）で、中世陶器を包含する。層厚は40cm前後。なお中世以降、この土壌は島畠として利用されたため、層中には固結したマンガンの集積が顕著に発達する。その下位、Ⅲ層は暗褐色粘質シルト層で、Ⅳ層の黄橙色シルト層に至る。

調査当初はⅢ層も遺物包含層の一部として認識し、その下位で遺構検出を行ったが、Ⅲ層は遺物をまったく包含せず、遺構の一部は明らかにⅢ層上面で検出できたことから、中世期の遺構はⅢ層上面から掘り込まれているものと判断した。しかし、Ⅲ層と遺構埋土の識別は困難であったことと、Ⅲ層の堆積は薄くⅣ層が最初から露呈してしまう部分も多かったことから、Ⅲ層上位での遺構検出を試みたものの、結果的にはほとんどの遺構がⅣ層上面、標高4.1m前後で検出された。なお、遺構の多くは自然に埋没し、一定期間、溝あるいは土坑状の窪みが維持されていたようである。そのため各遺構の上層には、ほとんど例外なく、包含層からの連続した堆積がみられた。

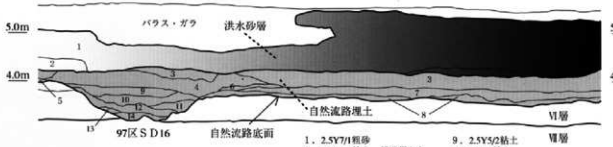
Ⅳ層の下位、Ⅴ層は、鉄サビ色を呈する酸化鉄の斑紋集積層、Ⅵ層はⅣ層と同様の堆積である。Ⅳ～Ⅵ層で遺物は確認されない。なお、Ⅰ～Ⅵ層が地表地形を形成する自然堤防構成層に相当する。

Ⅵ層の下位のⅦ層は腐植に富んだ黒色の粘質土で、わずかながら弥生時代後期～古墳時代前期の土器破片が出土している。Ⅶ層は50～80cmの層厚で、その下位に粗粒な砂の堆積（沖積上部砂層）が確認される。

調査区北西部

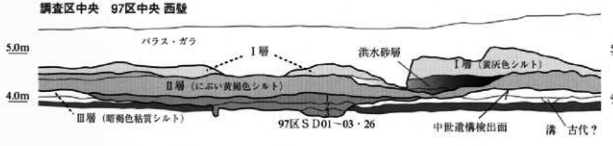
96区北部、97区北部・北西部は基盤層であるⅣ層が緩やかに標高を減じ（基盤層はグラ

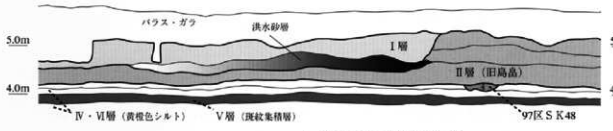
調査区北部　97区北東 南壁



1．2.5Y7/1粗砂
2．2.5Y5/1粘土、粗砂混じり
3．5Y5/2粘土
4．5Y3/1シルト質粘土
5．10Y7/2極細砂
6．5Y6/2シルト質粘土
7．10Y5/1粘土
8．10Y5/1粘土、粗砂混
9．2.5Y5/2粘土
10．5Y4/1粘土
11．10Y5/1粘土
12．10Y4/1粘土
13．7.5Y5/1シルト質粘土
14．5GY7/1細砂と10Y4/1粘土ブロック

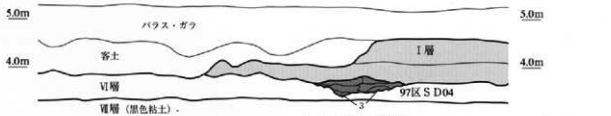
調査区中央　97区中央 西壁





1．10YR4/2シルト（97区ＳＤ01・02）
2．2.5Y4/1粘質シルト（97区ＳＤ03）
3．5PB3/1粘土と5Y8/3極細砂の斑土（97区ＳＤ26）
4．10YR3/2粘質シルト（97区ＳＫ48）

調査区南部　97区南端 東壁



1．10Y4/1シルト質粘土
2．2.5GY3/1粘土
3．2.5GY3/1粘土、5BG7/1極細砂斑入

第５図　調査区基本土層断面図（１：80）

イ化した青灰色へと漸位的に変化)、谷地形を形成する。調査区で確認される比高は最大0.6mである。谷地形は、微高地の遺構検出面付近に相当する高さまでは、シルト～粘土からなる細粒な滞水性の堆積で、それより上位は粗粒砂で一気に埋没している。粗粒砂はバラス層直下からすでにみられることから、それの多くが比較的近年の洪水性氾濫によってもたらされたことは明らかである。なお、腐植に富む黒色土層（Ⅷ層）は調査区の南部と北部で標高を同じくすることから(3.3m前後)、微高地と谷地形は古墳時代以降に形成された相対的に新しいものであることが分かる。

調査区南部　調査区南部は概して近年の削平が著しく、包含層はもとより、Ⅵ層までの層序を欠いている部分が多い。基盤層の色調も谷地形と同様に、漸位的に青灰色へと変化している。遺構、遺物も徐々に希薄になっていくことから、後背地にあたる調査区南部は、水田としての利用後、造成によって埋め立てられたものと判断される。

2、時期区分

下津北山遺跡では、①弥生・古墳時代と古代、②中世、③近世と各時代にわたっての遺物が出土している。とりわけ遺構・遺物とも内容が充実するのが、中世初頭（12世紀後半～13世紀初頭）と中世前期（13世紀後半～14世紀前半）の二時期である。

①弥生・古墳時代、古代　遺構は皆無で、調査区の各所でわずかながら遺物が出土する程度である。土師器や須恵器など、奈良時代までの遺物は中世の遺構、包含層中からの出土が多く、平安時代の灰釉陶器の出土は自然流路に集中する傾向がある。微高地と自然流路が形成され、遺跡の土地条件が安定化するのは平安時代以降で、弥生・古墳時代は自然堤防の形成途上であったと推定できる。

②中世　中世の遺構をⅠ～Ⅲ期、Ⅰ期―方形区画とそれに関連するやや特殊な遺構群の消長、Ⅱ期―中世村落の形成と展開、Ⅲ期―自然流路の埋没、に区分する。

Ⅰ期　12世紀の後半、突如として溝による方形区画が出現し、掘立柱建物などの遺構群が方形区画内部を中心に展開する。これらは短命で、13世紀初頭にはその機能を停止させる。遺物には、宗教的色彩が色濃く反映されているものが多く（緑釉円塔、仏教関連墨書陶器、人形、木簡など）、きわめて特殊な様相が看取される。遺物の出土量も多い。猿投窯編年Ⅷ期第3型式とわずかにそれと前後する時期が相当する。

Ⅱ期　13世紀前半にはⅠ期の遺構はほぼ埋没し、掘立柱建物や井戸などの遺構が調査区南半を中心に、14世紀前半まで継続的に展開する。瀬戸窯編年第6型式～第9型式の時期に相当し、なかでも第7・8型式の時期に遺構が集中する。

Ⅲ期　14世紀後半には遺構がほとんどみられなくなり、調査区北・西部の自然流路が粘質土によって徐々に埋積されるのみとなる。古瀬戸後期を中心とした時期が相当する。

③近世　15世紀末以降、いわゆる大窯期以降の遺構・遺物はほとんどみられない。近世～近代、調査区周囲には村絵図等にみられる「島畠」が広く展開していたものと考えられる。発掘調査においても島畠の痕跡（地下げによる溝状の落ち込みや杭列）が検出されている。

（2）Ⅰ期（中世初頭）の遺構

1、方形区画 区画溝（第6～12図）

方形区画

溝、96区ＳＤ07と96区ＳＤ21（97区ＳＤ08）は、明確に区画の意識をもって設定された一連の遺構と考えられる。これらの溝によって、南北約50ｍ、東西18ｍ（北半部）・27ｍ（南半部）以上の空間が確保され、その区画内には有機的に関連する遺構群が展開する。調査区の設定上、区画の全容を明らかにすることはできなかったので、以下で方形区画として認識したその根拠どころを幾つか列挙しておきたい。

第一に溝の幅が５ｍ前後で、その規模がほぼ同じであること。ただし、その断面形態は地点で異なる。第二に、溝から出土した遺物とその出土状況は、溝として機能した時間幅がほぼ重複するものであることを示すこと。第三に、区画内に同時期の遺構が顕著に展開し、その消長も共通すること。区画溝と区画内の遺構から出土する遺物の内容に共通した性格が認められる（96区ＳＤ21と96区ＳＫ18は殊に顕著）ことも、これを補強する。

96区ＳＤ07（方形区画北、西溝）

方形区画の北と西を区画する溝で、96区東壁（Ⅶ Ｊ 15 ａ）から東西方向に通じ、Ⅶ Ｉ 15 ｑ付近で屈曲、南へ折れる。北溝の方位は東西位を踏襲するが、西溝は真北から東へやや振れる。西溝はⅦＩ 20 ｒ付近で立ち上がり、その延長部分は97区でも確認されなかった。

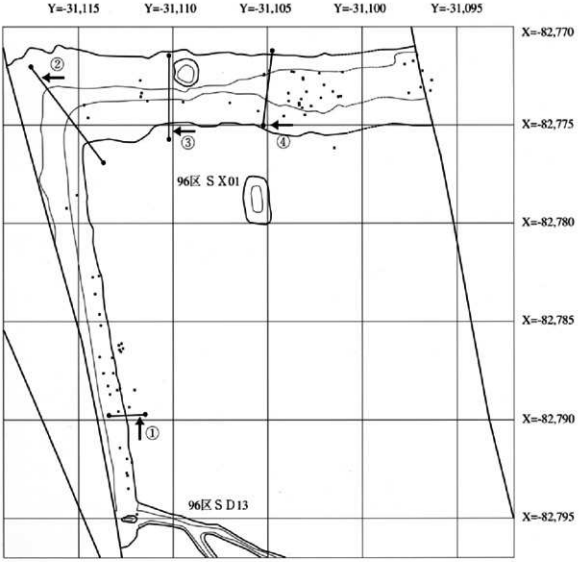
検出面での溝の幅は、北溝部分では幅４ｍ前後、西溝については溝掘方の西半が調査区外となるため、不明。検出面からの溝の深さは西溝と北溝で大きく異なる。西溝は深さ0.8～0.9m、溝底面は標高3.3～3.2mで、黒色粘土層にまで達する一方、北溝は最も深い屈曲部からⅦＩ 15 ｔ付近で顕著に深さを減じ、深さ約0.4ｍ、溝底面も標高3.7mに留まる。

溝内埋土は概ね止水性の自然堆積を示すが、溝の埋没過程での洪水を示唆する薄い細粒砂の堆積（層厚約５㎝）が溝のほぼ中位で認められた。溝が浅くなるⅦＩ 15 ｔ以東を除いて、細粒砂は溝のほぼ全面を覆っている。溝内埋土も細粒砂によって、褐色シルトを主体とする上層と黒褐色粘土を主体とする下層に分かつことができる。すべての土層断面で細粒砂の安定した堆積が確認されることから、溝の大規模な改修や再掘削は、少なくとも洪水以後には行われていないものと判断される。なお、土塁等の構築物や整地の痕跡は土層断面からも観察されなかった。

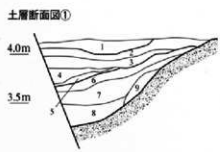
遺物の出土は散漫であるが、屈曲部で横槌と用途不明棒状木製品が、屈曲部より南の地点で常滑産片口小鉢と人形木製品が出土した。これらはすべて溝のほぼ底面から出土である。また、下層には植物遺体が良好に遺存し、ⅦＩ 15 ｓ付近では、タデ科種子、ウリ類などの種子が大量に出土した（第４章（４）「下津北山遺跡出土の植物遺体」）。

97区ＳＤ08・96区ＳＤ21（方形区画南溝）

方形区画の南を区画する溝に相当し、方位をほぼ東西位におく。96区ＳＤ21では削平によって、検出面が約20㎝低くなっている。検出面での幅も3.5～４ｍとやや小さい。検出面からの深さは約0.4ｍ、溝底面は標高3.4ｍ前後である。遺物のほとんどが下層、溝底面から上、約20㎝までに濃密に分布し、とりわけⅨＪ６ｂ付近で顕著な集積をなしていた。さらにこの地点には、緑釉円塔、猿投産の片口小鉢と子持器台、大量の墨書陶器と加工円盤などの特殊遺物も集中する。

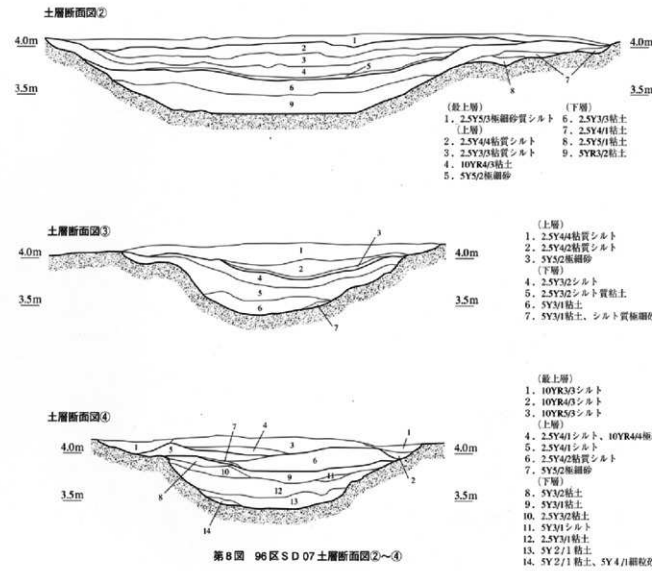


第6図　96区ＳＤ07出土遺物分布図（1：100）



（最上層）
1．7.5YR3/2粘質シルト
（上層）
2．2.5Y3/3粘質シルト
3．5Y7/1シルト
4．5Y7/2粘質シルト
5．5Y5/2極細砂
（下層）
6．7.5Y3/1粘土
7．7.5Y3/1粘土、5Y 7/1極細砂混入
8．10Y3/1粘土とシルト質粘土ブロック
9．5Y7/1シルトと7.5Y3/1粘土ブロック

第7図　96区ＳＤ07土層断面図①（1：40）

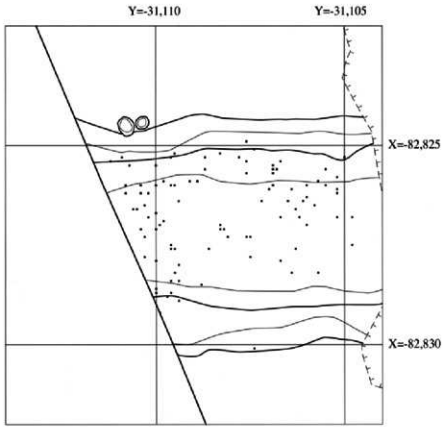


第8図　96区ＳＤ07土層断面図②～④

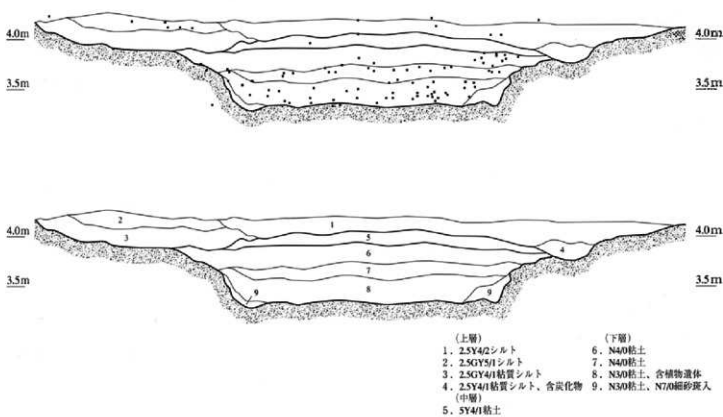
97区ＳＤ08の残存状況は良好で、検出面での幅は約6.0ｍ、深さは約0.7ｍを測る。溝底面のレベルは96区ＳＤ21とほぼ同じ。溝の断面形は下半が逆台形で、溝ほぼ中位に幅20㎝前後の平坦面を作り出し、上半は緩やかに立ち上がる。溝内埋土は明確に三層に区分でき、下層が暗灰色粘土、中層が灰色粘土、上層が黄灰色シルトである。96区ＳＤ21と比して遺物の分布は散漫となるが、96区ＳＤ21と同様、溝底面あるいは、わずかに溝底面から浮いた位置での遺物の出土が目立った。「佛」の墨書陶器と木簡も下層から出土した。

上層は包含層からの連続堆積で、96区ＳＫ18で出土した長方硯の破片が、溝検出面より約10㎝上位で出土した。

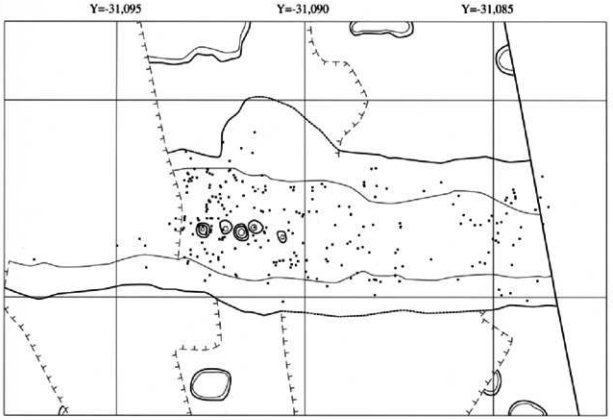
なお北、西溝と同様、南溝においても整地、改修、再掘削などの痕跡を積極的には見出しがたいが、溝の上層に相当する部分がⅡ期の屋敷地を区画する溝として継続して利用、あるいは再掘削された可能性もある。



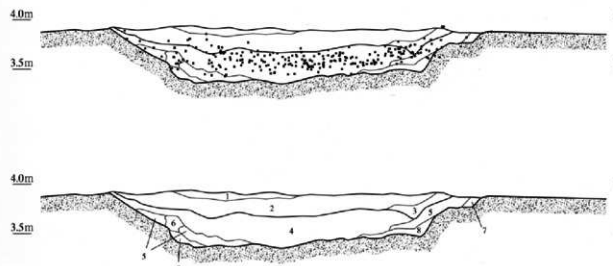
第9図　97区ＳＤ08出土遺物分布図（1：100）



第10図　97区ＳＤ08土層断面図（1：40）



第11図　96区ＳＤ21出土遺物分布図（1：100）



（中層）
1．5Y4/2シルト質極細砂、5Y8/2極細砂斑入
2．5Y4/2シルト、5Y8/6細砂斑入
3．5Y4/1極細砂質シルト

（下層）
4．7.5Y3/1シルト質粘土
5．7.5Y4/1シルト質極細砂
6．5Y7/1極細砂ブロック状
7．5Y4/2極細砂質シルト
8．5Y3/1シルト質粘土、5Y7/1極細砂斑入

第12図　96区ＳＤ21土層断面図（1：40）

96区ＳＸ04　96区ＳＤ21の溝底面の精査によって、小土坑列96区ＳＸ04が検出された。検出した土坑は5基（P. 1～P. 5）であるが、攪乱によって連続する土坑の幾つかは失われた可能性が高い。なお、それぞれの土坑の間隔は狭い。上部構造については明らかにできなかった。P. 5を除いて土坑の柱掘形は形態、深さとも類似し、径約0.35m、深さ約0.3mが平均的法量である。柱痕は遺存していなかったが、柱と柱掘形の隙間を充填したとみられる青灰色細粒砂（基盤層）と黒色粘土の斑土がP. 1～P. 3で観察された。

2、掘立柱建物・柵（第13・14図）

Ⅰ期の掘立柱建物は方形区画の内部で5棟確認された。柵は区画内部で1条を確認した。これらは方位をほぼ同じくしながら、東西に長い建物ＳＢ01を中核として、互いに柱筋を揃えた配置関係がみてとれる。つまり、5棟の建物は同時期、あるいはきわめて近接した時期に存在したとの想定が妥当であろう。

ＳＢ01　96区から97区にかけて検出した建物で、建物の全形が判明した。桁行7間、梁間3間の東西に長い建物として復原。建物の北西隅は柱穴が欠落する部分もある。方位はＮ4°Ｅ。床面積約75㎡の大型建物で、建物の東西に雨落溝（96区ＳＤ22・97区ＳＤ07）が付随する。身舎の内側にも柱通りが認められるが、柱穴は側柱柱穴と同様に規則的で、規模も近似する。東と西のそれぞれの桁行1間分は中央5間分と比較して柱間が狭く、配置関係も微妙に異なるから、建物構造が庇付、あるいは切妻形式とは異なる屋根形式として復原される可能性も考えられる。

96区ＳＫ145からは、ほぼ完形の灰釉系陶器椀1、96区ＳＫ159、96区ＳＫ166、96区ＳＫ161からは土師器皿（ロクロ調整）が出土、雨落溝96区ＳＤ22の検出面付近からは猿投産水注の注口部が出土した。また西の雨落ち溝97区ＳＤ07では検出面よりやや上位で、灰釉系陶器椀や伊勢型鍋などの遺物の集積が確認された。なお柱根は遺存していなかった。

また、ＳＢ01の正面前方は廃棄土坑96区ＳＫ18以外に、柱穴をはじめとする遺構がまったく確認されない。建物の前庭に意図的に広い空間を確保したと考えられる。

ＳＢ02　ＳＢ01の北東、北辺の柱筋は柵ＳＡ01に接するような位置関係にある。桁行2間以上、梁間2間の総柱建物。方位はＮ1°Ｅ。それぞれの柱穴の径は25cm前後と比較的小さく、柱穴の埋土は紫を帯びた黒褐色を呈する。なお、柱根は遺存せず、時期決定に耐えうる遺物の出土もなかった。

ＳＢ03　ＳＡ01と96区ＳＤ13を挟んでＳＢ02の背面に配置される。桁行1間以上、梁間2間の総柱建物。方位はＮ1°Ｅ。柱穴の規模や埋土はＳＢ02と類似することから、ＳＢ02とＳＢ03は同一の建物として復原される可能性もある。なお、柱根は遺存せず、時期決定に耐えうる遺物の出土もみられなかった。

ＳＢ04　ＳＢ01の南西、方形区画南溝より北に約2.5ｍの位置で確認された。桁行1間以上、梁間2間の総柱建物か。方位はＮ2°Ｅ。97区ＳＫ18からは完形の灰釉系陶器椀1が柱穴のほぼ中央、正位の状態で出土。なお、柱根は遺存していなかった。

ＳＢ05　ＳＢ01の背面東に位置する１間四方の建物。平面形は不整形で、土坑96区ＳＥ03と重複する。方位はＮ１°Ｅ。96区ＳＫ109では、猿投産広口瓶の底部（96区ＳＸ02―415と接合）が柱穴底面中央に正位の状態で据えられ、常滑産甕の体部破片（96区ＳＫ30―404と同一個体）と礫が柱掘形側面に貼り付けられたような状態で出土した。これらの陶器や礫は柱の根固めとして用いられたことは確実である。ただし、柱根は遺存していなかった。

96区ＳＫ08　ＳＢ05（96区ＳＫ109）と同様な情況が確認された柱穴は他に96区ＳＫ08がある。ただし、建物の復原には至っていない。96区ＳＫ08では常滑産大甕（96区ＳＫ30―405と接合）の底部破片と体部破片、礫がやや乱雑に柱穴底面付近に詰められていた。ここでも柱根は遺存していなかった。

ＳＡ01　96区ＳＤ13に沿って東西に通じる構。東西６間分を確認した。方位はＮ４°Ｅ。柱間は2.2ｍでほぼ一定。柱根は遺存していなかった。灰釉系陶器椀の口縁部１点が出土した。

遺構番号	グリッド	方位	構造	規模	床面積	備考
ＳＢ01	ⅨＩ2ｓ－ⅨＪ３ｂ	Ｎ４°Ｅ	庇付建物？	７間×５間	75㎡	東西に雨落溝
ＳＢ02	ⅨＪ１ｂ－ⅨＪ２ｃ	Ｎ１°Ｅ	総柱建物	（２間）×２間	（25㎡）	
ＳＢ03	ⅧＪ19ｂ－20ｂ	Ｎ１°Ｅ	総柱建物	（１間）×２間	（16㎡）	
ＳＢ04	ⅨＩ４ｑ－ⅨＩ５ｒ	Ｎ２°Ｅ	総柱建物？	（１間）×２間	（26㎡）	
ＳＢ05	ⅨＪ１ａ	Ｎ１°Ｅ	側柱建物	１間×１間	5.2㎡	柱根固めに陶器使用
ＳＡ01	ⅨＩ１ｔ－ⅨＪ１ｃ	Ｎ４°Ｅ		（６間）		

（カッコ内は確認した柱間、床面積）

第２表　１期掘立柱建物一覧表

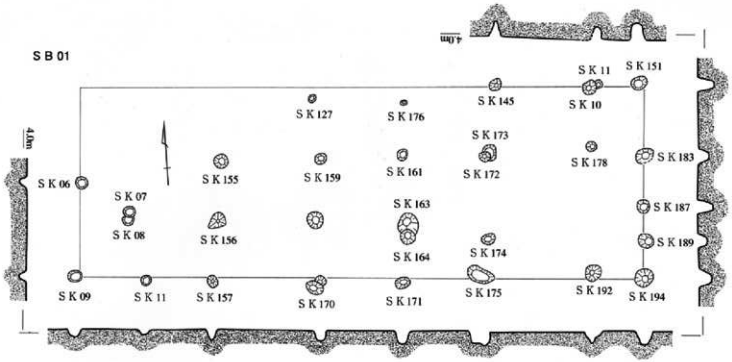
３、溝

96区ＳＤ13　ＳＡ01と接するようにして東西に通じる溝で、方形区画西溝（96区ＳＤ07）南端にとりつく。96区ＳＤ07との合流点では、ＳＤ07の掘形までを溝状に掘削していることから、この溝がＳＤ07へとりつく排水溝として機能していたことは確実である。

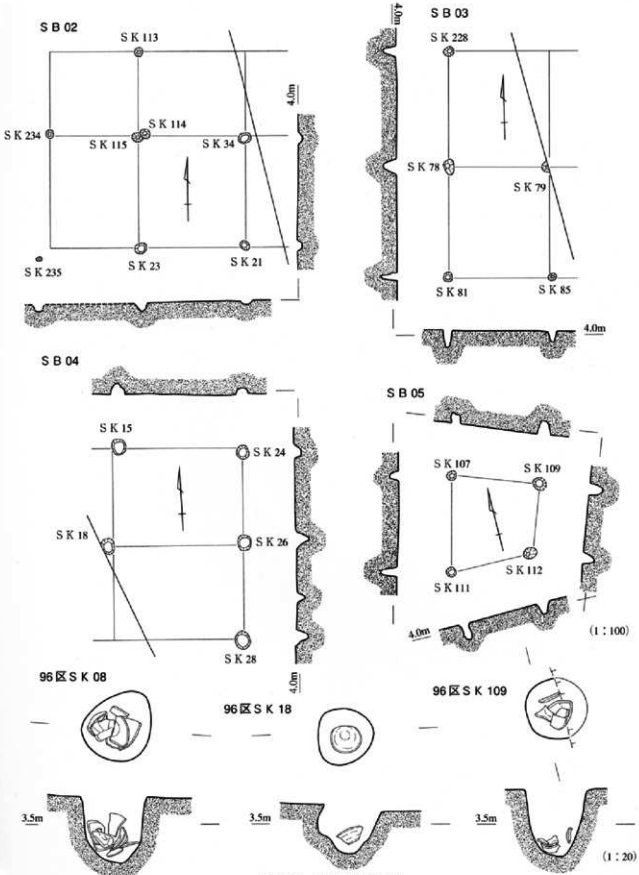
出土遺物は少ないが、ＳＤ07との合流点付近で「大」と刻書した灰釉系陶器椀が出土した。

96区ＳＤ13、96区ＳＤ07合流点近景

96区ＳＤ16・17・19　ＳＢ01に重複しつつ南北に通じる溝。本来は同一の溝であったと推測される。溝の深さは10cm前後と浅く、断面は皿状。ＳＢ01の前面で東に屈曲する。ＳＢ01廃絶後の掘削か。灰釉系陶器椀や土師器皿（ロクロ調整）などが出土している。



第13図　SB01、SA01遺構図（1：100）



第14図　I期掘立建物遺構図

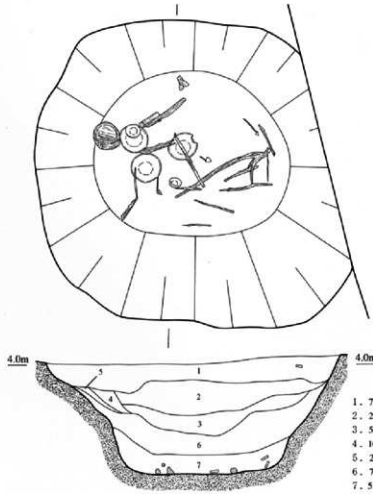
4、土坑

a．遺物埋納土坑（第15・16図）

完形の遺物が土坑の底面付近から一括して出土した遺構を、遺物廃棄土坑と区別し、遺物埋納坑として扱う。96区ＳＥ04、97区ＳＫ101などで、径1.0～1.5ｍの円形を呈する平面形や垂直近く掘り込まれた遺構掘形も類似する。

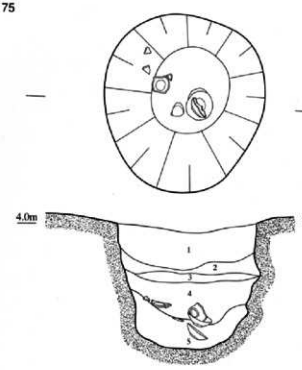
これらの土坑はそれぞれが偏在的な位置関係にあって、96区ＳＥ04と96区ＳＫ75は方形区画内の柱穴群よりやや東と北にはずれた位置に、97区ＳＫ101は方形区画外に掘削される。

96区ＳＥ04　96区の東壁に接して検出された。遺構掘削前は平面形などから井戸と想定したが、掘形は約0.7ｍと比較的浅く、構造物も認められないことから井戸としての利用は考えにくいと判断した。埋土は黒灰色の粘質土を基調とし、基盤に由来する灰色の細粒砂をわずかに混じえる。土坑底面に接して、完形の灰釉系陶器椀４、灰釉系陶器皿２、柄杓の杓部として用いられた曲物１、箸２、獣骨が出土した。灰釉系陶器はほぼ正位の位置、曲物は底面を上に向けた状態で出土した。中上層からは完形の灰釉系陶器皿１、白磁底部破片が出土した。



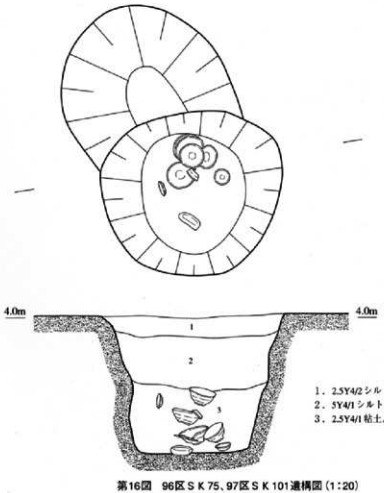
第15図　96区ＳＥ04遺構図（1：20）

96区ＳＫ75



1．5Y3/2 極細砂質シルト、
5Y8/2 極細砂混入、含炭化物
2．5Y4/1 極細砂質シルトと5GY8/1 極細砂の互層、
含炭化物
3．10Y3/1 極細砂質シルト、含炭化物
4．7.5Y2/2粘質シルト、含炭化物
5．7.5Y2/2粘質シルトと7.5Y4/1 極細砂の斑土

97区ＳＫ101



1．2.5Y4/2シルト、5Y8/3極細砂斑入
2．5Y4/1シルト質粘土、含炭化物
3．2.5Y4/1粘土、2.5Y8/3細砂斑入

第16図　96区ＳＫ75、97区ＳＫ101遺構図（1:20）

97区ＳＫ75　建物群を区画する96区ＳＤ13、構列96区ＳＡ01間で検出した。径約1ｍ。完形の灰釉系陶器が下層の上位でまとまって出土した。下層埋土は黒色粘質土で、基盤に由来する灰色極細粒砂が塊状に混入する。

97区ＳＫ101　97区ＳＤ01にほぼ接する径約1ｍの土坑。下層は黒褐色粘土と淡黄色シルトが斑状に混ざり合う埋土であることから、土坑は掘削後、ほどなく意図的に埋め戻されたとみられる。下層からは完形の灰釉系陶器椀4、灰釉系陶器皿2が出土し、土坑底面で砥石も出土した。灰釉系陶器椀は椀の全面に煤が付着したものが多い。

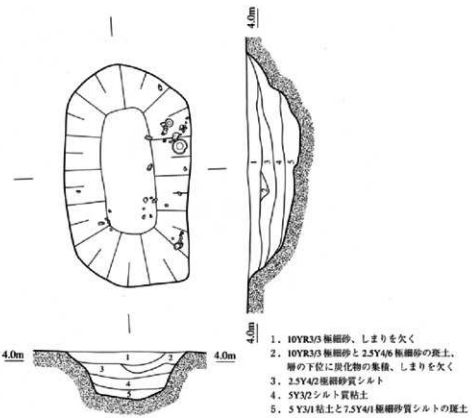
ｂ.その他土坑（第17図）

遺物埋納土坑と次に扱う遺物廃棄土坑以外の土坑。

96区ＳＥ03　掘立柱建物ＳＢ05と重複する。平面形が径約2ｍの円形を呈していたことから当初は井戸との想定をしたが、掘形は約0.4ｍと浅いものであったため、井戸としての利用は考えられない。灰釉系陶器椀と灰釉系陶器皿が数個体、人頭大の礫と混在して出土した。

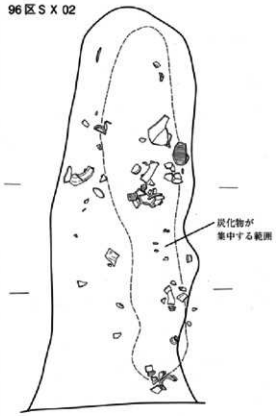
96区ＳＥ02　ＳＤ19に近接する径約2ｍの土坑。この遺構の掘方も約0.5ｍと浅く、井戸としての利用は考えられない。遺物は出土していない。

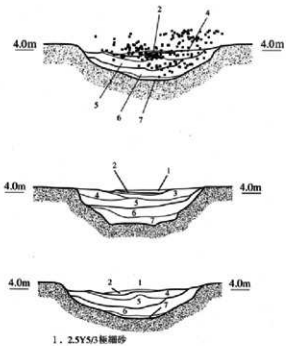
96区ＳＸ01　方形区画北溝より南に約3ｍ隔てた位置で検出された隅丸方形の土坑。長軸約2.4ｍ、短軸約1.3ｍ、深さ約0.5ｍを測り、長軸をほぼ南北におく。断面形はやや深い舟底状を呈する。土坑の検出面付近で、ほぼ完形の灰釉系陶器椀1、灰釉系陶器皿1、土師器脚付皿1



第17図　96区ＳＸ01遺構図（1：40）

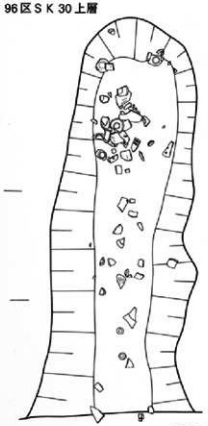
96区ＳＸ02



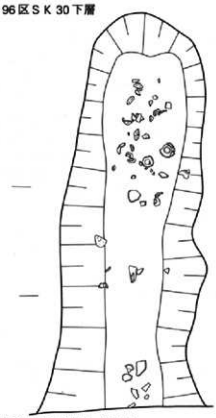


1．2.5Y5/3極細砂
2．床層
3．7.5YR4/2細粒砂、含炭化物
4．2.5Y5/3シルト質極細粒砂
5．2.5Y4/3シルト質極細砂
6．2.5Y4/2シルト質極細砂
7．2.5Y4/2シルトと2.5Y5/2粘質シルトの斑土

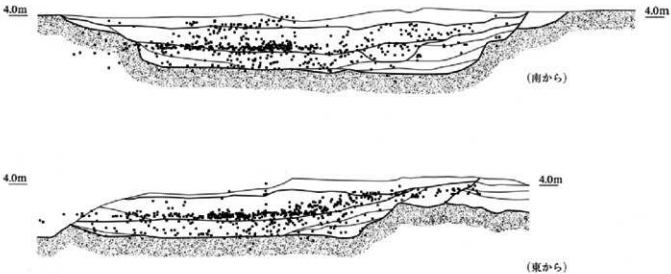
96区ＳＫ30上層



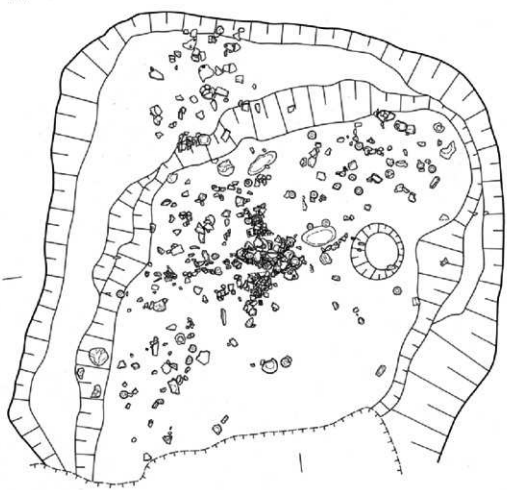
96区ＳＫ30下層



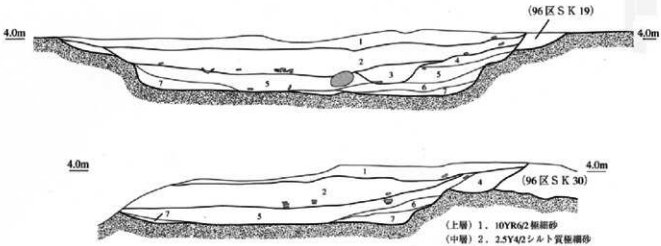
第18図　96区ＳＫ30（96区ＳＸ02）遺構図（1：40）

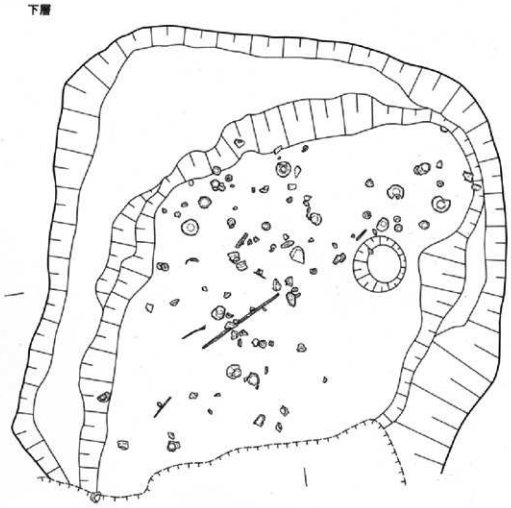


中層



第19図　96区ＳＫ18遺構図1（1：40）





第20図　96区SK18遺構図2（1：40）

が出土し、それらに混じって土師器脚付皿の大型品の破片も出土した。

埋土中には炭化物層、灰層が互層状に堆積し、焼土塊も多く混在したが、土坑の壁底面が被熱した痕跡は認められなかった。つまり、96区ＳＸ01は焼成時に生じた炭化物等を廃棄した遺構と捉えうる。

96区ＳＸ03　土坑96区ＳＸ01の東に隣接して、焼土塊や土師器脚付皿の破片の集積を、遺構検出面より約20cm上位で検出したため、調査段階では不明遺構として扱った。土師器脚付皿が96区ＳＸ01出土の破片と接合関係にあることから、この遺物集積は96区ＳＸ01から二次的移動を被ったものと考えられる。

ｃ．遺物廃棄土坑（第18～20図）

大量の遺物の廃棄が認められた土坑で、96区ＳＫ30（96区ＳＸ02）、96区ＳＫ19、96区ＳＫ18は、掘立柱建物ＳＢ01の近辺に集中して検出されている。

96区ＳＸ02・96区ＳＫ30　大量の炭化物とともに猿投産三筋壺などの大型器種が集中する地点（96区ＳＸ02）を注視しつつ検出作業を行った結果、長軸4.1m以上、短軸約1.5mを測る平面長楕円形の土坑、96区ＳＫ30を検出した。また、遺構の検出時にＳＫ30（古）、ＳＫ18（新）と判断し、サブトレンチによって遺構の新旧関係を追認した。ただしＳＫ30付近は、もっとも柱穴が集中する地点でもあることから、柱穴の見落としに起因する遺物混在の可能性も残る。

遺物群は土坑の上位に堆積した灰層によって明確に分離されたため、ＳＸ02（灰層より上位）とＳＫ30（灰層より下位）を別遺構とした。ＳＫ30では、灰層をとりさったのち、土坑上層の埋土を除去し始めたところで灰釉系陶器椀などがまとまって出土した。土坑埋土は暗褐色シルトを基調とする。

96区ＳＫ19　96区ＳＫ30と同様、96区ＳＫ18に先行する。ＳＢ01の東溝とほぼ接し、東北端が攪乱によって失われる。深さ約0.6mとやや深い擂鉢状の断面形を呈する。遺物は褐色を基調とする上層埋土からの出土が多い。

96区ＳＫ18　ＳＢ01正面で検出された一辺5m前後を測る隅丸方形の大型土坑。土坑南端は攪乱で失われている。断面形は逆台形。土坑埋土は大きく三層に区分され、下層は灰褐色シルト、中層は黄灰色シルト、上層は黄褐色シルトを基調とし、下層には炭化物が多く混在していた。なお、土坑掘削時に径約0.5mの掘り込みを検出したが、土層断面の観察から、これが下層上面から掘り込まれたものであることを確認した。

遺物は下層中（以下、下層とする）と下層の上面（以下、中層とする）で集積をなしており、なかでも中層のほぼ中央に密集する。土坑北半中層より上位には96区ＳＫ30から連続して遺物が分布するが、これらは本来的には96区ＳＫ30にともなうものであろう。なかでも３個体の陶硯、大量の墨書陶器の出土が特筆される。長方硯は中層と下層から（中層―952、下層―951）、風字硯は中層から出土した。

なお、上層の埋土は包含層からの連続堆積で、中層以下とは明確に分離された。上層では龍泉窯系青磁椀Ⅰ－４類などが出土した。

（3）Ⅱ期（中世前期）の遺構

1、掘立柱建物、柵（第21・22図）

Ⅱ期の掘立柱建物は3棟、柵は3条確認した。全体が把握できるものは少ない。これらは出土遺物から時期を決定したものもあるが、遺構の位置関係などを考慮しつつその時期を推定したものが多い。掘立柱建物はすべて側柱建物となる点がⅠ期とは異なる。

SB06　方形区画外で検出された建物、方位はわずかに西に振れる（N6°E）。桁行2間以上、梁間1間の側柱建物。柱穴は総じて径が小さいものの、いずれも検出面からの深さは約50cmと深い。加えて特異なのが柱穴堀土で、97区SK91、97区SK93、97区SK94は炭化物と焼土塊で掘形が充填され、97区SK94では焼土塊に混じって鉄滓が1点出土した（縦に突き刺さった状態）。SK58からは、8片に破片化した尾張型灰釉系陶器椀（被熱、破断面に煤が付着）が柱の根固めとして、掘形に貼り付けられるように埋め込まれていた。

SB08　方形区画外で検出された方位を東西位におく建物。桁行3間以上、梁間1間の側柱建物。柱穴の規模や柱間はやや不揃い。柱根は遺存していなかった。出土した遺物は少なく、灰釉系陶器椀（東濃型）の破片が出土したのみ。

SB07　方形区画内部で検出された。井戸97区SK01に近接。Ⅰ期のSB02と大きく重複する。方位はN6°Eで、西にやや大きく振れる。南北2間、東西1間の小型の側柱建物として復原した。柱間も約1.2、1.6、1.9mと狭い。柱根等は遺存していなかった。97区SK20から灰釉系陶器椀（東濃型）の小片が出土した。

SA03　井戸97区SE02を囲うように区画する柵。方位はN5°E。南東隅に相当する南北2間分と東西1間分を確認した。柱間は一定しない。SB08、97区SE02との同時併存を考えておきたい。97区SK43から灰釉系陶器椀（東濃型）の小片が出土している。

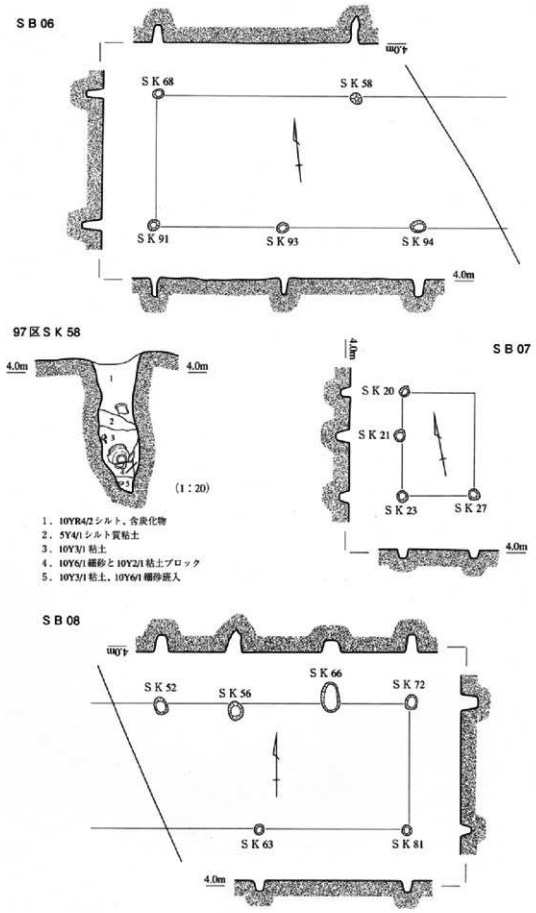
SA04　区画の南東隅に相当する東西各1間分を確認したに留まり、復原は妥当性に欠ける。方位はN1°W。柱間は約2mとやや大きい。出土遺物はみられなかった。

SA02　方形区画内部で検出。ほぼ南北・東西位に方位をおく。南北と東西1間分を柵として復原した。方位はN1°W。SB07と97区SK01を区画するような位置にあるが、SB07とは方位を異にする。97区SK35から非ロクロ成形の土師器皿、97区SK34から灰釉系陶器椀（尾張型）が出土している。

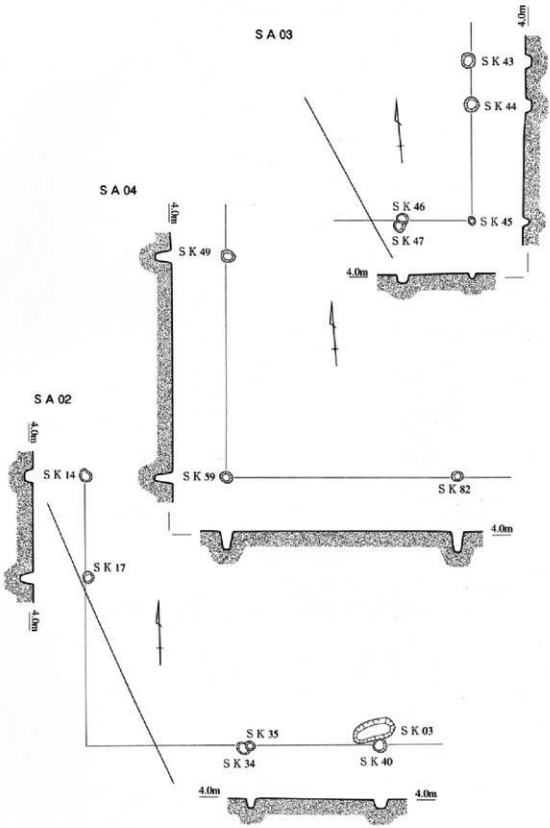
遺構番号	グリッド	方位	構造	規模	床面積	備考
SB06	ⅨJ9a-10b	N6°E	側柱建物	（2間）×1間	（24㎡）	柱根固めに陶器使用
SB08	ⅨI9t-ⅨJ9a	N	側柱建物	（3間）×1間	（22㎡）	
SB07	ⅨI4r-5r	N6°E	側柱建物	2間×1間	5.3㎡	
SA03	ⅨI7t-ⅨI8t	N5°E		（1間）×（2間）		
SA04	ⅨI8t-ⅨJ9a	N4°W		（1間）×（1間）		
SA02	ⅨI4r-ⅨI5s	N1°W		（2間）×2間		

（カッコ内は確認した柱間、床面積）

第3表　Ⅱ期掘立柱建物一覧表



第21図　II期掘立柱建物遺構図（1：100）



第22図　II期掘立柱構造構図（1：100）

2、溝

97区　削平によって遺構の残存状況は良好でない。検出した幅はＳＤ04が約1.8ｍ、ＳＤ05が約1.6ｍ。ＳＤ04とＳＤ05は並行し、埋土も共通することから、同一の遺構としておきたい。ＳＤ04ではⅠ期の遺物や墨書陶器も多く出土していることから、溝の開削はⅠ期にある可能性も考えられる。灰釉系陶器椀皿のほか、伊勢型鍋や常滑産鍋も出土している。

97区ＳＤ03　井戸、柱穴群の間を東西に通じる溝で、幅約4.5ｍ。ＳＤ01、ＳＤ02はＳＤ03を再掘削した溝。灰釉系陶器椀、伊勢型鍋の破片などが出土した。

96区ＳＤ01、02、04　自然流路96区ＮＲ01と平行する溝で、遺物の出土は少ない。ＳＤ01の一隅に、被熱した礫とともに遺物がややまとまって出土した。ただし、遺物群が示す時期幅は大きい。古瀬戸前期の四耳壺は96区ＮＲ01下・南溝出土のものと接合することから、ＳＤ01、ＳＤ02、ＳＤ04、ＮＲ01下層南溝は自然流路付近に連続して掘削された溝と捉えられる。

96区ＳＤ10―97区ＳＤ11　方形区画内の北部で96区と97区を東西に縦断する溝。96区ＳＤ10から猿投産広口瓶が出土したことから、当初はⅠ期の遺構と認識したが、97区ＳＤ11周辺の溝との関係から、Ⅱ期の遺構した。広口瓶は同一個体が方形区画北溝96区ＳＤ07からも出土しているので、ともに溝が埋没する過程で混入した可能性が高い。また、ＳＤ07との切り合い関係は明確でないことから、96区ＳＤ07が完全に埋没する以前に掘削された可能性が高い。周辺の97区ＳＤ10、97区ＳＤ14、97区ＳＤ15、97区ＳＤ22も同時期と考えておきたい。

3、井戸・土坑（第23・24図）

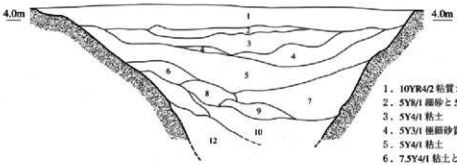
97区ＳＥ03　径約３ｍを測る。激しい湧水のため、標高約2.7ｍまで掘削したところで、調査の続行が不可能となった。構造物の有無についても不明であるが、擂鉢状の断面形から井戸と判断した。ほぼ完形の灰釉系陶器皿15個体が上層から出土した。なお、上層は包含層からの連続堆積である。中・下層から出土した灰釉系陶器は墨書されたものが多い。他に伊勢型鍋、常滑産甕などが出土した。

97区ＳＥ02　方形区画南溝（97区ＳＤ08）から約2.5ｍ南に位置する井戸で、径約３ｍ。調査区壁面からの浸透水によって崩落を繰り返し、詳細な調査は不可能であった。構造物の有無は不明。灰釉系陶器椀皿のほか、完形近くに復原される羽釜、土師器皿が出土した。上層は包含層からの連続堆積で、青銅製品（提子の環座）が出土した。区画内から移動、上層に混入したのであろう。

97区ＳＫ104　97区の南端近くで検出した。削平が及んでいることもあって、検出面での径は約１ｍと小さい。土坑下部が幅方に広がる断面形を呈することに加え、下層からは曲物の残欠が出土したことから、井戸の廃絶にともなって曲物は抜き取られたものと判断した。曲物の残欠に混じって黒漆塗りの櫛の破片が出土した。

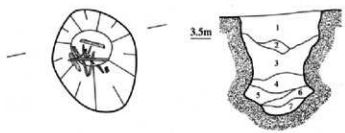
96区ＳＥ01　北区画溝の上層を掘削中に検出した径約1.4ｍの小型の井戸。構造物は確認されなかった。径25㎝とやや小型の曲物が押し潰された状態（横位）で出土した。完形の灰釉系陶器皿２個体が出土した。

97区SE03



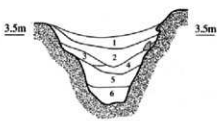
1．10YR4/2 粘質シルト、10YR8/1 極細砂斑入、含炭化物
2．5Y8/1 細砂と 5Y4/1 粘土の互層
3．5Y4/1 粘土
4．5Y3/1 極細砂質シルト
5．5Y4/1 粘土
6．7.5Y4/1 粘土と N7/0 極細砂ブロック
7．7.5Y3/1 粘土、含植物遺体
8．5Y4/1 粘土と 7.5Y2/1 の斑土
9．7.5Y2/1 粘土と N7/0 極細砂斑入
10．7.5Y3/1 粘土と N7/0 極細砂斑入
11．7.5Y2/1 粘土
12．7.5Y4/1 粘土

97区SK104



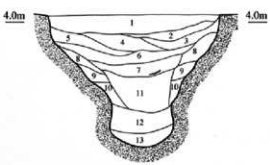
1．7.5GY4/1 粘土、N7/0 細砂斑入
2．10GY7/1 細砂
3．10GY5/1 シルト質粘土
4．7.5GY4/1 シルト質粘土
5．7.5GY4/1 シルト質粘土、7.5GY7/1 細砂斑入
6．5GY3/1 粘土
7．5GY7/1 粘土、2.5GY6/1 細砂斑入

96区SE01



1．7.5Y3/1 シルト質粘土、含植物遺体
2．7.5Y3/1 シルト質粘土
3．10Y6/1 細砂
4．7.5Y3/1 シルト質粘土と 10Y6/1 細砂の互層
5．10Y6/1 細砂と 7.5Y3/1 シルト質粘土の斑土
6．10Y6/1 細砂と 7.5Y3/1 シルト質粘土ブロック

96区SE06



1．2.5Y3/2 極細砂質シルト
2．2.5Y4/3 シルト
3．2.5Y4/2 シルト
4．2.5Y4/2 粘質シルト
5．2.5Y4/2 シルト質粘土
6．2.5Y4/3 シルト質粘土
7．2.5Y3/2 粘土
8．5Y3/2 粘土
9．2.5Y3/2 粘質シルト
10．2.5Y3/2 シルト質粘土
11．5Y3/2 シルト
12．5Y4/2 粘土
13．5Y3/2 粘土

第23図　II期井戸遺構図1（1：40）

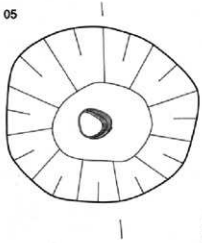
96区ＳＥ05　径約２ｍを測る。検出面から深さ約1.5ｍまで掘削したところで曲物の上端（径約40㎝）を確認したが、激しい湧水のため調査の継続が不可能となった。曲物は２段以上積み上げられていることを確認。擂鉢状を呈する擂形上半から、曲物の残欠、曲物底板が出土した。

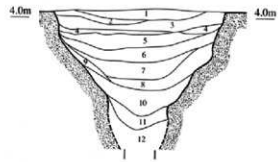
96区ＳＥ06　径約２ｍを測る。遺構の底面まで掘削したが、構造物は何らみられなかった。灰釉系陶器のほか、柄を装着した状態の柄杓が出土した。

97区ＳＫ01　唯一、方形区画内に掘削された井戸。径約1.8ｍを測り、構造物として径約35～45㎝の曲物を４段積み上げていた。上層は包含層からの連続堆積で、遺構検出面付近で灰釉系陶器のまとまった出土をみた。他の出土遺物に伊勢型鍋小片、土師器皿、拳大の鉄滓がある。

97区ＳＫ02　長軸約４ｍを測る隅丸方形の土坑。検出面より約10㎝掘削したところで土坑底面を確認した。性格は不明。灰釉系陶器椀、常滑産甕、片口鉢などが出土しているが、大半は検出面、または検出面よりわずかに浮いた状態での出土であった。

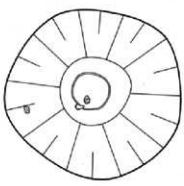
96区ＳＥ05

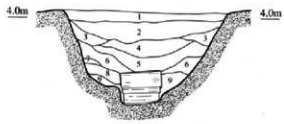




1．10YR4/2 シルト
2．10YR4/3 極細砂質シルト
3．10YR4/3シルト
4．10YR4/4 シルト
5．2.5Y4/2 シルト質粘土
6．2.5Y4/1 粘土
7．2.5Y3/1 粘土
8．2.5Y3/1 粘土と 2.5Y4/1 粘土の斑土
9．2.5Y3/1 粘土、2.5Y5/2 極細砂斑入、含炭化物
10．2.5Y4/1 粘土、含炭化物
11．2.5Y4/1 粘土
12．5Y3/1 粘土

97区ＳＫ01





1．7.5YR4/3 粘質シルト、2.5Y8/6 極細砂斑入、含炭化物
2．5Y3/2 粘土、含炭化物、焼土粒
3．5Y3/2 粘土、5Y7/1 シルト斑入
4．7.5Y3/1 粘土、含炭化物、焼土粒
5．7.5Y3/1 粘土
6．2.5GY4/1 粘土、N7/0 極細砂斑入
7．N7/0 極細砂
8．2.5GY3/1 粘土
9．2.5GY3/1 粘土、N7/0 極細砂斑入

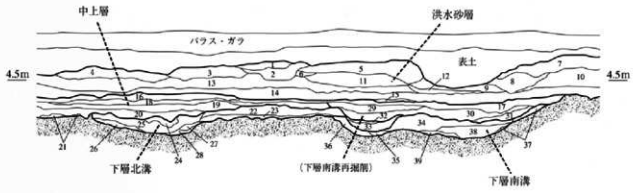
第24図　II期井戸遺構図２（1：40）

（4）Ⅲ期（中世後期）の遺構

自然流路、溝、土坑（第25図）

96区ＮＲ01、97区ＮＲ01　97区西部から96区北部、さらに97区北東部にかけて、連続する浅い自然流路が確認された。自然流路は遺構の検出面付近まで、灰～灰褐色を呈する粘質の土で埋積され、粘土層は洪水に起因する粗粒な堆積物で被覆されていた。この自然流路は旧青木川から派生する泥みの部分に相当するとみられ、遺跡の西端と北端を画するものともなっている。粘質土から出土する遺物は古瀬戸製品など14～15世紀の遺物が主体で、灰釉陶器などの古代以前の遺物やⅠ期の遺物も混在する。砂層中では古瀬戸後期末の遺物のほか、わずかながら大窯製品も出土している。

96区ＮＲ01下層北溝―南溝―97区ＳＤ18、97区ＳＤ16　谷地形の落ち際に掘削された溝。埋土の大部分が自然流路と同様の粘質土であるが、下層部分では流水の痕跡もみられた。96区ＮＲ01下層南溝は二回以上掘り直されており、流路が粘土で完全に埋没する直前まで掘削されたようである。遺物はⅡ期のものが主体で、前後する時期の遺物も含まれる。一方、北溝が再掘削されたようすはみられず、出土遺物もⅠ期に属するものが多い。なお、97区ＳＫ100は97区ＳＤ18の埋没する過程で掘削された土坑である。



（砂層）
1．10YR 4/3細砂とN5/0細砂の斑土
2．5Y5/2極細砂
3．7.5Y6/2中砂
4．7.5Y5/3粗砂
5．5Y4/3粗砂
6．10YR5/4シルト質極細砂と5Y4/3粗砂の互層
7．5Y4/3細砂
8．5Y4/3粗砂
9．10YR4/3細砂とN5/0細砂の斑状
10．7.5Y5/3粗砂
11．2.5Y6/1シルト質極細砂と2.5Y6/1中砂の互層
12．5Y5/1中砂
13．2.5Y6/1粗砂
14．2.5Y6/1シルト質極細砂と5 Y8/1粗砂の互層
15．2.5Y5/1粗砂

（中上層）
16．5Y5/1極細砂質シルト、5Y8/1粗砂混じり
17．7.5Y5/2シルト質極細砂
18．7.5Y5/1シルト
19．7.5Y5/1極細砂質シルト、含炭化物
20．7.5Y4/1極細砂質シルト、含炭化物少量
21．7.5Y6/1細砂と7.5Y4/1シルト質極細砂の互層
22．5Y5/2シルト質極細砂、含炭化物・植物遺体
23．5Y5/2シルト質極細砂と7.5Y7/2細砂斑入

（下層北溝）
24．7.5Y4/1シルトと7.5Y極細砂の互層
25．7.5Y3/1シルト質粘土、含炭化物・植物遺体
26．10Y4/1シルト
27．7.5Y4/1シルト質粘土、7.5Y7/2細砂斑入
28．7.5Y5/1シルト質粘土、含植物遺体

（下層南溝）
29．5Y5/1極細砂
30．5Y5/1極細砂質シルト
31．5Y5/1シルト
32．2.5Y4/2シルト質極細砂
33．5Y4/1シルト
34．7.5Y4/1粘質シルト
35．7.5Y4/1粘土
36．5Y3/1粘質シルトとN6/0中砂の互層
37．N5/0シルト、10BG5/1細砂斑入
38．2.5Y5/2極細砂
39．2.5Y6/1極細砂

第25図　自然流路（96区ＮＲ01）土層断面図（1：80）

第3章 遺物

(1) 土器・陶磁器

下津北山遺跡で出土した土器は、そのほとんどが中世に属する。なお、ここでいう「土器」とは、いわゆる土師器、陶器、陶磁器を総称した概念として用いている。

資料の特質

Ⅰ期の遺構、とりわけ方形区画南溝（96区ＳＤ21など）や廃棄土坑（96区ＳＫ18など）からは、灰釉系陶器椀皿をはじめとするきわめて一括性の高い資料群が得られている。それらの多くは、概ね斎藤孝正による猿投窯編年（斎藤 1988）でいうところの Ⅶ期３段階に対比することが可能である。ここでは、Ⅰ期における遺構の詳細な時期区分と消費地における流通・使用形態を明らかにすることを目的として、後述する灰釉系陶器椀Ⅰ類、灰釉系陶器皿Ⅰ類について、やや詳細な分類を試みた。分類に際しては、形態・胎土の相関と、調整技法等の差異を取り上げることとする。

前者の視点は生産地との対比を視野に入れたものであるが、今回は胎土分析等を実施していないので、詳細な対比は自後の課題となる。後者は猿投窯編年 Ⅶ期第３型式における生産地の変遷観を参考としたものである。なお、猿投窯編年 Ⅶ期第３型式は斎藤によって古・新段階に区分され、さらに尾野善裕によって古・新・終末段階に細分されている（尾野 1992）。今回の分類では主に後者の細分基準を参考とした。

一方、Ⅱ期の遺物は溝、井戸からの出土が目立つ。その内容は、瀬戸・東濃諸窯で生産された灰釉系陶器椀皿に施釉陶器、常滑産甕などの大型品、土師器煮炊具を混じえるもので、尾張平野における一般的な中世集落と同様の組成を示す。

Ⅲ期の遺物は自然流路から出土したもので、古瀬戸後Ⅳ期（新）までの製品が含まれる一方で、大窯製品はほとんどみられない。

1、分類

灰釉系陶器

椀Ⅰ類 厚手の灰釉系陶器椀。いわゆる「尾張型」と称されるものであるが、ここでは精選された良質胎土のもの（「東濃型」）をも含んでいる。Ⅰ０、ⅠＡ～ⅠＥに分類する。

椀皿

Ⅰ０ 体部の丸みが強く、底部の器壁が著しく厚いもの。高い高台を有する。

ⅠＡ 体部下方は丸みを有し、口縁部が外折気味のもの。砂粒をあまり含まない均質な胎土で、胎土中に微少な黒色粒子を含むものが多い。灰白色で硬質。ⅠＡをさらにⅠＡ１～ⅠＡ３に細分する。以下ⅠＢ～ⅠＤも同様の視点で分類する。

ⅠＡ１ 体部内面のコテの押圧がていねいで、全体が緩やかな曲線を呈するもの。体部と底部の境はくぼまない、あるいはかすかにくぼむ程度。

ⅠＡ２ 体部内面のコテの押圧がやや雑なため、体部と底部の境がわずかにくぼむもの。体部やや直線化。

ⅠＡ３ Ａ２よりさらにコテの押圧が雑になり、体部と底部の境が明瞭となるもの。見込みに指圧痕が認められるものが多い。

ⅠＢ 体部下方は丸みをもつが、全体に体部外面のロクロの条線は明瞭に表れず、器壁も比較的薄いもの。高台は低く潰れたものが多い。ややくすんだ灰白色を呈する。

ⅠＣ 体部全体が直線的で、器高が低いもの。高台は体部下端近くに貼付けられる。くすんだ灰白色で、不揃いの砂粒が表出する。

ⅠＤ 深い体部は全体に丸みを有し、口縁部はわずかに外反。見込み中央が突出する。底径がやや小さ

く、断面三角形の高台をもつものが多い。砂粒をほとんど含まない精選された胎土で、白色に近い灰白色を呈するものが多いが、黄色味が強い灰白色を呈するものもある。

ⅠE　特殊な形態の椀を一括。片口椀、玉縁口縁椀、中椀などがある。概してつくりがていねいで、体部下半がヘラケズリ調整されるものもみられる。断面三角形の高台をもつものが多い。

椀Ⅱ類　全体が直線で構成される形態の椀で、底径が小さく、器高がやや高いもの。椀Ⅰ類と比較して、胎土が粗悪になる傾向がある。

椀Ⅲ類　灰白色の精選された胎土を用いた薄手の椀。いわゆる「東濃型」、「北部系」灰釉系陶器椀を総称。

ⅢA　体部は直線的で、器高が高いもの。

ⅢB　体部は大きく外傾し、器高が低いもの。

皿Ⅰ類　厚手の灰釉系陶器皿。有高台の形態をⅠ0とし、無高台平底の形態をⅠA～ⅠEに細分する。

Ⅰ0　有高台、いわゆる小椀。

ⅠA　底部が厚く、口縁部にいたるまで徐々に厚さを減じるもの。口縁部は外反気味。胎土や焼成は椀ⅠAと共通する。ⅠAをさらにⅠA1～ⅠA3に細分する。以下ⅠB～ⅠEも同様の視点で分類する。

ⅠA1　体部下方に丸みをもち、底部が円柱状に突出、あるいは突出気味のもの。

ⅠA2　体部はやや浅くなる傾向にあるもの。底部は完全な平底。

ⅠA3　底部平底、直線的な体部を有するもので、見込みに指圧痕が認められるもの。

ⅠB　全体に器壁が均一で体部は直線的に外反するもの。

ⅠC　底部平底で、底径を大きくとるもの。体部は直線的。

ⅠD　体部下方が丸みをもちつつ外反し、体部中位で上方に立ち上がるもの。見込み中央が突出する。器高が高く、底径を大きくとる。胎土や焼成は椀Ⅰと共通する。

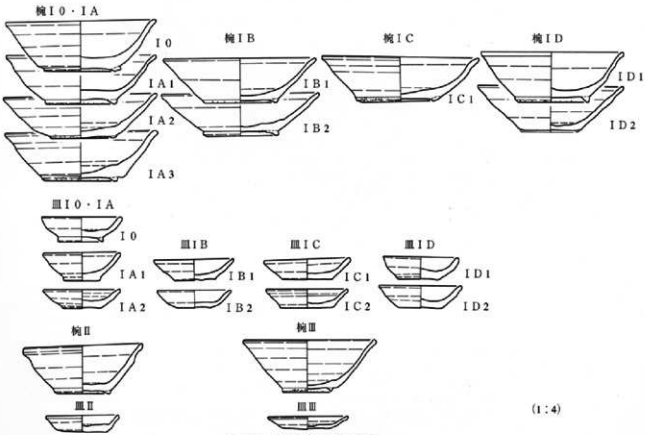
ⅠE　特殊な形態の皿を一括。片口や玉縁口縁を有するもの、口径9.5cm前後のやや法量の大きいものなどがある。

皿Ⅱ類　直線で構成される体部は浅く、口縁部先端は実り気味となるもの。

皿Ⅲ類　「東濃型」椀と同様、均質薄手のもの。

ⅢA　器高がやや高いもの。

ⅢB　器高が特に低いもの。



第26図　灰釉系陶器椀皿の分類

土師器椀皿（椀）

椀Ⅰ類　ロクロ製品。椀形態。出現頻度は低い。形態の特徴からⅠ0、ⅠA、ⅠEに分類する。

Ⅰ0　ロクロ製品。灰釉陶器の形態に近いもの。細く高い高台を有する。

ⅠA　ロクロ製品。無高台で体部は外傾する。

ⅠE　ロクロ製品。器形や法量が灰釉系陶器椀に酷似する椀。生焼けの灰釉系陶器との識別が困難。

皿Ⅰ類　ロクロ製品。底部に回転糸切りの痕跡を残す。形態や胎土を指標にして細分する。

ⅠA　底部平底、体部全体が内彎する形態。黄褐色系の色調で、胎土中に砂礫を多く含む。底部に突出を留めるものをA1、突出がみられないものをA2とし、さらに法量によって二分、大法量のものにa、小法量のものにbをそれぞれ付加する。

ⅠB　体部下方が内彎、口縁部は大きく外傾する形態。橙色系の色調で、胎土中に砂粒をほとんど含まないものが多い。皿Aと同様、形態と法量にもとづいて細分する。

ⅠC　皿Aと比較して、底部が厚く、底径もやや小さいもの。灰釉系陶器皿と形態が酷似する。橙色系の色調で、胎土中に砂粒をほとんど含まない。

ⅠD　脚付のいわゆる足高高台の皿。大法量のものをDa類、小法量のものをDb類とする。Da類は概して焼成が不良で、黒褐色の色調を呈するものが多い。Db類は橙色系の比較的精良な胎土。

皿Ⅱ類　非ロクロ製品、いわゆる手づくねによる成形。形態と法量によって細分。

Ⅱ1　口径13cm、器高2.5cm前後。

Ⅱ2　口径11cm、器高2.5cm前後。

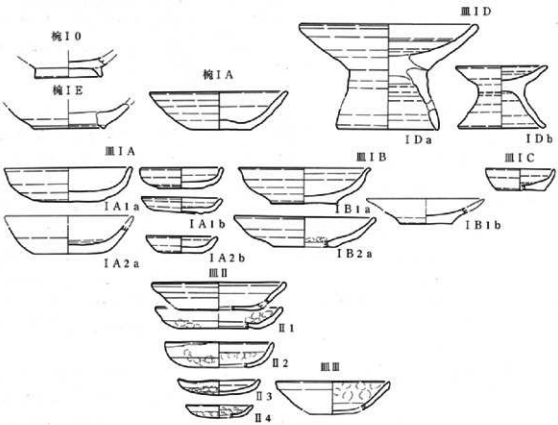
Ⅱ3　口径8～9cm。器高1.5cm前後。

Ⅱ4　口径7cm前後。器高1～1.5cm。

皿Ⅲ類　口縁部が肥厚する椀形態に近い皿。白色系の精選された胎土を用いる。口径12cm、器高3cm前後。

その他、特殊な器形として合子？がある。

土師器煮炊具　全形を把握できるものは少ない。北村分類（北村1996）を参考にして分類する。



(1:4)

第27図　土師器皿（椀）の分類

その他の灰釉系陶器　猿投窯、常滑窯などで生産された椀皿以外の器種。調理具、貯蔵具のほか、宗教具、硯、瓦など多器種に及ぶ。生産地の分類を参考とし、常滑窯の製品については中野氏による分類・編年（1994）に従った。
片口鉢（三ツ口鉢）、羽釜、鍋、広口壺、三筋壺、四耳壺、広口壺、甕、
片口小瓶、水注、合子、子持器台、陶製経筒、陶硯、瓦

施釉陶器　藤澤氏による分類（藤澤1982・1991・1995）に依拠する。前期様式から後期様式までの製品がⅡ期の遺構、包含層から出土している。
前期様式　四耳壺、水注、瓶子
中期様式　四耳壺、水注、花瓶、卸皿、平椀、天目茶椀
後期様式　四（三）耳壺、天目茶椀、小天目、緑釉小皿、折縁皿、卸皿、擂鉢、袴腰形香炉、内耳鍋、梅、土瓶蓋

貿易陶磁器　大宰府を中心とした分類（横田・森田1978）を援用する。

瓦器　火鉢がある。

文献

尾野善裕 1992「考察」『ＮＮ302号窯・ＮＮ304号窯発掘調査報告書』名古屋市教育委員会
北村和宏 1996「尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年」『年報 平成７年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
斎藤孝正 1988「中世猿投窯の研究―編年に関する一考察―」『名古屋大学文学部研究論集』Ｃ１ 史学34
中野晴久 1994「生産地における編年について」『「中世常滑焼をおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所
藤澤良祐 1982「古瀬戸中期様式の成立過程」『東洋陶磁』第８号 東洋陶磁学会
藤澤良祐 1991「古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要 X』瀬戸市歴史民俗資料館
藤澤良祐 1995「瀬戸古窯址群Ⅲ―古瀬戸前期様式の編年―」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 研究紀要』第３編 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
横田賢次郎・森田勉 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について―型式分類と編年を中心として―」『九州歴史資料館研究論集』４ 九州歴史資料館

２、Ⅰ期における灰釉系陶器椀皿の構成

先の分類をもとにⅠ期における灰釉系陶器椀皿の構成を明示しておきたい。分析には、全体の器形を知りうる個体を多く含む遺構一括資料―96区ＳＫ30、96区ＳＫ18下層、96区ＳＫ18中層、96区ＳＤ21、97区ＳＤ08下層―を用いた。なお、分類との対比に妥当性をもたせるため、個体の抽出には、椀は口縁部から底部まで残存するもの、皿は口縁部から底部まで残存し、なおかつ底部が二分の一以上残存するもの、という基準を使用した。

椀ＩＡ、皿ＩＡの推移　前記の方法で抽出した個体を、器種ごとに集計したものが第４表である。椀ＩＡ１→椀ＩＡ２→椀ＩＡ３、皿ＩＡ１→皿ＩＡ２→皿ＩＡ３という変遷観を援用すると、椀皿の構成比からは概ね、96区ＳＫ30→96区ＳＫ18下層→96区ＳＫ18中層・96区ＳＤ21・97区ＳＤ08下層、という遺構の相対的な新旧が与えられる。これは遺構の新旧、層位関係からも裏づけられる。

また、96区ＳＫ18と97区ＳＤ08のそれぞれ上層では、椀Ⅱ・皿Ⅱがともなうから、椀ＩＡ→椀Ⅱ、皿ＩＡ→皿Ⅱという変遷観も安定的なものと捉えうる。椀ＩＡ・皿ＩＡの法量分布（第28図上）からは、椀の形態変化（口径の縮小、器高の増大）、皿の変遷（器高の縮小）が間断なく進行していることが見て取れるであろう。

椀皿の法量分布

次に椀ＩＡ～椀ＩＥ、皿ＩＡ～ＩＥについて、その法量分布（第28図下）を参照すると、特殊器形の椀ＩＥは別として、椀ＩＤが口径14.5～15.5㎝、器高5.0～5.5㎝を中心にまとまりをみせ、椀ＩＡなどの分布とは領域を大きく異にすることが分かる。皿ＩＤについても同様に器高2.0～2.5㎝でまとまりをみせ、皿ＩＡなどの分布域とやや異なる。このようにして、比較的明瞭に椀ＩＡと椀ＩＤが、皿ＩＡと皿ＩＤが分離される。また、胎土などの特徴から椀ＩＡと皿ＩＡ、椀ＩＤと皿ＩＤがセットになると考えられる。それぞれの産地としては、椀ＩＡや皿ＩＡが猿投窯周辺、椀ＩＤと皿ＩＤは、精選された胎土や見込み中央が突出する器形の特徴から、東濃地域の諸窯で生産された器種と考えられよう。

椀ＩＢについては椀ＩＡの分布域とほとんど重複し、椀Ｃについては口径が5㎝以上のものと5㎝以下のものに分離される。椀ＩＣのうち、器高が低い一群は常滑窯で生産された器種の可能性が高いが、産地の比定には、なお根拠を要しよう。また、椀ＩＥとしたうち、口径、器高とも小さいいわゆる「中椀」とした器種は胎土や全体のつくりは椀ＩＤと共通するから、これらも東濃諸窯において生産されたものと考えられる。

椀ＩＤ、皿ＩＤの問題

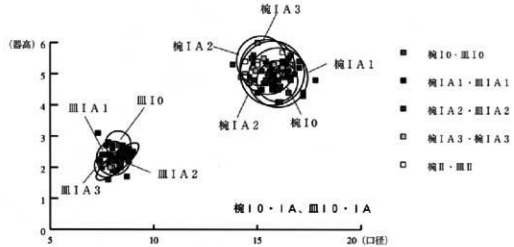
遺構での椀ＩＤの構成比をみると（第４表）、96区ＳＫ30ではその比率が低く、96区ＳＫ18、96区ＳＤ21では椀皿のうちの一定量を占めている。後者の遺構では椀ＩＡ１～椀ＩＡ２が相半ばしているから、椀ＩＤに看取される、つくりがていねいな高台、体部の丸みといった器形の特徴は、古い要素の残存とみなしうる。

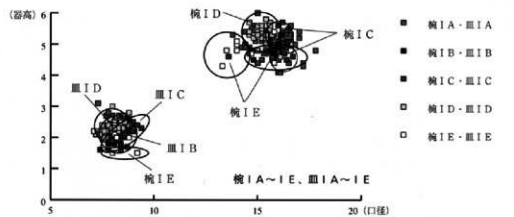
従来、東濃型灰釉系陶器の流通について、尾張平野においてその販路は明和窯式期から拡大すると認識されてきた。今回の検討によって、前段から東濃型灰釉系陶器が尾張平野に一定量流通していることが明らかとなった。今後は、下津北山遺跡で明らかにした灰釉系陶器椀皿の構成が、遺跡の特殊性を反映したものであるのか、他の集落でも通有のものなのかをさらに検討する必要がある。

椀	ＩＯ	ＩＡ１	ＩＡ２	ＩＡ３	Ⅱ	ＩＢ１	ＩＢ２	ＩＣ１	ＩＣ２	ＩＤ１	ＩＤ２	ＩＥ
総計	5	40	26	10		8		7		23	4	9
96区ＳＫ30（96区ＳＸ02）	1	7	1	1						1	2	
96区ＳＫ18下層		3	1			3				6	1	3
96区ＳＫ18中層		4	3			1		1		7		
96区ＳＤ21	3	16	13			3		3		8	2	5
97区ＳＤ08		1	3	2								

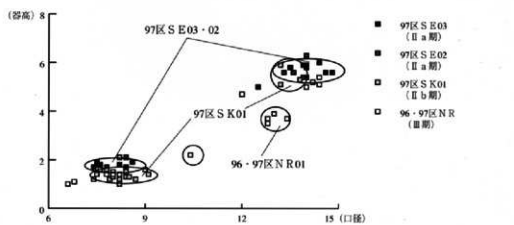
皿	ＩＯ	ＩＡ１	ＩＡ２	ＩＡ３	Ⅱ	ＩＢ１	ＩＢ２	ＩＣ１	ＩＣ２	ＩＤ１	ＩＤ２	ＩＥ
総計	1	48	13			15	11	8	11	27	8	1
96区ＳＫ30（96区ＳＸ02）	1	8				2			1	1		
96区ＳＫ18下層		8	2					1	1	7	1	
96区ＳＫ18中層		6	7			5	9	3	2	8	3	
96区ＳＤ21		12	1			6	1	3	2	5	3	1
97区ＳＤ08		2	1							1		

第４表　灰釉系陶器椀皿の構成

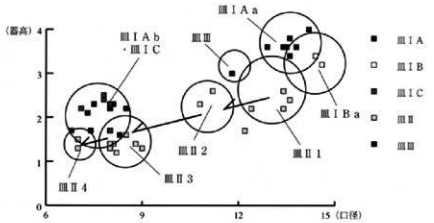




第28図　椀Ⅰ、皿Ⅰの法量分布



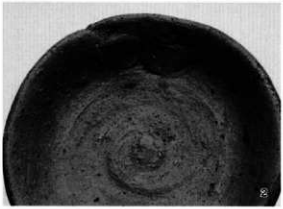
第29図　椀Ⅲ、皿Ⅲの法量分布



第30図　土師器皿の法量分布

1　椀体部下半の回転ヘラケズリ（96区ＳＫ18：452）
　玉縁口縁椀、刻書椀、中椀などの特殊な形態の椀にしばしば観察される。またこれらの高台の形状は断面三角形に近く、つくりがていねいである場合が多い。

2・3　皿体部の製作技法（96区ＳＫ19：426）
2　皿体部内面にみられる粘土の継ぎ目
　コテによる内面調整があまかったため、継ぎ目付近には指圧痕が顕著にのこる。
3　内面からの指押圧によって生じた外面のふくらみ



第31図　灰釉系陶器椀皿の製作技法

3、下津北山遺跡における中世土器の組成について

土器の集計

下津北山遺跡における中世土器の組成を明らかにするため、土器の集計による分析を試みた。この手法による分析は、これまでに多くの遺跡で実施され、各種遺跡・遺構の重層性を明らかにするうえで一定の成果を挙げてきた。その一方で、遺跡の遺存度の差、対象資料が内包する時間幅、分析における基準・視点の不徹底など、方法論としてのさらなる深化も求められている。

このとき、下津北山遺跡における遺構の内容、変遷を参照すれば、分析に際しての好条件に恵まれていることに気付く。第一に、屋敷地などが長期にわたって同一の場所に占地することがなく、遺構の複雑な重複と遺物の二次的移動が避けられていること。第二に、大量消費された遺物が各遺構に一括廃棄されていること。第三に、遺跡の性格と場の推測との対比が比較的容易であること。これらの条件から、本遺跡の資料が中世前期における組成の示準なりうると考えられ、遺跡相互の比較にも有効性を発揮するものと判断される。

方法

なお分析を行うに際しては、集計の方法、視点が遺跡間で統一されることがもっとも望ましいと考え、遺構出土遺物については宇野隆夫による方法（宇野 1992）にもとづき口縁部残存率による集計と（接合前）破片数を用いた集計を併用し、包含層を含めた出土遺物については破片数のみの集計を行った。

なお、出現頻度が低い以下の器種については集計から除外している（数値は破片数）。また、大窯製品や瓦（瓦器）の集計も省略した。

緑釉陶器皿（2）、緑釉円塔（1）
灰釉系陶器合子（4）、灰釉系陶器子持器台（1）、
灰釉系陶器水注注口部（1）、灰釉系陶器片口小椀（1）、
陶製鍋釜（38）、陶硯（6）、不明（18）

総点数

下津北山遺跡（遺構・検出）から出土した中世土器の総点数は26,982点を数え、これを調査面積で除した値は、6.6点（／1㎡）となる。

総点数の7割近くが灰釉系陶器椀皿で、いわゆる尾張型（椀Ⅰ・Ⅱ、皿・Ⅱ）の占める比率がやや高い傾向にある。他の供膳具では、土師器皿の占める割合が15%と比較的高く、灰釉系陶器椀・皿の約五分の一に近い値を示す。中国陶磁器は1%で、ここでは保有率の高さを示す数値とはなっていない。

以下においては良好な一括資料が得られた遺構を中心に、その集計結果を提示しつつ、遺物の内容についても若干の記述を行う。

文献

宇野隆夫 1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館

4、Ⅰ期の土器・陶磁器（図版8～28）

96区ＳＤ07（方形区画北溝・西溝）

96区ＳＤ07は洪水砂によって下層（北溝；1～10、西溝；1～5）と上層（北溝；42～57、西溝58～76）に明確に分離される。集計結果は溝の埋没期間総体を含み込んだものである。灰釉系陶器椀皿は全体の約6割（破片数）占め、その1割程度が東濃型（椀Ⅲ、皿Ⅲ）である。下層から出土する灰釉系陶器椀は、体部下方に丸みを残した椀ＩＤ1（32）、椀ＩＡ1（33）とともに、見込み部分に指圧痕がある椀ＩＡ2（35）が混在する。一方上層は、体部が直線的な灰釉系陶器椀ＩＡ2、ＩＡ3が主体で、皿ⅢＡ（71）もみられる。71は白土原窯式に対比される。口縁部計測では椀Ⅲ、皿Ⅲとも1％に留まることから、96区ＳＤ07で集計した椀Ⅲ、皿Ⅲは上層埋没時に混入したものと考えられる。

一方土師器皿の割合は17％（破片数）と高い値を示す。これは、土師質で、灰釉系陶器と同形態の椀皿（46、51など）が一定量見出されることと、近辺から脚付Ⅲ（51）が混入していることとも関係する。49、50は土師器皿Ⅰで、これらも灰釉系陶器皿の形態を忠実に写したもの。10、25は猿投産の三筋壺で、灰白色の精選された胎土を用いている。40は猿投産片口鉢で、破断面に煤が厚く付着。頸部に突帯をもつ猿投産広口瓶（26）は、96区ＳＤ10から出土したものであるが、同一個体の破片が96区ＳＤ07上層からも出土している。広口瓶の突帯の先端はきわめて鋭利。62は屈曲部近くで出土した常滑産片口小瓶、あるいは細頸瓶。口縁部が部分的に欠失するため、片口の有無については不明。なお、58～61は厳密には小瓶に共伴する資料ではない。75は常滑産広口瓶で常滑窯編年2型式。貿易陶磁器は4点に留まり、体部内面下方に沈線を有する白磁椀Ⅳ－1類（36）などがある。36の底部の削り込みはきわめて浅い。

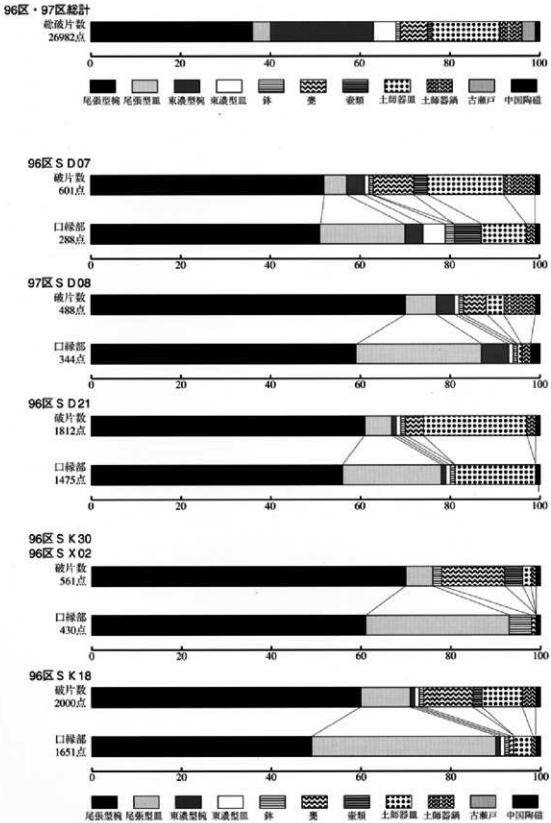
97区ＳＤ08（方形区画南溝）

南溝のうち西半の一部に相当し、出土資料は下、中、上層に区分される。97区ＳＤ08では、灰釉系陶器椀皿の比率が高く、破片数で82％、口縁部計測で93％を占める。下層は椀ＩＡ2が主体で、90、91、93は椀ＩＤ1。91の外面底部の墨書は「ゐ」、または「為（変体仮名）」と判読した。灰釉系陶器Ⅲは底部の突出を痕跡として残すものが多い。97は外面底部に「佛」、体部には判読されない文字が6字前後墨書される。106は常滑産羽釜で常滑窯編年2型式。108は猿投産あるいは渥美産の甕体部で同一個体の口縁部（107）が96区ＳＫ30から、底部（292）が96区ＳＤ21から出土している。肉厚な体部には格子叩きがやや不規則に施され、内面には砂粒を混ぜた粘土による補修痕（半乾燥段階）が観察される。なおこの甕は、多数の加工円盤に転用されている。102は白磁椀Ⅳ類、103は白磁Ⅲ Ⅴ－4 b類、104は白磁Ⅲ Ⅳ－1 a類。

中層では灰釉系陶器椀Ⅱ（110）に、白磁皿Ⅴ類またはⅧ類（111）がともなう。上層には検出面より上位で出土した尾張第7型式の灰釉系陶器Ⅲ（116、117）、明和窯式の灰釉系陶器皿（118）、尾張第6型式の瀬戸産片口鉢（119）も含めている。

96区ＳＤ21（方形区画南溝）

方形区画南溝のうち、96区で調査した部分。灰釉系陶器椀皿、土師器皿、貿易陶磁器を含めた供膳具の割合がきわめて高く、破片数で93％、口縁部計測では97％を占める。灰釉系陶器椀皿のほぼすべてが尾張型で、東濃型は椀とⅢはそれぞれ1％ずつみられるのみで



第32図　土器組成グラフ（１期）

ある。後者については混入したものとして扱ってよかろう。

灰釉系陶器椀は椀ＩＡ１が多く、墨書も多い。124の墨書は鮮明であるものの明確に判読できない。全体の字形から「圖」あるいは「圖」とした。21、140、141は体部３箇所に「上」を正位で記す。180、181は遺存状態が悪いが、124と同じ字句の可能性がある。188も「圖」あるいは「圖」の墨書が体部外面にある。141、149は口縁部がわずかに玉縁状に肥厚する椀で、141の口縁端部直下には浅いソギがめぐる。211は断面三角形の高台をもつ灰釉系陶器椀で、体部外面２箇所に「九」を墨書する。212、213は片口椀で、212は体部が深い形態、213は体部が浅い形態。216は底部外面に焼成前の刻書「大」がある椀で、体部外面下半は回転ヘラケズリ調整。214は六器を模した片口小椀。217は猿投産子持器台。

灰釉系陶器皿は、小椀形態の皿Ｉ０を１点図化しえたが、他は皿ＩＡ、なかでも底部の突出をわずかに残す皿ＩＡ１が多い。38～45は見込み中央が突出する皿ＩＤで、254、255の底部外面には「僧」の墨書がある。

土師器皿の比率は破片数で23%、口縁部計測で18%と高い。有高台椀形態のもの（258）、無高台椀形態のもの（259）もみられ、形態が豊富である。また、非ロクロ成形の土師器皿Ⅱ１（273～275）も一定量認められる。貿易陶磁器は14点（破片数）を数え、283～288は白磁椀Ⅳ類、287、288はⅣ－１類に分類される。282は器肉の薄い白磁皿Ⅳ－１ｂ類。片口鉢（289）は胎土が388に類似することから、渥美産の可能性もある。

ＳＢ01　295～298はＳＢ01の柱穴から出土した資料。295は96区ＳＫ145から出土した灰釉系陶器椀ＩＡ１で、破断面に煤が付着。299～316はＳＢ01の雨落溝から出土した。302は猿投産水注の注口部、ヘラケズリによって断面六角形に整えられる。

96区ＳＤ13　317は底部外面に刻書で「大」と記した灰釉系陶器椀で、216同様、体部外面下半は回転ヘラケズリ調整で、高台は断面三角形となる。216と317は同一工人によって製作された可能性がきわめて高い。318は猿投産片口鉢。

96区ＳＫ30　集計はＳＫ30とＳＸ02を合わせて行った。

（96区ＳＸ02）　96区ＳＫ30の供膳具は灰釉系陶器椀皿によってほぼ占められ、土師器皿はきわめて少ない。また、この遺構は供膳具以外の陶器が多いのが特徴で、壺類、甕、鉢の合計は破片数で20%に達し、器種も豊富である。片口鉢387、388は体部の丸みが強く、口縁端部は断面方形。387は猿投産。388は渥美産の可能性がある三ツ口鉢で、口縁端部は沈線状にくぼむ。389は猿投産の広口壺。全体に肉厚で、内面は輪積痕が明瞭に残る。頸部直下には平行叩きが、体部には格子叩きが施される。常滑産甕２個体（404、405）は土坑上層からの出土で、常滑窯編年２型式。これらの甕の破片は柱の根固め（ＳＫ08）、あるいは加工円盤にも転用されている。411が常滑産中型甕で常滑窯編年１ｂ型式、412は高台を有する猿投産三筋壺で、体部内面はロクロ目が明瞭。耳の有無については不明。413は水注の注口部302と同一個体の可能性が高い。胎土は精良。414は常滑産細頸瓶で常滑窯編年１ｂ型式。415は猿投産広口瓶で、ＳＢ05（96区ＳＫ109）の柱の根固めに転用された破片と接合した。胎土は精選された白色系のもの。

灰釉系陶器椀は椀ＩＡ１が多いが（374～376、391～394、407）、ＩＡ３（379）もみられる。379は96区ＳＫ30埋没後に掘削された遺構にともなう可能性を考えておきたい。灰釉系陶器皿は皿Ｉ０もみられるが、皿ＩＡ１が圧倒的に多い。これらの椀皿に墨書はまったくみられない。385は白磁椀Ⅴ－４ｂ類。

96区ＳＫ18

96区ＳＫ18は96区ＳＫ30の一部を破壊していることから、本来は96区ＳＫ30にともなっていた土器も多数混入しているものとみられる。96区ＳＫ30の土器と接合するものも多く、それは甕の比率の高さ（破片数で11％）に反映されている。口縁部計測では、灰釉系陶器皿の比率が他の遺構より約1.5～２倍ほど高くなっている（41％）。430～479が下層、480～591が中層、592～602が上層に区分される。下層、中層には墨書陶器も多いが、上層ではみられない。

430は底部外面に墨書があり、確実でないが「そう」（「そ」は「所」の変体仮名か）と判読した。椀ＩＡ１。442は体部３箇所に正位で「見」と墨書したもので、椀ＩＤ１。443も椀ＩＤ１で、底部外面に「僧」の墨書がある。451～453は椀ＩＥで、いずれも体部外面下半に回転ヘラケズリを施す。451は中椀で、胎土は椀ＩＤに共通する。452は玉縁口縁椀で、口縁部直下にソギをめぐらす。453も玉縁口縁椀で、幅広に肥厚させた口縁部直下にソギをめぐらす。体部外面に「上」の墨書がある。高台に籾殻圧痕。25は土師質で全体に黒斑が認められる。底部に回転糸切痕を有する。合子か。479は白磁椀Ⅳ類。

480は猿投産片口鉢。481は猿投産三筋壺。482、483は猿投産四耳壺で、482は灰白色の精良な胎土を用いている。484は猿投産広口瓶で、破片が多くの遺構から出土している。485は猿投産広口瓶の底部で、かなりの広範囲から破片が出土した。灰釉系陶器椀は椀ＩＡ１が多いが、椀ＩＡ２、椀ＩＡ３も一定量確認される。503は「そう」に続けてさらに２字からなる字句を墨書したもの。511の底部外面の墨書は「上」を丸で囲んだもの。椀Ｂ２とした。516は見込みに「僧」と墨書し、底部外面にも墨書がある。椀ＩＤ１。522は中椀。胎土は椀ＩＤに共通する。523は底部平底の中椀、あるいは灰釉系陶器皿ＩＣで器高が高いもの。17は片口がつく皿。器高がきわめて低い独特な形態。526は白磁椀Ⅴ類または皿類。527は白磁椀Ⅴ－２ａ類か。528は白磁椀Ⅳ類、529はⅣ－１類に分類される。531～581は灰釉系陶器皿で、器高が低いものが多くなる。椀ＩＡ１と椀ＩＤ１に墨書が集中する傾向にある。547は「見」を底部外面に墨書し、体部外面にも文字？をめぐらす。548は底部外面に「そう」、体部外面に５～６文字の字句を墨書する。585は土師器皿ＩＤｂ。

上層は、灰釉系陶器椀は椀Ⅱ（593～598）が主体、これに龍泉窯系青磁椀Ⅰ－４類（601、602）が共伴する。

5、Ⅱ期の土器、陶磁器（図版29～34）

Ⅱ期の遺構では、井戸からまとまった量の土器が出土しているので、以下、それらを中心に記述する。

掘立柱建物　603はＳＢ06（97区ＳＫ58）から出土した灰釉系陶器椀ＩＡ3で、柱の根固めとして転用されたもの。破断面には煤が付着する。

97区ＳＤ04・05　97区ＳＤ04から出土する灰釉系陶器椀皿は尾張型と東濃型が混在する。なかでも椀ＩＡ3（615、616）が主体。620、621は椀Ⅲ1、明和窯式。623は常滑産鍋で、常滑窯編年3型式。97区ＳＤ05は椀Ⅱが主体。625、626は尾張第6型式。627は土師器皿Ⅱ1。628は瀬戸産片口鉢、尾張第6型式。

97区ＳＥ03　灰釉系陶器椀皿は尾張型と東濃型が破片数、口縁部計測とも拮抗した値を示している。なお、上層で出土した灰釉系陶器皿の集積（5～19）が、口縁部計測の点数（尾張型皿155点、東濃型皿106点）に大きく反映されている。破片数では土師器鍋の比率が15%と高くなっている。資料は下、中、上層に区分されるが、いずれも尾張第7型式（明和窯式）が主体で、若干、前後の型式を含み込んでいる。656、668はいずれも明和窯式に対比したが、全体に丸みをもち、底部も突出気味で、やや形態が独特。ともに底部外面に「わか免（め）」、あるいは「わかは（者）」と墨書する。668は底部外面、底（体）部内面にも墨書するが、文字かどうかも釈然としない。670は常滑産甕、3型式、672も常滑産甕で5型式。671は猿投産三（四）耳壺で、胎土は白色できめ細かい。混入資料であろう。

97区ＳＥ02　灰釉系陶器椀の比率は東濃型が尾張型を凌ぐ。ＳＥ02では土師器鍋の比率が破片数で27%、口縁部計測で6%と他の遺構より高い。ほぼ一個体復元された羽釜は（706）、焼成前に2孔（一対）とその対面に1孔が穿たれる。東濃型椀はやや器高が低くなったもので、明和～大畑大洞古窯式に対比される。703は土師器皿Ⅱ2、704は土師器皿Ⅱ3。

96区ＳＥ05　灰釉系陶器椀皿に占める東濃型の比率はより一層高くなる。大畑大洞古窯式が主体。711

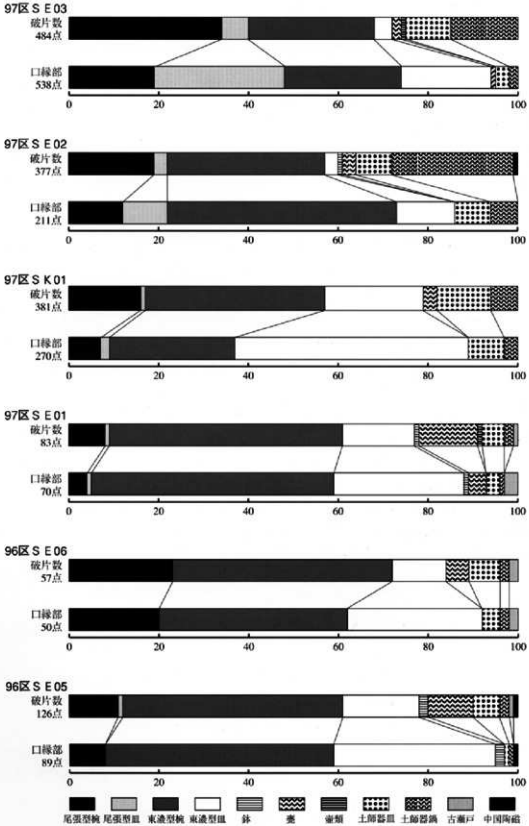
96区ＳＥ06　は瀬戸産片口鉢、尾張第6型式。

96区ＳＥ05と同様に灰釉系陶器椀皿は東濃型の比率が高く、大畑大洞古窯式を主体とする。723は古瀬戸四耳壺で、口縁部を折り返して玉縁状にする。前Ⅰb期。

97区ＳＫ01　東濃型灰釉系陶器皿が破片数で22%、口縁部計測で52%を占める。中下層、上層に区分されるが、いずれも灰釉系陶器椀皿は大畑大洞古窯式が主体。733は土師器皿Ⅱ3類。

97区ＳＥ01　尾張型の灰釉系陶器椀は1割にも満たなくなり、東濃型がそのほとんどを占めるようになる。749は器高が低く底径も小さい灰釉系陶器椀ⅢＡで、大畑大洞新窯式。753は古瀬戸水注の口縁部で、前Ⅲ～前Ⅳ期。754は常滑産小型甕で常滑窯編年6b型式。

97区ＳＫ02　灰釉系陶器椀皿は大畑大洞古窯式が主体。763は前Ⅱ期の古瀬戸四耳壺。765は龍泉窯系青磁椀Ⅰ-5b類。766は常滑産片口鉢、常滑窯編年6b型式、768は常滑産甕で、常滑窯編年6a型式。



第33図　土器組成グラフ（II期）

6、Ⅲ期の土器、陶磁器、包含層（図版35～40）

96区ＮＲ01

集計は自然流路96区ＮＲ01とその下層で検出された溝、96区ＮＲ01下層南溝、96区ＮＲ01下層北溝を合わせて行った。土師器皿の比率が破片数、口縁部計測とも15%前後と高く、古瀬戸の比率も破片数で７%、口縁部計測で４%に達する。

下層北溝

灰釉系陶器椀皿は尾張型のみで、769が椀ＩＡ２、770が皿ＩＡ２、771が椀ＩＤ２。772は猿投産片口鉢。底部外面には墨痕が顕著で、摩耗も著しい。転用硯であろう。774は古瀬戸小天目、後Ⅲ～後Ⅳ期古。

下層南溝

灰釉系陶器椀は椀Ⅰ（775、776）、椀Ⅱ（777、778）、椀Ⅲ（779～794）が混在。794は体部が偏平な椀ⅢＢで、大洞東窯式。786～789は土師器皿Ⅱ３類。799は古瀬戸花瓶で中Ⅰ～中Ⅱ期。801は常滑産甕で、常滑窯編年６ａ型式。

97区ＮＲ01

集計は97区ＮＲ01と、その下層で検出された溝97区ＳＤ18、97区ＳＤ16、土坑97区ＳＫ100を合わせて行った。土師器皿の比率、古瀬戸の比率がなお一層高くなっている。

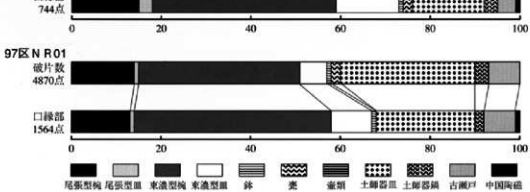
ＮＲ01
灰色粘土層

灰釉系陶器椀皿は各型式が混在。皿形態の灰釉系陶器椀（866、867）まで確認できる。土師器皿も多くの型式が混在し、872が土師器皿Ⅱ１類、871が土師器皿Ⅱ３類、873、874が土師器皿Ⅱ４類となる。868は白磁椀Ⅳ類、869は白磁椀Ⅳ－１類。870は口縁部の釉をかきとった白磁皿。876は土師器内耳鍋。877は常滑甕で、常滑窯編年10型式。

878～896は古瀬戸製品。878は前Ⅲ～前Ⅳ期の瓶子。879は内面にも施釉する中期の卸皿。880は天目茶椀で口縁部が鋭利、中Ⅲ期。881は平椀で中Ⅲ～中Ⅳ期。884は内耳鍋、後Ⅰ～後Ⅱ期。890～893は折縁深皿。後Ⅲ～後Ⅳ期までのもの。894、895は古瀬戸後Ⅳ期の擂鉢。896は種で後Ⅳ期。897、898は瓦器火鉢。899は瓦。摩耗が著しく、調整は不明瞭。古代に帰属するものと考えられる。

包含層

その他、包含層から出土した資料は、墨書陶器（908、909、914～930）を中心に図示した。931～933は白磁。934～940は青磁。941は陶製経筒。945は猿投産合子。胎土は白色できめ細かい。



第34図　土器組成グラフ（Ⅲ期）

7、椀皿の使用痕跡（第35図）

分析方法

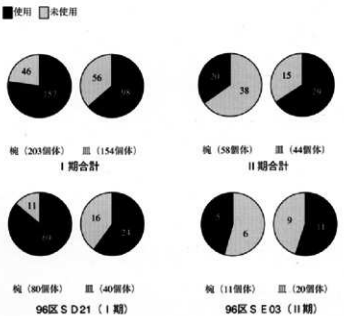
灰釉系陶器椀皿の見込み部分の摩耗の度合いについて観察し、その結果をⅠ期とⅡ期に分けて集計した。集計には、遺物の残存率が高いものを対象とすることが望ましいと考え、灰釉系陶器椀は口縁部から底部までが残存するものと、底部が一分の一残存するもの、灰釉系陶器皿は口縁部から底部まで残存しかつ、底部が二分の一以上残存するものを対象とした。抽出された灰釉系陶器はⅠ期の椀が203個体、Ⅰ期の皿が154個体、Ⅱ期の椀が58個体、Ⅱ期の皿が44個体である。なお、比較として個体数が多いⅠ期の遺構96区ＳＤ21と、Ⅱ期の遺構97区ＳＥ03についても同様の集計を行った。96区ＳＤ21は椀80個体、皿40個体、97区ＳＥ03は椀11個体、皿20個体である。

分析結果

Ⅰ期においては椀皿ともに摩耗が顕著なものが多く、椀では77%、皿では64%の個体に顕著な摩耗が認められた。ここでは結果を提示していないが、96区ＳＫ18を含め、大量の一括廃棄資料においては摩耗が顕著なものが多く、未使用品を廃棄したようすはみられない。96区ＳＤ21では、椀は9個近くに摩耗が認められた。全体を通じて、皿より椀が摩耗の頻度は高いように思われる。

Ⅱ期はⅠ期と対照的で、椀には摩耗の度合いが少なく、逆に皿に摩耗が認められる場合が多い。一方、97区ＳＥ03では椀、皿とも使用、未使用の割合が相半ばする。

13世紀から14世紀にかけて下津北山遺跡をはじめ、その周辺の尾張地域の中世集落では、消費される灰釉系陶器椀皿は尾張型から東濃型に転換する。Ⅱ期の遺構では灰釉系陶器皿の比率がⅠ期よりも相対的に高い傾向にあることを勘案すると、灰釉系陶器椀皿の使用形態がⅠ期からⅡ期の変遷にともなって変化している可能性も考えられる。



第35図　椀皿の使用痕跡グラフ

（2）土製品

1、緑釉円塔（図版41）

名称

96区ＳＤ21から緑釉を施した土錘頭形の土製品が1点出土した。この土製品は「圓塔」、「土製円塔」、「(緑釉）土塔」、「円塔型泥塔」、「緑釉円塔」とさまざまな名称で呼称され、「白河法皇八幡一切経供養願文」（『続本朝文粋』）にみえる「圓塔」に擬されるが（西田 1925）、その確証はない。その形態は、スツーパから「寶塔の九輪と傘とが失われ」（石田 1927）、基壇と覆鉢から構成されたものと考えられている。

ここでは、複雑な系譜をもつ泥塔のなかで、半球形の塔身、あるいは緑釉を施した泥塔は他に例をみない、という意味合いから「緑釉円塔」という名称を用い、基壇を鍔、覆鉢を塔身と呼びかえて報告する。

特徴

緑釉円塔は、鍔の周囲が二分の一近く欠失するものの、その全形を知ることができる。法量は径6.1㎝、高さ2.4㎝、塔身部の径4.2㎝、鍔の厚さ0.5㎝を測る。鍔の底面を除く全面にはやや濃緑色の緑釉が施される。成形は型づくりによるもので、塔身の表面には皺状の線と、細かい布目が観察される。表面には他に気泡の痕跡のようなあばた状の窪みが点々とみられる。素地は砂粒をまったく含まない精良な胎土で、色調は淡黄色である。墨書は見られない。

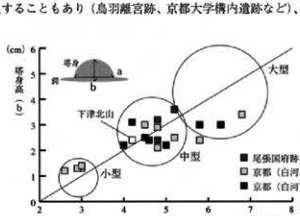
分布

緑釉円塔は、20遺跡前後において50点以上の出土が知られている（第23表）。分布は京都府と愛知県にほぼ限定され、六勝寺、鳥羽離宮、尾張国府跡では複数の出土が報告されている。なかでも六勝寺を含めた白河の地での出土が半数近くを占めている。

製作技法

緑釉円塔の多くは塔身の外面に残る皺や布目から、型づくり成形によって製作されたと考えられるが、鍔の底面に回転糸切痕が観察されるものもあることから、ロクロを用いて製作されることもあったようである。また、無釉のものも数点報告されている。

緑釉円塔の塔身の径と塔身の高さを比較すると（第36図）、大きさからは小型（径3㎝前後）、中型（径4～5㎝前後）、大型（径5.5㎝以上）に区分され、塔身の形態からは偏平型（径と高さの比が0.75以下）と山高型（径と高さの比が0.75以下）に区分される。この比較から型づくりの場合、複数の笵形があったことは間違いなく、京都では形態が近似する複数の個体が同一の地点で出土することもあり（鳥羽離宮跡、京都大学構内遺跡など）、泥塔の製作環境を知るうえで興味深い。



第36図　緑釉円塔の法量の比較

文献

石田茂作 1927「土塔について」『考古学雑誌』第17巻第6号

西田直二郎 1925「法勝寺遺址」『京都府史蹟勝地調査会報告 第6冊』京都府

2、陶硯（図版41）

陶硯3点（風字硯1点、方形硯2点）は、いずれも96区ＳＫ18から出土した。3点ともほぼ完形。これらに伴出する遺物は豊富で、年代の特定が容易であることから、その資料的価値は高い。共伴する灰釉系陶器椀皿の型式は猿投窯編年Ⅶ期第3型式である。なお、硯各部の名称や用語は、山中編1983、石井1985に従った。

方形硯（長方硯）

951は下層、952は中層から出土した。なお951は、97区ＳＤ08上層から出土した海の一部分と接合した。

951は長13.3㎝、幅9.0㎝、厚さ2.5㎝を測る。平面形は整った長方形、側面は台形。各面ともヘラケズリによる成形・調整によって平滑に仕上げられ、硯尻裏面中央は「凹状」に切削することで、堤状の脚（硯尻の幅0.9㎝）としている。陸の両側縁は断面Ｖ字の沈線（幅0.8㎝前後）によって、幅0.6㎝の堤を作り出すが、硯尻には縁を設けていない。平面Ｕ字形をなす陸には、傾斜がほとんど認められない。海の頭部はやや彎曲し、堤の頂点と繋がる頂辺は幅0.6㎝にわたってわずかに隆起する。硯面は使用による摩耗が顕著で、陸には光沢も認められる。黄灰色～灰褐色の色調を呈し、微細な白色の砂粒をやや多く含む。瓦質に近い焼成で、重厚な印象をも与える。猿投産。

なお、951は全体に二次焼成を受け、破断面にも煤が付着することから、硯が破損した後に被熱したことが分かる。

952は長9.2㎝、幅6.2㎝、厚さ1.3㎝を測るやや小型の方形硯である。平面形、側面形とも整った長方形。全面にヘラケズリ成形・調整が施される。裏面は平坦で、脚は設けられない。陸の側縁と硯尻には切削によって堤が設けられる。堤と海に向かって傾斜をもたせることで、楕円形の陸としており、海と陸の境は明瞭でない。硯面全体には墨痕が残る。黄色味がかった灰白色の色調で、砂粒の少ない精良な胎土を用いている。焼成はややあまい。猿投産。

風字硯

953は中層からの出土で、長12.8㎝、幅8.3㎝、厚さ2.8㎝を測る。硯頭部に丸みの少ない平頭風字硯で、側辺はほぼ平行。硯尻がもっとも高く陸が海に向かって傾斜し、海と陸の境には堤が設けられない（無堤式）。全面がヘラケズリ調整によって整えられるが、やや雑である。陸裏面周縁に堤状脚が2脚、縦方向に貼付けられる。脚はやや雑に指で整えられるのみで、硯の安定もやや悪い。硯尻裏面中央は、横方向にヘラケズリを施すことによってわずかに窪ませている。硯面は使用による摩耗が顕著で、光沢も認められる。灰褐色の色調を呈し、胎土中には細礫がわずかに混入する。堅緻な焼成で、重厚な印象を受ける。猿投産。

小結

風字硯と方形硯

3点の陶硯は出土状況から、12世紀後半～13世紀初頭にその使用期間が特定される。この時期は、陶硯に代わって石硯が普及する時期に相当し（天野1996）、それと前後してみられる方形硯をめぐっては、風字硯からの移行を想定する見解（石井1980）と、石硯を新たに写して製作したとする見解（植崎1982）とがある。

ここで、下津北山遺跡の風字硯と方形硯に立ち返ってみると、遺跡自体が示す時期幅か

ら長期にわたる保有、伝世を考慮せずともよいと考えられる。中世猿投窯が特殊品として陶硯を生産していたことも勘案するなら、風字硯と方形硯との間に時代的な変化を読み取ることは難しく、方形硯は石硯を写して製作したと考えるのが妥当と思われる。つまり、形態の異なる陶硯が同時期に生産されていた背景には、消費する側の意図が大きくはたらいていたものと理解しておきたい。

しかし、ここで風字硯と方形硯の関連を薄弱とするのは早計に過ぎず、陶硯と石硯の形態的関連と風字硯の影響を示唆する横田賢次郎の指摘（横田 1983）にも耳を傾けておく必要があろう。長方硯（951）にみられる硯尻裏面の堤状の脚、風字硯（953）にみられる硯尻裏面中央の窪みなどの造作に、相互の影響が看取されるからである。

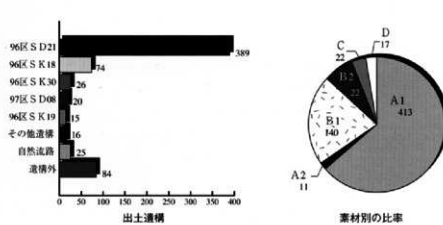
また、下津北山遺跡において陶硯を使用した人物が、墨書陶器から僧侶であったことは疑いない。今後はこれを手がかりに、使用する職能、階層とも関連させつつ硯の流通を追及していくことが重要な課題の一つとなるであろう。

文献
天野秀昭 1996『企画展 古代の硯』斎宮歴史博物館
石井圓孝 1980「日本古代文房具史の一面—陶硯について—」『古代探叢—滝口宏先生古稀記念考古学論集—』
石井圓孝 1985『陶硯』考古学ライブラリー42 ニュー・サイエンス社
楢崎彰一 1982「日本古代の陶硯—とくに分類について—」『日本考古学論考』小林行雄博士古稀記念論文集 平凡社
山中敏史編 1983『陶硯関係文献目録』『埋蔵文化財ニュース』41 奈良国立文化財研究所
横田賢次郎 1983「福岡県内出土の硯について」『九州歴史資料館 研究論集』9 九州歴史資料館

3、加工円盤（図版42～46）

抽出

陶器などを細かく打ち欠いて小石程度の大きさに整えたものをここでは加工円盤と呼称する。加工円盤はその使用状況が明らかでないこともあって、製品と製作段階で生じた陶器片の区別に意味を与えることは難しいものの、加工円盤として抽出するにあたっては、側辺が5辺以上にわたって打ち欠かれていることを目安とした。この目安を用いて抽出された加工円盤は649点を数えた（6.3㎡当りに1点）。その8割以上は遺構からの出土（540点）



第37図 加工円盤グラフ1

で、なかでも方形区画南溝（409点）とＳＢ01近辺の廃棄土坑（114点）が出土遺構のほとんどの97%を占めることは注目される（第37図左）。

下津北山遺跡では、数量が豊富であること、遺構からの出土が多く時期決定が可能であること、近接した時期に集中することなどから、本遺跡での事例の示準化は不可欠であろう。そこで、これらの加工円盤について、観察、分類および法量の計測を行い、その結果を第６～９表に示した。

分類

加工前の材質や器種によってＡ～Ｃに分類する。

Ａ 灰釉系陶器椀皿を使用。

灰釉系陶器椀を使用したものをＡ１、灰釉系陶器皿を使用したものをＡ２に細分。

Ｂ 椀皿を除いた灰釉系陶器を使用。

甕を使用したものをＢ１、壷類（広口瓶、三筋壷その他）を使用したものＢ２に細分。

Ｃ 灰釉系陶器、施釉陶器以外の材質を使用。

Ｄ 施釉陶器（古瀬戸、大窯製品）を使用。

部位によってａ～ｃに分類する。

ａ 椀（鉢）などの高台部を利用したもの。高台をもたない器種（皿、甕）の体～底部を使用したものも含める。

ｂ 高台部を除いた底部を使用したもの。

ｃ 体部を使用したもの。

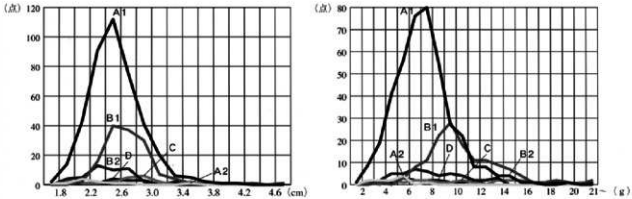
Ａ～Ｄの内訳については、Ａ１が413点（63%）と最も多く、次いでＢ１が140点（22%）、以下、Ｂ２が46点（７%）、Ｃが22点（３%）、Ｄが17点（３%）、Ａ２が11点（２%）となる（第37図右）。Ａ～Ｃがほとんどで（94%）、Ｄは Ⅱ 期以降に限定される。

Ａ１は高台を利用したもの（ａ）がその８割（331点）を占める。高台が剥離したものも確認されるが、剥離が加工前か加工後であるかの区別は容易でない。体部を使用したもの（ｃ）は、その多くが高台近くの器壁の厚い部分を使用している。

Ｂ１については、胎土や質感、体部の押印文から個体が識別されるものが多く、107（97区ＳＤ08・渥美産または猿投産甕）を使用したものは33点、404（96区ＳＫ30・常滑産甕）を使用したものは25点、405（96区ＳＫ30・常滑産甕）を使用したものは14点確認した。

Ｃとした材質、器種には、土師器皿８点、白磁四耳壷１点、白磁椀Ⅷ類１点、瓦（古代？）８点、灰釉陶器長頸瓶（31と同一個体）１点、不明１点がある。また、石を意図的に打ち欠いて、土製の加工円盤と同様に仕上げたもの（1368、1369）も加工円盤Ｃに含めた。

また、加工円盤の側辺が顕著に摩滅しているものも認められ、側辺全体が丸みを有するものも確実に存在するが、意図的な研磨かどうかを客観的に判別する基準を欠いたため、今回は観察項目としてとりあげることはしなかった。ただし、灰釉系陶器椀を使用したＡ１は側辺とともに高台など表裏の摩滅も顕著である一方、甕を利用したＢ１は側辺のみの摩滅に限られる傾向にある。製作時の研磨と使用を前提とした研磨の両者を想定しておく必要があろう。



第38図　加工円盤グラフ2

さらに、二次的な煤の付着が認められる加工円盤も多数存在するが、打ち欠いた側辺に付着したものが多いことからすると、これらは製作されるまでの過程で付着したのではなく、廃棄された前後に被熱した可能性が高い。

法量

加工円盤の大きさ（長軸）と重さの度数分布を示したものが第38図である。A1の大きさは長軸2.5～2.6cmを頂点とし、その前後で数を減じている。また、A1の9割近くが2.1～3.0cmの大きさに製作されていることから、一定の規格が存在したことを予測させる。B1の大きさもA1と同様に長軸2.5～2.6cmを頂点とするが、2.7～2.8cm、2.9～3.0cmの大きさのものもほぼ同数存在する。これは、器壁が厚い甕の体部破片を、椀の高台と同様に細かく打ち欠くことが実際には困難であったことを示すのであろう。

一方、加工円盤の重量では、A1が7.1～8.0gに、B1が9.1～10.0にそれぞれ集中し、それぞれの分布域が相違をみせる。これは、素材の如何にかかわらず、ある一定の大きさ（長軸2.5cm前後）に形を整えることを意識した結果、B1がA1より相対的に重量が大きくなったものとみられる。

分布

なお、B1の大型品（長軸4cm前後）は、その製作をⅡ・Ⅲ期に限定できる。

加工円盤がもっとも集中するグリッドはⅨJ6bで、総数の44%に相当する288点が出土している（第39図）。さらには、ⅨJ6bを中心に方形区画南溝で加工円盤は濃密に分布する一方、北溝・西溝付近では分布が散漫となることから、加工円盤と方形区画そのものとの直接的な関連は薄く、ⅨJ6bへの顕著な集中も廃棄された他の遺物の量に比例したものとみられる。同様に、廃棄土坑96区SK18、96区SK30、96区SK18への遺物の集中と加工円盤の分布が対応する一方で、遺物を埋納した土坑96区SE04、96区SK75、97区SK101近辺にはほとんど加工円盤はみられない。

Ⅱ期の遺構が多く分布する方形区画南溝以南では、井戸の近辺に多く分布する傾向がみられる。

小結

Ⅰ期における加工円盤について、下津北山遺跡での特質として以下の点を指摘し、まとめとしたい。Ⅱ期以降については、形態や出土状況の相違から、遺物そのものを同列に比較することは難しいように思われる。

加工円盤は方形区画南溝や廃棄土坑など、Ⅰ期の遺構からの出土が多数を占めた。これらは他の遺物とともに廃棄されたものとみられ、遺物の出土状況や分布に特異な様相は看取されない。つまり、出土状況は遺物の最終的な状態を示すものにほかならず、分布等から遺物の使用状況を推定することはきわめて困難であることを示している。

加工円盤の製作には、灰釉系陶器椀、灰釉系陶器甕が多く用いられた。これは一定の厚みを有すること、入手が容易であること、大量生産が可能であることなどの条件に、それらが適合するからであろう。また、白磁（水注）や瓦など、さまざまな材質が製作の対象とされた。

加工された陶器を特定できる例があることから、基本的に製作にあたっては、自家消費した陶器を「転用」し、近隣でそれらを打ち欠いていた可能性が高い。製作段階で生じたとみられるチップ状の陶器片が多数出土していることもこれを裏付ける。

加工円盤の大きさと重量を比較した場合、素材とした陶器による制約は大きさよりも重量に反映される。これは、ある一定の大きさの製品を製作しようとする意識がより強く作用したものと考えられる。

遺跡から出土した膨大な量の加工円盤は、遺跡の特殊性を何らか反映させている可能性が高い。遺構で共伴する遺物の内容をも参考とすれば、それらは宗教に関係する遺物とみなしうるであろう。このように推測するなら、加工円盤の用途についても触れておく必要があろうが、ここで知りえた事実からそれに言及することは難しい。ただし、製作後の使用を前提とする以前に、手間をかけて、同規格の製品を、短期間のうちに大量に製作することに人びと向かわしめたその背景を理解することに努めることがまず必要なのではなかろうか。

4、陶丸

陶丸は18点（1290～1307）出土した。すべて包含層、自然流路からの出土である。自然流路の縁辺、中世Ⅱ期の屋敷地に集中して分布し、Ⅱ期の加工円盤の分布とも重複する（第39図）。

法量をみると、径が2.0～2.5㎝のものが多く、加工円盤Aの法量分布と重複するが、重量では8.0ｇから15.0ｇまで安定的に分布する。

5、土錘

土錘は欠失したものも含めて12点（1308～1319）出土した。形態や胎土から、1～6類に分類される。1～6類は、大型品（1～3類）、小型品（4～6類）に大別され、大型品は自然流路を中心に分布する傾向がみられる（第39図）。

		長（cm）	幅（cm）	色調
大型	1類	7.2	2.2	黄灰色
	2類	7.0～8.0	2.4	黄褐色
	3類	5.2	3.0	黄褐色
小型	4類	4.6	1.5	淡赤褐色
	5類	3.7	1.8	灰白色
	6類	3.7	1.2	淡橙色

第5表　土錘分類表

番号	番号	調査区・遺構番号	グリッド	器種	部位	長軸 cm	短軸 cm	厚さ cm	重さ g	備考
1	954	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.2	1.7	8.4	
2	955	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.1	1.6	7.8	
3	956	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	1.7	1.6	6.9	
4	957	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	1.9	1.5	6.5	
5	958	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	2.1	1.6	7.3	
6	959	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.1	1.6	1.7	5.3	
7	960	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.9	1.7	6.9	
8	961	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.9	2.3	1.4	10.1	
9	962	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.0	1.4	6.0	
10	963	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.4	1.2	7.4	
11	964	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	2.1	1.3	7.1	
12	965	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.2	1.5	8.3	
13	966	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	1.8	1.3	6.9	
14	967	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.8	1.3	6.1	
15	968	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	0.9	1.4	6.7	
16	969	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.0	2.4	1.4	10.7	
17	970	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	1.9	2.0	11.8	
18	971	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.0	2.0	1.4	8.6	
19	972	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.9	1.7	7.6	
20	973	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	2.0	1.5	7.8	
21	974	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.1	1.5	9.7	
22	975	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.2	1.9	1.6	5.5	
23	976	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.2	2.0	1.5	7.0	
24	977	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.7	1.1	4.7	
25	978	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.0	2.5	1.8	13.7	
26	979	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.8	2.4	1.5	9.0	
27	980	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.1	2.5	1.4	12.2	
28	981	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.8	2.2	1.3	9.5	
29	982	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.1	1.3	8.4	
30	983	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.9	2.1	1.4	8.7	
31	984	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.3	1.3	8.5	
32	985	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.1	1.1	6.4	
33	986	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.0	1.3	8.1	
34	987	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.1	1.3	7.4	
35	988	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.0	1.4	8.5	
36	989	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.2	1.3	6.2	
37	990	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.3	1.7	9.8	
38	991	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.0	1.3	6.5	
39	992	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.7	1.3	6.2	
40	993	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.1	1.2	7.0	
41	994	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.2	1.4	9.5	
42	995	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.9	2.4	1.3	10.1	
43	996	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.1	1.7	10.3	
44	997	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.0	1.4	7.2	
45	998	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.1	2.5	1.5	13.0	
46	999	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.1	1.2	7.9	
47	1000	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.9	1.2	6.2	
48	1001	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.5	1.5	6.2	
49	1002	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.2	1.8	1.3	4.4	
50	1003	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.8	1.6	7.1	
51	1004	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.5	1.6	6.7	
52	1005	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.9	1.6	7.2	
53	1006	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.9	2.2	1.4	8.8	
54	1007	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.1	1.4	8.0	
55	1008	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.8	1.4	5.7	
56	1009	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.2	1.6	9.1	
57	1010	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.8	1.4	6.9	
58	1011	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.1	1.5	8.3	
59	1013	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.8	2.1	1.3	8.4	
60	1012	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.2	2.3	1.6	13.4	
61	1014	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.6	2.9	1.3	14.7	
62	1015	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.7	1.5	5.7	
63	1034	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.6	1.8	1.0	4.8	
64	1016	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	1.9	1.6	1.1*	4.6*	
65	1017	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	2.0	1.1*	5.9*	
66	1018	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.9	1.2	6.3	
67	1019	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.2	1.0*	7.1*	
68	1020	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.9	1.2*	6.9*	
69		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.9	0.9*	5.3*	
70	1021	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.9	1.8	8.0	
71		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.1	1.7	8.0	
72		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.8	1.7	7.5	
73		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.1	1.8	1.2	4.3	
74		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.9	1.4	6.3	
75		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.9	2.6	1.2*	10.2*	
76		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.1	1.3	7.2	
77		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	1.8	1.3	8.1	
78		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.2	1.3	7.2	
79		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.8	2.8	1.5	15.4	
80		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.3	1.3	8.6	
81		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.9	2.2	1.6	10.0	
82		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.0	1.4	7.9	
83		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.6	1.5	5.4	
84		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	2.0	1.2*	6.8*	
85		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.9	1.1	5.5	
86		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.7	1.5	7.0	
87		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.8	2.4	1.4	9.6	
88		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.1	1.5	8.0	
89		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.1	1.2	7.1	
90		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.0	1.7	1.6	5.4	
91		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	1.6	1.5	6.7	
92		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.0	1.7	1.3	5.2	
93		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.1	1.8	1.6	5.9	
94		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.5	1.3	5.4	
95		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.0	1.4	6.9	
96		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.9	2.4	1.4	10.4	
97		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.2	1.6	10.3	
98		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.3	2.3	1.4	11.3	
99		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.5	1.4	12.0	
100		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.2	1.2	8.3	
101		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.0	1.5	8.4	
102		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.1	2.8	1.6	14.9	
103		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.5	1.4	6.1	
104		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.2	1.6	1.5	5.7	
105		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.8	1.3	6.9	
106		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.7	1.5	7.1	
107		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.2	1.4	8.5	
108		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.0	1.6	10.2	
109		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.1	1.1*	7.9*	
110		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.0	1.7	1.0*	3.5*	
111	1024	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.7	2.2	0.8	5.9	
112	1025	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.2	1.8	1.1	6.2	
113	1026	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.3	2.1	1.1	6.4	
114	1027	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.7	2.3	1.2	7.5	
115	1028	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.5	1.9	1.0	5.5	
116	1029	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.4	1.8	1.1	6.1	
117	1030	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.6	2.2	1.1	7.0	
118	1031	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.6	2.2	0.8	5.4	
119	1037	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.1	1.8	0.4	2.0	
120	1038	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.2	2.0	0.5	2.7	
121	1039	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.7	2.3	0.8	6.6	
122	1035	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.3	2.0	1.0	5.1	
123	1036	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.5	2.1	1.3	6.3	
124	1022	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.6	2.1	1.2	7.0	
125	1040	96 SD21	ⅨJ 6b	A2	a	2.2	1.9	0.8	4.6	墨書
126	1041	96 SD21	ⅨJ 6b	A2	a	2.4	2.0	0.9	5.4	
127	1042	96 SD21	ⅨJ 6b	A2	a	1.9	1.5	0.8	2.9	
128		96 SD21	ⅨJ 6b	A2	a	2.2	1.9	0.9	4.3	
129	1023	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.9	1.5	7.3	
130		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.0	1.1*	6.2*	
131	1044	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.1	1.6	1.0	4.1	
132	1045	96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.0	1.5	1.0	4.7	
133	1046	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	3.4	2.7	1.6	18.8	404
134	1047	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	3.0	2.0	1.6	13.3	404
135	1048	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.8	2.3	1.5	11.3	404
136	1049	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	1.9	1.5	9.3	107
137	1050	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	2.2	1.2	7.9	107
138	1051	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.0	1.2	9.2	
139	1052	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.8	2.2	1.5	12.8	107
140	1053	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	1.9	1.4	10.1	107
141	1054	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.3	1.7	1.5	7.6	107
142	1055	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.8	1.7	1.2	7.7	
143	1056	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	2.1	1.1	8.8	107
144	1057	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.4	2.2	1.1	7.3	405
145	1059	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.8	2.3	1.1	10.1	404
146	1058	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.3	1.8	1.3	6.7	
147	1060	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.3	1.4	1.3	6.9	
148	1061	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.2	0.9	7.5	
149	1062	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.3	1.8	1.2	5.8	
150	1063	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	2.0	1.4	8.4	
151	1064	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.7	2.3	1.5	12.9	
152	1065	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	2.2	1.2	9.1	
153	1066	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.2	1.5	10.9	404
154	1067	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.1	1.4	9.4	
155	1068	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.3	2.1	1.5	9.7	
156	1069	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	2.2	1.3	8.8	
157	1070	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.6	1.5	13.3	
158	1071	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.2	1.2	9.3	
159	1072	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.7	2.0	1.2	8.2	
160	1073	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	1.9	1.3	8.8	404
161	1074	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	2.2	1.3	10.0	404
162	1075	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.1	1.4	8.6	404
163	1076	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.5	1.9	1.5	10.1	
164	1077	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.7	2.2	1.0	7.9	405
165	1078	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.6	2.3	1.2	9.2	
166	1079	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.3	2.0	1.0	5.5	
167	1080	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	3.0	2.3	1.6	14.1	107
168	1081	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	3.0	2.4	1.6	14.1	107
169	1082	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.7	2.5	1.2	10.6	404
170	1083	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.7	2.0	1.2	10.0	404
171	1084	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.1	1.6	12.9	
172	1085	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.7	2.4	1.0	8.1	
173	1086	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.3	2.0	1.5	9.4	
174	1087	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	3.2	2.7	1.4	14.6	107
175	1088	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.6	2.3	1.3	10.0	107
176	1089	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.0	1.5	10.0	404
177	1090	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.8	2.2	1.3	12.8	
178	1091	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.8	2.4	1.1	10.6	107
179	1092	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.5	1.4	12.0	
180	1093	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.3	2.0	1.1	7.5	
181	1094	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.7	2.0	1.3	9.3	404
182	1095	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.4	2.2	1.2	8.0	404
183	1096	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.6	2.2	1.2	9.5	
184	1097	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.0	0.9	6.5	405
185	1098	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.2	1.3	7.1	405
186	1099	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.1	1.7	1.0	5.2	
187	1100	96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.1	1.7	0.9	4.5	
188	1101	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	3.1	2.6	1.5	15.5	404
189	1102	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.6	1.8	15.9	107
190	1103	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.6	2.1	1.6	11.4	107
191	1104	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	3.0	2.5	1.5	14.0	107
192	1105	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.6	1.3	12.6	404
193	1106	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	3.0	2.6	1.3	13.6	404
194	1107	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.5	1.3	11.3	404
195	1108	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.8	2.2	1.5	11.7	404
196	1109	96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.2	1.3	9.8	404

第6表　加工円盤計測表1

番号	番号	調査区・遺構番号	グリッド	器種	部位	長軸 cm	短軸 cm	厚さ cm	重さ g	備考
197		96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.5	2.0	1.2	8.7	
198		96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.4	2.1	0.9	6.4	
199	1110	96 SD21	ⅨJ 6b	C	b	2.0	1.7	1.2	4.7	土師器皿
200	1111	96 SD21	ⅨJ 6b	C	c	2.7	2.0	1.0	7.7	灰釉陶器
201		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.7	2.3	1.8	9.9	
202		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.4	2.0	1.5	6.6	
203		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.3	2.1	1.4	9.6	
204		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.0	2.4	1.4	10.3	
205		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.8	2.0	1.5	9.9	
206		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.8	1.8	1.5	8.1	
207		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.5	2.1	1.4	8.2	
208		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.7	1.8	1.4	7.3	
209		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.4	2.1	1.5	8.3	
210		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.5	1.9	1.4	7.2	
211		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.6	2.2	1.6	9.8	
212		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.5	2.0	1.5	8.8	
213		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.7	1.8	1.1	6.4	
214		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.8	2.1	1.2	7.1	
215		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.5	2.3	1.3	7.1	
216		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.1	2.2	1.6	12.8	
217		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.8	2.0	1.3	7.6	
218		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.7	1.9	1.3	7.2	
219		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.6	2.3	1.2	7.8	
220		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.6	2.2	1.5	7.6	
221		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.0	2.3	1.5	10.8	
222		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.6	1.9	1.4	8.4	
223		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.8	2.0	1.3	9.1	
224		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.2	2.2	1.4	13.1	
225		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.0	1.8	1.5	9.2	
226		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.9	2.3	1.5	11.7	
227		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.5	1.9	1.5	7.8	
228		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.2	2.3	1.3	7.4	
229		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.9	2.0	1.5	8.5	
230		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.3	2.0	1.0*	4.9*	
231		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.2	1.8	1.0*	4.2*	
232		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.6	2.0	1.1*	6.7*	
233		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.7	2.1	1.1*	7.5*	
234		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.3	1.7	1.1*	5.2*	
235		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	b	2.3	1.7	1.2	4.8	
236		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.8	2.1	1.5	10.1	404
237		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.6	1.7	1.4	8.3	404
238		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.9	2.5	1.6	13.6	107
239		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.9	2.4	1.5	12.3	107
240		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.7	2.2	1.5	10.5	107
241		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	3.1	2.7	1.5	14.1	404
242		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.4	2.1	1.6	8.9	
243		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.8	2.3	1.4	9.5	
244		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.5	2.0	1.3	8.5	
245		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.9	2.4	1.3	11.1	
246		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.5	2.0	1.1	7.1	405
247		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.5	2.0	1.1	7.0	405
248		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.4	2.1	0.9	6.3	405
249		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.2	1.4	1.0	5.5	405
250		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.1	1.6	0.9	3.5	405
251		96 SD21	ⅨJ 6c	B2	c	2.4	1.9	0.8	5.0	
252		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	1.9	1.7	6.5	
253		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.2	1.7	1.1	4.3	
254		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.3	2.0	1.0	4.0	
255		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.9	1.3	6.1	
256		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.7	2.4	1.4	8.9	
257		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	1.8	1.5	1.4	4.2	
258		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.6	1.2	4.8	
259		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.3	2.6	1.4	12.5	
260		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.9	1.5	8.6	
261		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.9	2.1	1.5	9.9	
262		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	2.2	1.6	9.5	
263		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.8	2.3	1.4	8.5	
264		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.0	1.3	7.2	
265		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.6	1.8	1.5	7.3	
266		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.9	1.0*	5.1*	
267		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.8	1.2*	5.8*	
268		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	2.0	1.3*	5.8*	
269		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	1.7	1.1	5.0	
270		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.1	1.6	1.0	4.0	
271		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.1	1.7	1.0	4.3	
272		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.5	2.2	1.8	11.3	
273		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.3	1.8	0.9	5.1	
274		96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.7	2.2	1.3	9.3	
275		96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.8	1.9	1.2	8.1	
276		96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.9	2.6	1.5	14.5	107
277		96 SD21	ⅨJ 6b	B1	c	2.8	1.9	1.6	10.2	107
278		96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.2	1.8	1.0	4.8	
279		96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.4	2.3	1.8	11.0	
280		96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.2	2.0	1.7	8.5	
281		96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.7	2.2	1.7	11.8	
282		96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.8	2.2	1.6	12.7	
283		96 SD21	ⅨJ 6b	B2	c	2.6	2.3	1.7	13.1	
284		96 SD21		A1	a	2.5	2.1	1.3	7.6	
285		96 SD21		A1	a	2.6	2.1	1.3	7.8	
286		96 SD21		A1	a	2.5	2.0	1.3	6.9	
287		96 SD21		A1	a	2.5	2.0	1.4	7.4	
288		96 SD21		A1	a	2.7	2.1	1.3	7.6	
289		96 SD21		A1	a	3.2	2.1	1.5	9.9	
290		96 SD21		A1	a	2.9	2.4	1.3	8.7	
291		96 SD21		A1	a	2.7	2.2	1.3	8.1	
292		96 SD21		A1	a	2.5	1.7	1.6	6.9	
293		96 SD21		A1	a	2.7	1.9	1.2	7.1	
294		96 SD21		A1	a	2.4	1.9	1.5	7.2	
295		96 SD21		A1	a	2.2	1.9	1.2	5.2	
296		96 SD21		A1	a	2.6	1.9	1.3	7.2	
297		96 SD21		A	a	2.7	2.1	1.6	10.1	
298		96 SD21		B2	a	2.7	2.1	1.2*	9.1*	
299		96 SD21		A1	b	2.3	2.0	0.9	4.6	
300		96 SD21		A1	b	2.0	1.4	0.9	3.4	
301		96 SD21		A1	b	2.4	1.6	0.9	4.8	
302		96 SD21		A1	c	2.9	2.0	0.8	5.6	
303		96 SD21		A1	c	2.8	2.1	0.8	4.9	
304		96 SD21		A1	c	2.8	2.3	0.6	4.4	
305		96 SD21		A1	c	2.2	1.6	0.8	2.9	
306		96 SD21		B1	c	2.9	2.7	1.5	15.1	
307		96 SD21		B1	c	2.4	2.2	1.5	9.0	
308		96 SD21		B1	c	2.5	2.1	1.6	9.8	
309		96 SD21		B2	c	2.2	2.0	1.3	8.2	
310		96 SD21		B1	c	2.5	2.0	1.2	9.3	
311		96 SD21		B2	c	2.4	2.1	1.2	8.4	
312		96 SD21		B2	c	2.7	2.0	1.2	7.9	
313		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.1	1.9	1.4	6.4	
314		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.4	2.1	1.6	8.7	
315		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.4	2.0	1.6	7.1	
316		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.0	2.6	1.6	12.5	
317		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.2	2.7	1.3	10.2	
318		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	3.1	2.4	1.4	10.7	
319		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.8	2.1	1.4	7.9	
320		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.6	2.3	1.2	7.6	
321		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.2	1.8	1.6	5.9	
322		96 SD21	ⅨJ 6c	A2	a	2.7	1.9	0.8	5.4	
323		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.4	2.1	1.6	10.1	
324		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.5	1.8	1.3	7.8	
325		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.5	2.1	1.1	7.8	107
326		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.3	2.1	1.3	9.2	
327		96 SD21	ⅨJ 6c	B2	c	2.3	2.1	1.0	6.5	
328		96 SD21	ⅨJ 7b	A1	a	2.4	1.9	1.5	7.7	
329		96 SD21	ⅨJ 7b	A1	a	2.5	2.2	1.5	8.2	
330		96 SD21	ⅨJ 7b	A1	a	2.1	1.7	1.5	6.2	
331		96 SD21	ⅨJ 7b	A1	a	2.7	1.8	1.4	7.3	
332		96 SD21	ⅨJ 7b	A1	a	2.2	1.5	1.5	4.9	
333		96 SD21	ⅨJ 7b	A1	c	2.7	2.4	1.1	7.0	
334		96 SD21	ⅨJ 7b	B1	c	2.9	2.6	1.6	14.9	107
335		96 SD21	ⅨJ 7b	B1	c	2.7	2.0	1.4	9.4	107
336		96 SD21	ⅨJ 7b	B2	b	2.6	2.3	1.5	11.0	
337		96 SD21	ⅨJ 7b	B2	c	2.7	2.1	0.7	5.1	
338	1368	96 SD21	ⅨJ 7b	C		2.5	2.2	1.2	6.1	石製
339		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	3.2	2.0	1.3	8.5	
340		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.5	1.9	1.3	5.7	
341		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.4	1.7	1.1	4.9	
342		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.3	1.9	1.3	5.6	
343		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.4	1.8	0.8	3.2	
344		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.6	2.0	0.8	5.1	
345		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.6	2.2	0.8	4.2	
346		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.3	1.8	0.6	2.6	
347		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	1.9	1.6	0.7	2.3	
348		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.4	1.5	1.1	5.3	
349		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.6	2.0	1.1	5.3	
350		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	b	2.4	1.7	1.1	6.3	
351		96 SD21	ⅨJ 7c	A1	a	3.9	2.9	1.2	14.8	
352		96 SD21	ⅨJ 7c	A1	a	2.5	2.0	1.1	5.0	
353		96 SD21	ⅨJ 7c	A1	a	2.4	1.6	1.2	5.6	
354		96 SD21	ⅨJ 7c	A1	a	2.3	1.5	1.0	4.4	
355		96 SD21	ⅨJ 7c	A1	a	2.8	1.7	1.3	6.7	
356		96 SD21	ⅨJ 7c	B1	c	2.6	1.9	1.2	6.7	
357		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.1	1.5	1.5	5.3	
358		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	a	2.4	1.6	1.4	5.5	
359		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	3.4	2.3	1.2	7.2	
360		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.0	1.7	1.0	3.3	
361	1043	96 SD21	ⅨJ 6b	A2	a	3.5	2.3	0.9	7.8	墨書
362		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.2	1.6	0.8	3.3	
363		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.1	1.8	0.5	2.4	
364		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.1	1.8	0.9	3.3	
365		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.2	1.7	0.9	3.4	
366		96 SD21	ⅨJ 6d	A1	a	3.0	2.2	1.2	7.8	
367		96 SD21	ⅨJ 6d	C	b	3.0	2.7	0.8	7.1	土師器皿
368		96 SD21	ⅨJ 6d	A2	a	2.2	1.8	0.8	4.0	
369		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.2	1.9	0.5	2.7	
370		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.8	2.3	0.5	3.4	
371		96 SD21	ⅨJ 7a	A2	a	2.2	1.7	1.0	3.6	
372		96 SD21	ⅨJ 6d	B1	c	2.6	2.2	1.2	9.6	
373		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.5	1.8	1.6	7.2	
374		96 SD21	ⅨJ 6c	A1	a	2.0	1.7	1.0*	3.4*	
375		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.5	1.9	0.9	4.4	
376		96 SD21	ⅨJ 6b	A1	c	2.3	1.7	0.5	2.6	
377		96 SD21	ⅨJ 6b	C		3.2	2.2	1.2	8.3	土師器皿
378	1033	96 SD21	ⅨJ 6b	A2?	b	2.4	2.2	0.8	5.8	墨書
379		96 SD21	ⅨJ 6d	B1	b	2.4	1.7	2.0	11.1	
380		96 SD21	ⅨJ 6d	A1	a	2.5	2.1	1.5	8.5	
381		96 SD21	ⅨJ 7a	B2	c	2.7	2.2	0.9	6.7	
382		96 SD21	ⅨJ 7b	A1	c	2.3	1.9	0.7	3.3	
383		96 SD21	ⅨJ 7b	B2	a	2.6	2.2	2.4	13.5	
384		96 SD21	ⅨJ 7c	C	b	1.9	1.7	0.8	2.4	土師器皿
385	1112	96 SD21	ⅨJ 7c	C		2.7	2.4	2.3	13.3	瓦
386	1113	96 SD21	ⅨJ 7c	C		2.6	2.4	2.1	11.9	瓦
387		96 SD21	ⅨJ 6b	C		2.3	1.8	1.3	6.8	不明
388		96 SD21	ⅨJ 6c	B1	c	2.8	2.2	1.4	11.1	404
389	1185	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.5	2.0	1.0*	5.6*	
390	1186	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.8	2.0	1.1*	6.5*	
391	1187	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	3.2	2.3	1.5	11.5	
392	1188	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.6	2.0	1.3	7.1	

第7表　加工円盤計測表2

番号	図版番号	調査区・遺構番号	グリッド	器種	部位	長軸 cm	短軸 cm	厚さ cm	重さ g	備考
393	1189	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.9	2.3	1.6	9.7	
394	1190	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.9	2.5	1.7	15.2	
395	1191	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.4	2.1	1.3*	6.2*	
396	1192	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	3.6	2.8	1.3	13.5	
397	1193	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.9	2.4	1.3	10.7	
398	1194	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.8	2.5	1.3	8.7	
399	1195	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.2	1.9	1.0*	5.0*	
400	1196	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.8	2.3	1.4	11.0	
401	1197	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	3.2	2.6	1.0	10.4	405
402	1198	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	3.2	2.7	1.5	12.9	
403	1199	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.9	2.5	1.6	11.8	
404	1200	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.2	1.9	1.6	6.7	
405	1201	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.4	1.9	1.6	7.2	
406	1202	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.7	2.4	1.1*	7.5*	
407	1203	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	c	2.4	1.9	1.1	5.0	
408	1204	96 SK18	ⅨJ 4a	B2	c	2.4	2.0	1.5	9.4	
409	1205	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.9	2.1	1.2	7.7	
410	1206	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.1	1.5	1.4	5.1	
411	1208	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.5	2.0	1.5	6.8	
412	1207	96 SK18	ⅨJ 4a	C		2.8	2.4	2.0	14.3	瓦
413	1209	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	3.1	2.3	1.4	9.0	
414	1210	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.6	2.1	1.7	10.4	
415	1211	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.3	2.0	1.3	7.8	
416	1212	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.8	2.2	1.3	8.4	
417	1213	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.3	1.9	1.4	6.7	
418	1214	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.8	2.2	1.3	8.9	
419	1215	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.5	1.9	1.4	7.5	
420	1216	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.1	1.6	1.5	6.3	
421	1217	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.4	1.8	1.5	6.0	
422	1218	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.5	1.8	1.3	5.0	
423	1219	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	3.0	2.0	1.0*	8.5*	
424	1220	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.7	2.3	1.4	8.7	
425	1221	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	b	1.7	1.5	1.0	3.0	
426	1222	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	b	2.2	1.7	0.9	3.9	
427	1223	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	b	3.0	2.6	2.0	17.7	
428	1224	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	b	2.9	2.0	1.9	12.3	
429	1225	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.9	2.3	1.2	10.2	
430	1226	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.8	2.4	1.1	10.0	
431	1227	96 SK18	ⅨJ 4a	B2	c	2.0	1.8	1.0	4.6	
432	1228	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.6	2.1	1.2	8.1	
433	1229	96 SK18	ⅨJ 4a	C		2.9	2.6	2.1	16.9	瓦
434	1230	96 SK18	ⅨJ 4a	C	b	2.9	2.5	1.7	13.9	土師器皿
435	1231	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.5	2.0	1.5	6.4	
436	1232	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	c	2.7	2.1	1.4*	7.5*	
437	1233	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.7	2.5	1.2	10.5	405
438	1235	96 SK18	ⅨJ 4a	C		3.0	2.2	2.1	14.6	瓦
439	1236	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.8	2.4	1.4	8.6	
440	1237	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	3.2	2.2	1.4	10.9	
441	1238	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	3.6	2.0	1.4	6.3	
442	1239	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	b	2.2	1.7	0.9	5.0	
443	1240	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.5	2.0	1.3	8.2	107
444	1241	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.7	2.3	1.7	8.3	
445	1242	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	3.2	2.5	1.3	10.8	
446	1243	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.7	2.2	1.5	9.5	
447	1244	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.2	1.8	1.5	6.0	
448	1245	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	a	2.7	2.0	1.3	6.7	
449	1246	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.5	2.1	1.3	9.8	107
450	1247	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.8	2.0	1.2	9.6	107
451	1248	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.6	2.2	1.2	8.9	
452	1249	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.8	2.3	1.2	9.7	
453	1250	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.9	2.4	1.2	10.4	107
454	1251	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.7	2.2	1.4	9.8	
455	1252	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.4	2.0	1.3	8.9	
456	1253	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	b	2.4	2.2	1.0	7.0	
457	1254	96 SK18	ⅨJ 4a	B1	c	2.3	1.8	1.0	5.2	
458	1255	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	b	2.4	1.9	1.3	6.9	
459	1256	96 SK18	ⅨJ 4a	A1	b	2.8	1.7	1.0	5.5	
460	1170	96 SK19	ⅨJ 4a	A1	a	2.4	1.7	1.5	6.3	
461	1171	96 SK19	ⅨJ 4a	A1	a	2.5	1.7	1.2	5.0	
462	1172	96 SK19	ⅨJ 4a	B1	c	2.5	2.1	1.3	9.4	107
463	1173	96 SK19	ⅨJ 4a	B1	c	2.5	2.0	0.8	5.4	
464	1174	96 SK19	ⅨJ 4a	C	c	2.2	1.9	0.8	5.0	白磁
465	1175	96 SK19	ⅨJ 4a	C	b	2.0	1.7	1.7	5.2	土師器皿
466	1176	96 SK19	ⅨJ 4a	A1	c	3.0	2.5	1.3	8.3	
467	1177	96 SK19	ⅨJ 4a	A1	c	2.4	1.8	1.1	5.0	
468	1178	96 SK19	ⅨJ 4a	B1	c	2.5	1.8	1.1	6.8	107
469	1179	96 SK19	ⅨJ 4a	B1	c	2.9	2.2	1.0	7.5	405
470	1180	96 SK19	ⅨJ 4a	A1	a	3.0	2.4	1.2	9.3	
471	1181	96 SK19	ⅨJ 4a	A1	a	2.0	1.6	1.7	6.3	
472	1182	96 SK19	ⅨJ 4a	A1	a	2.6	2.3	1.5	9.6	
473	1183	96 SK19	ⅨJ 4a	B1	c	2.7	2.6	1.6	11.0	
474		96 SK19	ⅨJ 4a	B1	c	3.4	2.7	1.0	12.0	
475	1144	96 SK30	ⅨJ 3a	B2	c	2.0	1.8	0.8	4.0	
476	1145	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.6	1.9	1.3	6.8	
477	1146	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.6	1.6	1.4	7.0	
478	1147	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.4	2.1	1.4	6.9	
479	1148	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.4	1.7	1.5	7.3	
480	1149	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.6	1.8	1.6	8.4	
481	1150	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.3	1.9	1.6	7.7	
482	1151	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.3	1.8	1.4	6.1	
483	1152	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.3	1.8	1.5	5.7	
484	1153	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	a	2.4	2.0	1.0*	5.4*	
485	1154	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	b	2.4	1.7	0.9	4.9	
486	1155	96 SK30	ⅨJ 3a	A2	a	1.7	1.5	0.9	2.9	
487	1156	96 SK30	ⅨJ 3a	B2	c	2.3	1.8	1.0	6.1	
488	1157	96 SK30	ⅨJ 3a	C	b	2.7	2.2	1.9	10.4	土師器皿
489	1158	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	b	2.6	2.1	1.0	5.8	
490	1159	96 SK30	ⅨJ 3a	A1	b	2.0	1.8	1.0	4.2	
491	1160	96 SK30	ⅨJ 3a	B2	c	2.3	1.8	1.1	5.0	
492	1161	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	c	2.3	1.8	0.5	2.7	
493	1162	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	c	2.4	1.9	0.6	3.1	
494	1163	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	a	2.8	1.9	1.4	7.4	
495	1164	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	c	2.3	2.1	0.9	5.0	
496	1165	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	a	2.7	2.0	1.3	7.1	
497	1166	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	a	2.2	1.9	1.3	5.3	
498	1167	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	a	2.1	1.8	1.2	4.3	
499	1168	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	a	2.3	2.0	1.6	7.4	
500	1169	96 SX02	ⅨJ 3a	A1	c	2.3	1.6	1.0	4.1	
501	1114	96 SD07	Ⅷ115q,r	C		3.0	2.5	2.4	16.0	土師器皿
502	1115	96 SD07	Ⅷ115s	B1	c	2.6	2.2	1.2	9.1	
503	1116	96 SD07	Ⅷ115t	A1	a	2.7	1.8	1.6	8.3	東濃型
504	1117	96 SD07	Ⅷ115t	A1	a	3.0	2.0	1.1	7.0	
505	1118	96 SD07	Ⅷ118r	A1	a	2.9	2.2	1.0	6.2	
506	1119	96 SD07	Ⅷ120r	C		3.1	2.5	2.4	20.2	瓦
507	1143	96 SD19	ⅨI 1s	B1	c	2.8	2.4	1.2	10.9	404
508	1141	96 SD22	ⅨJ 3b	A1	a	2.3	2.0	1.4	8.1	
509	1140	96 SE04	ⅨJ 2,3e	A1	a	2.6	1.7	1.5	7.9	
510	1142	96 SK177	ⅨJ 3a	A1	a	3.1	2.3	1.5	10.4	
511	1259	96 SX04P.3	ⅨJ 6b	B2	c	2.0	1.6	0.9	4.0	
512	1265	96 NR01	Ⅷ1 9p	B1	c	3.2	2.9	1.1	12.8	
513	1275	96 NR01	Ⅷ1 9s	D	c	2.7	2.3	0.6	5.3	
514	1266	96 NR01	Ⅷ1 9t	A1	a	3.4	2.8	1.1*	12.3*	
515	1267	96 NR01	Ⅷ110q	B1	c	3.0	2.7	1.5	13.7	
516	1268	96 NR01	Ⅷ110r	A1	b	2.2	1.7	1.8	7.3	
517	1269	96 NR01		A1	a	2.6	1.9	1.3	6.5	
518		96 検出 I	Ⅷ112q	A1	a	2.9	2.3	1.7	10.4	
519		96 検出 I	Ⅷ112r	B2	c	2.9	2.0	1.1	8.6	
520		96 検出 I	Ⅷ116q	B2	c	2.6	2.0	1.1	7.6	
521		96 検出 I	Ⅷ116r	B1	c	3.2	2.5	1.3	13.1	
522		96 検出 I	Ⅷ116r	A1	a	2.6	2.2	1.5	8.3	
523		96 検出 I	Ⅷ116t	A1	c	2.5	2.2	0.6	3.8	
524		96 検出 I	Ⅷ118t	A1	a	3.0	2.0	1.0*	8.5*	
525		96 検出 I	Ⅷ119t	A1	a	2.5	2.2	10.4	9.0	
526		96 検出 I	Ⅷ120s	A1	a	3.0	1.8	1.4	7.3	
527		96 検出 I	Ⅷ120t	B1	c	3.1	2.6	1.3	14.1	
528		96 検出 I	ⅨI 1t	A1	a	2.6	2.2	1.0*	5.8*	
529		96 検出 I	ⅨI 1t	A1	a	2.9	2.4	1.4	8.9	
530		96 検出 I	ⅨI 2s	A1	a	2.4	2.0	1.2	6.0	
531		96 検出 I	ⅨI 2t	A1	a	2.6	1.8	1.2*	5.9*	
532		96 検出 I	ⅨI 2t	A1	a	2.2	1.6	1.5	4.4	
533		96 検出 I	ⅨI 2t	A1	a	2.6	1.9	1.2*	6.7*	
534		96 検出 I		A1	b	2.8	2.1	1.0	6.3	
535		96 検出 I		B2	c	2.4	2.1	1.4	8.0	
536		96 検出 I		B1	c	2.8	2.2	1.8	13.2	107
537		96 検出 I		B1	c	2.6	2.2	1.3	9.8	107
538		96 検出 I		A1	a	1.9	1.7	1.4	4.4	
539		96 検出 I		A1	a	2.2	1.8	1.3	5.2	
540		96 検出 I		A1	a	2.7	1.9	1.1	5.8	東濃型
541		96 検出 I	ⅨJ 1a	B1	c	2.5	1.9	1.1	6.6	405
542		96 検出 I		A1	a	3.0	2.4	1.4	10.2	
543		96 検出 I		A1	b	2.8	2.4	1.0	7.4	
544		96 検出 I	ⅨJ 3a	A1	a	2.4	1.9	1.2	6.7	
545		96 検出 I	ⅨJ 3a,b	A1	a	2.8	2.3	1.2	7.9	
546		96 検出 I	ⅨJ 3b	B2	c	2.6	2.1	1.0	6.6	
547		96 検出 I	ⅨJ 4a	A1	a	2.9	2.4	1.4	9.8	
548		96 検出 I	ⅨJ 4a	A1	a	2.2	1.8	1.1	5.5	
549		96 検出 I	ⅨJ 4a	A1	a	2.4	2.2	1.1	6.8	
550		96 検出 I	ⅨJ 4a	A1	b	2.4	1.8	1.0	5.3	
551		96 検出 I	ⅨJ 4a	B2	c	4.4*	3.1*	1.6	24.6*	
552		96 検出 I	ⅨJ 4b	A1	a	2.5	1.8	1.3	6.1	
553		96 検出 I	ⅨJ 5a	A1	a	2.2	1.9	1.0*	4.0*	
554		96 検出 I	ⅨJ 5b	A1	a	2.5	2.1	1.1	7.3	
555		96 検出 I	ⅨJ 5b	A1	a	2.6	2.1	1.9	10.6	
556	1369	96 検出 I	ⅨJ 5c	C		2.7	2.2	1.3	10.5	石製
557		96 検出 I	ⅨJ 5c	A1	a	2.7	2.3	0.9	8.2	
558		96 検出 I	ⅨJ 5c	A1	a	2.3	1.8	1.1	4.4	
559		96 検出 I	ⅨJ 5d	A1	a	2.0	1.9	1.5	5.6	
560		96 検出 I	ⅨJ 6b	B1	c	3.5	2.8	1.5	18.7	
561		96 検出 I	ⅨJ 6b	B2	c	2.6	2.3	1.3	10.7	
562		96 検出 I	ⅨJ 6b	B1	c	2.8	2.5	0.9	8.7	
563		96 検出 I	ⅨJ 6c,d	A1	a	2.1	1.9	1.4	5.7	
564		96 検出 I	ⅨJ 6d	A1	a	2.8	2.0	1.2	7.8	
565		96 検出 I	ⅨJ 6d	B1	c	2.7	2.1	1.3	8.9	
566		96 検出 I		A1	a	3.1	2.6	1.1	8.3	東濃型
567		96 検出 I	ⅨJ 7a	A1	a	2.9	2.4	1.1*	8.0*	
568		96 検出 I	ⅨJ 7a	B1	c	3.0	2.6	1.7	16.7	
569		96 検出 I	ⅨJ 7a,b	A1	a	2.5	2.0	1.3	6.7	
570		96 検出 I	ⅨJ 8a,b	B1	b	2.9	2.2	1.6	12.9	404
571		96 検出 I	ⅨJ 8a,b	B1	c	2.4	2.0	1.5	9.2	107
572		96 検出 I	ⅨJ 8a,b	A1	b	2.5	1.9	1.3	8.0	
573		96 検出 I	ⅨJ 8a,b	B2	c	2.9	2.5	1.6	13.8	
574		96 検出 I	ⅨJ 8b	B1	c	2.8	2.5	1.6	12.5	107
575		96 検出 I	ⅨJ 8b	B2	c	2.8	1.3	1.4	11.9	
576		96 検出 I	ⅨJ 8b	B2	c	2.7	1.9	1.2	6.7	
577		96 南北トレンチ		B1	c	2.8	2.3	1.4	11.1	
578		96 東西トレンチ		A1	a	3.6	2.5	1.4	14.5	
579	1260	97 SE02	ⅨI 8t	C		3.0	2.5	1.8	15.1	瓦
580	1261	97 SE03	ⅨI 8t	C		3.5	3.0	2.9	27.2	瓦
581	1262	97 SE03	ⅨI 8t	A1	c	2.3	1.8	0.9	3.9	東濃型
582	1263	97 SE03	ⅨI 8t	A1	b	2.4	1.9	1.2	6.0	
583	1264	97 SD01	ⅨJ11a	A1	a	3.5	3.0	1.7	16.9	
584	1137	97 SD08	ⅨI 6s	A1	a	3.7	2.7	1.3	11.6	
585	1138	97 SD08	ⅨI 6s	A1	a	3.2	2.3	1.4	12.1	
586	1139	97 SD08	ⅨI 6s	A1	a	2.6	2.0	1.5	7.3	
587	1136	97 SD08	ⅨI 6s	A1	a	2.7	2.4	1.4	9.7	
588	1120	97 SD08	ⅨI 6s	A1	a	2.4	2.0	1.4	6.9	

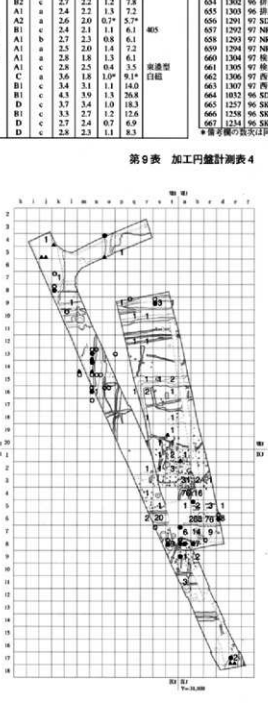
第８表　加工円盤計測表３

番号	図版番号	調査区・遺構番号	グリッド	器種	部位	長軸 cm	短軸 cm	厚さ cm	重さ g	備考
589	1121	97 SD08	II16e	A1	a	2.8	2.3	1.3*	8.7*	
590	1122	97 SD08	II16e	A1	a	2.6	2.1	1.4	8.8	
591	1123	97 SD08	II16e	A1	a	2.9	2.3	1.4	10.6	
592	1124	97 SD08	II16e	A1	a	2.7	1.7	1.5	7.9	
593	1125	97 SD08	II16e	A1	a	2.7	2.1	1.4	6.3	
594	1126	97 SD08	II16e	A1	a	3.0	2.0	1.4	8.9	
595	1127	97 SD08	II16e	A1	a	2.5	1.7	1.2*	5.5*	
596	1128	97 SD08	II16e	A1	a	4.2	3.0	1.7	19.4	
597	1129	97 SD08	II16e	B1	c	2.5	2.1	1.2	8.5	107
598	1130	97 SD08	II16e	B1	c	3.7	2.3	1.3	11.0	
599	1131	97 SD08	II16e	A1	a	3.0	2.3	1.2	8.2	
600	1132	97 SD08	II16e	A1	a	3.1	2.3	1.2	9.6	
601	1133	97 SD08	II16e	B1	c	3.0	2.4	1.4	12.7	
602	1134	97 SD08	II16e	A1	c	2.6	2.1	0.9	5.5	
603	1135	97 SD08	II16e	A1	a	3.1	2.5	1.3	10.8	
604	1270	97 NR01	VII14j	B2	c	2.0	1.7	1.1	5.2	
605	1271	97 NR01	VII15p	A1	a	2.4	2.0	1.5	8.8	
606	1272	97 NR01	VII17k	A1	c	2.6	2.1	0.6	4.3	黒濃型
607	1273	97 NR01	VII19l	A1	a	2.9	2.3	10.5	>10.0	
608	1274	97 NR01	VII16n	A1	a	2.7	1.9	1.3	7.1	
609		97 検出 I	II14r	B1	c	2.8	2.2	1.0	8.9	
610		97 検出 I	II19b	A1	a	2.9	2.5	1.4	9.9	
611		97 検出 I	II17r	A1	a	2.4	1.8	1.7	6.4	
612		97 検出 I	II15s	A1	a	2.9	2.1	1.3*	9.7*	
613		97 検出 I	II16s	A	a	2.5	2.1	1.1*	8.1*	5.4*
614		97 検出 I	II16s	B2	c	2.7	2.2	1.2	7.8	
615		97 検出 I	II19a	A1	a	2.4	2.2	1.3	7.2	
616		97 検出 I	II19b	A2	a	2.6	2.0	0.7*	5.7*	
617		97 検出 I	II31a	B1	c	2.4	2.1	1.1	6.1	405
618		97 検出 I	II31a	A1	b	2.7	2.3	0.8	6.1	
619		97 検出 I	II17e	A1	a	2.5	2.0	1.4	7.2	
620		97 検出 I	II17e	A1	a	2.8	1.8	1.3	6.1	
621		97 表土はぎ		A1	c	2.8	2.5	0.4	3.5	黒濃型
622	1289	96 NR01	VII19s	C	a	3.6	1.8	1.0*	9.1*	白磁
623	1287	96 NR01	VII19s	B1	c	3.4	3.1	1.1	14.0	
624	1288	96 NR01	VII19q	B1	c	4.3	3.9	1.3	26.8	
625		96 検出 I		D	c	3.7	3.4	1.0	18.3	
626		96 検出 I		B1	c	3.3	2.7	1.2	12.6	
627		96 検出 I	II3 6d	D	c	2.7	2.4	0.7	6.9	
628		96 検出 I		D	c	2.8	2.3	1.1	8.3	

番号	図版番号	調査区・遺構番号	グリッド	器種	部位	長軸 cm	短軸 cm	厚さ cm	重さ g	備考
629		96 撹乱		D	b	3.1	2.5	1.1	11.1	
630		96 南北トレンチ		B1	c	2.7	2.4	1.1	8.7	
631		96 調査区南		D	c	1.9	1.6	0.9	3.7	
632	1276	97 NR01	VII15n	D	a	2.7	2.1	1.3	7.3	墨書
633	1277	97 NR01	VII15n	D	c	2.9	2.4	0.7	6.9	
634	1278	97 NR01	VII16n	D	c	3.0	2.0	0.8	5.5	
635	1279	97 NR01	VII16o	B1	c	2.8	2.4	1.3	11.1	
636	1280	97 NR01	VII16o	D	c	3.5	2.9	0.8	9.2	
637	1281	97 NR01	VII10l	D	c	2.5	2.2	0.7	4.9	
638	1282	97 NR01	VII13n	D	c	3.1	2.4	1.0	7.9	
639	1285	97 NR01	VII7k	B1	c	4.8	4.1	1.1	30.3	
640	1283	97 NR01	VII8k	D	c	2.4	2.0	1.0	5.2	
641	1286	97 NR01	VII13n	B1	c	3.8	3.3	1.2	19.6	
642	1284	97 NR01	VII15n	D	c	3.9	3.3	1.4	17.9	
643		97 検出 I	II17s	D	c	3.5	2.9	0.8	10.4	
644		97 西壁トレンチ	VII15m	D	c	3.0	2.2	1.0	8.5	
645		97 西壁トレンチ	VII17n	D	c	3.2	2.5	1.0	11.3	
646	1290	96 NR01	VII19s	陶丸		2.5	2.2		15.0	
647	1295	96 検出 I		陶丸		2.5	2.3	2.2	13.4	
648	1296	96 検出 I		陶丸		2.3	2.1		11.8	
649	1297	96 検出 I	II3 5b,c	陶丸		2.1	1.9		10.0	
650	1298	96 検出 I	II3 6d	陶丸		2.4	2.3		14.3	
651	1299	96 検出 I	II3 7a	陶丸		2.3	2.1		10.6	
652	1300	96 検出 I	II3 8a,b	陶丸		2.3	2.1		14.7	
653	1301	96 検出 I	II3 8a,b	陶丸		2.3	2.2		12.9	
654	1302	96 非土		陶丸		2.2	1.9		10.4	
655	1303	96 非土		陶丸		2.6	2.5		19.7	
656	1291	97 SD16	II14o	陶丸		2.4	2.1		12.4	
657	1292	97 NR01	VII18k	陶丸		2.1	1.6		8.3	
658	1293	97 NR01	VII13n	陶丸		2.1	1.9		9.2	
659	1294	97 NR01	VII14n	陶丸		2.2	2.1		11.1*	
660	1304	97 検出 I	II3 9a	陶丸		2.5	2.3		12.8	
661	1305	97 検出 I	II17e	陶丸		2.1	1.9		9.4	
662	1306	97 西壁トレンチ	VII16o	陶丸		2.2	2.1		10.7	
663	1307	97 西壁トレンチ	II14q	陶丸		2.1	1.9		8.8	
664	1032	96 SD21	II3 6b	A1	b	2.7	2.1	1.3	7.8	墨書
665	1257	96 SK18	II3 4a	A1	a	3.3	2.9	1.5	10.0	
666	1258	96 SK18	II3 4a	A1	b	2.4	1.6	0.9	3.6	
667	1234	96 SK18	II3 4a	A1	a	1.9	1.8	1.5	4.3	

＊傷考欄の数字は同一個体とした陶器の図版番号

第９表　加工円盤計測表４



第39図　土製品の分布

（3）木製品

木製品はすべて遺構または自然流路から出土し、中世にその帰属時期を求められる。

出土した木製品を大まかに分類すると、a．生活用具、b．装身具、c．信仰・呪術具、d．その他、用途不明品となる。Ⅰ期は生活用具と信仰・呪術具に木簡が組成し、Ⅱ期には生活用具、装身具の組み合わせとなる。Ⅲ期はⅡ期の組成に共通する。

1、Ⅰ期（図版47・48）

木簡

97区ＳＤ08下層から出土した。出土時にはすでに複数の木片となって散在していたが、木片Ａ（1320）、木片Ｂ（1321）、木片Ｃ（1322）は出土状況、材質、調整方法から一連の木簡と判断される。樹種はヒノキ。

木簡は外皮に比較的近い部分を薄板状に加工したもので、どの木片も表面には調整が行き届くものの、裏面は未調整に近い状態である。文字が確認されるのは木片Ｂと木片Ｃで、文字は木理に直交して墨書されている。墨書はまったく遺存せず、文字の部分のみ腐食の進行が妨げられたためか、かすかに文字が隆起した状態で確認されるのみとなっている。木片Ｃにはかろうじて朱書き？があるようにも見受けられたが、断定するまでに至らなかった。

木片Ａ、木片Ｂは木簡右側辺の部分に相当し、木片Ｃは木簡左側辺に相当することが確認されるが、これら部材の相互の位置関係については不明。木片Ａは残存幅7.5㎝、残存長6.9㎝、厚さ0.3～0.4㎝、木片Ｂは残存幅12.4、残存長5.0㎝、厚さ0.2～0.5㎝、木片Ｃは残存幅10.1㎝、残存長1.3㎝、厚さ0.3～0.4㎝を測る。

確認できた文字はすべて楷書で書かれたもので、木簡の釈文は図版47下に示したとおりである。字句がきわめて限られることから、木簡に墨書された内容についての言及は容易でないが、可能な限りの推測を試みてみたい。

まず注意されるのは、木理に直交して文字を記すことで、ある程度の幅を必要とする内容が墨書されたと考えられる。このような内容として、目録のようなもの、あるいは儀式の手順、次第を記したものが候補として挙げられるであろうか。木片Ｂの「（□）部奉祈□」、木片Ｃの「（□）部（□）」、という釈文もこれと矛盾するような内容ではない。また、楷書で書かれていることを重くみるなら、あるいは仏典、修法を引いたものである可能性も考えられる。

また、木片Ｂが木簡の左側辺であるとすれば、文の末尾あたりに相当することが予測され、「□重（□）」が人名、「（□）癸ヵ□（□）」は十干十二支による年号を記した可能性もある。

遺跡の性格をも考慮すれば、木簡の内容は、1―ある人物が仏堂に奉納する供物を記した目録、2―あるいは仏堂付近で催される法会、修法の手順を記したもの、と推測される。

96区ＳＤ07下層

96区ＳＤ07下層からは人形（1323）、横槌（1324）、用途不明の棒状品（1324）、箸状木製品（1326）が出土した。方形区画の北西屈曲部から西溝にそれぞれが散在的に分布する。

人形　人形（1323）は立体的に削り出したもので、頭部、頸部と体部からなり、手足の表現はない。全長9.3㎝、頭部は長2.5㎝×幅1.8㎝以上×高2.7㎝、体部は幅2.9㎝×高2.6㎝を測る。ヒノキの割材を削り出して成形している。細部の造作もすべて削り出し、あるいは線刻によっており、墨書きや彩色は認められない。

頭部は表裏を断面二等辺三角形状に削り出し、頸部との境界を直線的に削り落とすことによって、頭部として明確に分かつ。顎は不明瞭、頭頂部はわずかに隆起する。被り物のような表現はみられない。二等辺三角形の頂辺を鼻筋に充て、鼻先は頂辺をわずかに削り落とし、かすかな段差として表現する。両目は1条の刻線で、斜め上方にわずかにつり上げるようにして切れ長の細い目を表現する。両目の上で彎曲する二本の刻線が目尻の下がった眉を表現したものとみられる。口は1条の刻線で、真一文字。耳の表現は残存状況が良好でないため不明確。

体部は上半を菱形、下半を五角形に削り出す。各面の表面は平滑、頂辺は鋭利に仕上げられる。体部と比較して頭部の削り出しは雑、断面も不整形となる。体部より下は断面方形に削り出され、わずかであるが体部との段差も生じている。この部分を軸として、他の部材をソケット状に差し込んだ可能性も考えられる。

横槌　横槌（1324）はヒイラギの一木の割材を使用したもので、全長36.3㎝、敲打部長21.6㎝、柄部長14.7㎝、敲打部径6.0㎝、柄部径4.2㎝を測る。敲打打部と柄部の境界が直角に近く明瞭、細長い形態、渡辺誠氏による分類（渡辺1985）でいうBタイプで、豆打ち用としての用途が与えられる。敲打部、柄部とも表面は平滑に仕上げられ、断面は正円に近い形態。敲打部の中央付近、約10㎝は使用によって顕著に凹むことから、工具として転用された可能性もある。敲打部先端は二次焼成を受け炭化する。

1325は用途不明の棒状品。樹種はヒノキ。長29.5㎝、径2.0㎝。両先端は丸く仕上げてある。1326は箸状木製品の一部。

96区ＳＥ04下層　木製品は完形の灰釉系陶器椀皿とともに一括出土した。1329は曲物底（蓋）板の破片で、円孔を2孔穿つ。1330、1331は箸状木製品。曲物は柄杓の杓部として使用されたもので底板が組み合うが、柄部は出土していない。曲物の径は12.4～13.6㎝、高さ8.7㎝。曲物と底板には固定用の目釘孔が5孔穿たれる。曲物、底板とも内外面黒漆塗。樹種はヒノキ。

2、Ⅱ・Ⅲ期（図版49・50）

97区ＳＥ03　1333～1336は、曲物の底（蓋）板。いずれも側面の目釘孔はない。樹種はヒノキ。

96区ＳＥ05　1337は、曲物の底板で、側面に曲物固定用の目釘孔が5孔穿たれる。樹種はヒノキ。

97区ＳＫ104　1339は装身具、横櫛で、表面は黒漆塗。確認できる歯は15本。1㎝当り5本で、間隔は比較的疎。樹種はイスノキ。1340は杓子状木製品で頭部皿状のお玉杓子。樹種はヤナギ族で、表面は黒漆塗。

96区ＳＥ06　柄杓（1341）は杓部と柄部が結合した状態で出土したが、底板は入れられていなかった。曲物底（蓋）板は柄杓のやや上位から出土しており、柄杓の杓部の径とも合致しない。曲

物は（復原）径13.0㎝、高さ8.2㎝。柄部は長51.7㎝、幅2.2㎝、厚さ1.2㎝で、断面は長楕円形、先端付近は細く仕上げられる。先端近くに小孔が1孔穿たれる。杓部、柄部とも樹種はヒノキ。1342は径13.8㎝、1343は径14.0㎝で、いずれも側面の目釘孔はみられない。樹種はヒノキ。

97区NR01　1344は杓子状木製品の破片で、平板状。樹種はヒノキ。1347と1348は漆器椀で、洪水砂に混じって出土した。いずれも外面黒漆塗、内面赤漆塗で、文様はみられない。樹種はクリ。

文献

渡辺誠1985「ヨコヅチの考古民具学的研究」『考古学雑誌』第70巻第3号

（4）石製品

管玉　1349は中世の包含層から出土した管玉。石材は濃緑色で硬質、比重の大きい良質の碧玉。両面穿孔で、穿孔時のブレはほとんど看取されない。

砥石　1350～1366は砥石。1350～1356はⅠ期の遺構、1357・1358はⅡ期の遺構、1359～1362はⅢ期の遺構、1363～1366は包含層出土である。Ⅰ期の砥石はいずれも不定形の多面体で、石材は粒子の細かい凝灰岩、凝灰質泥岩、泥質凝灰岩を用いている。仕上げ砥石と思われる。Ⅱ期、Ⅲ期の砥石は不定形なものと、板状に加工されたものが相半ばする。板状のものは表裏の使用が認められる。石材は凝灰岩が多い。包含層出土の砥石は板状のものが多い。1360、1365は短冊状。1366の石材は泥岩。

その他石製品　1367はSD08下層出土で、用途は不明。容器の蓋の可能性もある。1368、1369は加工円盤同様に、意図的な打ち欠き、研磨？を施した石製品。1368は全体に摩滅が認められる。1369は側辺を細かく打ち欠いている。1370は石製硯の破片。Ⅲ期に帰属しよう。石材はホルンフェルス。

（5）金属製品・鍛冶関連資料

1、青銅製品（銭貨以外）

提子の環座

1371は97区ＳＥ02上層から出土した提子の環座。これと組み合う他の部品は出土していない。環座は径3.2㎝、16枚の花弁をあしらったもので、環座には鉢部を固定するための鋲が組み合う。鋲の径は0.9～1.3cm。提子の環座は、庄園遺跡や寺院遺跡、信仰遺跡から各種の材質のもが出土している。奈良県正倉院南倉伝世品、石川県加賀市三木だいもん遺跡（萩中ほか1987）出土のものは銀製、愛知県豊橋市市道遺跡（贄1997）では青銅製、石川県羽咋市寺家遺跡（小嶋編1988）では鉄製のものが出土している。

1372と1373は包含層から出土したもので、出土時には対となっていた。形態、法量ともほぼ同じであることから、同じ鋳型を用いて製作された可能性が高い。中央に膨らみをもつ形態、端部近くには細い溝を有する。用途は不明。垂飾として用いられたものか。

2、銭貨

銭貨は全部で17枚が出土した。その内訳は皇朱通宝（初鋳1038年：1374～1376）が4枚、至和通宝（初鋳1054年：1377）が1枚、治平元宝（初鋳1064年：1378）が1枚、元祐通宝（初鋳1086年：1379～1382）が4枚、大観通宝（初鋳1107年：1383）が1枚、洪武通宝（初鋳1368年：1384）が1枚、銭種不明が5枚である。明銭の洪武通宝1枚を除く全てが北宋銭である。半数以上がＮＲ01から出土しており、96区ＳＤ11からも2枚出土している。

3、鉄製品

鉄製品には鉄釘が1点（1387）、小札状鉄製品が2点（1390・1391）、刀子状鉄製品（1392）などが存在する。1390は2枚の鉄板を重ね2箇所に穿孔され鋲がはめられている。1391はは1枚の鉄板を重ね3箇所に穿孔されている。

4、鍛冶関連資料

種別

下津北山遺跡から出土した鉄関連資料には、鉄滓、とりべ、羽口、炉壁などがある。その内訳は、椀型滓16点、流動滓Ａ3点、流動滓Ｂ16点、炉壁74点、棒状の含鉄遺物7点、礫状の含鉄遺物1点、扁平の含鉄遺物3点、とりべ1点、羽口6点である。これらの資料については、これまでの分析と同様な肉眼的な観察と簡易な検査を行い、その結果を一部省略した形で第10～12表に掲載した。なお、その観察と検査の方法については別稿（鈴木・藤山2000）を参照されたい。

鉄滓

椀型滓は密度と厚さと表面の形状から4類に区分できる。椀型滓Ａは密度が2.5g/cc以上のもので、厚さが3.0cm未満のものである（1399）。1399は小型の椀型滓Ａで完形である。表面の大部分が水酸化鉄の固着で覆われているが、部分的に見える気泡は少なく小さい。椀型滓Ｂは密度が2.5g/cc以上のもので、厚さが3.0cm以上のものである（1400～1402）。1400

は上表面がきわめて平滑となるものである。2分の1に分割され外表面がよく磨耗した状態となっている。1401は部分的に滓が重複した状態のもので、水酸化鉄の固着が多く残っている。1402は上面に流動滓Aが重複しているものである。椀型滓Cは密度が2.5g/cc未満のもので、表面の凹凸が激しいものである（1403）。1403は質感が軽く灰黒色を呈したガラス質の椀型滓であり、表面には赤紫色の付着物が見られる。裏面には白色の石材（石灰か？）がかみ込んでいる。椀型滓Dは密度が2.5g/cc未満のもので、表面が比較的平坦でなめらかなものである（1404）。1404は大型の椀型滓で、表面が水酸化鉄の固着で覆われていたが、固着を一部取り除くと平滑で気泡は多く認められる滓部分が見られる。

流動滓は流動滓Bの方が圧倒的に多い。比重を測定すると、流動滓Bは全て約2.5より軽く、流動滓Aは1点を除き残りの2点が約2.5より重くなっている。形状は大半が疂状で一部に扁平なものがある。1395は粒状の流動滓Bが4個以上重複したもので、一部が欠損している。1397は光沢を持つガラス質が垂下した状態のまま固まったものである。1398は表面の凹凸が激しいものである。

含鉄遺物

含鉄遺物は全体の中ではそれほど多くなく、一部は鉄製品と思われるものも存在する。1385・1386・1388は棒状含鉄遺物で釘の可能性も考えられる。1389は板状となった偏平含鉄遺物である。

羽口

羽口は破壊された小片が存在するのみである。1393は内径が約3cmと推定され、外表面が白っぽくなるものである。滓が付着した部分は残存していなかった。

炉壁は、約半数が流動滓Bが付着したもので、最大長が5cm以下の小片が多い。質感が非常に軽く、溶融して気泡が多く認められる。これらの中には廃壁である可能性が考えられるものもあるかもしれない。1394は流動滓Bが付着した石材？で裏面が黒色に変色している。

なお、1396は金属種不明の板状遺物である。凹凸が著しく製品とは考えにくい。金属製品製作の際に生じた端切れのようなものかもしれない。

下津北山遺跡の鉄器生産

下津北山遺跡の鍛冶関連資料の分布をみると、大きく2つの群が認められる（第40図）。1つはNR01を中心としたまとまりと、もう1つは建物群のある南半部を中心としたまとまりである。それぞれの組成をみると、両者ともに、流動滓は流動滓Bが80%を占めること、含鉄遺物の量が椀型滓や流動滓に比べて少ないこと、椀型滓は質感が軽い（密度2.5g/cc未満）のものが多いことから、これまでの理解では鍛練鍛冶工程が主体とはならない操業、すなわち精錬鍛冶または鋳造の金属生産工程が想定されよう。質感が軽い滓が多いことから比較的時期が新しい（すなわち中世後期以降）可能性も指摘できる。

文献

小嶋芳孝編 1988『寺家遺跡発掘調査報告Ⅱ』石川県埋蔵文化財センター
鈴木正貴・藤山誠一 2000「愛知県における鉄器生産（4）」『研究紀要』第1号 愛知県埋蔵文化財センター
贄元洋 1997「市道遺跡（Ⅱ）」豊橋市埋蔵文化財調査報告第40集 豊橋市教育委員会 牟呂地区遺跡調査会
萩中正和ほか 1987『三木だいもん遺跡』加賀市教育委員会

番号	保存番号	調査区	遺構	種別	形状	密度	比重	重量	質量	長径	短径	厚さ	着磁	メタル1	メタル2	残欠	発泡	小石	植物	木炭	炉材	ガラス	備考
1371	96-243	97	SE02上層	提子の環座				17.2		4.2	3.3	0.8	0	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	
1372	96-597	96	検出	垂飾？				18.6		4.8	1.8	1.8	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1373	96-598	96	検出	垂飾？				22.3		4.8	1.7	1.7	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1399	99-570	97	検出	椀型滓		2.91		67	23	5.8	4.1	2.3	2	1	0	完	○	×	×	×	×	1	
1400	99-480	96	NR01中上層	1/2椀型滓		3.27		170	52	6.4	4.2	3.7	2	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
1404	99-523	97	SK01	1/2椀型滓		2.12		360	170	12.3	8.3	3.3	3	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
	99-553	97	NR01灰色粘土層	1/2椀型滓		2.56		76.9	30	7.7	4.8	2.6	2	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
	99-553	97	NR01灰色粘土層	1/2椀型滓		2.07		12.4	6	4.2	2.5	1.9	1	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
	99-580	97	検出	1/2椀型滓		3.3		13.2	4	3.6	2	1.3	1	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
	99-506	97	NR01灰色粘土層	1/2椀型滓		1.78		16	9	4.9	2.9	1.3	2	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
1401	99-550	97	NR01灰色粘土層	1/4含鉄椀型滓		2.81		90	32	5.8	5	3	2	1	1	欠	○	×	×	×	×	1	
1402	99-525	97	SD16	1/4素複椀型滓		4.11		115	28	4.8	4	3.2	2	0	0	欠	○	×	×	○	×	1	
1400	99-480	96	NR01中上層	1/4椀型滓		2.88		14.4	5	3.3	2.2	1.6	2	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
	99-487	96	検出	1/4椀型滓		2.72		40.8	15	5.1	3.4	1.5	2	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
	99-530	97	NR01灰色粘土層	1/4椀型滓		1.73		34.5	20	4.8	3	2.6	2	0	0	欠	○	×	×	○	×	1	
1403	99-552	97	NR01灰色粘土層	1/4椀型滓		1.51		56	37	7.2	6	3	0	0	0	欠	○	×	×	○	×	2	石灰あり
	99-553	97	NR01灰色粘土層	1/4椀型滓		1.73		78	45	6.7	5.5	3.5	1	0	0	欠	○	×	○	×	×	1	
	99-553	97	NR01灰色粘土層	1/8含鉄椀型滓		3.04		42.5	14	4	2.8	3	3	1	2	欠	○	×	×	×	×	1	赤色付着物
	99-530	97	NR01灰色粘土層	1/8椀型滓		2.3		18.4	8	3.3	2.5	2.2	3	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
	99-497	96	西壁	とりべ				7.2		2.8	2.2	1.2	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B等付着
	99-477	96	SK13	羽口				8.2		2.4	2.2	1.8	0	0	0	欠	×	○	×	×	×	2	
	99-479	96	SK18上層	羽口				3.7		2.7	1.1	1.5	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	流動滓付着
1493	99-534	97	NR01灰色粘土層	羽口				72		6.5	4.4	2.3	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-535	97	NR01灰色粘土層	羽口				14.6		3.8	1.9	1.9	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-558	97	検出	羽口				1.1		1.7	1.6	1	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-553	97	NR01灰色粘土層	羽口?				9.6		3	2.3	1.5	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-489	96	検出	含鉄遺物	棒状			3.1		2.6	1.3	1.2	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-522	97	SE03	含鉄遺物	礫状			2.5		2	1.2	1.1	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-565	97	検出	含鉄遺物	扁平			5.1		3	1.9	0.9	2	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-569	97	検出	含鉄遺物	棒状			8		3	1.4	1.3	2	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-573	97	検出	含鉄遺物	扁平			15.6		3.7	2.8	1.7	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-580	97	検出	含鉄遺物	棒状			3.9		3.1	1.1	0.8	3	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
1386	99-470	96	検出	含鉄遺物	棒状			5.1		4.2	1	0.8	3	0	0	完	×	×	×	×	×	0	
	99-471	96	検出	含鉄遺物	棒状			2.6		1.6	0.9	0.9	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
1385	99-499	97	SD03上層	含鉄遺物	棒状			2.2		3.6	0.8	0.6	2	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
1391	99-500	97	SE02	含鉄遺物	扁平			47.5		6.5	4.5	1.5	2	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
1388	99-501	97	SE03上層	含鉄遺物	棒状			19.6		5.8	2.3	1.7	4	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	
1396	99-473	96	SD21	金属片?	扁平			2.2		3	1.3	0.2	2	1	1	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-493	96	検出	石	礫状			2.7		2.1	1.8	0.7	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	96-589	96	SD11	銭貨(＊＊元宝)				3.5		2.4	2.4	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1380	99-125	97	NR01灰色粘土層	銭貨(元祐通宝)				2.2		2.4	2.4	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1379	99-130	97	NR01灰色粘土層	銭貨(元祐通宝)				3.4		2.5	2.5	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1381	96-590	96	NR01中上層	銭貨(元祐通宝)				3.2		2.4	2.4	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1382	96-592	96	NR01灰色粘土層	銭貨(元祐通宝)				3.8		2.4	2.4	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1384	99-129	97	NR01灰色粘土層	銭貨(洪武通宝)				3.3		2.3	2.3	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1376	99-124	96	NR01下層南溝	銭貨(皇宋通宝)				2.4		2.4	2.4	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1374	99-127	97	NR01灰色粘土層	銭貨(皇宋通宝)				2.4		2.2	2.2	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
	96-593	96	検出	銭貨(皇宋通宝)				2		2.5	2.5	0.1	0	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	
1375	96-595	96	検出	銭貨(皇宋通宝)				4.3		2.5	2.4	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1377	96-588	96	SD11	銭貨(至和通宝)				3		2.4	2.4	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
1378	99-126	97	NR01灰色粘土層	銭貨(治平元宝)				3.2		2.3	2.3	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
	99-128	97	NR01灰色粘土層	銭貨(祥＊＊宝)				1.5		2.4	1.3	0.1	0	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	
1383	96-594	96	検出	銭貨(大観通宝)				3.5		2.4	2.4	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
	96-591	96	NR01	銭貨(不明)				0.9		2.2	1.1	0.1	0	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	焼けている
	96-596	96	検出	銭貨(不明)				6.7		2.7	2.5	0.2	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	2枚重複
	96-599	96	検出	銭貨(不明)				2.1		2.4	2.4	0.1	0	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	焼けている
1390	99-505	97	NR01灰色粘土層	鉄製品(小札?)				23.4		5.4	3.1	0.4	5	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	新しい
1387	99-502	97	SK03	鉄製品(釘)				6.6		6.3	1	0.8	3	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-507	97	東壁	鉄製品(不明)	扁平			15.1		7	3	0.3	3	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	新しい
1392	99-71	97	SK94	鉄製品(鎌)				20.2		9.8	1.3	1	3	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-486	96	検出	鉄製品不明	棒状			3.5		2.5	1.6	1.2	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
1389	99-123	96	NR01中上層	鉄片	扁平			11.8		4.9	2.8	0.3	4	1	2	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-508	97	検出	鉄片?	扁平			10.1		3.7	3.6	0.3	4	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-472	96	試掘トレンチNo1	銭貨(皇宋通宝)				2.6		2.5	2.5	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	
	99-472	96	試掘トレンチNo1	銭貨(元祐通宝)				3		2.5	2.5	0.1	0	1	2	完	×	×	×	×	×	0	

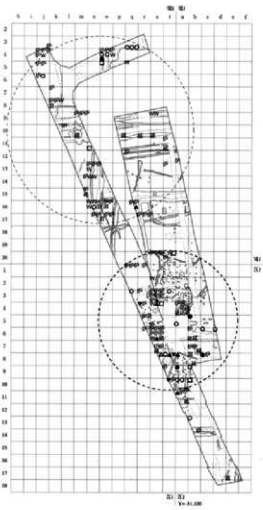
第10表　金属製品・鍛冶関連資料一覧表1

番号	保存番号	調査区	遺構	種別	形状	密度	比重	重量	質量	長径	短径	厚さ	着磁	メタル1	メタル2	残欠	発泡	小石	植物	木炭	炉材	ガラス	備考
	99-481	96	検出	流動滓	扁平	2.13	浮く	6.4	3	2.5	2	1	1	0	0	欠	○	×	×	×	×		金属種不明
	99-483	96	検出	流動滓A	礫状		沈む	1.1		1.6	0.8	0.7	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	1	
	99-528	97	SD16	流動滓A	礫状	0.1	浮く	0.1	1	0.6	0.5	0.5	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	1	
	99-577	97	検出	流動滓A	礫状		沈む	1.7		2.2	1.9	0.6	3	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	
1395	99-474	96	SD21	流動滓B	礫状	0.6	浮く	2.4	4	2.9	2.1	1.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-476	96	SD21	流動滓B	礫状	2.27	浮く	6.8	3	1.3	1	0.9	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	陶器破片に付着
	99-509	97	SD02	流動滓B	礫状		浮く	0.4		1.3	0.9	0.6	1	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-509	97	SD02	流動滓B	礫状		浮く	0.2		1.2	0.7	0.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-526	97	SD16	流動滓B	礫状		浮く	0.8		1.4	1.2	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-528	97	SD16	流動滓B	礫状		浮く	2		2	1.3	0.8	2	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-528	97	SD16	流動滓B	礫状	0.1	浮く	0.1	1	0.9	0.6	0.5	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-544	97	NR01灰色粘土層	流動滓B	礫状	1.18	浮く	5.9	5	2.9	2.4	2.3	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-551	97	NR01灰色粘土層	流動滓B	扁平	1.18	浮く	4.7	4	2.8	2.5	1.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	新しい
	99-551	97	NR01灰色粘土層	流動滓B	礫状	0.6	浮く	1.2	2	2	1.7	1.4	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-551	97	NR01灰色粘土層	流動滓B	礫状	1.3	浮く	1.3	1	1.7	1.7	1	2	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-556	97	西壁	流動滓B	礫状		浮く	0.3		1.1	1	0.8	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
1397	99-557	97	西壁	流動滓B	礫状	1.45	浮く	2.9	2	2.3	1.5	0.9	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-559	97	検出	流動滓B	礫状		浮く	0.4		1.7	1.3	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-572	97	検出	流動滓B	礫状		浮く	0.1		0.9	0.5	0.5	2	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
1398	99-581	97	検出	流動滓B			浮く	1.2		1.9	1.5	0.8	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-475	96	SD21	炉壁	礫状			25.3		4.5	3.4	3	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	緑色付着物
	99-481	96	検出	炉壁	礫状			0.4		1.5	0.9	0.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-484	96	検出	炉壁	扁平			2.3		3.1	1.7	1.2	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-484	96	検出	炉壁	棒状			2.6		3.3	1.2	0.5	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-485	96	検出	炉壁	礫状			3.6		2.9	1.9	1	0	0	0	欠	×	×	×	○	×	0	
	99-485	96	検出	炉壁	扁平			9.4		4.4	2.9	1.5	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	白色付着物
	99-485	96	検出	炉壁	扁平			0.5		1.8	1.6	0.3	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	白色付着物
	99-485	96	検出	炉壁	礫状			3.3		2.4	2.1	1.2	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	白色付着物
	99-485	96	検出	炉壁	礫状			0.8		1.6	1.3	1.2	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-485	96	検出	炉壁	礫状			0.3		1.2	1	0.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-486	96	検出	炉壁	棒状			10.8		4.8	2.2	1.6	0	0	0	欠	○	○	×	×	×	2	
	99-488	96	検出	炉壁	扁平			6.7		4	1.9	1.1	1	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-489	96	検出	炉壁	扁平			6.6		2.6	2.5	1	1	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-489	96	検出	炉壁	扁平			1.7		2.7	1.8	0.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-490	96	検出	炉壁	礫状			5.2		2.1	2	1.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-491	96	検出	炉壁	礫状			2.5		1.8	1.7	1	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-492	96	検出	炉壁	礫状			2.4		2.2	1.8	1.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	流動滓B付着
	99-492	96	検出	炉壁	礫状			0.9		1.6	1	0.7	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-494	96	検出	炉壁	礫状			3.6		2.2	1.6	1.2	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-494	96	検出	炉壁	礫状			2.8		2.2	1.9	1.1	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	流動滓B付着
	99-495	96	検出	炉壁	礫状			2.5		3	1.8	1.8	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-498	96	攪乱	炉壁	扁平			6.7		3.4	2.3	1.1	0	1	1	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-510	97	SD04	炉壁	礫状			1.5		2.5	1.4	1.1	0	1	1	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-512	97	SD08上層	炉壁	礫状			1.1		1.6	1.2	1	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-512	97	SD08上層	炉壁	礫状			0.4		1.4	0.8	0.4	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-512	97	SD08上層	炉壁	扁平			0.2		1.5	0.8	0.2	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-513	97	SD16	炉壁	礫状			4.9		2.4	1.7	1.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-513	97	SD16	炉壁	扁平			1.7		2.1	1.5	0.7	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-514	97	SD16	炉壁	扁平			2.9		3.2	2.4	0.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-511	97	SD08上層	炉壁	扁平			1.4		2	1.7	0.5	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-516	97	SE01	炉壁	扁平			1.1		2.6	1.3	0.6	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-517	97	SE02	炉壁	扁平			1.1		1.7	1.4	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
1394	99-520	97	SE02	炉壁	礫状			120		8	5	3.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	新しいか？
	99-529	97	NR01砂層	炉壁	礫状			0.6		1.2	1.1	0.9	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-531	97	NR01灰色粘土層	炉壁	扁平			1.3		2	1.6	0.6	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-531	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状			1		1.9	1.2	0.8	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-531	97	NR01灰色粘土層	炉壁	扁平			0.1		0.9	0.7	0.3	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
	99-532	97	NR01灰色粘土層	炉壁	扁平			17.9		4.3	3.8	1.8	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-532	97	NR01灰色粘土層	炉壁	扁平			0.3		1.3	0.8	0.5	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
	99-533	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状			9.1		3.6	2.6	2.1	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
	99-536	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状			0.4		1.1	0.8	0.6	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-536	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状			0.2		0.9	0.5	0.4	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-540	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状			4.1		3	2.4	1.1	0	1	1	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-540	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状			3.8		2.8	1.6	1.5	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
	99-542	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状			0.5		1.5	1	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	

第11表　金属製品・鍛冶関連資料一覧表2

番号	報告番号	調査区	遺構	種別	形状	密度	比重	重量	質量	長径	短径	厚さ	重量	メタル1	メタル2	気穴	発泡	小石	植物	木炭	砂材	ボウス	備考
99-544	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状				2		1.6	1.4	1.3	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
99-545	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状				0.4		1.6	1.1	0.4	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-546	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状				4		2.4	2.3	1.2	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
99-546	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状				2.6		2.4	2	1.6	1	0	0	欠	○	○	×	×	×	2	
99-547	97	NR01灰色粘土層	炉壁	扁平				2.2		2.7	1.7	0.6	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-547	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状				0.5		1.7	0.8	0.7	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-548	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状				2.5		4	1.8	1.5	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
99-549	97	NR01灰色粘土層	炉壁	礫状				0.4		1.5	1.1	0.8	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
99-555	97	西壁	炉壁	礫状				0.6		1.6	1.3	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-555	97	西壁	炉壁	礫状				1		1.8	1.1	0.7	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-558	97	検出	炉壁	棒状				5.8		3.5	1.6	0.9	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	小穴3ヶ含む
99-560	97	検出	炉壁	礫状				0.5		1.6	1.1	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-561	97	検出	炉壁	礫状				0.3		1.3	1	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
99-562	97	検出	炉壁	扁平				2.1		2.9	2	0.8	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
99-563	97	検出	炉壁	扁平				31.6		4.8	3.7	1.9	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-564	97	検出	炉壁	礫状				1.5		1.2	1	0.8	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-564	97	検出	炉壁	礫状				0.2		0.9	0.8	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
99-566	97	検出	炉壁	扁平				0.6		1.7	1.4	0.5	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-567	97	検出	炉壁	扁平				7.7		2.7	2.5	1.4	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	鉄小片多数
99-567	97	検出	炉壁	扁平				2.8		2.2	2.1	0.9	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
99-567	97	検出	炉壁	扁平				2.3		3.3	1.9	0.6	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
99-568	97	検出	炉壁	扁平				2.2		3.1	1.4	0.9	1	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-571	97	検出	炉壁	礫状				0.2		1.6	1.1	0.7	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	0	
99-573	97	検出	炉壁	礫状				0.5		1.7	0.9	0.9	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-576	97	検出	炉壁	礫状				1.8		1.9	1.3	1.2	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-578	97	検出	炉壁	礫状				8.6		2.9	2.6	2	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
99-579	97	検出	炉壁	扁平				2.8		2.5	1.7	0.6	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着
99-476	96	SK18	炉壁(羽)	扁平				3.9		2.4	1.9	1	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
99-485	96	検出	炉壁(羽)	扁平				9		4.1	2.7	1.2	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	流動滓B付着

第12表　金属製品・鍛冶関連資料一覧表3



第40図　鍛冶関連資料の分布

第4章　自然科学分析

(1) 下津北山遺跡における古環境解析

はじめに

下津北山遺跡の周辺には縄文時代から近世に至る遺跡が散在するものの、自然科学的な考察を行なった遺跡は未だ少なく、古環境について不明な点が多い。今回の発掘調査において花粉・植物珪酸体・珪藻微化石分析および^{14}C年代測定を行なったので報告する。

試料

96区では2地点の深掘を行ない、12世紀の遺構検出から約1.4mないし1.8m下まで掘削した。堆積物の粒度と色調から層序は5層に区分でき、層序ごとに試料を採取した（第41図）。また、12世紀の遺構検出面から上位層へ、中礫からなる鉄道建設に伴う近～現代の砕石で覆われる層までを層準ごとに採取した（第44図）。97区では考古遺物から12～13世紀初頭の相対年代を示すSD08、12～15世紀末頃を示す河道跡であるNR01、古墳時代初頭の考古遺物が検出された黒色粘土層から採取した（第42、43図）。また、^{14}C年代測定用の試料をSX01遺構覆土（炭化物混じり土壌）より採取した。

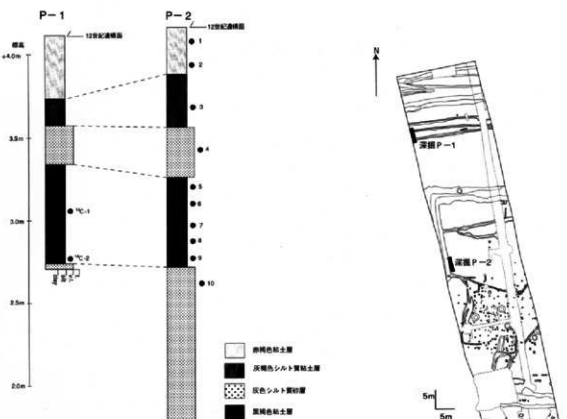
分析方法

花粉・珪藻・植物珪酸体微化石は以下の方法によって抽出した。なお、96区で採取した試料は古環境研究所に、97区で採取した試料はパリノ・サーヴェイ株式会社に同定を依頼した。

花粉化石は試料10gを水酸化カリウム処理、篩別、重液分離（臭化亜鉛；比重2.3）、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸＝9：1）の順に物理・化学的な処理を施して花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下で同定・計数を行う。なお、古環境研究所の抽出法は中村（1973）に従い、同定は島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとした。

植物珪酸体は試料5gを過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステイト；比重2.4）の順に物理・化学処理を行って分離・濃集する。これを希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、これらの珪酸体を包含する珪化組織片を近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。なお、古環境研究所の抽出法は藤原（1976）に従う。

珪藻化石は試料7gを過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。希釈後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。検鏡は光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で、200個体以上を同定・計数する。種の同定にはK. Krammer and Lange-Bertalot (1986,1988,1991a,1991b)、などを用いた。堆積環境の解析には安藤（1990）、伊藤・堀内（1991）、Asai and Watanabe（1995）の環境指標種を参考とした。^{14}C年代測定は古環境研究所とパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

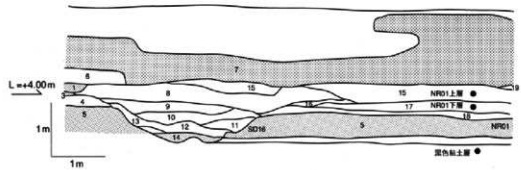


第41図　下津北山遺跡96区深掘地点の層序と試料採取層準

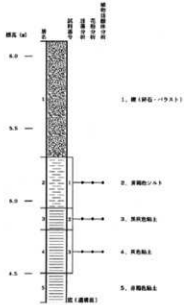
凡例

表土2.5GY5/1　シルト質極細粒砂層
1．2.5Y5/2　シルト層（鉄沈着）
2．10YR4/2　粘土質シルト層
3．10YR7/2　極細粒砂層
4．10YR4/2　粘土層（鉄斑含む）
5．2.5Y7/1　細粒砂層
6．2.5Y5/1　粘土層
7．2.5Y7/1　礫粒砂層
8．5Y5/1　シルト質粘土層
9．2.5Y5/2　粘土層
10．5Y4/1　粘土層
11．10Y5/1　粘土層
12．10Y6/1　粘土層
13．7.5Y5/1　シルト質粘土層
14．5GY7/1　細粒砂層（10Y4/1粘土ブロック混入）
15．5Y5/2　粘土層
16．5Y6/2　シルト質粘土層（鉄沈着）
17．10Y5/1　粘土層
18．10Y5/1　シルト質粘土層（7.5Y6/1極細粒砂混じる）
19．7.5Y5/1　シルト質粘土層（礫粒砂混じる）
21．2.5GY5/1　シルト層
22．2.5GY4/1　粘土質シルト層
23．2.5Y4/2　シルト層（マンガン斑、炭化物含む）
24．2.5Y4/1　粘土質シルト層（炭化物含む）
25．5Y4/1　粘土層（層の上部で鉄沈着）
26．N4/0　粘土層
27．N4/0　粘土層
28．N3/0　粘土層（植物遺体多く混入）
29．N3/0　粘土層（NT/0細粒砂混じる）
30．2.5Y5/2　シルト層（鉄沈着）
31．5GY7/1　細粒砂層（10Y4/1粘土ブロック混入）
32．10YR4/1　粘土層（鉄斑有り）

第42図　下津北山遺跡97区ＳＤ08における試料採取層準



第43図　下津北山遺跡97区ＮＲ01における試料採取層準



第44図　下津北山遺跡96区東壁における試料採取層準

結果

96区深掘試料

96区において、12世紀の遺構検出面（標高＋4.135m）から約1.8m下の灰色シルト質砂層までの5層準で計10試料を採取した。花粉化石は4層（試料5～9）から比較的高密度で検出されたが、その他の試料からはほとんど検出されなかった（第45図）。4層中・下部（試料6～9）では草本花粉の占める割合が高く、ヨモギ属・イネ科・カヤツリグサ科が優占する。樹木花粉は低率であり、コナラ属アカガシ亜属・コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属・マツ属複維管束亜属などが出現する。シダ植物胞子の占める割合も比較的高い。4層上部（試料5）ではイネ属型やオモダカ属が出現し、イネ科・カヤツリグサ科が増加している。

植物珪酸体化石も花粉化石と同様に、4層から比較的高密度で検出されたが、その他の試料ではわずかに検出されたのみである（第46図）。4層から検出された主要な分類群は

イネ・キビ族型・ヨシ属・ススキ属型（ススキ属など）・ウシクサ族・メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）・ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）・クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）・マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属）である。また、その他の分類群として棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）が多産する。

珪藻化石は24属58種5変種が検出された。珪藻化石群集の特徴から5珪藻分帯が設定された（第47図）。以下に珪藻帯ごとにその特徴を記す。

I帯（5層）では珪藻化石は淡水種12個体のみである。堆積物1g中の珪藻殻数は約2.48×10^3個、完形殻の出現率は約33%である。試料はシルト質砂であることから、運搬営力が高いために珪藻殻が堆積物中に捕獲されなかったことが考えられる。

II帯（4層）では堆積物1g中の珪藻殻数は約1.96×10^4～1.23×10^6個で、完形殻の出現率は12～48%である。沼沢湿地付着生指標種群の*Pinnularia viridis*や*Stauroneis phoenicenteron*、陸域指標種群の*Hantzschia amphioxys*などが高率で出現する。

III帯（3層）では珪藻化石が少ない。堆積物1g中の珪藻殻数は約2.77×10^3個で、完形殻の出現率は約29%である。試料はシルト質砂であることから、運搬営力が高いために珪藻化石が堆積物中に捕獲されなかったことが考えられる。

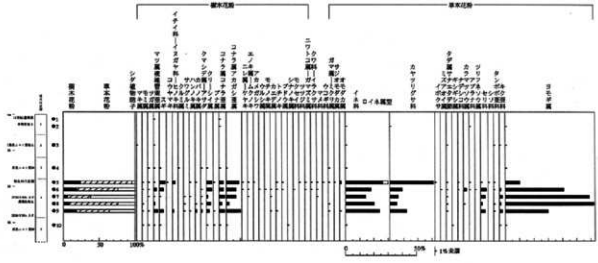
IV帯（2層）では堆積物1g中の珪藻殻数は約1.72×10^4個で、完形殻の出現率は約42%である。検出された珪藻化石は少ないものの、沼沢湿地付着生指標種群の*Eunotia pectinalis var.minor*や湿沼沼沢湿地指標種群の*Aulacoseira ambigua*あるいは中～下流性河川指標種群の*Cymbella turgidula*などが出現する。また、陸域指標種群も随伴する。これらのことから、中～下流性河川の影響を受ける沼沢湿地環境が推定される。

V帯（1層）では堆積物1g中の珪藻殻数は約8.96×10^4個と約1.81×10^5個で、完形殻の出現率は約34%と約23%である。陸域指標種群の*Hantzschia amphioxys*や*Navicula mutica*、沼沢湿地付着生指標種群の*Pinnularia viridis*や*Eunotia pectinalis var.minor*などが高率で検出される。なお、4層（黒褐色粘土層）と5層（灰色シルト質砂層）との境界部分で採取した4層黒褐色粘土層土壌（標高+2.737m）の^{14}C年代は3350±90 yrs BPを、4層中部の土壌（標高+3.007m）では2750±60 yrs BPを示した（第13表）。

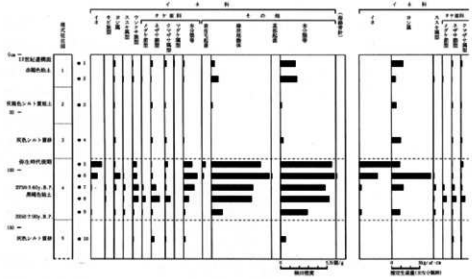
97区黒色粘土層

古墳時代初頭の相対年代を示す黒色粘土層の微化石分析について、花粉化石は本本花粉のモミ属・マツ属・スギ属・アカガシ亜属、草本花粉のイネ科・サナエタデ節・ウナギツカミ節・ヨモギ属・キク亜科、ミズワラビ属を含むシダ類胞子の合計10種類が数個体検出される程度である（第48図）。検出される花粉・胞子の保存状態は悪い。

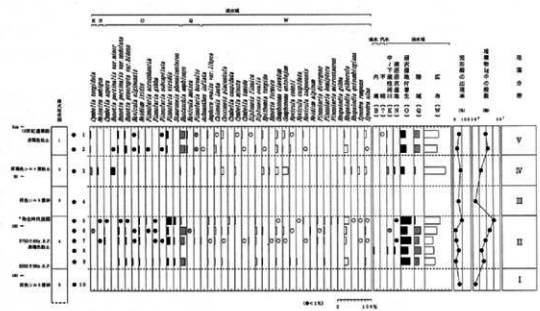
植物珪酸体化石はイネ属とタケ亜科の産出がめだつ（第49図）。イネ属では珪化組織片として稲籾殻に形成される頴珪酸体や葉部の短細胞列も認められる。ヨシ属・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科も検出される。



第45図　下津北山遺跡96区深掘Ｐ－2地点の花粉分析結果



第46図　下津北山遺跡96区深掘Ｐ－2地点の植物珪酸体分析結果



第47図　下津北山遺跡96区深掘Ｐ－2地点の珪藻分析結果

第13表　96区深掘試料の^{14}C年代値

試料番号	地点・層準	試料	^{14}C年代 (yrs BP)	δ^{13}C (‰)	補正^{14}C年代 (yrs BP)	暦年代交点 (1σ)	測定No.
No.1	深掘・4層中部	土壌	2810±60	-28.8	2750±60	BC.890 (BC.930～825)	Beta-105385
No.2	深掘・4層下部	土壌	3350±90	-25.2	3350±90	BC.1630 (BC.1735～1515)	Beta-105386

珪藻化石の完形率は50%である。生態性について貧塩不定性種、真・好アルカリ性種、流水不定性種が優占する（第50図）。また、陸性珪藻も25%産出する。主な産出種は、好止水性で湖沼沼沢湿地指標種群（安藤、1990）の一種の*Aulacoseira ambigua*、淡水～汽水域まで塩分に対する適応性が広い（以下、広塩種生種）*Rhopalodia*属、好止水性種・好汚濁性種の*Fragilaria construens fo.venter*、好流水性の*Gomphonema clevei*、陸生珪藻A群である*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*などが産出する。

97区 SD08

12世紀の遺構のひとつであるSD08では層序断面から時代ごとに下層・上層・最上層の3試料を得た。花粉化石は下層で良好に検出され、上層および最上層になると保存状態・検出個体数ともに悪い（第48図）。下層における木本花粉の出現傾向はハンノキ属が優占する。この他マツ属・ブナ属・アカガシ亜属が多産し、スギ属・ヤマモモ属・クマシデ属-アサダ属・コナラ亜属・シイノキ属・センダン属などを伴う。草本花粉ではイネ科が多産し、ガマ属・カヤツリグサ科・ミズアオイ属・ソバ属・ハス属・ヒシ属・ゴマ属・ヨモギ属・サンショウモなどが検出される。

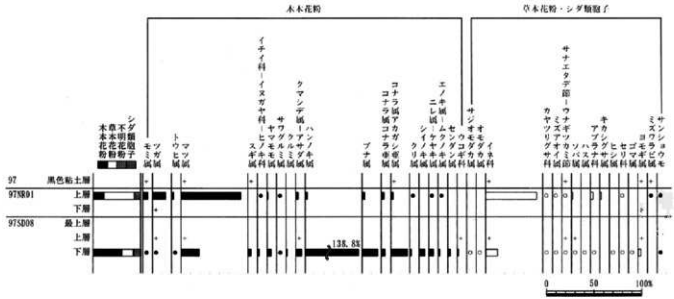
植物珪酸体化石は下層・上層・最上層でタケ亜科の産出がめだち、イネ属やヨシ属・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科も検出される（第49図）。なお、上位に向かってイネ属が増加し、タケ亜科が減少する傾向が見られる。

珪藻化石は貧塩不定性種、流水不定性種が優占する。また、pHに対する適応性では酸性～アルカリ性までの種が高率に混在する。陸生珪藻も20%前後産出する（第50図）。各層の産出種の特徴は多産種については近似しており、下層～最上層にかけて流水不定の*Gomphonema parvulum*、流水不定性種・好汚濁性種の*Sellaphora pupula*、それに流水不定性で沼沢湿地付着生種群の一種の*Pinnularia gibba*が共通して産出する。稀産種については、最上層で好流水性の*Navicula elginensis var.neglecta*、上層で未区分陸生珪藻の*Pinnularia schoenfelderi*、下層で流水不定性の*Navicula cryptocephala*などが産出する。

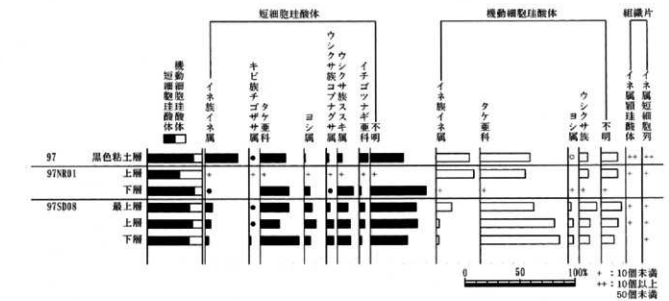
97区 NR01

考古遺物から12世紀から15世紀末までの堆積期間を示す河川流路跡NR01では、下層・上層の2試料を分析した。花粉化石は2試料とも保存状態が悪く、下層からはほとんど検出されない（第48図）。上層において木本花粉ではマツ属が多産し、次いでツガ属が検出される。この他モミ属・トウヒ属・ヤマモモ属・ブナ属・コナラ亜属・アカガシ亜属などが検出される。草本花粉は全体の60%以上を占める。イネ科が多産し、カヤツリグサ科・ミズアオイ属・ソバ属・アブラナ科・キカシグサ科・ミズワラビ属・サンショウモなどが検出される。

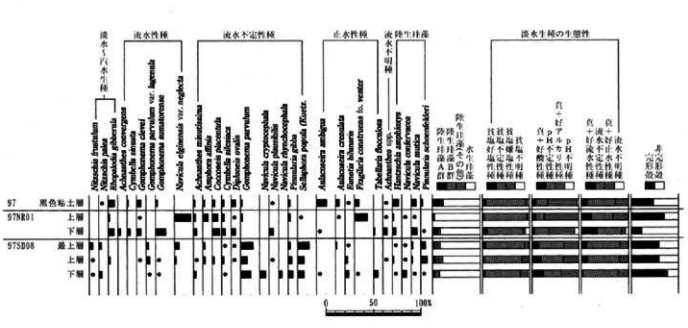
植物珪酸体群集は下層と上層で若干異なる。下層ではタケ亜科の産出がめだち、イネ属やヨシ属・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科も検出される。上層では同様な種類が認められるが、タケ亜科とともにイネ属の産出もめだつ（第49図）。



第48図　下津北山遺跡97区ＳＤ08、ＮＲ01の花粉分析結果



第49図　下津北山遺跡97区ＳＤ08、ＮＲ01の植物珪酸体分析結果



第50図　下津北山遺跡97区ＳＤ08、ＮＲ01の珪藻分析結果

珪藻化石も上層と下層で異なり、下層では完形率22%で真・好流水性種が多産することを特徴とする（第50図）。主な産出種は、真流水性で上流性河川指標種群（安藤、1990）の一種の *Gomphonema sumatorense* が多産し、広域塩生種の *Rhopalodia gibberula*、好流水性の *Ghomphonema clevei*、流水不定性の *Cocconeis placentula*、陸生珪藻A群の *Navicula mutica* を伴う。上層では、完形率約70%で化石の保存が良好である。好流水性種の *Navicula elginensis var.neglecta*、好止水性種・好汚濁性種の *Fragilaria construens fo.venter* が15%前後産出し、流水不定性の *Amphora affinis*、*Cocconeis placentula* を伴う。陸生珪藻はほとんど産出しない。

96区近～現代溝

鉄道建設による砕石により覆われた近～現代の溝を比較試料として3試料採取した。花粉化石は全体的に保存状態が悪い。特に試料1では花粉化石の検出個体数も少ない（第51図）。試料2と試料3における本木花粉の出現傾向は類似しており、マツ属が優占する。この他にスギ属・ハンノキ属・コナラ属コナラ亜属・コナラ属アカガシ亜属などが検出されるが、その出現率は極めて低率である。草本花粉は総数に対して50%以上と高率に出現する。中でもイネ科の多産が顕著である。ガマ属・カヤツリグサ科・ミズアオイ属・サナエタデ節-ウナギツカミ節・ナデシコ科・アブラナ科・オオバコ属・キュウリ属・ミズワラビ属・サンショウモなども検出される。

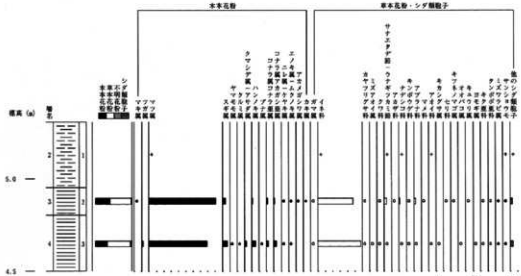
植物珪酸体化石は各試料で若干異なる（第52図）。試料3では栽培植物であるイネ属の短細胞珪酸体、およびタケ亜科機動細胞珪酸体の産出がめだつ。イネ属では珪化組織片として、穂軸殻に形成される頴珪酸体や葉部の短細胞列も認められる。また、ヨシ属やウシクサ族、イチゴツナギ亜科も検出される。試料2ではタケ亜科の産出がめだち、イネ属やヨシ属・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科も検出される。しかし、イネ属に由来する珪化組織片は認められない。試料1でも同様な産状が見られるが、イネ属短細胞珪酸体の産出が目立つ。イネ属には珪化組織片もわずかに認められる。

珪藻化石について、全体に水生珪藻と陸生珪藻とが混在し、陸生率は上位に向かって増加する（第53図）。生態性について、貧塩不定性種、真・好アルカリ性種、流水不定性種が優占する。産出種はほぼ同様の種が産出するが、出現率や完形率に若干の違いが見られる。試料3では完形率が61%であり、好止水性種・好汚濁性種の *Fragilaria construens fo.venter*、陸生珪藻B群（伊藤・堀内、1991）であり好汚濁性種でもある *Navicula confervacea*、流水不定性種で好汚濁性種の *Sellaphora pupula* などが検出される。試料2では完形率71%であり、未区分陸生珪藻（伊藤・堀内、1991）の *Pinnularia schoenfelderi*、流水不定性の *Sellaphora pupula*、*Achnantes hungarica* などが検出される。試料1では完形率が57%で、陸生珪藻A群（伊藤・堀内、1991）の *Navicula mutica*、未区分陸生珪藻の *Pinnularia schoenfelderi* などが検出される。

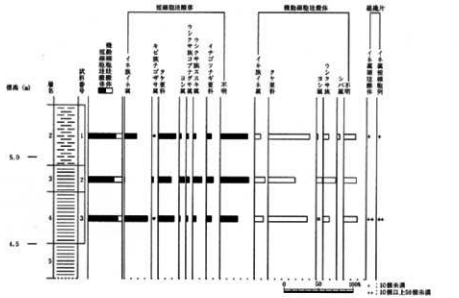
また、97区で検出されたSX01覆土である炭化物混じり土壌の ^{14}C 年代測定を行ない、測定値は2220 ± 60yrs. BP（270B.C.）であった。

古環境変遷

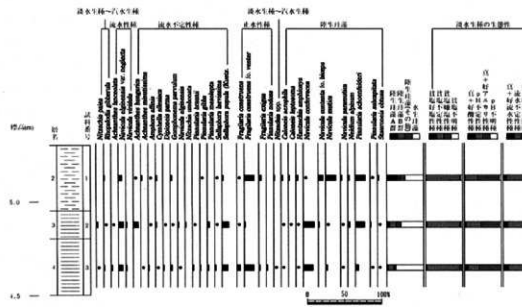
微化石分析と ^{14}C 年代測定の結果から下津北山遺跡の古環境変遷について述べる。また、古環境変遷図を第54図に示す。



第51図　下津北山遺跡96区東壁の花粉分析結果



第52図　下津北山遺跡96区東壁の植物珪酸体分析結果



第53図　下津北山遺跡96区東壁の珪藻分析結果

縄文時代後期

遺構面下位の層序は96区の深掘調査から、下位より灰色シルト質砂層、黒褐色粘土層、灰色シルト質砂層、灰褐色シルト質粘土層、赤褐色粘土層（12世紀遺物包含層）まで5層に区分された。

最下位層の灰色シルト質砂層は黒褐色粘土層に覆われる。黒褐色粘土層の最下部から採取した土壌の^{14}C年代は3350±90 yrs BPを示した。このことから、縄文時代後期頃には細粒な砂層を堆積させる時期であり、河川流路ないし流路縁辺部であったと思われる。

縄文時代晩期

灰色シルト質砂層を覆って黒褐色粘土層が堆積する。土壌の^{14}C年代測定から最下部層で3350±90 yrs BP、中部層で2750±60 yrs BPという値が得られており、縄文時代晩期頃に調査地付近を流下していた河川が側方へ移動し粘土層を堆積させる環境へと移り変わったことがわかる。花粉化石について、木本花粉ではコナラ属アカガシ亜属とコナラ属コナラ亜属が卓越した。調査地周辺および後背地にはカシ類（コナラ属アカガシ亜属）を主に、ナラ類（コナラ属コナラ亜属）、シイ類ないしクリ、ニヨウマツ類（マツ属複維管束亜属）などで構成される森林が分布していたと推定される。草本花粉ではヨモギ属が卓越し、イネ科・カヤツリグサ科・セリ科・シダ植物も多い。また、木本花粉に比べて草本花粉の占める割合が多いことから、かなり開けた環境であった。

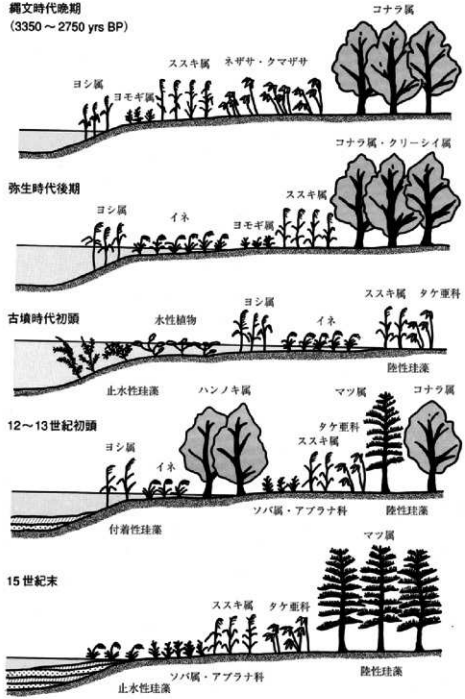
植物珪酸体化石について、最下部層準ではヨシ属が多く、中部になるとそれらが全く見られなくなると共に、メダケ節・ネザサ節・クマザサ節といったタケ亜科が増加する。また、イネ属も見られる。水田跡の場合、密度5000個/g以上の場合に稲作の可能性が高いとされる（杉山, 1987）が、本層準では密度700個/gと微量であり、上位層や上流部からの二次化石の可能性も否定できない。検出された事実のみを述べるにとどめる。珪藻化石は耐乾性の強い陸生珪藻A群（伊藤・堀内, 1991）に分類される*Hantzschia amphioxys*が多く見られる。3350±90～2750±60 yrs BPにかけてヨシ属の繁茂する湿地環境から、乾燥して開けた裸地的環境へ移り変わった。

弥生時代後期

黒褐色粘土層上部からは弥生時代後期の考古遺物が出土しており、少なくとも弥生時代後期までに堆積したと思われる。花粉化石では、草本花粉の卓越する傾向は下位層準と同様の結果であるが、ヨモギ属が減少し、イネ科やカヤツリグサ科をはじめオモダカ属などの湿地性植物が増加する。また、イネ科の中にはイネ属型も同定される。植物珪酸体化石の結果からもタケ亜科が減少するのに対し、イネ属が卓越するようになる。イネ属の密度は11,500個/gと極めて高い値であり、明瞭なピークが認められた。珪藻化石では陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*が減少し、沼沢湿地生かつ付着生種の*Pinnuralia viridis*や*Stauroneis phoenicenteron*が増加する。イネ属型花粉とイネ属植物珪酸体の卓越および沼沢湿地の増加から考えて、この時期に稲作が行われていた可能性が高い。

古墳時代初頭

97区のトレンチ断面に見られる黒色粘土層からは古墳時代初頭の考古遺物が出土している。なお、96区の深掘調査では本層に対応する堆積物は確認されていないが、層序や標高から考えて、灰色シルト質砂層と灰褐色シルト質粘土層に対応すると考えられる。以下で



第54図　下津北山遺跡の古墳環境変遷図

は97区の黒色粘土層の微化石分析結果を基にして述べる。

黒色粘土層からは花粉化石がほとんど検出できなかったため、木本・草本とも不明である。一方、植物珪酸体化石はイネ族イネ属が検出されるため水田耕作は引き続いて行なわれていたと思われる。珪藻化石では *Aulacoseira ambigua* や *A. crenulata*、*Fragilaria construens fo. venter* といった止水性種が多産し、*Rhopalodia gibberula* や *Gomphonema* 属などの水生植物に付着生育する種群が見られるため、比較的水深のある止水域になった。

12～13世紀初頭

96区の赤褐色粘土層（1層）と97区の遺構SD08および流路跡NR01の堆積物からは、

12～13世紀初頭の考古遺物が出土している。花粉化石では木本花粉の割合が高く、中でもハンノキ属が圧倒的に多い。現生ハンノキ属は河畔や湿地帯に優占する木本である。この頃になると調査地周辺は沼沢地的な環境になり、ハンノキ属が繁茂するのに適した環境に変化した。水生珪藻が卓越することもこれを裏付ける。

ソバ属やアブラナ科といった草本花粉は現在の栽培植物を含む。これらの花粉が出現し始めるこの時期には、畑作といった人為的影響が考えられ興味深い。

15世紀末頃　97区の流路跡NR01の上層からは15世紀末頃の考古遺物が出土する。本層から見つかる花粉化石の特徴は、12～13世紀初頭まで木本花粉が卓越していたのに比べて、草本花粉の占める割合が高くなることである。イネ科のものが多いが、ソバ属やアブラナ科も増加傾向を示す。周辺で畑作が広がったためかもしれない。木本花粉では、下位層で卓越したハンノキ属やブナ属・コナラ属が減少し、代わってマツ属が増加する。マツ属は二次林を構成する陽樹である。この頃、調査地周辺や後背地においてマツ属が卓越する環境となった。

文献

安藤一男，1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用，東北地理，2, 42, 73－88.

Asai, K. and Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa, Diatom, 10, 35-47 .

伊藤良永・堀内誠示，1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用，珪藻学会誌，6, 23－45.

近藤鍊三・佐瀬隆，1986, 植物珪酸体分析　その特性と応用，第四紀研究，25, 31－64.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1986, Bacillariophyceae,Teil1, Naviculaceae. Band 2/ 1von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, GustavFischer Verlag, , 876p .

杉山真二，1987, 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点，植生史研究，第2号，27－37.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1988, Bacillariophyceae, Teil2, Epithemiaceae, .Bacillariaceae, Surillaceae. Band2/ 2von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 536p .

Krammmer, K. and Lange-Bertalot, H., 1991a, Bacillariophyceae, Teil3, Epithemiaceae, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band2/ 3von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 230p.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1991b, Bacillariariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae , Kritische Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae) undGomohonema. Band 2/ 4 von : Die Susswasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 248p.

藤原宏志，1976, プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 - 考古学と自然科学，9，15－29.

中村純，1973, 花粉分析，古今書院，82-110.

中村純，1980, 日本産花粉の標徴，大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

鳥倉巳三郎，1973, 日本植物の花粉形態，大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

付記：詳しい分析値については、希望があれば直接著者に問い合わせ願いたい。

(2) 12世紀末～15世紀に相当する木製品の樹種同定

松葉礼子(パレオ・ラボ)

はじめに

下津北山遺跡は愛知県稲沢市下津町地内に位置し、青木川と三宅川左岸の自然堤防帯にはさまれた後背湿地に位置する。遺跡は中世の遺構が主体の遺跡で、今回同定した木製品の時期も12世紀末～15世紀に含まれている。愛知県内で中世の食事具を同定した事例は清洲町にある清洲城下町遺跡での戦国時代の漆器がありトチノキ、ブナ属が多い結果が得られている(山田,1993)。漆器以外にはヒノキ属が多い。同時代の神奈川県鎌倉市内では白木の板草履や箸などにスギが多く利用される結果が得られている(藤根,1993)。今回は白木の製品を中心にこれらとどのような違いがあるかどうかを調べるために樹種を同定した。

試料と方法

同定した試料は12世紀末～15世紀に含まれる計17点である。遺物は人形、横槌、ひしゃく、箸、櫛、曲物、柄、漆器椀、木簡などで製品の種類が多い（P139木製品参照）。

同定には、木製品から直接片刃剃刀を用いて、木材組織切片を横断面、接線断面、放射断面の3方向作成した。これらの切片はガムクロラールにて封入し、永久標本とした。樹種の同定はこれらの標本を光学顕微鏡下で観察し、現生標本との比較して行った。主要な分類群を代表する標本については写真図版に示し、同定根拠は後述する。以下に同定の根拠となった木材特徴を記述し、同定の根拠とする。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl. Cupressaceae 写真図版1a～1c:No.1329

水平・垂直両樹脂道を持たない針葉樹。早材から晩材への移行はやや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞は少なく早材部と晩材部に散在しており、水平壁は結節状に肥厚するが明瞭ではない。放射組織は放射柔組織のみからなり単列。分野壁孔は中型のトウヒ～ヒノキ型で、1分野に1～3個存在する。

以上の形質から、ヒノキ科のヒノキの材と同定した。ヒノキは常緑高木の針葉樹で、福島県～屋久島の温帯に分布する。

ヤナギ属 *Salix* Salicaceae 写真図版2a～2c:No.1340

やや小型で丸い道管が、単独あるいは2～3個放射方向に複合して多数存在する散孔材。道管は単穿孔。放射組織は単列の異性。道管放射組織間壁孔は壁孔縁が狭いため蜂の巣状を呈しているようにみえる。

以上の形質により、ヤナギ科のヤナギ属の材と同定した。日本に産するヤナギ属には34種が含まれる。

クリ *Castanea creneta* Sieb. et Zucc. Fagaceae 写真図版3a～3c:No.1347、1348

年輪の始めに、やや放射方向に伸びた大型の丸い道管が一列に並ぶ環孔材。晩材部では小型で薄壁の角張った道管が火炎状に配列する。道管は単穿孔。放射組織は単列同性。全体的に黒褐色を呈している。

以上の形質より、ブナ科のクリの材と同定した。クリは北海道～九州の温帯～暖帯に分布する落葉性高木あるいは中高木である。

イスノキ *Distylium racemosum* Sieb. et Zucc. Hamamelidaceae 写真図版4a～4c:No.1339

小型で丸い道管がほぼ単独で均一に散在する散孔材。年輪界は不明瞭で確認できない。

木部柔組織は短接線状。道管は10本程度の横棒からなる階段状穿孔。放射組織は異性で背が低く2細胞幅程度。時に放射組織・木部柔組織には結晶が見られる。道管放射組織間壁孔は階段状である。

以上の形質により、マンサク科のイスノキの材と同定した。イスノキは、常緑の高木で本州（関東南部以西）～琉球の常緑林内に分布する。

ヒイラギ　*Osmanthus heterophyllus* P. S. Green Oleaceae 写真図版5a～5c:No.1324

極めて小型で薄壁の角張った道管が接線状から火炎状に分布する散孔材。道管は単穿孔。道管内壁には螺旋肥厚を持つが微細で確認できない。放射組織は異性の2細胞幅。

以上の形質により、モクセイ科のヒイラギの材と同定した。ヒイラギは本州（福島県以西）から沖縄県に分布する常緑高木である。

結果

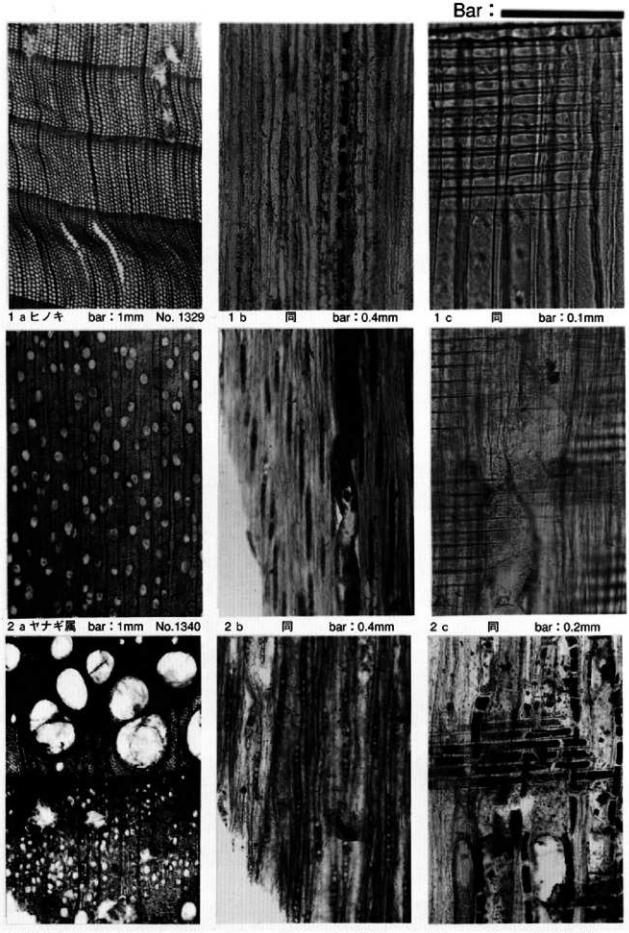
同定した結果針葉樹がヒノキ1種、広葉樹がヤナギ属、クリ、イスノキ、ヒイラギの4種が確認された（P139木製品参照）。これらのうち最も多く利用されている樹種はヒノキで、板状の部材からなる製品に主に利用されている。広葉樹はヒイラギが横槌に、イスノキが簪に、ヤナギ属が杓子に、クリが漆器に利用されている。

考察

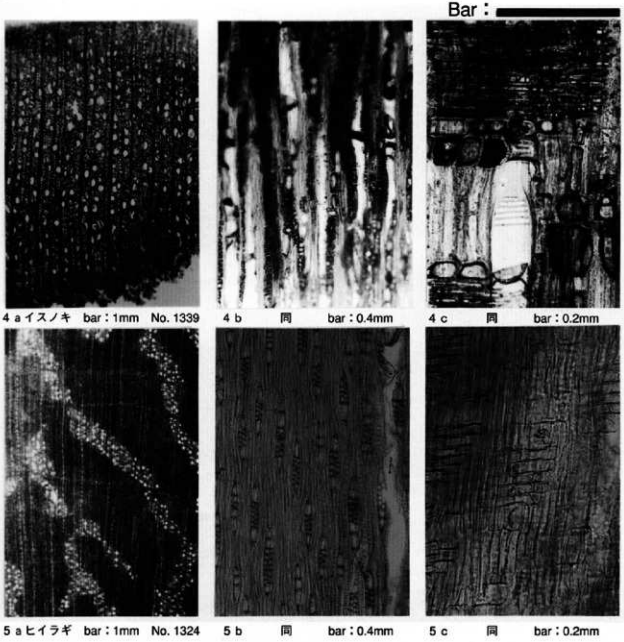
一般的に日本海沿岸域をのぞいた地域では古代以降は針葉樹の利用が多くなる傾向がある（日本海沿岸域ではスギ材が縄文時代から利用されている：植田，1999）。利用される樹種は中世の鎌倉ではスギ材が多く（藤根,1993）、古代の平城京などではヒノキが建築材、木簡などに高い割合で利用されている（島地ほか,1988）。地域的にスギ、ヒノキがない、もしくはあったとしてもきわめて少ないと考えられる宮城県の多賀城址周辺にある山王遺跡、市川橋遺跡ではモミ属が利用されており、地域により入手可能な針葉樹から選択されているようである。（松葉・鈴木，1996：松葉，印刷中）。文献試料の検討では中世には木材が欠乏する時期であると考えられている（タッドマン，1999）。そのためか、指物や桶などの部材を利用する製品の出土量が増加する。これらの製品は木材消費量に対して容量が大きい利点がある。本遺跡も曲物や箸の遺物が多い。針葉樹で製作できない製品や針葉樹を利用する必要のない製品である簪や漆器には他の樹種が利用されおり、他の遺跡共通の傾向が確認された。

文献

藤根　久，1993，佐助ヶ谷遺跡出土木製品の樹種同定，「佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書　第2分冊」，佐助ヶ谷遺跡調査団，389-396.
コンラッド・タッドマン，1998，日本人はどのように森をつくってきたのか，築地書館，200p.
松葉礼子・鈴木三男，1996，宮城県多賀城市山王遺跡多賀前地区出土木材の樹種，山王遺跡Ⅲ―仙塩道路建設関係遺跡発掘調査報告書―多賀前地区遺物編，宮城県教育委員会・建設省東北地方建設局，239-283.
松葉礼子，印刷中，宮城県多賀城市にある市川橋遺跡から出土した木製品の樹種同定.
島地　謙・伊東　隆夫・林　昭三・鈴木　三男・光谷　拓実・布谷　知夫・能城　修一，1988，日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，296p.
植田弥生，1999，若狭湾沿岸低地の完新世木材化石群，「国立歴史民俗博物館研究報告第81集」，387-397.



第55図 下津北山遺跡出土木材組織顕微鏡写真1



第56図 下津北山遺跡出土木材組織顕微鏡写真2

(3) 下津北山遺跡出土の植物遺体

はじめに

下津北山遺跡は稲沢市の東側を流れる五条川右岸の微高地に位置する遺跡で、平安時代末期から室町時代の建物跡、溝、井戸、旧河道などが検出された。今回分析を行った試料は、Ⅰ期（12世紀後半～13世紀初頭）の寺院関連遺構出土のもの（土坑ＳＥ04、ＳＫ18、ＳＫ19、ＳＫ30、ＳＤ07、ＳＤ08下層、ＳＤ21、ＳＸ01、ＳＸ04）、Ⅱ期（13世紀前半～14世紀前半）の集落に伴う遺構出土のもの（ＳＫ104、ＳＥ01、ＳＥ02、ＳＥ03、ＳＥ05、ＳＤ01、ＳＤ04、ＳＤ08中層、ＳＤ24、ＮＲ01下層北溝・南溝）、Ⅲ期（14世紀後半～15世紀末）の旧河道が調査区の北西側を流れている段階の遺構出土のもの（ＮＲ01、SD09）、がある。

出土した植物遺体の構成

出土した試料は水洗した後、分別した。大型の植物遺体は、完形のものについて大きさを計測した(第14表～第16表)。

Ⅰ期の遺構であるＳＤ07において、モモ核、ウリ類種子、センダン核、オオムギ種実、タデ科Ａ種子（平面丸い鏃型、断面三角形、タデ科種子の中では大型のもの、長径4.0㎜前後）、オニグルミ堅果、キカラスウリ類似種種子、クリ堅果皮と長径2.0㎜～28.0㎜の比較的大型の植物遺体が検出された。同時期のＳＸ01では、スベリヒユ種子、ザクロソウ種子、カヤツリグサ科種子、コムギ？種子、ブドウ科種子、タデ科Ｂ（表面ザラザラした状態、長径1.5㎜前後、平面楕円形の鏃形、断面二等辺三角形）・Ｃ（長径1.5㎜強、平面下膨れ状の鏃形、断面薄い三角形）・Ｄ（表面ツルツルした状態、長径1.5㎜、平面丸い鏃形、断面丸みを帯びた三角形）種子など長径0.5㎜～4.0㎜の小型植物遺体が見つかった。その他の遺構から出土した植物遺体はモモ核とウメ核のみで、モモ核は全ての時期の遺構から出土しているが、ウメ核は97区において隣接するⅡ期の井戸ＳＥ02・ＳＥ03から集中して出土している。ＳＥ02から出土したモモ核ではウメ核よりは大型で他の遺構出土のモモ核に比べて小型のモモ核に類似したものが3点あり、それらを小型モモ核として扱った。

まとめ

Ⅰ期のＳＤ07から出土した植物遺体では、モモ核、クリ堅果皮、ウリ類種子、オオムギ種実といった栽培植物のもの、オニグルミ堅果、センダン核、キカラスウリ類似種種子の半栽培植物のもの、タデ科Ａ種子のような自然に生育したと思われるものがあり、ＳＤ07が寺院関連の区画溝と想定されていることから考えると、これらは区画の内側で営まれた活動の廃棄物によるものかと思われる。同時期のＳＸ01出土の植物遺体では、人家の近辺にはえる草本植物の痕跡を反映している可能性が高い。

同時期のＳＫ18、ＳＤ08下層、ＳＤ21において10個以上のモモ核が出土しているが、これらは固まって出土したわけではないので、人為的廃棄物なのか、近辺にあるモモの木の存在したことを示すのかは分からない。Ⅲ期の旧河道出土のモモ核についても同様である。

Ⅱ期のＳＥ02においてほぼ同一地点で出土しているウメ核についても、同様な可能性が残る。

No	年度	グリッド	遺構名	層序	日付	種別	残存状況・点数	長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	備考
1	96	ⅨJ8a	堤1		960524	モモ核	破片2				
2	96	ⅨJ8a	堤1		960528	モモ核	破片1				
3	96	ⅨJ8.9a	堤1		960528	モモ核	破片2				
4	96	ⅧI10t	南北トレンチ		960531	モモ核	完形1	28.0	18.0	17.0	
5	96	ⅧI9q	NR01	砂層	960610	モモ核	完形1	24.0	17.0	14.0	14世紀後半以後
6	96	ⅧI9s	NR01	上・中層	960611	モモ核	完形1	28.0	18.0	14.0	14世紀後半～15世紀末
7	96	ⅧI9s	NR01	上・中層	960611	モモ核	半分1				14世紀後半～15世紀末
8	96	ⅧI11z	SD01		960624	モモ核	完形1	18.0	15.0	12.0	14世紀前半
9-1	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	ウリ類種子	完形4				12世紀後半～13世紀初頭
9-2	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	ウリ類種子	完形9				12世紀後半～13世紀初頭
9-3	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	ウリ類種子	完形6				12世紀後半～13世紀初頭
10-1	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	センダン核	完形4	12.0	9.0	9.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-1	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	センダン核		10.0	7.0	5.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-1	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	センダン核		11.0	10.0	8.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-1	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	センダン核		10.0	6.0	8.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-1	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	モモ核	破片5				12世紀後半～13世紀初頭
10-2	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	オオムギ種実	完形4				12世紀後半～13世紀初頭
10-3	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	タデ科A種子	完形5	4.0	5.0	2.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-3	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	タデ科A種子		3.0	3.0	2.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-3	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	タデ科A種子		3.0	2.0	2.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-3	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	タデ科A種子		2.0	1.0	1.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-3	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	タデ科A種子		3.0	2.0	2.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-4	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	ウリ類種子	完形1				12世紀後半～13世紀初頭
10-5	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	タデ科A種子	完形1	6.0	6.0	3.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-6	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	タデ科A種子	完形1	5.0	4.0	3.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-7	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	タデ科A種子	完形1	4.0	2.0	2.0	12世紀後半～13世紀初頭
10-8	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	モモ核	破片1				12世紀後半～13世紀初頭
11-1	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	オニグルミ堅果	完形2	24.0	23.0	22.0	12世紀後半～13世紀初頭
11-1	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	オニグルミ堅果		27.0	22.0	21.0	12世紀後半～13世紀初頭
11-2	96	ⅧI15s	SD07	下層	960627	モモ核	完形1	28.0	22.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
12-1	96	ⅧI15t	SD07	下層	960627	ウリ類種子	完形17				12世紀後半～13世紀初頭
12-2	96	ⅧI15t	SD07	下層	960627	ウリ類種子	完形5				12世紀後半～13世紀初頭
13-1	96	ⅧI15t	SD07	下層	960627	モモ核	完形1				12世紀後半～13世紀初頭
13-1	96	ⅧI15t	SD07	下層	960627	モモ核	破片多数				12世紀後半～13世紀初頭
13-2	96	ⅧI15t	SD07	下層	960627	ウリ類種子	完形5				12世紀後半～13世紀初頭
13-3	96	ⅧI15t	SD07	下層	960627	キカラスウリ?種子	完形1	13.0	7.0	1.0	12世紀後半～13世紀初頭
14	96	ⅧI15qr	SD07		960701	クリ堅果皮	破片多数				12世紀後半～13世紀初頭
15-1	96	ⅧI15r	SD07		960701	クリ堅果皮	破片1				12世紀後半～13世紀初頭
15-2	96	ⅧI15r	SD07		960701	モモ核	完形2	23.0	15.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
15-2	96	ⅧI15r	SD07		960701	モモ核		23.0	16.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
15-2	96	ⅧI15r	SD07		960701	モモ核	半分1				12世紀後半～13世紀初頭
16-1	96	ⅧI15r	SD07		960701	オニグルミ堅果	完形1	22.0	19.0	20.0	12世紀後半～13世紀初頭
16-2	96	ⅧI15r	SD07		960701	モモ核	完形1	28.0	20.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
16-2	96	ⅧI15r	SD07		960701	樹木	破片多数				12世紀後半～13世紀初頭
16-3	96	ⅧI15r	SD07		960701	ウリ類種子	完形43				12世紀後半～13世紀初頭
17	96	ⅧI15r	SD07		960701	ウリ類種子	完形1	12.0	9.0	8.0	12世紀後半～13世紀初頭
18-1	96	ⅧI15r	SD07		960701	センダン核	破片6				12世紀後半～13世紀初頭
18-2	96	ⅧI15r	SD07		960701	ウリ類種子	完形1				12世紀後半～13世紀初頭
19-1	96	ⅧI15s	SD07		960701	センダン核	完形1	12.0	8.0	9.0	12世紀後半～13世紀初頭
19-2	96	ⅧI15s	SD07		960701	ウリ類種子	完形3				12世紀後半～13世紀初頭
20-1	96	ⅧI15s	SD07		960701	オニグルミ堅果	完形1	24.0	22.0	21.0	12世紀後半～13世紀初頭
20-2	96	ⅧI15s	SD07		960701	モモ核	完形1	25.0	18.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
20-3	96	ⅧI15s	SD07		960701	樹木	破片1				12世紀後半～13世紀初頭
21	96	ⅧI16qr	SD07		960701	センダン核	完形5	11.0	9.0	9.0	12世紀後半～13世紀初頭
21	96	ⅧI16qr	SD07		960701	センダン核		10.0	7.0	7.0	12世紀後半～13世紀初頭
21	96	ⅧI16qr	SD07		960701	センダン核		10.0	8.0	8.0	12世紀後半～13世紀初頭
21	96	ⅧI16qr	SD07		960701	センダン核		11.0	7.0	8.0	12世紀後半～13世紀初頭
21	96	ⅧI16qr	SD07		960701	センダン核		10.0	7.0	6.0	12世紀後半～13世紀初頭
22	96	ⅧI15s	SD07		960702	クリ堅果皮	破片多数				12世紀後半～13世紀初頭
23	96	ⅧI17r	SD09		960703	モモ核	完形1	26.0	18.0	15.0	14世紀後半以後
24	96	ⅧI10r	NR01	中・上層	960710	モモ核	半分1				[illegible]あり,14世紀後半～15世紀末
24	96	ⅧI10r	NR01	中・上層	960710	モモ核	破片1				14世紀後半～15世紀末
25	96	ⅧI9s	NR01	中・上層	960712	モモ核	完形2	26.0	21.0	16.0	14世紀後半～15世紀末
25	96	ⅧI9s	NR01	中・上層	960712	モモ核		25.0	18.0	13.0	14世紀後半～15世紀末
26	96	ⅧI9s	NR01	下層北溝	960715	モモ核	破片2				13世紀前半
27	96	ⅧI9t	NR01	中・上層	960715	モモ核	完形2	24.0	17.0	15.0	14世紀後半～15世紀末
27	96	ⅧI9t	NR01	中・上層	960715	モモ核		24.0	18.0	12.0	14世紀後半～15世紀末
27	96	ⅧI9t	NR01	中・上層	960715	モモ核	破片1				14世紀後半～15世紀末
28	96	ⅧI10q	NR01	下層南溝	960715	モモ核	完形1	24.0	19.0	13.0	13世紀前半
29	96	ⅧI8.9s	NR01	下層北溝	960717	モモ核	完形3	24.0	20.0	16.0	13世紀前半
29	96	ⅧI8.9s	NR01	下層北溝	960717	モモ核		24.0	16.0	16.0	13世紀前半
29	96	ⅧI8.9s	NR01	下層北溝	960717	モモ核		30.0	20.0	16.0	13世紀前半
30	96		SE04		960722	モモ核	完形5	26.0	20.0	14.0	土坑、12世紀末
30	96		SE04		960722	モモ核		24.0	20.0	15.0	土坑、12世紀末
30	96		SE04		960722	モモ核		24.0	20.0	15.0	土坑、12世紀末
30	96		SE04		960722	モモ核		22.0	19.0	13.0	土坑、12世紀末
30	96		SE04		960722	モモ核		22.0	18.0	14.0	土坑、12世紀末
30	96		SE04		960722	モモ核	半分2				土坑、12世紀末
31	96		SE04		960723	モモ核	完形1	26.0	20.0	15.0	土坑、12世紀末
32	96		SE05		960724	モモ核	完形2	26.0	20.0	17.0	14世紀前半
32	96		SE05		960724	モモ核		25.0	16.0	14.0	14世紀前半
33	96		SE05		960725	モモ核	完形1	26.0	19.0	15.0	14世紀前半
34	96	ⅨJ5b	堤1		960725	モモ核	破片1				
35	96	ⅨJ6a	SD21		960726	モモ核	完形3	28.0	22.0	17.0	12世紀後半～13世紀初頭
35	96	ⅨJ6a	SD21		960726	モモ核		24.0	17.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
35	96	ⅨJ6a	SD21		960726	モモ核		25.0	19.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
35	96	ⅨJ6a	SD21		960726	モモ核	半分1				12世紀後半～13世紀初頭
35	96	ⅨJ6a	SD21		960726	モモ核	半分2,破片2				12世紀後半～13世紀初頭
36	96	ⅨJ6c	SD21		960726	モモ核	完形2	23.0	17.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
36	96	ⅨJ6c	SD21		960726	モモ核		22.0	17.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
37	96	ⅨJ7b	SD21		960729	モモ核	破片2				12世紀後半～13世紀初頭
38	96	ⅨJ7c	SD21		960729	モモ核	少し欠損1				12世紀後半～13世紀初頭
39-1	96	ⅨJ7cd	SD21		960729	モモ核	完形2	26.0	19.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
39-1	96	ⅨJ7cd	SD21		960729	モモ核		30.0	20.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
39-1	96	ⅨJ7cd	SD21		960729	モモ核	半分3				12世紀後半～13世紀初頭
39-2	96	ⅨJ7cd	SD21		960729	木炭	破片2				12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核	完形12	23.0	19.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		23.0	18.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		26.0	19.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		24.0	19.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		28.0	18.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		24.0	18.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		23.0	18.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		24.0	16.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		22.0	18.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	ⅨJ6b	SD21		960730	モモ核		23.0	17.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭

第14表　植物遺体一覧表1

96-10-3 センダン種子（×3.75）

96-13-3 ウリ科種子（×7.5）

96-62 カヤツリグサ科種子（×30）

No	年度	グリッド	遺構名	層序	日付	種類	残存状況・点数	長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	備考
40-1	96	IXJ6b	SD21		960730	モモ核		21.0	14.0	9.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	IXJ6b	SD21		960730	モモ核		20.0	15.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
40-1	96	IXJ6b	SD21		960730	モモ核	破片4				12世紀後半～13世紀初頭
40-2	96	IXJ6b	SD21		960730	木炭	破片2				12世紀後半～13世紀初頭
41	96	IXJ6b	SD21		960731	モモ核	完形3	20.0	14.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
41	96	IXJ6b	SD21		960731	モモ核		28.0	22.0	16.0	12世紀後半～13世紀初頭
41	96	IXJ6b	SD21		960731	モモ核		20.0	16.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
41	96	IXJ6b	SD21		960731	モモ核	破片2				12世紀後半～13世紀初頭
42	96		SD21		960808	モモ核	完形1	24.0	19.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
43	96		SD21		960808	モモ核	完形1	27.0	21.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
44	96		SK18	中層	960809	モモ核	完形1	25.0	18.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
45	96		SD21		960809	モモ核	完形3	24.0	19.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
45	96		SD21		960809	モモ核		24.0	13.0	10.0	12世紀後半～13世紀初頭
45	96		SD21		960809	モモ核		23.0	15.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
46	96		SK18	下層	960819	モモ核	完形5	24.0	17.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
46	96		SK18	下層	960819	モモ核		24.0	16.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
46	96		SK18	下層	960819	モモ核		24.0	18.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
46	96		SK18	下層	960819	モモ核		21.0	16.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
46	96		SK18	下層	960819	モモ核		19.0	15.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
47-1	96		SK18	下層	960819	モモ核	完形1	24.0	17.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
47-2	96		SK18	下層	960819	木炭	破片3				12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核	完形10	27.0	21.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		15.0	16.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		23.0	17.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		28.0	21.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		23.0	18.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		23.0	15.0	8.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		21.0	18.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		23.0	17.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		23.0	18.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核		23.0	16.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
48-1	96		SK18	下層	960820	モモ核	破片1				12世紀後半～13世紀初頭
48-2	96		SK18	下層	960820	木炭	破片4				12世紀後半～13世紀初頭
49	96		SK19		960820	モモ核	完形1	25.0	18.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
50-1	96		SK30	下層	960820	モモ核	完形1	27.0	19.0	12.0	12世紀後半
50-2	96		SK30	下層	960820	木炭	破片多数				12世紀後半
51	96		SD21		960820	モモ核	完形1	25.0	19.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
52	96		SX04	P5	960823	モモ核	完形1	23.0	18.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
53	96			攪乱	960830	モモ核	完形1	23.0	17.0	14.0	
53	96			攪乱	960830	ヒシ果皮	破片1				
54	96		SK18	上層	960902	モモ核	破片2				12世紀後半～13世紀初頭
55	96		SK18	下層	960902	モモ核	完形1	23.0	16.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
56	96		SK18	上層	960903	モモ核	完形1	27.0	18.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
57	96	Ⅷ9r	NR01	中・上層	960819	モモ核	半分1				14世紀後半～15世紀末
58	96		SK18	下層	960826	モモ核	完形5	27.0	21.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
58	96		SK18	下層	960826	モモ核		24.0	18.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
58	96		SK18	下層	960826	モモ核		22.0	17.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
58	96		SK18	下層	960826	モモ核		23.0	18.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
58	96		SK18	下層	960826	モモ核		23.0	18.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
59	96		SE05		960730	モモ核	半分2,破片2				14世紀前半
60	96		SK18		960730	モモ核	完形1	23.0	16.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
60	96		SK18		960730	モモ核	破片4				12世紀後半～13世紀初頭
61	96		SK18	下層	960904	モモ核	完形3	26.0	20.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
61	96		SK18	下層	960904	モモ核		22.0	18.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
61	96		SK18	下層	960904	モモ核		23.0	18.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	タデ科B種子	17	1.5			12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	タデ科C種子	71	1.5			12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	カヤツリグサ科種子	3	2.5			12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	炭化材					12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	コムギ?種子	2	4.0	3.0	2.0	[illegible]12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	樹木片					12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	スベリヒユ	3	0.5			12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	スゲ属	2	2.0			12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	ブドウ科種子	1	1.5			12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	タデ科D種子	1	1.5			12世紀後半～13世紀初頭
62	96		SX01	炭化物層	960717	ザクロソウ種子	1	0.5			[illegible]12世紀後半～13世紀初頭
1	97	IXI8r	SD08	中層	980128	モモ核	完形4	18.0	12.0	9.5	13世紀前半
2-1	97	IXI8r	SD08	下層	980129	モモ核	完形1	29.5	18.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
2-2	97	IXI8r	SD08	下層	980129	モモ核	完形4	21.0	16.0	12.0	12世紀後半～13世紀初頭
3	97	IXI8s	SD08	下層	980128	モモ核	完形5	27.0	19.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
3	97	IXI8s	SD08	下層	980128	モモ核		25.0	14.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
3	97	IXI8s	SD08	下層	980128	モモ核		27.0	20.0	15.0	12世紀後半～13世紀初頭
3	97	IXI8s	SD08	下層	980128	モモ核		31.0	17.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
3	97	IXI8s	SD08	下層	980128	モモ核		22.0	18.0	14.0	12世紀後半～13世紀初頭
3	97	IXI8s	SD08	下層	980128	モモ核	半分2				12世紀後半～13世紀初頭
4	97	IXI8s	SD08	下層	980129	モモ核	完形1	22.5	15.5	10.5	12世紀後半～13世紀初頭
5	97	IXI8s	SD08	下層	980219	モモ核	完形2	26.5	20.0	13.0	12世紀後半～13世紀初頭
5	97	IXI8s	SD08	下層	980219	モモ核		20.5	15.0	11.0	12世紀後半～13世紀初頭
6	97	IXI7s	SE02		980109	ウメ核	完形1	12.0	10.0	6.0	13世紀後半
7	97	IXI7s	SE02		980126	ウメ核	完形5	14.0	9.0	6.0	13世紀後半
7	97	IXI7s	SE02		980126	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
7	97	IXI7s	SE02		980126	ウメ核		13.0	9.0	8.0	13世紀後半
7	97	IXI7s	SE02		980126	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
7	97	IXI7s	SE02		980126	ウメ核		11.0	9.0	6.0	13世紀後半
7	97	IXI7s	SE02		980126	モモ核	半分1				13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核	完形59	12.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		13.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	10.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	10.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	IXI7s	SE02		980127	ウメ核		13.0	9.0	6.0	13世紀後半

第15表　植物遺体一覧表2

96-62 スベリヒユ種子（×40）

96-62 スゲ属種子（×20）

96-62 タデ科D（×20）

No	年度	グリッド	遺構名	層序	日付	種別	残存状況・点数	長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	備考
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		10.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		13.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		13.0	9.0	8.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	10.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	10.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	10.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		10.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	10.0	8.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		10.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		10.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	7.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	10.0	8.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		13.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		10.0	7.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		11.0	8.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		13.0	9.0	7.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	10.0	6.0	13世紀後半
8-1	97	ⅨI7s	SE02		980127	ウメ核		12.0	8.0	7.0	13世紀後半
8-2	97	ⅨI7s	SE02		980127	小型モモ核	完形2	14.0	11.0	9.0	13世紀後半
8-2	97	ⅨI7s	SE02		980127	小型モモ核		17.0	11.0	10.0	13世紀後半
8-3	97	ⅨI7s	SE02		980127	樹木枝	4本				13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核	完形13	12.0	9.0	6.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		12.0	9.0	7.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		12.0	9.0	6.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		11.0	8.0	6.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		11.0	9.0	7.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		12.0	9.0	6.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		10.0	8.0	7.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		10.0	9.0	6.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		12.0	8.0	7.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		11.0	8.0	7.0	13世紀後半
9-1	97	ⅨI8t	SE02		980107	ウメ核		11.0	8.0	6.0	13世紀後半
9-2	97	ⅨI8t	SE02		980107	小型モモ核		17.0	12.0	10.0	13世紀後半
10	97	ⅨI8t	SE02		980107	不明	破片1				13世紀後半
11	97	ⅨI8t	SE03		980109	ウメ核	完形1	12.0	8.0	7.0	13世紀後半
11	97	ⅨI8t	SE03		980109	ウメ核	半分2				13世紀後半
12	97	ⅨI8t	SE03	下層	980113	モモ核	半分1,破片				13世紀後半
13	97	ⅨI8t	SE03	下層	980202	モモ核	完形1	26.0	16.0	11.0	13世紀後半
13	97	ⅨI8t	SE03	下層	980202	モモ核	半分1,破片				13世紀後半
14-1	97	ⅨI8t	SE03	下層	980203	モモ核	完形1	25.0	16.0	11.5	13世紀後半
14-2	97	ⅨI8t	SE03	下層	980203	モモ核	完形1	17.0	12.0	8.0	13世紀後半
14-2	97	ⅨI8t	SE03	下層	980203	モモ核	半分1				13世紀後半
15	97	ⅨI8t	SE03		980209	モモ核	完形1	23.5	17.0	7.5	13世紀後半
16	97	ⅨJ16n	SK104		980219	モモ核	破片2				13世紀前半
17	97	ⅨJ11a	SE01		980107	モモ核	半分2				14世紀前半
18	97	ⅨJ12a	SE01		980109	モモ核	完形1	22.5	15.5	11.0	14世紀前半
19	97	ⅨJ14c	SD04		980107	モモ核	完形1	25.0	18.0	12.0	13世紀前半
19	97	ⅨJ14c	SD04		980107	モモ核	破片1				13世紀前半
20	97	ⅨJ16l	SK104		980227	モモ核	半分1				13世紀前半
21	97	ⅨJ18e	SD24		980311	モモ核	完形1	26.0	18.5	14.0	13世紀前半
22-1	97	ⅨJ16e	SK104		980309	モモ核	完形2	25.0	16.5	11.0	13世紀前半
22-1	97	ⅨJ16e	SK104		980309	モモ核		21.5	15.0	10.0	13世紀前半
22-2	97	ⅨJ16e	SK104		980309	モモ核	完形1	21.5	19.0	14.0	13世紀前半
23	97	ⅧI8k	NR01	灰色粘土層	971205	モモ核	完形1	25.0	16.0	12.0	14世紀後半～15世紀末
23	97	ⅧI8k	NR01	灰色粘土層	971205	モモ核	破片2				14世紀後半～15世紀末
24	97	ⅧI9k	NR01	灰色粘土層	971209	モモ核	完形1	26.5	17.5	12.0	14世紀後半～15世紀末
25	97	ⅧI9l	NR01	灰色粘土層	971205	モモ核	完形1	26.5	19.0	10.5	14世紀後半～15世紀末
26	97	ⅧI9m	NR01	灰色粘土層	980109	モモ核	完形1	23.0	18.0	11.0	14世紀後半～15世紀末
26	97	ⅧI9m	NR01	灰色粘土層	980109	モモ核	破片2				14世紀後半～15世紀末
27	97	ⅧI10l	NR01	灰色粘土層	980114	モモ核	半分1				14世紀後半～15世紀末
28	97	ⅧI10l	NR01	灰色粘土層	980122	マツ球果	完形1				14世紀後半～15世紀末
29	97	ⅧI10l	NR01	砂層	971205	モモ核	半分2				14世紀後半以後
30	97	ⅧI10m	NR01	砂層	980109	モモ核	完形1	23.5	17.0	13.0	14世紀後半～15世紀末
30	97	ⅧI10m	NR01	砂層	980109	モモ核	半分1				14世紀後半～15世紀末
31	97	ⅧI10m	NR01	灰色粘土層	980113	モモ核	完形1	24.0	13.0	12.0	14世紀後半～15世紀末
32	97	ⅧI10m	NR01	灰色粘土層	980127	モモ核	完形1	24.0	16.0	12.0	14世紀後半～15世紀末
32	97	ⅧI13m	NR01	灰色粘土層	980127	モモ核	破片1				14世紀後半～15世紀末
33	97	ⅧI13m	NR01	灰色粘土層	971218	モモ核	完形1	22.5	17.0	12.0	14世紀後半～15世紀末
34	97	ⅧI15m	NR01	灰色粘土層	980106	モモ核	完形1	28.0	20.0	14.5	14世紀後半～15世紀末
35	97	ⅧI16m	NR01	灰色粘土層	971224	モモ核	完形1	23.0	18.0	14.0	14世紀後半～15世紀末
36	97	ⅧI16o	NR01	灰色粘土層	971222	モモ核	破片2				14世紀後半～15世紀末
37-1	97	ⅧI9m	NR01	灰色粘土層	980109	昆虫遺体	1				14世紀後半～15世紀末
37-2	97	ⅧI9m	NR01	灰色粘土層	980109	昆虫遺体	1				14世紀後半～15世紀末
38-1	97	ⅧI10m	NR01	灰色粘土層	980113	骨、牙	1				14世紀後半～15世紀末
38-2	97		NR01			骨	1				14世紀後半～15世紀末

第16表　植物遺体一覧表3

96-62 ザクロソウ種子（×40）

(4) 愛知県下津北山遺跡から産出した昆虫化石の語るもの

森　勇一（愛知県立明和高等学校）

はじめに

遺跡包含層から得られた昆虫化石（昆虫遺体ともいう）群集が，遺跡が成立していた頃の周辺環境や植生・人の居住の多寡などの様子を探る手がかりになることについては，わが国のみならず諸外国においても多くの研究例がある。

昆虫の種数が多く棲み分けが明瞭であることや，昆虫の食性がきわめて多様であることは，環境復元の際，重要な武器となる。一方で，昆虫の種数が多いことは，種を同定するうえで困難さを伴い，現生の昆虫分類学では，目（Order）や科（Family）・属(Genus)などのレベルでそれぞれ同定者を異にすることが多い。

昆虫の同定は，究極的には交尾器（Genital organ）の外部形態と，DNAによる系統解析が主流となりつつある。五体満足に揃った成虫の分類においてすらこのありさまなのだから，先史～歴史時代における遺跡産昆虫や，地質時代の昆虫化石の分類・同定に取り組む研究者がなかなか生まれないことはよく理解できる。

遺跡の発掘現場では，条件さえ整えば昆虫化石は必ずといってよいほど保存されている。そして，これらが同定されれば他のどんな生物化石より，古環境について雄弁に語ることができるのも事実なのである。遺跡から発見される限られた体節片から，同定上必要な情報をいかに的確に読みとり分類・同定に役立てていくか，このことが昆虫考古学を進めるうえで最も腐心するところである。

分析試料

ここに述べるのは，愛知県稲沢市下津北山遺跡の溝（SD07)中から発見されたものである。溝の幅は約3m，深さは最大1m前後であったという。これまでの発掘調査の成果から，本溝が機能していた時代は，考古遺物などより中世前半（12世紀後半）とされている。この溝は，僧坊や寺院に伴うものであったとされるが，定かなことは明らかになっていない。

遺跡は，木曽川水系青木川右岸の自然堤防と同水系三宅川左岸の自然堤防にはさまれた位置に所在し，表層地質は砂ないし砂質シルトに覆われている。

分析試料は，主にSD07下層の灰褐色シルト層中より採取したものである。検出に供した分析試料の湿潤重量は，12.5kgであった。

分析結果

分析試料中より確認された昆虫化石は，計31点であった（表17および表18)。水生昆虫では食植性のガムシ *Hydrophilus acuminatus*が1点，地表性昆虫では食肉性のオオゴミムシ *Lesticus magnus* が1点，主に食肉性であるが雑食性の種群をも含むオサムシ科 Carabidae が3点，オサムシ科とよく似た生態を有するハネカクシ科 Staphylinidae と不明甲虫のほかは，すべて陸生甲虫であった。

なかでも最も多く認められたのがヒメコガネ *Anomala rufocuprea*（17点）であり，これにサクラコガネ属 *Anomala sp.*（2点）とマメコガネ *Popillia japonica*（1点）が伴われた。主に食植性だが種によって肉食のものもあるとされるコメツキムシ科 Elateridae（2点）と，

幼虫が主として土壌中に生息することから地表面上で見ることが多いサビキコリ *Agrypnus binodulus*（1点）が検出された。

推定される古環境

昆虫化石の検出点数が少なく，そこから多くの情報を引き出すことは困難であるが，下津北山遺跡の中世の溝（SD07)内から検出された昆虫群集は，従来濃尾平野内の大毛沖遺跡（森，1996）や大毛池田遺跡（森，1997a）などをはじめ，同時代（中世）における日本各地の溝や土坑中より得られた群集組成ときわめてよく共通するものであるといえる。

すなわち，成虫がマメ科植物や果樹・各種畑作物の葉を加害し，幼虫がこれらの根を食害する畑作指標昆虫としてのヒメコガネの多産は，わが国の中世（鎌倉時代～室町時代）の昆虫群集の特徴である（森，1997b)。そして，同様の生態を有するマメコガネやサクラコガネ属が本遺跡の昆虫群集に伴われたことは，こうした共通性をさらに補強するものである。

畑作指標昆虫が，下津北山遺跡の溝中から産出したことは，畑作物が遺跡周辺に植栽されていたことを強く示唆するものであるが，同時に中世の人々が山林開発を精力的に行ったことの反映でもあることは，筆者がこれまで述べてきたとおりである（森，1997b)。このような食植性昆虫は，本来，山林や雑木林内の林縁部を構成する小灌木などの葉を加害していたが，人々が人家周辺に果樹や畑作物を多数植栽したことにより，これらを加害するようになったと推定される。

食植性・水生昆虫であるガムシの産出は，溝内に水生植物が繁茂していたことを示している。

大型の地表性歩行虫であるオオゴミムシの発見は，地表にこれらのエサになるミミズや多足類などが多数生息していたことを示唆するものである。乾燥した攪乱地表面上に多く，オオゴミムシ同様，各種小動物をを捕食することが多いサビキコリが検出されたことも，下津北山遺跡一帯の地表環境を推定するのに有効である。少数ながら，エサを求め地表面上を徘徊するオサムシ科やハネカクシ科が昆虫群集に伴われたことは，当時の古環境を考えるうえで興味深いものである。今回は発見されなかったが，おそらく周辺地域には各種の食糞性昆虫が生息していたであろうし，セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis* やオサムシ類など，畑作地に多い地表性歩行虫も溝付近に多数定着していたことは想像に難くない。

おそらく遺跡周辺の植生は少なく，人間の植栽した畑作物や果樹などがわずかに繁茂していたのみであったと考えられる。

文献

森　勇一（1996）愛知県一宮市大毛沖遺跡から得られた昆虫群集について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第66集）大毛沖遺跡，愛知県埋蔵文化財センター，188-194.
森　勇一（1997a）畑作農村地帯を特徴づける愛知県大毛池田遺跡（中世）の食植性昆虫について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第72集）大毛池田遺跡，愛知県埋蔵文化財センター，139-143.
森　勇一（1997b）虫が語る日本史－昆虫考古学の現場から－（2）．インセクタリウム，　2．10-17.

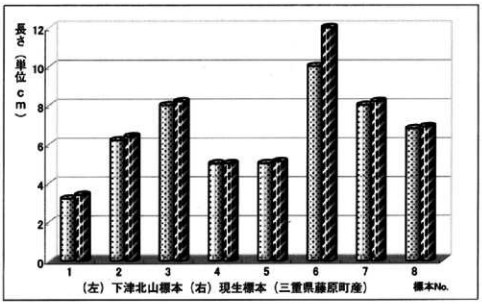
第17表　下津北山遺跡から産出した昆虫化石

生態		和名	学名	試料1	試料2	合計
水生	食植性	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* Motschulsky		E1	1
地表生	雑食性	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)		E1	1
		オサムシ科	Carabidae	T1 E1 L1		3
		ハネカクシ科	Staphylinidae	H1 E1		2
陸生	食植性	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	L1 O1		2
		ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	P1 A1 T1 E6	E8	17
		マメコガネ	*Popillia japonica* Newmann	E1		1
		コメツキムシ科	Elateridae	T1 E1		2
		サビキコリ	*Agrypnus binodulus* (Motschulsky)	T1		1
		不明甲虫	Coleptera	O2		2
Total				22	10	32

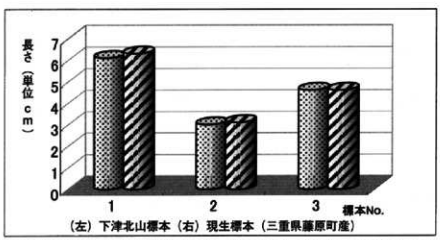
（検出部位凡例）
H(Head)：頭　部　P(Pronotum)：前胸背板　E(Elytron)：鞘　翅　T(Thorax)：胸　部
A(Abdomen)：腹　部　L(Leg)：腿脛節　O(Others)：その他

第18表　下津北山遺跡から産出した昆虫化石

No	和名	学名	部位	生息地	食性	計測値(mm)	写真No.	遺構名
1	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L1.8 W1.2		SD07(下層)
2	オサムシ科	Carabidae	中胸腹板	地表性	雑食性	L3.0 W2.2		SD07(下層)
3	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L1.4 W1.1		SD07(下層)
4	サビキコリ	*Agrypnus binodulus* (Motschulsky)	前胸腹板	好植性	食植性	W4.0 H2.8	写真7	SD07(下層)
5	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L3.2 W2.8		SD07(下層)
6	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	中胸側板	好植性	食植性	L6.1 W2.2		SD07(下層)
7	不明甲虫	Coleptera	部位不明	不明	不明	L4.0 W2.2		SD07(下層)
8	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L1.8 W1.0		SD07(下層)
9	コメツキムシ科	Elateridae	前胸背板	好植性	食植性	L1.6 W1.2		SD07(下層)
10	マメコガネ	*Popillia japonica* Newmann	左鞘翅	好植性	食植性	L5.2 W3.0	写真6	SD07(下層)
11	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L3.2 W2.5		SD07(下層)
12	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	腹部腹板	好植性	食植性	L3.0 W2.6		SD07(下層)
13	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	部位不明	好植性	食植性	L2.0 W1.8		SD07(下層)
14	不明甲虫	Coleptera	部位不明	不明	不明	L1.0 W0.8		SD07(下層)
15	オサムシ科	Carabidae	鞘翅片	地表性	雑食性	L2.8 W2.0		SD07(下層)
16	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L1.6 W0.6		SD07(下層)
17	ハネカクシ科	Staphylinidae	鞘翅片	地表性	雑食性	L2.4 W1.8		SD07(下層)
18	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	前胸背板	好植性	食植性	L4.6 W2.9		SD07(下層)
19	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腿節	好植性	食植性	L2.8 W0.8		SD07(下層)
20	オサムシ科	Carabidae	脛節	地表性	雑食性	L3.0 W1.0		SD07(下層)
21	ハネカクシ科	Staphylinidae	頭部	地表性	雑食性	L1.4 W1.2		SD07(下層)
22	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L6.2 W4.0		SD07VIII17r
23	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L8.0 W6.2		SD07VIII17r
24	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* Motschulsky	左鞘翅	水生	食植性	L24.0 W11.5	写真1	SD07VIII17r
25	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	右鞘翅	好植性	食植性	L5.0 W4.5		SD07VIII17r
26	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	右鞘翅	好植性	食植性	L5.0 W4.6	写真3	SD07VIII17r
27	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	鞘翅片	好植性	食植性	L3.0 W2.2		SD07VIII17r
28	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	右鞘翅	好植性	食植性	L10.0 W5.2	写真2	SD07VIII17r
29	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	左鞘翅	地表性	雑食性	L12.5 W5.6	写真4.5	SD07VIII17r
30	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	左鞘翅	好植性	食植性	L8.0 W6.0		SD07VIII17r
31	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	左鞘翅	好植性	食植性	L6.8 W4.2		SD07VIII17r



第57図　下津北山遺跡から産出したヒメコガネ（鞘翅）と現生標本の同一部位の大きさ比較



第58図　下津北山遺跡から産出したヒメコガネ（鞘翅以外）と現生標本の同一部位の大きさ比較

下津北山遺跡の中世の遺物包含層より産出したヒメコガネ Anomala rufocuprea の鞘翅（上翅）およびそれ以外の部位（前胸背板など）について、（三重県藤原町産）と同一部位の大きさを計測し比較した結果、いずれの部位においても、現生標本の方がわずかに大きいか、ほぼ同サイズであることが分かった。

遺跡産出昆虫は、時間が経過し収縮した可能性があるものの、個体の大きさは中世におけるヒメコガネの大増殖との関連で興味深い事実を提供する可能性がある。

第5章 考察

(1) 遺跡の変遷とその特質

1、遺構の変遷と空間利用

ここでは遺跡の特質を明らかにするために、遺構の変遷過程を整理し、遺物の組成と分布を参考にしつつ、各時期における空間利用の実態についても触れておく。

古代以前

古代以前（古墳時代～古代）

Ⅰ期の遺構に先行する小規模な溝が調査区北半を中心に検出されている。溝の埋土はⅢ層（暗褐色粘質シルト）と同様である。これらは明確な方向性をもたず、自然流路付近では地形に規制されているようすが看取される。また、97区ＳＤ13からはＳ字甕（Ｄ類）の破片がややまとまって出土しているものの、他の溝から遺物はまったく出土していない。これらを人為的に掘削された遺構として積極的に評価する材料はきわめて乏しいといえる。

Ⅰ期

Ⅰａ期 方形区画の出現

Ⅰａ期は灰釉系陶器猿投窯編年Ⅶ期第２型式からⅧ期第３型式古段階、12世紀後半、なかでもその前半段階が相当する。

古代以前には人びとの活動の痕跡がまったく認められなかった荒無地に、幅５ｍ前後の溝による不定型な方形区画が突如として出現する。不定型な方形、つまり東西位を維持する北溝と南溝とは対照的に、西溝が方位をやや西に振って設定され、なおかつ西溝が途切れる区画の特異な形状については、区画の西に面した自然流路との関係をまずは考慮する必要があろう。つまり、流路からの出入口として区画の一部を開放し、遺構がまったく確認されない出入口付近により広い空間地を確保する意図があったものと考えられる。また、区画溝の北西隅に遺棄された人形木製品や常滑産小瓶は、その出土状況から、方形区画の設置にかかわる祭儀の痕跡として解釈しておきたい。

一方、この時期の区画内部の遺構については不明確な部分が多い。区画内には建物として復原されなかった柱穴も多数存在するので、建物が存在した可能性はあるものの、いずれにしても区画内で日常生活に直結するような遺構はほとんどみられない。このとき注視しておきたいのは96区ＳＫ30、そしてそこに廃棄された遺物の内容である。

96区ＳＫ30では、中世猿投窯、あるいは常滑窯産の多様な器種が廃棄されており、なかには中世猿投窯、常滑窯発生産の初現期（猿投窯編年Ⅷ期第１～３型式、常滑窯編年１ｂ期）の製品も含まれていた。そのなかに水注などの仏器類が含まれていることは、方形区画の性格を考えるうえで示唆に富む。96区ＳＫ30の土器組成の比率をみても、他の遺構に比して土師器鍋、土師器Ⅲの比率がきわめて低く、遺構、あるいはⅠａ期の特異な様相を反映したものとなっている。

Ⅰb期 区画内部の整備

Ⅰb期は灰釉系陶器猿投窯編年Ⅶ期第3型式古段階からⅦ期第3型式新段階、12世紀後半から13世紀初頭に相当する。なお、Ⅰa期とⅠb期の遺構の細分は、ＳＢ01が96区ＳＫ30と重複すること、なおかつ96区ＳＫ30、96区ＳＸ02に廃棄された常滑産大甕（404、405）や猿投産広口瓶（415）と接合する破片が柱の根固めとして用いられていることに拠っている。

Ⅰa期のうちに持ち込まれた豊富な器種からなる陶器の一群が96区ＳＫ30に廃棄された直後、7間×3間のＳＢ01を中核とした掘立柱建物群が区画内に出現する。これらの建物は柱筋を一致させていることから、計画的に配置されたものとみなしうる。方形区画の方位と建物群の方位は一見して異なるが、これは両者が成立する微妙な先後関係に帰せられるものと理解したい。

また、建物群の配置にともなって96区ＳＤ13が掘削される。この溝は柱穴密集域の北縁を96区ＳＡ01に沿って通じ、方形区画西溝の南端にとりつくことから、排水溝として機能したと考えられるが、区画内の空間を溝以南と溝以北とに分割する意図も大きかったものと推測できる。96区ＳＤ13以北の空間の利用について、遺構配置からはそれを明らかにする手だてを欠くが、96区ＳＸ01を中心に大小の土師器脚付皿（51、365、368～373）がややまとまって出土することを想起すれば、やや特殊な空間利用を考えておくことも可能であろう。実際に96区ＳＸ01の近辺は、他の土器の出土量との比較において土師器皿の出土量が目立つ傾向にあるから、建物群の近辺とは性格を異にしていたことは間違いなかろう。

これらの建物の性格としては、その規模や構造、あるいは「僧」、「佛」といった仏教に関連した墨書、あるいは陶硯、緑釉円塔の存在から、僧侶が参画した法会などの仏教的行事、儀礼に関連づけることが妥当であろう。より具体的には、ＳＢ01が僧侶らの活動する講堂、その前面の広場は庭儀の執行、あるいは参列者のための空間と解しておきたい。96区ＳＤ08から出土した木簡に、法会に関連した内容が記されていた可能性も十分にあるが、今回はそれを明らかにするまでには至らなかった。また、建物周辺で消費された（尾張型）灰釉系陶器椀皿の膨大な量からすれば、その活動はきわめて活発であったとみられる。

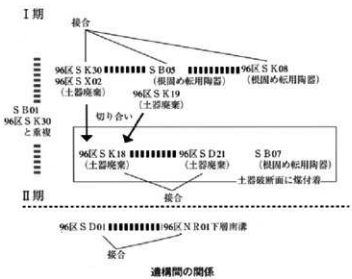
その建物群は短期間のうちに廃絶し、ＳＢ01の正面の96区ＳＫ18と96区ＳＤ21には大量の土器が廃棄される。廃棄された土器のなかには、破断面に煤が付着するものも多いことから、建物群廃絶の原因として、火災による建物の焼亡も有力視されよう。

Ⅱ期

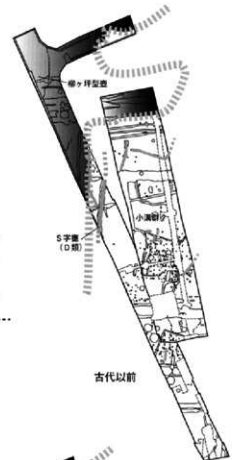
Ⅱa期 方形屋敷地の出現

Ⅱa期は瀬戸窯編年第6型式（猿投窯編年Ⅶ期第1型式・東濃窯編年白土原窯式）、13世紀前半が相当。なお、猿投窯編年Ⅶ期第3型式終末段階もⅡa期に含めて理解している。

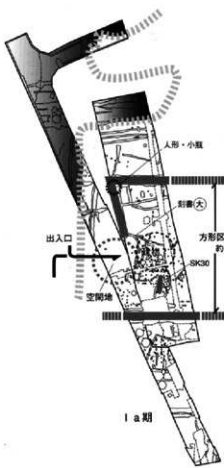
Ⅱa期として把握される遺構は少ない。方形区画をはじめとするⅠ期の遺構は、この段階までには機能が停止、埋没も進行し、わずかな窪み程度を維持する程度になっていたものとみられる。ＳＢ06は方形区画より南に位置し、Ⅰb期の建物方位を踏襲し、Ⅰ期の火



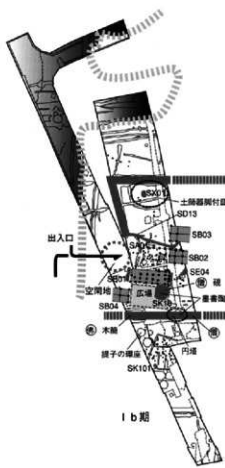
遺構間の関係



古代以前

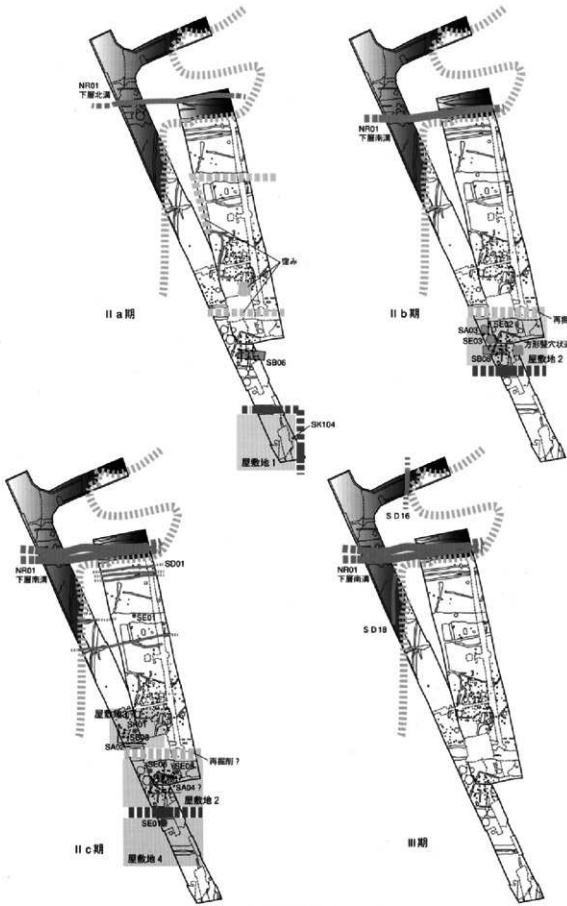


Ⅰａ期

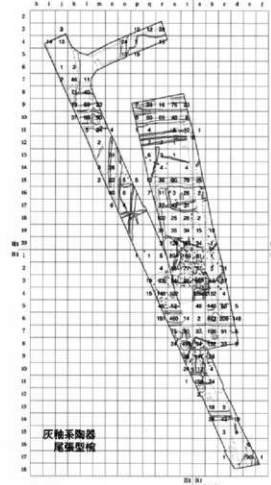


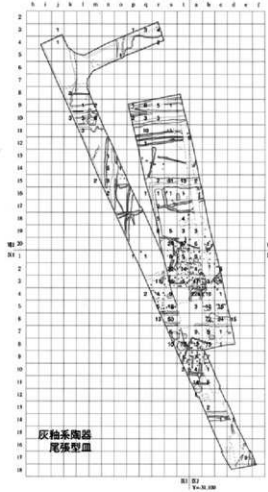
Ⅰｂ期

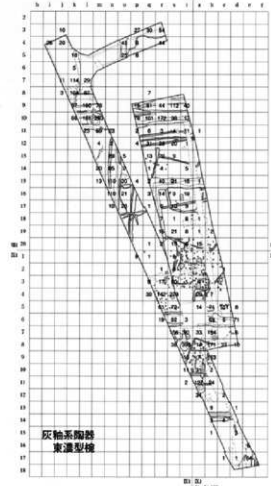
第59図　遺構の変遷１（１：1500）

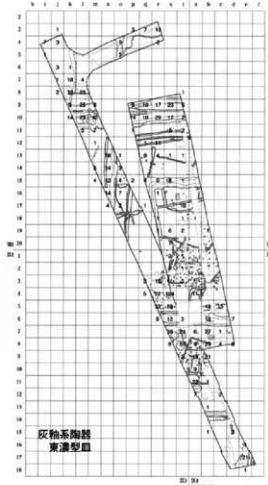


第60図　遺構の変遷2（1：1500）

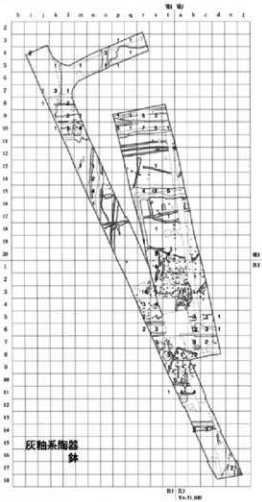


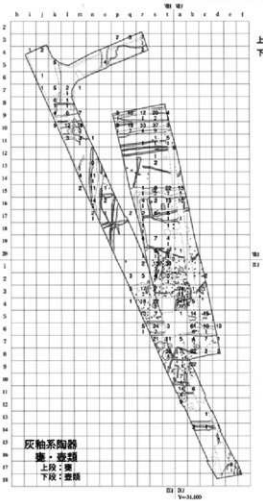


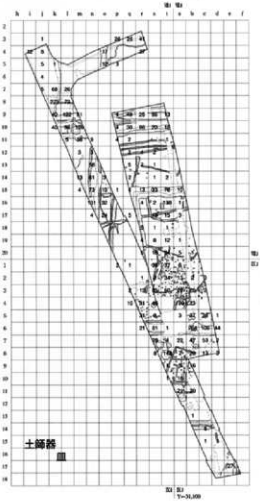


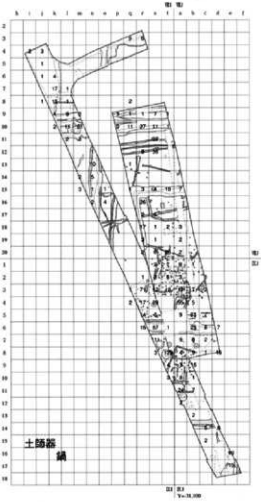


第61図　遺物出土分布1（1：1500）

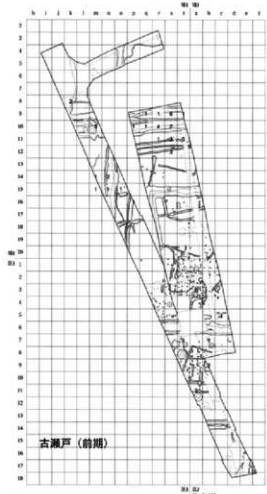


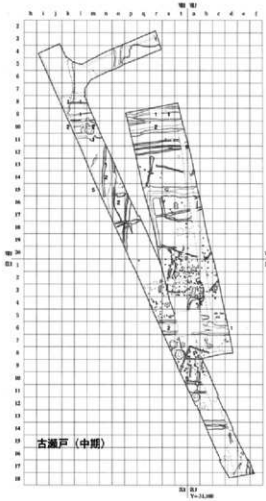


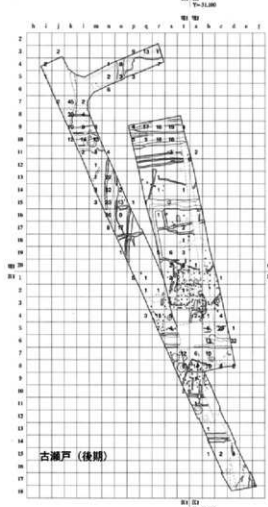


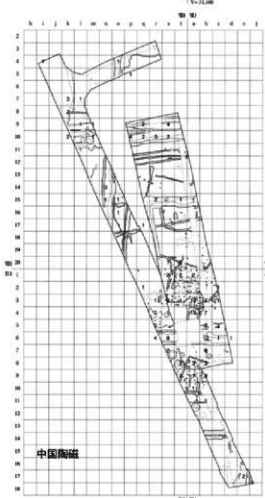


第62図　遺物出土分布2（1：1500）









第63図　遺物出土分布3（1：1500）

災時に被熱したとみられる灰釉系陶器椀を柱の根固めとして使用している。なお、Ⅱ期の建物はすべて側柱建物である。

それと前後して、調査区南部では、正方位を意識した97区ＳＤ04・ＳＤ05、97区ＳＤ24・ＳＤ25による区画（屋敷地１）が出現し、内部には井戸96区ＳＫ104が掘削される。ただし削平によって遺構や遺物の多くが失われているため、屋敷地１に関しては不明確な部分が多い。

Ⅱｂ期 屋敷地２の出現

Ⅱｂ期は瀬戸窯編年第７型式（東濃窯編年明和窯式）、13世紀後半が相当する。

Ⅰ期の方形区画に南接して屋敷地２が展開する。屋敷地２の南辺の区画が97区ＳＤ03に相当し、北辺の区画としてはⅠ期の方形区画南溝の窪みが利用、あるいは再掘削された可能性がある。屋敷地２を構成する主要な遺構が97区ＳＥ03と97区ＳＥ02、ＳＢ08とＳＡ03で、建物や柵は屋敷地の区画割同様、正方位を意識したものとなる。なお、前段に出現した屋敷地１の存続については不明確。

Ⅱｃ期 屋敷地の連続的な展開

Ⅱｃ期は瀬戸窯編年第８型式（東濃窯編年大畑大洞窯式）、14世紀前半が相当する。

前段から継続する屋敷地２のほかに、北接して屋敷地３、南接して屋敷地４が成立し、連続した屋敷地の展開が明確化する。屋敷地２には96区ＳＥ05と96区ＳＥ06、それに近接して柱穴群、柵ＳＡ04？が、屋敷地３には井戸97区ＳＫ01、ＳＢ08、ＳＡ02が付随する。屋敷地２では（東濃型）灰釉系陶器椀皿の出土量も多く、屋敷地が長期にわたって継続したことを示している。また、古瀬戸前～中期製品、中国陶磁器も屋敷地２を中心に分布することから、Ⅱ期においては屋敷地２が中心的な位置を占めていた可能性が高い。

屋敷地３は屋敷地２と異なり、建物の面積、井戸の掘形はともに小規模で、溝による区画割も不明瞭である。（東濃型）灰釉系陶器椀皿の出土分布からも、屋敷地３は97区ＳＫ01を中心に小範囲に展開したものと考えられる。

また、Ⅰ期からⅡ期への移行期にすでに始まっている自然流路付近での溝の掘削は、Ⅱｃ期に活発化する。

Ⅲ期 屋敷地の消滅と自然流路の埋没

Ⅲ期は東濃窯編年大畑大洞新窯式～生田窯式、古瀬戸中期様式末～後期様式末、14世紀中葉から15世紀末までが相当する。

調査区何南半で展開した屋敷地はほぼ消滅、自然流路付近での溝の掘削が前段から継続するのみとなって、自然流路の埋没も徐々に進行する。古瀬戸後期製品は自然流路縁辺の溝に分布の重心があることから、Ⅱ期の集落がより上流の方へと大きく移動したことは確実である。

15世紀末以降、河川活動は活発化、遺跡周辺一帯は洪水に見舞われることになり、下津北山遺跡も終焉する。

2、特殊器種の流通

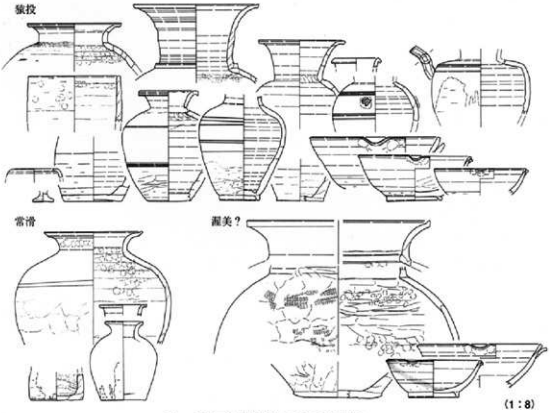
さて、方形区画の出現の経緯やその機能を明らかにするうえで、遺跡から多数出土した特殊器種の流通形態について言及しておくことが必要であろう。

そこで、主要な遺構96区ＳＫ30、96区ＳＫ18、96区ＳＤ21について、その器種構成を比較したものが第18表である。表に示すように、Ｉａ期の遺構96区ＳＫ30は椀皿類以外の器種が豊富である一方で、Ｉｂ期の遺構96区ＳＫ18、96区ＳＤ21では器種がほぼ椀皿に限定され、玉縁口縁椀などの特殊な形態の椀皿類が含まれることが分かる。つまり、器

器種	供膳具								調理具		壺類							その他					
	椀	小椀	皿	中椀	須恵器椀	玉縁椀	片口椀	片口小椀	片口皿	三ツ口鉢	鍋	広口瓶	細頸瓶	短頸壺	三筋壺	四耳壺	壺	甕	片口小瓶	水注	子持器台	合子	陶製経筒	陶硯	瓦
96区ＳＫ30	●	●	●			○	○			●	●	●	●		●		●	●		○					
96区ＳＫ18	●	○	●	●		●			●	△		△			△	△	△							●	
96区ＳＤ21	●	●	●		●	○	●	●	●	●											●				
下津北山遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○

● 確実に遺構にともなうもの
○ 遺構にともなうが、器種を断定するまでにいたらないもの
△ 小破片の出土にとどまるもの

第19表　Ⅰ期の器種構成表



第64図　下津北山遺跡における特殊器種

種構成の差異と遺構の変遷が対応し、これらの特殊な器種の流通とⅠ期の方形区画の推移は連動していたことも想像される。そこで、これらⅠａ期とⅠｂ期におけるそれぞれの特殊器種の様相についてここでまとめておく。

ａ．Ⅰａ期の様相（第64図）

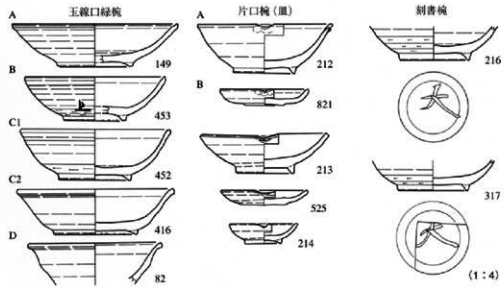
Ⅰａ期とした96区ＳＫ30は水注などの仏器を含む壷類が豊富で、猿投産の製品が主体となる。これら猿投産の製品のなかで白色～灰白色を呈する良質な胎土を用いているものは、中世猿投窯の初現期からあまり隔たらない段階に焼成された可能性が高い。また、常滑窯編年１ｂ期の甕は、知多半島でも出土例が少なく、平泉遺跡群をはじめとした遠隔の消費地が常滑窯に生産を発現した可能性も指摘されている（中野1994）。渥美産の可能性のある三ツ口鉢や甕については今後、尾張地域における消費遺跡での出土例の増加を待つ必要がある。いずれにせよ、中世における窯業生産が器種構成を単純化させながら生産の転換を図るなかにあって、Ⅰａ期の下津北山遺跡が猿投窯、常滑窯など複数の窯業生産地から特殊容器、あるいは稀少な製品の供給に与かっていたという事実は、遺跡の位置の重要性を示唆するものである。

ｂ．Ⅰｂ期の様相（第65図）

玉縁口縁椀　下津北山遺跡では玉縁口縁椀（皿）は８個体が確認されている。ここでは口縁部の形態をもとにＡ～Ｄ類に分類した。

Ａ類（149）口縁部をわずかにに肥厚させ、小さい玉縁を作るもので、口縁部先端は鋭利に仕上げる。内面はかすかに受口状をなす。

Ｂ類（453）粘土を折り返して口縁部を幅広く肥厚気味にするもので、口縁部先端を鋭利に仕上げる。内面はかすかに受口状をなす。口縁部直下にはヘラ状工具による沈線がめぐる。



第65図　下津北山遺跡における特殊形態の椀皿

C類　口縁部をわずかに肥厚させ、口縁部直下にヘラ状工具による沈線をめぐらすもの。沈線が全周するものをC１（141、452）、途切れ気味のものをC２（248、406、416）とする。

D類（82）口縁部は丸みをもちつつ肥厚するもの。内面はかすかに受口状をなす。

A類は柴垣勇夫氏による分類（柴垣1985）でⅢ類、B類はⅣ類にほぼ相当し、C・D類はそれらの退化型式と考えられる。Ⅲ類は白磁椀Ⅲ類（横田・森田1978）、Ⅳ類は白磁椀Ⅳ類を写したものとされ、それぞれ白磁椀Ⅳ類が大量に流通した12世紀後半に位置づけられている。これらが消費遺跡で出土することはごくごく稀で、特に白磁椀の忠実な写しを意図したA・B類は、通常の形態の椀皿と同様に流通していたとは考えがたい。

また、下津北山遺跡で出土した玉縁口縁椀は、口縁部のつくりにみるそれぞれの個体差は大きく、452、453の椀には体部に回転ヘラケズリ調整まで施している。

片口椀（皿）　片口椀は３個体（212、213、392）、小椀は１個体（214）、皿は２個体（525、821）が確認されている。これらは、A類―通常の形態に片口をつけたもの（212、392、821）と、B類―通常みられない形態に片口をつけたもの（213、525）に分類される。

刻書椀　ヘラ状工具によって底部外面に刻書した椀が２個体出土している。いずれも焼成前に「大」と刻書している。これらは体部外面に回転ヘラケズリ調整を施す点、断面三角形の高台を有する点など器形が酷似し、さらに字体も似通っていることから同一工人の製作によるものとみて大過ないであろう。

さて、これらの特殊な形態の椀（皿）は消費地にほとんど流通することがなく（柴垣1985）、その入手にあたっては生産地との直接的な需給関係が不可欠であったと想像できる。また、玉縁口縁椀にみる個体差、片口椀（皿）B類の存在から、生産は消費者側からの受注にもとづいて行われる性格であった可能性が高い。さらに付け加えるなら、刻書された字体は均整がとれたもので、工人が記す刻書（刻文）とは明らかに区別される（中野1995など）ことから、生産の場に有識層が直接的に関与していたことも推測できる。

下津北山遺跡における特殊器種から、それらの流通の実相について簡単な見通しを述べた。Ⅰａ期の様相からは複数の陶器生産地からの特殊容器の優先的入手、Ⅰｂ期の様相からは生産への積極的な関与、すなわち受動、能動的に窯業生産と遺跡が関わっていたようすが看取された。方形区画の性格との関わりとその背景についての詳細は第５章（３）で後述する。

文献

柴垣勇夫 1985「山茶碗と白磁碗について」『愛知県陶磁資料館研究紀要』４ 愛知県陶磁資料館
中野晴久 1994「六反田古窯址群の研究～要初現期の様相について～」『常滑市民俗資料館 研究紀要』Ⅵ 常滑市教育委員会
中野晴久 1995「知多半島古窯址群の篦描記号文について」『常滑市民俗資料館 研究紀要』Ⅶ 常滑市教育委員会
横田賢次郎・森田勉 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について―型式分類と編年を中心として―」『九州歴史資料館研究論集』４ 九州歴史資料館

(2) 下津北山遺跡の墨書陶器について

1、はじめに

下津北山遺跡から出土した墨書陶器[1]は、2点の焼成前刻書（「大」）陶器も含めて、総数229点（接合後破片数）を数える（第20～22表）。これらは数量的に豊富であるばかりか、遺跡の変遷と対比させることも比較的容易であることから、下津北山遺跡、あるいは中世集落の構成を理解するうえで有意な情報を多くもたらすものとの期待がもたれる。

ここでは、下津北山遺跡の墨書陶器をもとにした基礎的な作業を行うことで、上記の理解をすすめるための一助を得ることとしたい。なお、分析にあたっては遺物の帰属時期を出土遺構の時期に優先させ、Ⅱ期とⅢ期の遺物は混在して出土することが多いことから、Ⅱ期とⅢ期を区分せず、Ⅱ・Ⅲ期と併せて扱うこととする。

2、概括

出土点数

出土した225点の墨書陶器の内訳は、Ⅰ期が138点、Ⅱ・Ⅲ期が91点である（第66図①左）。ここで他遺跡の中世に帰属する墨書陶器の出土点数を引例すれば、一宮市大毛池田遺跡が51点、一宮市大毛沖遺跡が178点、一宮市田所遺跡が54点、西春日井郡清洲町土田遺跡43点で、それぞれ810㎡当り1点、211㎡当り1点、549㎡当り1点、822㎡当り1点という試算となる。これに比して下津北山遺跡は、18㎡当り1点（Ⅰ期のみでは30㎡当り1点、Ⅱ期は46㎡当り1点）という数値を示す。

ただし、ここで用いた数値は接合後破片数であって、墨書陶器の実数ではない。また、1個体につき複数の部位にわたって墨書されたものも多いことから、接合後破片数は分析に不都合を生じさせることになる。そこで個体数の集計には底部を用い、原則的には底部が1／2以上残存するものを1個体、底部の残存が1／2以下のものを0.5個体とした[2]。また、特徴的な器形から個体の識別が自明である場合には、それを1個体として集計した（実際には玉縁口縁椀453の1点のみ）。

上記の方法で集計した「個体数」は163.5個体を数えた。内訳はⅠ期が96.5点（59%）、Ⅱ・Ⅲ期は67点（41%）で、接合後破片数と同様の比率となった（第66図①右）。なお、以下における種種の分析には、「個体数」を用い、刻書陶器は除外した。

墨書陶器をさらに詳細な時期別に集計したものが第66図②である。第66図②からはⅦ期第3型式（Ⅰ期）が圧倒的に多く、Ⅱ・Ⅲ期では、第7型式・明和窯式（Ⅱb期）、大畑大洞古窯式（Ⅱc期）にやや集中し、第6型式・白土原窯式（Ⅱa期）には少なく、Ⅱc期以降、大畑大洞新・大洞東窯式（Ⅲ期）と減少することが分かる。これは遺構・遺物の相対的な量とも概ね合致するものとみてよい。また、遺跡の変遷についての理解、すなわちⅠ期とⅡ期、Ⅱ期とⅢ期の画期、が墨書陶器の出土状況からも首肯されよう。

3、墨書陶器の検討

空間分布

墨書陶器をⅠ期とⅡ・Ⅲ期とに分けて出土遺構別に示したものが第66図③、④である。

Ⅰ期では廃棄土坑96区ＳＫ18がほぼ半数の46.5点を数える。これに関連して96区ＳＫ18では文房具として用いられたほぼ完形の陶硯３点が廃棄されていた。それに次ぐのが方形区画南溝で、遺物の大量廃棄が認められた96区ＳＤ21では全体の３割となる28.5点、97区ＳＤ08では６点が出土している。すなわち、Ⅰ期の墨書陶器の８割がこれらの遺構に廃棄された状態で出土していることになる。ところで、方形区画の北・西溝は3.5点の出土に留まり、しかもこれらのうち2.5点は溝上層の堆積土からの出土で、明確に遺構にともなうとは言いがたい。

一方Ⅱ・Ⅲ期では、包含層や自然流路からの出土が多く、その比率は両者を併せて４割（28点）となる。遺構では井戸からの出土が目立ち（26点）、井戸と認識したすべての遺構から少なくとも１点は出土している。７点出土した97区ＳＥ03がやや傑出するが、他の井戸では押し並べて５点以下の出土である。なお、97区ＳＥ03や97区ＳＫ01では上層で遺物の集積がみられたものの、墨書陶器は中・下層に集中する。

器種　墨書陶器を器種別に分類、集計した結果が第66図⑤である。これによれば、墨書される対象となった器種のほとんどは灰釉系陶器椀皿で（97%）、その他には古瀬戸平椀、古瀬戸緑釉小皿がわずかにみられる。用途としてはすべてが供膳に用いられたものであるが、土師器皿は認められない。これは他の中世遺跡の例にも通じるもので、灰釉系陶器椀皿が墨書陶器総数に占める比率は、大毛池田遺跡が98%（他は土師器Ⅲ１点）、大毛沖遺跡が99%（他は白磁椀１点）、田所遺跡が98%（他は施釉陶器１点）、土田遺跡が100%となる。

さらに器種を分かつと、椀Ⅰが55点（33%）、皿Ⅰが41.5点（25%）、椀Ⅱが１点（１%）、皿Ⅱが２点（１%）、椀Ⅲが30.5点（19%）、皿Ⅲが29.5点（18%）で、それぞれ椀と皿の比率が相半ばする。つまり、下津北山遺跡ではⅠ～Ⅲ期を通じて、墨書する対象として、椀と皿を明確に区別しなかったとみられる。他遺跡の場合、大毛池田遺跡では椀31点（62%）・皿19点（38%）、大毛沖遺跡では椀117点（66%）・皿60点（34%）、田所遺跡では椀29点（55%）・皿24点（45%）で、椀の比率がやや高くなっている。

部位とその組み合わせ　墨書された部位とその組み合わせは、以下Ａ～Ｆの６通りがある。

Ａ 底部外面

Ｂ 体部外面 ３方向（２方向）に同じ文字を一字ずつ墨書するもの（すべて正位）[3]

Ｃ 底部内面 底部内面中央（見込み部分）に１字を大きく墨書するもの

Ｄ 底部外面＋体部外面 Ｄ１ Ａ＋Ｂ

Ｄ２ Ａ＋６字？をめぐらすように墨書

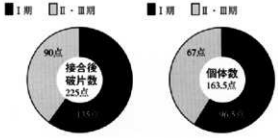
Ｅ 底部外面＋底部内面 Ｅ１ Ａ＋Ｃ

Ｅ２ Ａ＋横書きで小さく２字（３字）を墨書するもの

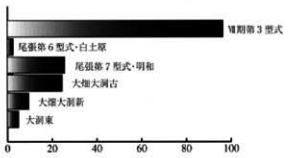
Ｆ 底部外面＋体部外面＋底部内面（底部内面全体に文章？を墨書）

＊この他に体部内面の墨書もあるが、残存が良好でなく不確かなので、分類として採用しなかった。

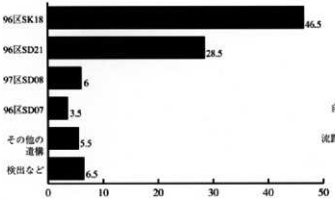
Ⅰ期における墨書部位は多様で、それぞれＡ、Ｂ、Ｃと、それらを組み合わせたものＤ１、Ｅ１がみられ、それ以外のＤ２、Ｅ２によって構成される。もっとも多いのはＡで67.5



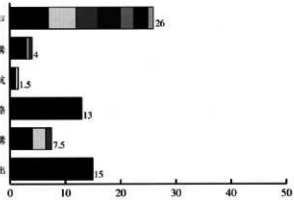
①墨書陶器の破片数と個体数



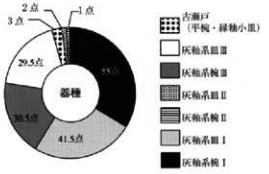
②時期別の点数



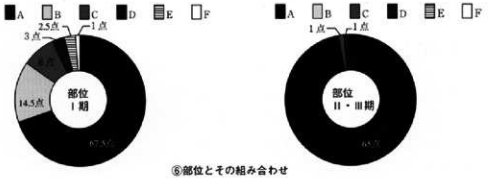
③出土遺構（Ⅰ期）



④出土遺構（Ⅱ・Ⅲ期）



⑤器種の内訳



⑥部位とその組み合わせ

第66図　墨書陶器グラフ1

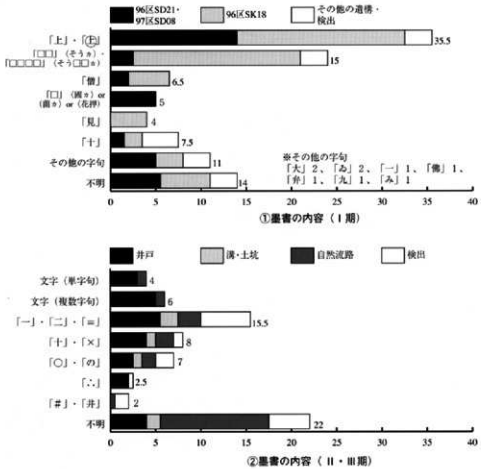
点（70%）で、A以外は29点（30%）、なかでもBが多く13.5点（14%）となる。また、A以外が廃棄土坑96区ＳＫ18、方形区画南溝96区ＳＤ21・97区ＳＤ08からの出土に限定されることは遺構の性格を考えるうえで興味深い。

Ⅱ・Ⅲ期はⅠ期とは異なり、98%がAで、他はEとFが1点（1%）ずつとなる。これは他の中世集落での傾向に合致するから（大毛池田遺跡ではAが98%、大毛沖遺跡ではAが99%、田所遺跡では96%、土田遺跡では98%で、各遺跡ともA以外の墨書部位が認められるものは1～2点に留まる）、Ⅰ期の多様な墨書部位に異質性を見出しておくことは妥当であろう。

墨書の内容

次に、実際に墨書された内容について、Ⅰ期（第67図①）とⅡ・Ⅲ期（第67図②）に分けて、一瞥する。なお、同一個体内において異なる部位に異なる内容の墨書がある場合には、それぞれを別個に集計している。

Ⅰ期で最も多いのが「上」・「㊦」で、約三分の一の35.5点を数え（36%）、次いで「□□」（そうヵ）・「□□□□」（そう□□ヵ）が15点、「僧」が6.5点、「□」（國ヵ）が5点、「見」が4点と続く。これら5種類の字句でⅠ期の墨書陶器の67%、実に三分の二が占められる。すなわちⅠ期の墨書陶器については「同種多量」という評価が適当であろう。



第67図　墨書陶器グラフ2

また、それぞれの字句と出土遺構との相関については、「上」・「㊦」は96区ＳＫ18と96区ＳＤ21・97区ＳＤ08がその多くを占め、96区ＳＫ18が96区ＳＤ21・97区ＳＤ08をやや凌ぐ。「□□」（そうヵ）・「□□□□」（そう□□ヵ）と「僧」は96区ＳＫ18に集中する傾向があって、「見」は96区ＳＫ18での出土に限定される。一方で「□」（國ヵ）は96区ＳＤ21のみで出土する。つまり、両遺構の墨書内容には玄妙な差違が認められる。そのほか、数字または記号を表す「一」や、その他、不明の墨書は散在する傾向にある。

Ⅱ期はⅠ期と大きく異なり、墨書内容は多様で、判読できないものも多い。第65図②では便宜的に、かなや漢字などの数字以外の文字、「－」・「＝」・「≡」（数字？）、「＋」、「×」、「○」などの記号？に大別した。それによると、97区ＳＥ03や97区ＳＥ02などの井戸に文字（かな表記が多い）が集中する傾向があるものの、それ以外には墨書の内容や出土の傾向に顕著な差違を指摘することは難しい。

4、これまでのまとめ

以上、述べてきたことをまとめると以下のとおりとなる。

1、下津北山遺跡で出土した墨書陶器の数量は、近隣の中世集落の数量を大きく凌ぐ。

2、墨書された器種は灰釉系陶器椀皿にほぼ限定されるが、椀とⅢに対する区別は認めにくい。

3、墨書陶器の分布はⅠ期とⅡ期で大きく異なる。すなわち、Ⅰ期は特定の遺構への集中が顕著であるのに対して、Ⅱ期は各遺構、包含層から散在的に出土する。

4、墨書部位について、Ⅰ期においては底部外面以外への墨書が多く、その部位や組み合わせも多様である。また、これらの墨書陶器は特定の遺構で限定的に出土する。Ⅱ期では他の中世集落と同様に墨書部位は底部外面にほぼ限定される。

5、墨書の内容では、Ⅰ期は同様な字句を多数墨書し、墨書内容と出土状況は相関関係にある一方、Ⅱ期では出土状況に目立った傾向はみられない。

下津北山遺跡の墨書陶器にみられるこれらの特徴から、Ⅰ期とⅡ期の墨書陶器の性格が異なったものであることは容易に想像できる。また、Ⅰ期の墨書陶器は遺跡、遺構の脈絡に則してその意義づけが可能であることは重要である。そこで、最後にⅠ期の墨書陶器の性格について述べてみたい。

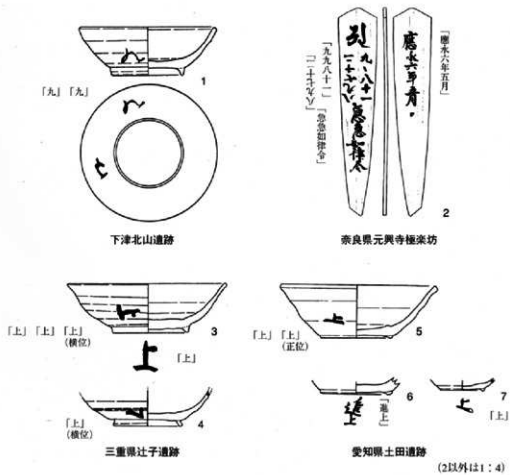
まず、下津北山遺跡96区ＳＫ18、96区ＳＤ21・97区ＳＤ08で出土した「僧」、「佛」の墨書陶器には僧侶が関与していること、仏教的な思想が反映されていることは自明である。また、「そう」を「僧」と同一の字義と仮定した場合、「僧侶」といった職能の表示は底部外面の墨書に限られる一方で、「上」、「見」は底部外面以外、つまり同一個体内に同一の字句を体部外面などに複数回墨書するものが多い傾向にあることも分かる。

後者の「上」、「見」の墨書の意味するところと、墨書陶器の具体的な使用場面を明らかにすることはできないが、これらは仏教関連の墨書陶器とともに一括廃棄されていることから、仏教に直接的、間接的に関係していた可能性がもたれる[4]。また、体部外面に墨書さ

れた他の字句には「九」「九」があり（第68図1）、願興寺極楽坊などで出土する物忌札（難波 1977）にみられる「九九（八十一）」の字句（第68図2）に関連するとすれば、体部外面に墨書するという行為の意味を知るうえで参考となるであろう。

これ以上の推測は墨書陶器に一面的な見方を与えることになりかねないので、字義の解釈に安易に論を進めるべきではない。次段階として、他遺跡の墨書陶器との比較をもとに、広く墨書陶器に反映された思想を汲む試みが必要とされようがそれは今回かなわなかった。

しかし、その見通しを述べるなら、「上」など、多くの遺跡で共通する墨書が同時期に単独で機能していたとは考えにくく、遺跡の性格や質に何らかの共通する背景があったと考えておきたい。例えば、体部外面の2～3方向に「上」を墨書する12～13世紀の墨書陶器は土田遺跡（正位）、三重県四日市市辻子遺跡（横位）（倉田・田中 2000）で知られ（第68図3～7）、土田遺跡の「進上」と墨書された陶器は、その意味を考えるうえで参考となる。下津北山遺跡を含めたこれらの遺跡はそれぞれ、14世紀『神鳳鈔』に下津御厨、清須御厨、弘永御厨として記載される土地の近隣に位置することから、同一の経緯を背景にもつことも想像され、墨書陶器がその経緯を明らかにする可能性を秘めているようにも思われる。



（2以外は1：4）

第68図　関連する墨書資料

番号		遺構	材質	器種	時期	墨書部位	墨書内容
32	96	S D07下層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	弯期第3型式	底部外面	「上」
42	96	S D07上層	灰釉系陶器	椀ⅠA2	弯期第3型式	底部外面	「□」（そ ?）
63	96	S D07上層	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「上」
66	96	S D07上層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	弯期第3型式	底部外面	「大」
86	97	S D08下層	灰釉系陶器	椀ⅠA2	弯期第3型式	体部外面	「□」
90	97	S D08下層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	弯期第3型式	底部外面	「上」
91	97	S D08下層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	弯期第3型式	底部外面	「み」（「為」）
92	97	S D08下層	灰釉系陶器	椀（不明）	弯期第3型式	体部外面	「□」
96	97	S D08下層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面・底部内面	「上」・「上」？
97	97	S D08下層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面・体部外面	「椀」・「□□□□□□」
98	97	S D08下層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	弯期第3型式	底部外面	「上」？
99	97	S D08下層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	弯期第3型式	底部外面	「一」ヵ
113	97	S D08上・最上層	灰釉系陶器	椀ⅡA	明和	底部外面	「□」
123	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	体部外面	「大」？
124	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部内面	「□」（国ヵ）or（囲ヵ）or（花押）
130	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「+」
131	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	体部外面	「上」
136	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	体部外面	「上」
139	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部外面・底部内面	「上」・「上」
140	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	体部外面	「上」「上」「上」
141	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	体部外面	「上」「上」「上」
142	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「上」？
143	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「上」？
144	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「上」？
145	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「上」？
146	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「上」？
147	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「□」
148	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「□」（都ヵ）or（的ヵ）
152	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「上」？
158	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「□」
159	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「□」
160	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「大」？
161	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「□」
163	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「□」
164	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「□」
179	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA3	弯期第3型式	底部外面	「□」
180	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA3	弯期第3型式	底部外面	「□」（国ヵ）or（囲ヵ）or（花押）
181	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA3	弯期第3型式	底部外面	「□」
185	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「□」（う ?）
186	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「□」（う ?）
187	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「□」（う ?）
188	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠB1	弯期第3型式	底部外面	「□」（国ヵ）or（囲ヵ）or（花押）
189	96	S D21	灰釉系陶器	椀ⅠB1	弯期第3型式	体部外面	「□」
211	96	S D21	灰釉系陶器	椀E	弯期第3型式	体部外面	「九」「九」
215	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠA1？	弯期第3型式	底部外面	「□」（国ヵ）or（囲ヵ）or（花押）
216	96	S D21	灰釉系陶器	椀E	弯期第3型式	底部外面	（知書）「大」
219	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「+」？
220	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	体部外面	「上」「上」「□」
221	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面・底部内面	「□」・「上」
222	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面・底部内面	「上」・「□」（国ヵ）or（囲ヵ）or（花押）
223	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「□」
230	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「□」
231	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
240	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠB1	弯期第2型式	底部外面	「上」？
241	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠB2	弯期第3型式	底部外面・底部内面	「□」・「□」
248	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠC2	弯期第3型式	底部外面	「上」
249	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠC2	弯期第3型式	底部外面	「□」
253	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠD1	弯期第3型式	底部外面	「上」
254	98	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠD1	弯期第3型式	底部外面	「僧」
255	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠD2	弯期第3型式	底部外面	「僧」
256	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠD2	弯期第3型式	底部外面	「上」
257	96	S D21	灰釉系陶器	皿ⅠD2	弯期第3型式	底部外面	「上」
316	96	S K06	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「□」
317	96	S D13	灰釉系陶器	椀E	弯期第3型式	底部外面	（知書）「大」
353	96	S E04	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部内面	「一」
357	96	S E04	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部内面	「+」
346	96	S E03	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部内面	「+」？
420	96	S K19	灰釉系陶器	皿ⅠA2	弯期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
424	96	S K19	灰釉系陶器	皿ⅠD1	弯期第3型式	底部外面	「上」
430	96	S K18下層	灰釉系陶器	椀ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
431	96	S K18下層	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「大」
434	96	S K18下層	灰釉系陶器	椀ⅠA3	弯期第3型式	底部外面	「⑦」
437	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠB1	弯期第3型式	底部外面	「上」
438	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠB1	弯期第3型式	底部内面	「上」
439	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠB1	弯期第3型式	底部外面・底部内面	「上」・「上」
442	96	S K18下層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	弯期第3型式	体部外面	「見」「見」「見」
443	96	S K18下層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	弯期第3型式	体部外面	「僧」
453	96	S K18下層	灰釉系陶器	椀E	弯期第3型式	体部外面	「上」
455	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面・体部外面	「上」「上」「上」
457	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	弯期第3型式	底部外面	「上」
466	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠD1	弯期第3型式	体部外面	「上」「上」
467	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠD2	弯期第3型式	底部外面	「僧」
468	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠD2	弯期第3型式	底部外面	「見」
469	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠD1	弯期第3型式	体部外面	「上」「上」「上」
473	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠD1	弯期第3型式	底部外面	「僧」
474	96	S K18下層	灰釉系陶器	皿ⅠC1	弯期第3型式	底部外面	「+」
488	96	S K18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「上」
489	96	S K18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA	弯期第3型式	体部外面	「□」

第20表　墨書陶器一覧表1

番号		遺構	材質	器種	時期	墨書部位	墨書内容
490	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□ 」（そ ヵ）
492	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□」
495	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「上」
496	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「一」
497	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅷ期第3型式	体部外面	「上」
500	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□」
501	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅷ期第3型式	底部外面・底部内面	「□」・「□」
502	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA	Ⅷ期第3型式	体部外面	「□」
503	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□□□」（そう□□ヵ）
504	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅷ期第3型式	体部外面	「上」「上」「上」
505	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「上」
507	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅷ期第3型式	体部内面	「□」「□」
510	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠB2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□」
511	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠB2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「[illegible]」
513	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	底部外面・底部内面	「上」・「□斧」
515	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「あ」（「為」）
516	96	SK18中層	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	底部外面・底部内面	「□」「僧」
531	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□」
532	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「上」
539	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
540	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□□□」（そう□□ヵ）
541	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
542	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「 □」（ うヵ）
543	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
544	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	体部外面	「見」「見」「見」
545	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	体部外面	「□□　」
546	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「僧」
547	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面・体部外面	「見」・「□□□□ 」
548	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面・体部外面	「□□」（そうヵ）・「□□□□□□□」
551	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□」
575	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「上」
576	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
577	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
578	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「上」
579	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「上」
581	96	SK18中層	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「＋」
599	96	SK18上層	灰釉系陶器	椀ⅠA	Ⅷ期第3型式	体部外面	「上」
607	97	SK32	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＝」
611	97	SD04	灰釉系陶器	椀Ⅰ0	Ⅷ期第3型式	底部外面	「＋」
612	97	SD04	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□」
613	97	SD04	灰釉系陶器	椀ⅠA	Ⅷ期第3型式	体部外面	「上」
617	97	SD04	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「＋」
620	97	SD04	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	底部外面	「□」
624	97	SD05	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□」
630	97	SD03	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「×」
631	97	SD03	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「の」
633	97	SD03	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＝」
636	97	SD25	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□」（みヵ）or（井ヵ）
646	96	SD01	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞新	底部外面	「□」
651	97	SE03下層	灰釉系陶器	椀ⅠB1	Ⅷ期第3型式	底部外面・底部内面	「＋」・「□」
653	97	SE03下層	灰釉系陶器	椀ⅢA	明和	底部外面	「□」（中ヵ）
654	97	SE03下層	灰釉系陶器	椀ⅢA	明和	底部外面	「中」
656	97	SE03下層	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	底部外面	「□□□」（わかめヵ）or（わかはヵ）
659	97	SE03中層	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅷ期第3型式	底部外面	「□□」（そうヵ）
663	97	SE03中層	灰釉系陶器	椀ⅢA	明和	底部外面	「□ 」（於 ヵ）
665	97	SE03中層	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	底部外面	「＝」？
666	97	SE03中層	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	底部外面	「□□」（於、ヵ）
668	97	SE03中層	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	底部外面	「□□□」（わかめヵ）or（わかはヵ）
						体部外面・底部内面	「□□□□□□□」・「□□□□…」
699	97	SE02	灰釉系陶器	椀ⅢA	明和	底部外面	「の」
700	97	SE02	灰釉系陶器	椀ⅢA	明和	底部外面	「の」
701	97	SE02	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	底部外面	「□□」（於、ヵ）
702	97	SE02	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「∴」
707	97	SK104	灰釉系陶器	皿ⅢA	白土原	底部外面	「＋」
712	96	SE05	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「□」
714	96	SE05	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＝」
715	96	SE05	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「の」？
716	96	SE05	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	底部外面	「＝」
718	96	SE05	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「×」？
719	96	SE06	灰釉系陶器	椀ⅢA	明和	底部外面	「大」
720	96	SE06	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「∴」
721	96	SE06	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「□」
725	97	SK01下層	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＝」？
727	97	SK01下層	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＝」？
728	97	SK01下層	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＝」？
729	97	SK01下層	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「□」
730	97	SK01下層	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＝」？
736	97	SK01上層	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	底部外面	「＋」
740	97	SK01上層	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「×」
745	97	SK01上層	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「□」
746	97	SE01	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＋」？
747	97	SE01	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「□」
749	97	SE01	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞新	底部外面	「□」
752	97	SE01	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「＝」？
759	97	SK02上層	灰釉系陶器	椀ⅢA	大畑大洞古	底部外面	「□」
779	96	NR01下南溝	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	底部外面	「×」
780	96	NR01下南溝	灰釉系陶器	椀ⅢA	明和	底部外面	「×」
782	96	NR01下南溝	灰釉系陶器	椀ⅢA	明和	底部外面	「□」

第21表　墨書陶器一覧表2

番号		遺構	材質	器種	時期	墨書部位	墨書内容
802	96	N R01中・上層	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
804	96	N R01中・上層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□」
822	97	S D18	灰釉系陶器	椀Ⅱ	尾張第6型式	底部外面	「＝」？
823	97	S D18	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
824	97	S D18	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
825	97	S D18	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「一」？
826	97	S D18	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
827	97	S D18	灰釉系陶器	椀Ⅱ B	大渕東	底部外面	「一」？
828	97	S D18	灰釉系陶器	椀Ⅱ B	大渕東	底部外面	「ロ」
836	97	S D16	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□□」（よおか）or（まおか）
844	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
845	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
846	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
848	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
850	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
851	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	明和	底部外面	「□」
852	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「＝」
853	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「□」
854	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「□」
855	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「□」
856	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「の」？
859	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	大渕東	底部外面	「□」
861	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□」
863	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□」〔天ヵ〕
864	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□」
865	97	N R01灰色粘土層	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「ま」？
881	97	N R01灰色粘土層	古瀬戸	平椀	中Ⅱ－Ⅳ期	底部外面	「○」
885	97	N R01灰色粘土層	古瀬戸	縁釉小皿	後Ⅰ－Ⅱ期	底部外面	「□□」
907	96	検出	灰釉系陶器	椀Ⅰ A	尾張第3型式	底部外面	「□」
908	96	検出	灰釉系陶器	椀Ⅰ B1	尾張第3型式	底部外面	「□」
909	96	検出	灰釉系陶器	椀Ⅱ	尾張第7型式	底部外面	「□」
914	96	検出	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「の」
915	96	検出	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「＝」
918	96	検出	灰釉系陶器	椀Ⅱ A	明和	底部外面	「一」？
917	96	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A？	明和	底部外面	「十」
918	96	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	白土原	底部外面	「○」？
919	96	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「井」
920	96	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「＝」
921	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「＝」
922	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「□」
923	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「・・」？
924	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕古	底部外面	「＝」
925	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□」
926	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□」
927	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「＝」
928	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□」
929	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「の」？
930	97	検出	灰釉系陶器	皿Ⅱ A	大頭大渕新	底部外面	「□」
948	96	検出	古瀬戸	縁釉小皿	後Ⅰ－Ⅱ期	底部外面・底部内面	「□」・「□」
949	96	検出	古瀬戸	縁釉小皿	後Ⅰ－Ⅱ期	底部外面	「ま」
1032	96	S D21	加工円盤	A 1 b	尾張第3型式	底部外面	「□」
1033	96	S D21	加工円盤	A 2 a	尾張第3型式	底部外面	「□」
1040	96	S D21	加工円盤	A 2 a	尾張第3型式	底部外面	「□」
1043	96	S D21	加工円盤	A 2 a	尾張第3型式	底部外面	「□」
1276	97	N R01	加工円盤	D	古瀬戸後Ⅱ期	底部外面	「□」

第22表　墨書陶器一覧表3

註

(1)　後述するように下津北山遺跡では、墨書された土器はすべて灰釉系陶器または古瀬戸の椀・皿であることから、「墨書陶器」として記述をすすめることとする。

(2)　以下、このように計算した数値を「個体数」として記述する。

(3)　体部外面の墨書は、3方向残存しない破片や、墨痕の遺存状況が良好でないものも同様に扱った。これは下津北山遺跡の墨書陶器には同一字句が多く、きわめて高い確実性をもって類推できるためである。

(4)　「上」の墨書が一括廃棄された遺物のなかで35.5個体を数える事実をも考えるなら、これらに「識別」、「管理」という意味を与えることはもはや不可能であろう。

文献

(財) 愛知県埋蔵文化財センター 1987『土田遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2集
(財) 愛知県埋蔵文化財センター 1991『土田遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第23集
(財) 愛知県埋蔵文化財センター 1996『大毛沖遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集
(財) 愛知県埋蔵文化財センター 1997『田所遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第71集
(財) 愛知県埋蔵文化財センター 1997『大毛池田遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第72集
倉田文美・田中久生 2000『辻子遺跡』『近畿自動車道名古屋神戸線（第二名神）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ』三重県埋蔵文化財センター
鷹波俊成 1977『物忌札』『日本仏教民俗基礎資料集成 第四巻 元興寺極楽坊Ⅳ 位牌・物忌札・冥銭・石塔類』中央公論美術出版

（3）下津北山遺跡Ⅰ期をめぐる問題

―中世初頭における政治と宗教の連関への位置づけ

はじめに

下津北山遺跡では12世紀後半から15世紀末、中世のほぼ全期間を通じての遺構・遺物が確認された。この間に遺跡は、Ⅰ期（12世紀後半から13世紀初頭）、Ⅱ期（13世紀前半～14世紀前半）、Ⅲ期（14世紀後半～15世紀後半）で、その相貌を大きく変化させていることも明らかにされた。遺跡が尾張国府推定地、あるいは守護所といった古代から中世における尾張国の政治的な中枢施設と至近距離にあることを思慮するなら、遺跡の消長もそれらとのかかわりを視野に入れつつ理解する必要性が生じよう。

ことに下津北山遺跡でのⅠ期における遺構・遺物の充実ぶりには目を見張るものがあり、それらには宗教的色彩が色濃く反映されていた。つまり、下津北山遺跡は12世紀における政治権力と宗教の連関構造について提言をなしうる素地を胚胎している可能性も見込まれるのである。

顕密体制論

一方、中世宗教史では、黒田俊雄による「顕密体制論」・「寺社勢力論」の提唱（黒田1975）以来、それを継承、再考した中世宗教と中世社会の連関構造の分析が蓄積をみている（平1984、佐藤1987、上島1996など）。そこで以下においては、中世前期の尾張国を中心とした政治と宗教のかかわりについての素描を目論むことで、中世社会における下津北山遺跡の位置を確かめておくこととしたい。

1、尾張国衙とその周縁

尾張国衙

最初に中世尾張国衙の実態についていくらか述べておく必要があろうが、それを明示する材料はごく少ない。ごく限られた史料から稲葉伸道は、史料にある「府中」とは実態をもたないものとし、広域にわたる都市的景観についても疑問視している（稲葉1990）。しかし、稲葉の想定は13世紀後半の「千世氏庄坪付注進状案」を根拠の一つとしたもので、守護の権限拡大をその前提としていることから、古代末から中世を通じての尾張国衙の実態を適確に評価しつくしたわけではない。ここでは、尾張国衙の中枢領域が広域性を有さないとしても、下津のような市、宿が国衙中枢と距離を保ちつつ国衙の管掌下にあって、全体として国衙領域が二重構造を呈していた（義江1984 a・b）、あるいは中世府中が軍事的・政治的に特殊領域をなしていた（斎藤1984）とする指摘をむしろ重視しておきたい。

96区ＳＫ30

このとき、常滑・猿投産（渥美産を含む？）の特殊な陶器を豊富に含むⅠａ期の96区ＳＫ30をはじめとする遺構は、Ⅰ期の方形区画と尾張国衙との関係について雄弁である（第5章（1）、2）。すなわち、広範囲にわたる陶器生産地の把握には国衙機構の関与が有力視されるところであり（柴垣1989）、これらの製品の流通に深く関係したとみられる下津北山遺跡の周辺も国衙在庁官人層が把握する空間にあった蓋然性は高いとみられる。

区画の立地

加えて方形区画は、旧青木川に面して位置していることから、区画の設置にあたっては

河川との関係がとりわけ重要視されたようである。これは、国衙在庁官人らが物資流通の至便性を考慮したものとみられ、12世紀までに青木川を通じた水運の利用の度が活発となっていたことがうかがわれる。一方陸上交通の面では、鎌倉街道の整備の問題とも関係する。いずれにせよ、河川・道路交通網の再編、整備と下津の発展過程は無関係ではなかろう。あるいは国衙五日市の萌芽をここにみておくことも可能であるのかもしれない。

2、国衙周辺の再編と方形区画の機能

開発領主系氏寺

さて、Ⅰ期の方形区画にみられた仏教に関連する遺構・遺物は、区画内が仏教儀礼を執行する空間として機能していたことを明示している。このことから、方形区画は国衙在庁官人層の関与によって成立した国衙に付属する寺院(「国衙の寺」的な性格)であったと考えられる。また、笹生衛の中世寺院の類型(笹生 1997)によれば、B－1類―開発領主系氏寺の範疇で捉えられよう。B－1類の建立は笹生がいう中世寺社の変遷におけるⅡ期・中世寺院確立期、すなわち12世紀後半～13世紀前半に相当し、まさに下津北山遺跡Ⅰ期の消長がそれと符合する。なお、ここで執行された儀礼は、開発領主、下津北山遺跡では国衙に結集する官人層(佐藤 1998)の宗教的結集をはかる装置として機能したものと推察される。

宗教領域の再編

また、「開発領主系氏寺」と同様、国衙の観念的支柱としての機能を発揮したのが11世紀末以降に成立する諸国一宮である(伊藤 1982)。なかでも尾張国では、12世紀に下位の真清田社が高位の熱田社を逆転して一宮に選定されるが、その背景には国衙との距離関係があったと指摘されている(彌永 1977、伊藤 1982、上村 1998)。11世紀初頭には尾張国司大江匡衡が二度にわたって熱田社に大般若経を奉じていることが知られるから(不破 1996)、

第69図　下津北山遺跡周辺概念図

12世紀半ばまでの間に尾張国衙をめぐっての宗教情勢が大きく転換したことが読み取れる。この転換は、国による寺社統制が半ば形骸化しながらも、仏教行政に対する国司の発意が有効性を保ちえた段階から、次第に国衙在庁官人層が仏教行政の主体を担う段階に移行したことを意味しよう。

鈴置郷、海東荘

加えて領域支配の面からも、国衙周辺の再編の動きを読みとることができる。つまり、12世紀末における熱田社領鈴置郷、蓮華王院領海東荘の成立がその一例で、それぞれが知行国主平重衡、頼盛の直接的関与によるものである（『平安遺文』補一〇三、補一〇四など）。在庁官人層が深く関与した国衙周辺における開発の進行、それを観念的な面から支えた施設の一つが下津北山遺跡であったと考えたい。

補一〇三　尾張守平重衡下文案 ○○第五智知光 国衙館文書

□□遠長□領、於有限神役、無懈怠、可令勤仕熱田宮之状、所仰如件、留守所宜承知、敢勿違失、以下、
長寛元年八月十七日
修理大夫平朝臣在判

補一〇四　尾張國留守所下文案 ○○第五智知光 国衙館文書

留守所下　中嶋郡南条司
可早任御下文之旨、佐伯遠長領掌鈴置村□
右、去八月十七日御下文、今月廿七日到來、子細之具也者、任御下文旨、可令遠長領掌之状、所仰如件、但於有限神役者、任先例可令勤仕社家之状如件、以下、
長寛元年十月廿七日
目代散位惟宗朝臣在判

（竹内理三編『平安遺文』より）

3、院政権とのかかわり

12世紀における尾張国衙を中核とした宗教領域、政治領域の再編の背景を、当時の政治的・宗教的中枢であった院政権とのかかわりから考察を加えることとしたい。

尾張皇室領群

11・12世紀は、顕密体制の成立期に相当し（黒田 1975）、「王法仏法相依」、「王権仏受」といった論理のもと、国政的イデオロギーの創設をみ（平 1984）、仏法興隆のイデオロギーにもとづく形勢で、皇室領荘園は寺院領のもとでの集積がすすむ。このとき尾張国では、古代の自墾地系荘園が12世紀前半までにほとんど姿を消し、鳥羽院政期には鳥羽院、美福門院にかかわる社寺領、白河院政期には長講堂領などが成立する。[1] 中央の有力寺社領がほとんど成立していない尾張国に、院・女院を頂点とした膨大な「尾張皇室領群」が形成される背景に、寄進主体となった尾張の開発領主層と院政権の密接なつながりと中央への志向性があったとする指摘（上村 1990）は重要である。

陶器の貢納

また、『島田文書』の「建久2年長講堂目録」によれば、尾張国の葉栗郡上門真庄、丹羽郡稲木庄、美濃国山県郡伊自良庄、厚見郡市俣庄などの荘園は「白瓷鉢」などの陶器を中央に貢納していたことが知られる。さらには、ややさかのぼるが、『小右記』の「万寿二年七月二十四日条」、「万寿二年九月十七日条」からは、「素用白瓷者、可令召尾張之由」、すなわち貢納された尾張産の陶器が治部省で行われた密教修法、大元帥御修法で使用されたことが知られている（新井 1969）。

つまり、上記の荘園が陶器を入手するには、生産地を管掌していた国衙機構との何らかの接触が不可欠であり、尾張国衙がこれらの陶器を直接、間接的に中央に流通させていた可能性は高い。加えて、猿投・常滑窯の瓦陶兼業窯で焼成した瓦が、国衙主導のもと鳥羽

東殿や仁和寺など院政権と直接的にかかわる施設に供給されたことも明らかにされている（上原1978、柴垣1982）。つまり中央で執行される宗教儀礼に、尾張国が重要な位置を占めていたことことは想像に難くない。

宗教と政治権力との密接なつながり、特殊容器を含む中世陶器の流通、密教修法の実施、これらの下津北山遺跡を特徴づける要素は、院政権と尾張国との強固な政治的・宗教的連帯を背景として、院政権における国政システムが投影されたものと捉えることができる。

4、真言宗系寺院の系列化

寺社の統合再編

院政権と尾張国衙、下津北山遺跡における宗教的イデオロギーを回路としての結節は単独に機能したものではなく、中央の大寺社を中心に形成された本末関係の全国的な展開が背景にあったとみられる。中央の大寺社は、院政権と一定の距離をおいて権門化をはかった寺院と、院権力に近い寺院とに大別されるが、これらの諸寺院は院政権を頂点とした求心構造のもと真言密教によって統合再編、系列化される構造が明らかとされている（横内1996）。そしてその装置として機能したのが、院政権とかかわりの深い六勝寺などで恒例、臨時に行われた国家的法会であった（上島1996）。

では、院政権に連なる真言宗系寺院の広域的な展開は、具体的にはどのように進行し、地域社会においてどのような作用をもたらしたのであろうか。そのなかで、下津北山遺跡をどこに位置づけることが可能であろうか。ただし、このような問いに考古学の立場から発言することは、中世寺院の調査例が稀少である現状からすればきわめて困難である。ここでは、下津北山遺跡に性格が類似する各地の遺跡を例示し、共通の背景を探ることで、その回答を得るための端緒としたい。

玉津田中遺跡辻ヶ内地区（兵庫県神戸市）

玉津田中遺跡（中川編1995）は、明石川下流域右岸の沖積地に立地し、平安時代末の遺構は辻ヶ内地区を中心として展開する。

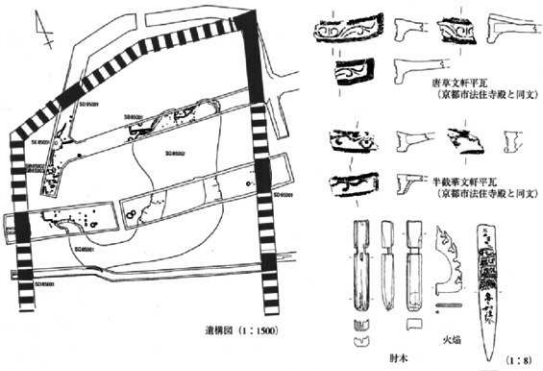
方形区画

当該期の遺構としては幅約5mの堀による方一町以上の規模の方形区画が確認され、区画内には中央に池、その周囲に雨落ち溝を伴う瓦葺建物、掘立柱建物が配置される。報文では居館とされているが、肘木、火熨などの建築部材、呪符木簡、仏具？、板塔婆、舟形などから、居館ではなく寺院とするむきもある[12]（中井1991）。方形区画の存続期間は12世紀末～13世紀初頭と短く、文書、伝承等も残されていない。

魚住・神出窯

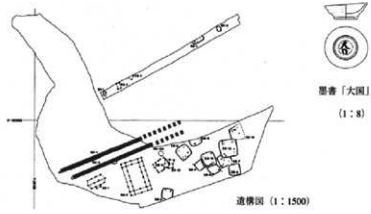
なお、明石川の上流7kmには法勝寺、尊勝寺、鳥羽離宮に瓦を供給していた魚住・神出窯が存在し、それらと遺跡の成立、存続が密接に関係したことは疑いない。玉津田中遺跡で出土する瓦も、神出窯で焼成されたものであることが明らかとなっており、なかには法住寺殿と同文の瓦も含まれている。神出窯について森田稔は、法勝寺の造営を直接的契機として成立したと指摘し、受領国司の深い関与を有力視している（森田1986）。

祝田遺跡（静岡県引佐郡細江町）



兵庫県玉津田中遺跡（中川編 1995より一部改）

静岡県祝田遺跡（鈴木 1994より一部改）



愛知県富沢遺跡（須川 1989より一部改）

第70図　類似する性格の遺跡

祝田遺跡（鈴木 1994）は、都田川下流域右岸の沖積平野に立地する。なお、遺跡が所在する近辺には、『神鳳鈔』に記載のある「都田御厨」、「祝田御厨」、「刑部御厨」が存在したとされる。

墨書「僧器」

11、12世紀の遺構として、南北に通じる幅約２m、深さ約１mの区画溝、掘立柱建物数棟、井戸などが確認されている。井戸や区画溝からは、緑釉陶器、白磁四耳壺のほか、東山61号窯（鳥羽東殿）との同文瓦、「僧器」または「僧參」と記した墨書陶器皿、「常請」と記した墨書土師器皿などが出土している。建物は13世紀中葉までに廃絶したことが明らかにされている。

宮沢遺跡（愛知県宝飯郡一宮町）

宮沢遺跡（須川 1988、1989）は、豊川下流域右岸の沖積地に立地する。周辺に近世の東上御番所跡（豊川の舟運に対する徴税を行った施設）があることからも、この地が水運の便に適していたことは明らかである。

四面庇付建物

平安時代末期（Ⅱ期）の遺構として並行する幅１m前後の２条の区画溝と、掘立柱建物２棟が検出されている。２棟の掘立柱建物は、５間×２間の身舎に四面庇がとりつく大型のものと、偏六角形の特殊な構造のものである。集落に適したとみられない遺跡の立地、建物の構造等から、報文では（豊川に関係した）宗教施設の可能性を示唆している。出土遺物には12世紀後半の灰釉系陶器（渥美産）、ロクロ成形土師器皿などがあり、そのなかには底部外面に「大国」と記した灰釉系陶器小椀も１点含まれる。

遺跡は古墳時代後期以降の隔絶を経て平安時代末に至り、建物廃絶後、遺跡は再び断絶する。

遺跡の共通項

さて、下津北山遺跡を含むこれらの遺跡には多くの共通点が見出せる。つまり、遺跡は河川に面した沖積地を選んで立地すること、瓦葺き、四面庇等などのやや特殊な、あるいは大型の建物がみられ、建物などの施設には比較的規模の大きい区画溝が組み合うこと、宗教的な遺物をともなうこと、などである。さらに注目したいのは、玉津田中遺跡と神出窯との関係に代表されるように、これらの遺跡には窯業生産とのかかわり、なおかつその成立には国衙勢力の関与、が想定されることである。下津北山遺跡と中世猿投窯、常滑窯とのかかわりはこれまでに指摘したとおりである。宮沢遺跡と祝田遺跡にもそれぞれ、渥美窯・湖西窯との関係が想起される。なお、平安時代後期以降、渥美窯の管掌には山岳寺院の普門寺が重要な役割を担ったとする図式も提示されている（宇野 1999）。

産業・流通機構の再編

つまり、これらの遺跡の例から、11～12世紀における院政権を頂点とした宗教勢力の系列化が、各地における中世窯業などの産業・流通機構の再編と密接に関係しつつ進行していたことが指摘できる（宇野 1999における中世の権門体制のモデルが参考となる）。また、遺跡の立地や区画施設の存在をも考え合わせると、それが国衙など政治機構の運営を担う開発領主が積極的に関与したことも想像に難くない。

5、緑釉円塔をめぐって

院政権、尾張国衙、下津北山遺跡、この三者における宗教イデオロギーを紐帯とした関係を直接的に示す事象が泥塔を用いた修法、すなわち緑釉円塔の出土である。

泥塔の修法

中央では11～12世紀、密教的呪法の流行にともなって泥塔供養の記事が頻繁に登場する（肥後 1938、追塩 1982）。この修法の行法は東密系の『覚禅鈔』、台密系の『阿娑縛抄』に記述されているが（木下 1984）、両者は密教の行法として明確には区別されないという。緑釉円塔についても、密教にもとづいた泥塔修法の産物としてよいものとすれば、広域に展開する泥塔修法の性格と、それらが遠隔地で出土する意味が問われなければならない。

泥塔修法は山梨県南巨摩郡増穂町権現堂遺跡（萩原ほか 1989）をはじめとして、平安時代後期～末に各地で展開することが知られ、伊藤久嗣は広域に展開する泥塔を用いた修法を国家的仏事との連動として注目する（伊藤 1996）。また、『山槐記』や但馬進美寺文書「源親長敬白文」（『鎌倉遺文』第2巻937号）にみられる記述から、院政権や鎌倉政権が行う泥塔修法に際し、各地の寺院が泥塔製作を請け負うことがあったともされる（追塩 1996）。

泥塔の分散

広域で出土する泥塔の意味については上記の捉え方が想定されようが、下津北山遺跡の場合、緑釉円塔が1点のみの出土である点、在地での製作が想定しにくい点などから、京都での修法の実施後に泥塔が分散されたと考えたい。尾張国府推定地で出土する緑釉円塔との比較において、必ずしも形態などが類似しない点は、京都周辺で泥塔の製作を割り当て、それらを集積したものが無作為的に尾張国にもたらされたことに起因するのであろう。すなわち、下津北山遺跡では中央に連動した儀礼が実施されたことが示唆され、緑釉円塔の多くが京都と尾張に限って出土する事実は、両者の連動がより直接的であったことを意味する。

修法の意義

先にみた鎌倉政権による塔供養が平家の怨霊を鎮魂し、武力の正当化を訴示するための性格をもつものであったことからも（平岡 1977）、泥塔修法は単なる仏事ではなく、国制上の一大デモンストレーションであったと評価される（久野 1993）。院政権、尾張国衙、そして下津北山遺跡を結節させる緑釉円塔は、広域にわたる宗教イデオロギーと政治支配の展開を反映させたものとして位置づけられるべきものと考える。

6、下津北山遺跡の変質の背景

区画の消滅

下津北山遺跡は13世紀初頭には方形区画が消滅し、遺跡の性格は大きく変質する[3]。また、これは下津北山遺跡に限っての現象ではなく、玉津田中遺跡をはじめ先に例示した遺跡についても、区画施設や建物がほぼ同時期に終焉する傾向にあることは注目される。すなわち、何らかの大きな社会的変化をこの時期に遡えた可能性が高く、なおかつそれが広域で同時に認められることは重要である。

上記の現象を誘引した事象として、宗教的イデオロギーの側面では真言宗系寺院の頂点として位置づけられた六勝寺の衰退が考えられようが、中央における密教界、寺院統制の再編は段階的に進行したとされ（上島 1996）、それが第一義的であったとは考えがたい。

	遺跡名	所在地	数量	備考	文献
1	法勝寺跡	京都府京都市左京区	4		1～3
2	岡崎遺跡・法勝寺隣接地	京都府京都市左京区	2		4
3	尊勝寺跡	京都府京都市左京区	7	墨書「一層一裳層一六百州一」	4～6
4	尊勝寺跡・岡崎遺跡	京都府京都市左京区			7
5	六勝寺跡・岡崎遺跡	京都府京都市左京区	1		8
6	延勝寺跡	京都府京都市左京区	1		9
7	成勝寺跡	京都府京都市左京区	2		10
8	最勝寺跡	京都府京都市左京区	1	墨書「一角木一六百州一」、1/2欠失	11
9	京都大学病院内遺跡ＡＥ15区	京都府京都市左京区	1	鍔欠失	12、16
10	京都大学医療技術短大校舎予定地（白河北殿北辺）	京都府京都市左京区	1	鍔欠失	13
11	京都大学医学部構内ＡＯ18区	京都府京都市左京区	1	ロクロ整形、3/4欠失	14、16
12	京都大学医学部構内ＡＭ17区	京都府京都市左京区	1	鍔欠失	15、16
13	京都大学本部構内ＡＸ25区	京都府京都市左京区	1	鍔欠失	16
14	平安宮大極殿跡	京都府京都市中京区	3		17
15	二条保育園（推定朝堂院白虎楼）	京都府京都市中京区	1		17
16	平安京左京三条四坊四町（高倉宮跡）	京都府京都市中京区	1	鍔欠失	18
17	平安京左京五条二坊二町	京都府京都市下京区	1	鍔欠失	19
18	平安京右京土御門木辻	京都府京都市伏見区	1	無釉、ロクロ整形	20
19	鳥羽離宮跡	京都府京都市伏見区	9～	墨書２点、鍔欠失４点	21～25
20	美濃山廃寺	京都府八幡市	1		26
21	奈良県高市郡明日香村宮古				27
22	尾張国府跡	愛知県稲沢市	8	1/4形２点	28～34
23	下津北山遺跡	愛知県稲沢市	1		
24	（黄金堂遺跡）	岩手県岩手郡岩手町	200～	無釉	

文献一覧

1 西田直二郎 1925「法勝寺遺址」『京都府史蹟勝地調査会報告 第６冊』 京都府
2 木村捷三郎ほか 1975「京都市動物園爬虫類館建設工事に伴う"法勝寺跡"発掘調査報告」『京都市埋蔵文化財年次報告1974－Ⅱ』
3 菅田薫 1984「法勝寺跡（２）」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
4 上村和直 1991「岡崎遺跡・法勝寺隣接地」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
5 杉山信三・岡田茂弘 1961「尊勝寺跡発掘調査報告」『奈良国立文化財研究所学報第10冊』
6 上村和直・辻裕司「尊勝寺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
7 上村和直・西大條哲 1994「尊勝寺・岡崎遺跡１」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
8 堀内明博 1997「六勝寺跡・岡崎遺跡」『平成７年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
9 六勝寺研究会 1973『延勝寺跡』
10 網伸也ほか 1995「成勝寺跡」『平成４年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
11 久世康博 1987「主要な出土遺物 土器類」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』 京都市文化観光局 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
12 泉拓良 1981「金属器、土製品、石製品」『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ 一白河北殿北辺の調査一』 京都大学埋蔵文化財研究センター
13 岡田保良ほか 1977「病院内遺跡ＡＥ15の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和51年度』 京都大学農学部構内遺跡調査会
14 泉拓良・吉野治雄 1979「京大医学部遺跡ＡＯ18区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和53年度』 京都大学埋蔵文化財研究センター
15 五十川伸矢ほか 1995「京都大学医学部構内ＡＭ17区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報 1992年度』 京都大学埋蔵文化財研究センター
16 古賀秀策 1999「京都大学構内ＡＸ25・ＡＸ26区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報 1995年度』 京都大学埋蔵文化財研究センター
17 片岡肇ほか 1976「平安宮大極殿跡の発掘調査」『平安宮跡発掘調査報告第１輯』
18 植山茂・山田邦和編 1987『高倉宮・曇華院跡第４次調査』 平安京跡研究調査報告第18輯 財団法人古代学協会
19 長戸満夫 1997「平安京左京五条二坊二町」『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』 京都市文化市民局
20 鳥羽離宮跡調査研究所 1976「醍醐寺境内地に於ける埋蔵文化財発掘調査概報」『埋蔵文化財調査概報集』
21 京都市文化観光局 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1983「第74次Ⅱ・75次・76次・79次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和57年度』
22 京都市文化観光局 財団法人京都市埋蔵文化財研究所1984「第91次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和58年度』
23 京都市文化観光局 財団法人京都市埋蔵文化財研究所1984「第92次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和58年度』
24 吉崎伸・鈴木久男 1987「鳥羽離宮跡97次調査」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
25 磯部勝ほか 1988「第122次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和62年度』 京都市文化観光局 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
26 肥後和男 1938「日本発見の泥塔について」『考古学』 第９巻 第４号
27 石田茂作 1927「土塔について」『考古学雑誌』 第17巻 第６号
28 岩野見司・北條獻示 1981『尾張国府跡発掘調査報告書（Ⅲ）』 稲沢市文化財調査報告ＸⅠ 稲沢市教育委員会
29 北條獻示・日野幸治 1982『尾張国府跡発掘調査報告書（Ⅳ）』 稲沢市文化財調査報告ＸⅤ 稲沢市教育委員会
30 北條獻示・日野幸治 1982『尾張国府跡発掘調査報告書（Ⅴ）』 稲沢市文化財調査報告ＸⅧ 稲沢市教育委員会
31 井口喜晴 1984『新修 稲沢市史』 資料編六考古 新修稲沢市史編纂会事務局
32 日野幸治 1984『尾張国府跡発掘調査報告書（Ⅵ）』 稲沢市文化財調査報告ＸＸ 稲沢市教育委員会
33 日野幸治 1985『尾張国府跡発掘調査報告書（Ⅶ）』 稲沢市文化財調査報告ＸＸⅢ 稲沢市教育委員会
34 北條獻示・日野幸治 1989『尾張国府跡発掘調査報告書（ＸⅠ）』 稲沢市文化財調査報告ＸＸＸⅣ 稲沢市教育委員会

第23表　緑釉円塔一覧

むしろ、地方における人民、土地をめぐっての支配関係の再編がより直接的であったと考えられる。

私領の形成

つまり、尾張国を例とすれば、国衙領の名田を伊勢神宮領などの寺社領へ寄進することによって、私領を形成する行為が横行したことが知られ（上村 1990）、それまで国衙周辺で開発を担った在庁官人層の結束も薄らいでいったものと推測できる。このように推測すれば、在庁官人層の「宗教的結集をはかる装置」として機能した方形区画がもはや必要とされなくなったことは当然の帰結であった。

II期以降の下津北山遺跡

さらに12世紀後半以降には、尾張地域において中世村落が急増することが以前から指摘されており（佐藤 1989）、この事実は沖積地を対象とする開発主体が大きく交替したことを示すものとも考えられている。13世紀～14世紀前半に相当する下津北山遺跡II期の中世村落もその一例として位置づけられる。すなわち、下津北山遺跡の変遷過程は古代的世界から中世的世界への転換を象徴的に具現したものと評価されるのである。さらに15世紀前半頃、遺跡の約500m上流に下津城が出現すると、下津北山遺跡II期の村落も下津城の近辺に集村化を余儀なくされ、遺跡から人びとの活動の痕跡は徐々に薄らいでいき、さらに新たな近世的世界への転換の素地を準備することになるのである。

おわりに

ここまで下津北山遺跡I期を中心として、発掘調査の成果と中世宗教史との接点を得ることを目的に論を進めてきたものの、文献から与えられる宗教界のイメージと単に擦り合わせを行ったに過ぎない結果となってしまった。

しかし、中世宗教史あるいは寺院史を文献資料から構築するのみでなく、むしろ考古学の立場からは下津北山遺跡のような文献に容姿をまったく顕さない遺跡こそを積極的に取り上げ、評価していくことによって、より豊かな中世宗教史、寺院史を描くことが可能になるのではないか、という点をここでは特に強調しておきたい。[4] また、流通や生産の実態を追及することに長じた考古学においても、それらの構造的な形成に大きな役割を果たした宗教勢力についての分析、洞察は欠くべからざるものであろう。村落、民衆と宗教、寺院が果たした機能の具体的関係など今回論じえなかった課題も多い。今後も各分野の成果を注視し、改めて論じる機会を得たい。

註

(1) 12世紀末に成立が想定される長講堂領稲木荘は、下津周辺では五日市場などが荘域に含まれる可能性もあるが、その確証はない（上村 1977）。

(2) 同時に中井は、溝による方形の区画を領主居館として妥当に認定する事例について警鐘を促し、それらの多くは寺院として認定すべきものと主張する。

(3) I期の区画内の施設の消滅は、出土遺物から火災による焼亡も想定されるが、それが方形区画の宗教的機能を終焉させたとは考えない。それは、仮に災害を被ったとしても、それを復興、再興させるだけの必要性がもはや失われていたことをむしろ重要視すべきと考えるからである。

(4) また中世寺院史では、権門寺院がその研究の題材となることが多く、尾張国など権門寺院との関わりが希薄な地域を正しく評価することは難しいように思われる。

文献

新井喜久夫「文献上にあらわれた尾張陶器」『いちのみや考古』第17号 一宮考古学会

伊藤邦彦 1982「諸国一宮制の展開」『歴史学研究』No.500

稲葉伸道 1990「国衙・守護所周辺の社会と文化」『新修 鎌沢市史』本文編上 新修鎌沢市史編纂会事務局

伊藤久嗣 1996「綾「泥塔」小考」『斎宮歴史博物館研究紀要』五 斎宮歴史博物館

上島享 1996「中世前期の国家と仏教」『日本史研究』403

上村喜久子 1977「一宮地方の荘園と尾張国衙領」『新編 一宮市史』本文編上 森鉦太郎

上村喜久子 1990「尾張国」『講座日本荘園史5 東北・関東・東海地方の荘園』吉川弘文館

上村喜久子 1998「中世の真清田社と一宮制」(講演資料) 一宮市立博物館

上原真人 1978「古代末期における瓦生産体制の変革」『古代研究』13・14

宇野隆夫 1999「中世の山岳宗教と窯業生産―普門寺遺跡と渥美窯をめぐって―」(講演資料) 豊橋市教育委員会

遠塩千尋 1982「中世日本における阿育王伝説の意義」『仏教史学研究』第24巻 第2号

遠塩千尋 1996「国分寺の中世的展開」吉川弘文館

久野修義 1993「中世寺院と社会・国家」『日本史研究』367

黒田俊雄 1975『日本中世の国家と宗教』岩波書店

木下密運 1984「小塔」『新版仏教考古学講座 第3巻 塔・塔婆』雄山閣

斎藤利男 1984「荘園公領制社会における都市の構造と領域―地方都市と領主制―」『歴史学研究』増刊号 No.534 青木書店

笹生衛 1997「考古学から見た中世寺社―中世寺院遺跡の分類と変遷を中心に―」『帝京大学山梨文化研究所研究報告』第8集 帝京大学山梨文化財研究所

佐藤公保 1989「清須周辺の中世村落」『清須―織豊期の城と都市― 研究報告編』第5回東海埋蔵文化財研究会

佐藤弘夫 1987『日本中世の国家と仏教』中世史研究選書 吉川弘文館

佐藤幸弘 1998「コメント 平安時代の国衙と領主」『日本史研究』427

柴垣勇夫 1982「尾張における平安末期の瓦生産―その分布と史的背景―」『愛知県陶磁資料館 研究紀要』1 愛知県陶磁資料館

柴垣勇夫 1989「12世紀における中世窯の成立―東海地方瓷器系窯成立期の様相―」『東洋陶磁』第17号 東洋陶磁学会

須川勝久 1988「宮沢遺跡」『一宮東部地区は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』一宮町教育委員会

須川勝久 1989『宮沢遺跡』一宮町教育委員会

鈴木光一 1991『祝田遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第51集 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

平雅行 1984「中世宗教の社会的展開」『講座日本歴史3 中世1』東京大学出版会

中井均 1991「中世の居館・寺そして村落―西国を中心として―」『中世の城と考古学』新人物往来社

中川渉編 1995『玉津田中遺跡―第4分冊―(辻ヶ内・居住地区の調査)』兵庫県教育委員会

森原三雄ほか 1989『権現堂遺跡』増穂町教育委員会

肥後和男 1938「日本発見の泥塔について」『考古学』第9巻 第4号

平岡定海 1977「源頼朝の八万四千基造塔と逆美寺」『鎌倉遺文 月報』13 東京堂出版

不破英紀 1996「平安時代前期における国司と地方仏教」『古代王権と交流4 伊勢湾と古代の東海』名著出版

森田稔 1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開―神出古窯址群を中心に―」『神戸市立博物館 研究紀要』第3号 神戸市立博物館

彌永貞三 1977「真清田神社」『新編 一宮市史』本文編上 森鉦太郎

横内裕人 1996「仁和寺御室考―中世前期における院権力と真言密教―」『史林』第79巻 第4号

義江彰夫 1984 a「中世の市場の性格と草戸千軒町遺跡」『草戸千軒』No.129 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所

義江彰夫 1984 b「中世前期の都市と文化」『講座日本歴史3 中世1』東京大学出版会

第6章 結語

今回の下津北山遺跡の発掘調査で得られた成果を簡潔に述べておく。

Ⅰ期（12世紀後半～13世紀初頃）―尾張国衙に関連する寺院の設置
Ⅱ期（13世紀～14世紀後半）―中世村落の形成
Ⅲ期（15世紀）―集村化による遺跡の衰滅

Ⅰ期については、宗教的儀礼を執行した場として機能したと推定される方形区画のおおよそを明らかとした。その内容については第5章（3）においてやや詳細に論じ、尾張国衙、あるいは院政権との宗教的、政治的連関構造に遺跡が位置づけられるものとして積極的に評価した。Ⅱ期における中世村落は鎌倉街道と下津宿駅、あるいは、『神鳳鈔』に記載された「下津御厨」に関係する可能性が考えられる。Ⅲ期における遺跡の変貌は上流の下津城跡の動きに対応したものであろう。

さて、今回得られた多くの成果を、本報告のなかで十分に咀嚼しえたかどうかは今後も自問していく必要があろう。特に文献や伝承にないⅠ期の遺跡の姿にどのようなイメージを与えるべきかは、発掘調査時から常に考えをめぐらせてきたところであり、本報告が現状における自身の限られた能力のなかでの認識にとどまっていることは否定できない事実である。

しかし、上記のような理解が大筋において承認されるなら、下津北山遺跡は12世紀から15世紀に至るまでの、まさに中世の波動とともに大地に刻まれた人びとの勉まざる歩みを図らずも私どもに伝えたことになる。いずれにせよ、下津城跡での調査以来、下津地区ではじめて本格的に実施された今回の調査成果が、中世社会において下津の地が占めた位置の重要性を再認識させたことは間違いない。

そして、中世的世界が向かった方向を下津の地が占めた歴史的な位置から見定めることは、新たな都市計画を推し進める現代の私どもにとって何がしかの意味をもつものと信じつつ、本報告を結ぶこととしたい。

別　表

遺構一覧表
　96区
　97区
遺物一覧表
　土器・陶磁器
　その他の遺物
遺物集計表

調査区	遺構番号	グリッド	長軸 m	短軸 m	深さ m	備　考
96	NR01	Ⅶ19p-10t		4.87	0.97	
96	SA01P.1	ⅨI1t	0.65	0.46	0.21	
96	SA01P.2	ⅨI1r	0.36	0.34	0.34	
96	SA01P.3	ⅨI1s	0.31	0.30	0.39	
96	SA01P.4	ⅨI1n	0.31	0.25	0.42	
96	SA01P.5	ⅨI1h	0.20	0.18	0.14	
96	SA01P.6	ⅨI1b	0.24	0.21	0.26	
96	SA01P.7	ⅨI1c	0.23	0.18	0.08	
96	SD01	Ⅶ11p-Ⅶ11n		0.63	0.19	
96	SD02	Ⅶ11p-Ⅶ12a		0.62	0.28	
96	SD03	Ⅶ11t-2c	1.87	0.50	0.03	
96	SD04	Ⅶ11p-Ⅶ12a		0.60	0.20	
96	SD05	Ⅶ11p-15q	12.02	0.54	0.18	
96	SD06	Ⅶ13s-Ⅶ14u		0.52	0.08	
96	SD07	Ⅶ11q-20r-Ⅶ15o		3.54	0.95	
96	SD08	Ⅶ16r-17r	6.58	1.08	0.28	
96	SD09	Ⅶ13t-19t		1.06	0.21	上面遺構
96	SD10	Ⅶ17r-Ⅶ16b		0.73	0.25	
96	SD11	Ⅶ19s-Ⅶ19b		1.62	0.32	上面遺構
96	SD12	Ⅶ17r-Ⅶ18s		0.50	0.13	
96	SD13	Ⅶ19s-ⅨI1b		0.50	0.23	
96	SD14	Ⅶ20t	2.64	0.41	0.06	
96	SD15	Ⅶ20t	1.90	0.35	0.06	
96	SD16	Ⅶ20s	2.42	0.43	0.14	
96	SD17	Ⅶ20s-ⅨI3t		0.41	0.19	（97・SD09）
96	SD18	Ⅶ22t-20t	1.95	0.33	0.05	
96	SD19	ⅨI1s-2s	8.15	1.27	0.08	
96	SD20	ⅨI2c-4b		0.42	0.07	
96	SD21	ⅨI6s-7d		3.54	0.47	（97・SD08）
96	SD22	ⅨI3h-4b		0.42	0.26	SB01の周溝溝
96	(SD23)	ⅨI8a-9a				上面遺構
96	SD24	ⅨI8t-9t-ⅨI7a-8b		0.54	0.15	（97・SD20）
96	SD25	ⅨI16a	2.73	0.28	0.05	
96	SE01	ⅨI15s	1.41	1.33	0.93	
96	SE02	ⅨI2c-2t	2.13	1.86	0.52	
96	SE03	ⅨI1a	1.94	1.71	0.47	
96	SE04	ⅨI2c-3c		1.55	0.68	
96	SE05	ⅨI7b-8b	2.01	1.81	1.50	
96	SE06	ⅨI7t-8t		1.91	0.57	
96	SK001	ⅨI2a		1.44	0.28	
96	SK002	ⅨI3c	1.98	1.30	0.06	
96	SK003	ⅨI5a	0.72	0.66	0.04	
96	SK004	ⅨI1t	0.26	0.22	0.04	
96	SK005	ⅨI2t	0.30	0.29	0.04	
96	SK006	ⅨI5t	0.35	0.30	0.10	
96	SK007	ⅨI3a	0.55	0.51	0.30	
96	SK008	ⅨI1t	0.41	0.29	0.34	
96	SK009	ⅨI1t	0.30	0.25	0.41	
96	SK010	ⅨI2a	0.42	0.38	0.23	
96	SK011	ⅨI2a		0.25	0.37	SB01
96	SK012	ⅨI5b		1.64	0.16	
96	SK013	ⅨI8a	0.32	0.25	0.04	
96	SK014	ⅨI8a	0.65	0.44	0.04	
96	SK015	ⅨI8a	0.52	0.30	0.06	
96	SK016	ⅨI8a	0.31	0.31	0.05	
96	SK017	ⅨI8a	0.38	0.32	0.05	
96	SK018	ⅨI4t-ⅨI4b		0.87	0.07	
96	SK019	ⅨI4a-4b			0.60	
96	SK020	ⅨI2c	0.53	0.43	0.29	
96	SK021	ⅨI3c	0.29	0.23	0.23	SB02
96	SK022	ⅨI2b-2c	0.31	0.27	0.12	
96	SK023	ⅨI2b	0.35	0.30	0.24	SB02
96	SK024	ⅨI2b	0.25	0.20	0.07	
96	SK025	ⅨI3b-3c	0.52	0.47	0.39	
96	SK026	ⅨI4c	0.24			
96	SK027	ⅨI3b-3c	0.65	0.45	0.26	
96	SK028	ⅨI3b	0.40	0.35	0.28	
96	SK029	ⅨI1t	0.38		0.04	
96	SK030	ⅨI3a-4a				（SX002）
96	SK031	ⅨI8t	0.37	0.36	0.07	
96	SK032	ⅨI8a	0.37	0.33	0.05	
96	SK033	ⅨI8a	0.36	0.30	0.05	
96	SK034	ⅨI1c	0.36	0.28	0.09	SB02
96	SK035	ⅨI8a	0.38	0.31	0.07	
96	SK036	ⅨI8a		0.32	0.06	
96	SK037	ⅨI8t-ⅨI8a	0.37	0.32	0.06	
96	SK038	ⅨI8a	0.28	0.27	0.07	
96	SK039	ⅨI8a		0.29	0.05	
96	SK040	ⅨI8a		0.27	0.06	
96	SK041	ⅨI8a-9a	0.37	0.35	0.04	
96	SK042	ⅨI8a	0.41		0.04	
96	SK043	ⅨI8a	0.33	0.29	0.07	
96	SK044	ⅨI8b	0.36	0.34	0.06	
96	SK045	ⅨI8b	0.31	0.23	0.04	
96	SK046	ⅨI8a	0.30	0.25	0.07	
96	SK047	ⅨI8a	0.47	0.29	0.05	
96	SK048	ⅨI8a	0.40	0.26	0.07	
96	SK049	ⅨI8a			0.04	
96	SK050	ⅨI8a		0.28	0.04	
96	SK051	ⅨI8a	0.26	0.23	0.04	
96	SK052	ⅨI8b	0.20	0.18	0.05	
96	SK053	ⅨI8b	0.21	0.19	0.04	
96	SK054	ⅨI8b	0.27	0.23	0.04	
96	SK055	ⅨI7a			0.26	
96	SK056	ⅨI7b	0.48	0.39	0.17	
96	SK057	ⅨI7b	1.03	0.78	0.05	
96	SK058	ⅨI7c-7d			0.05	
96	SK059	ⅨI7d	1.02	0.51	0.08	

調査区	遺構番号	グリッド	長軸 m	短軸 m	深さ m	備　考
96	SK060	ⅨI5c	1.28	0.38	0.16	
96	SK061	ⅨI5c	1.57	0.25	0.13	
96	SK062	ⅨI5c	1.66	0.40	0.05	
96	SK063	ⅨI5d			0.04	
96	SK064	ⅨI4b	0.41	0.38	0.17	
96	SK065	Ⅶ20a	0.39	0.32	0.04	
96	SK066	Ⅶ20a	0.30	0.28	0.04	
96	SK067	Ⅶ20a	0.33	0.29	0.15	
96	SK068	Ⅶ20t	0.50	0.49	0.42	
96	SK069	Ⅶ20t	0.53	0.51	0.03	
96	SK070	Ⅶ20t	0.25		0.23	
96	SK071	Ⅶ20t	0.25	0.25	0.01	
96	SK072	Ⅶ20t	0.37	0.32	0.42	
96	SK073	Ⅶ20t	0.26	0.24	0.21	
96	SK074	Ⅶ20t	0.33	0.29	0.19	
96	SK075	Ⅶ20t	0.94	0.85	0.55	
96	SK076	Ⅶ20a	0.49	0.34	0.09	
96	SK077	Ⅶ20a	0.40	0.33	0.16	
96	SK078	Ⅶ19b	0.42	0.28	0.05	SB03
96	SK079	Ⅶ19b			0.18	SB03
96	SK080	Ⅶ20b	0.38	0.30	0.04	
96	SK081	Ⅶ20b	0.27	0.24	0.05	SB03
96	SK082	Ⅶ20b	0.57	0.28	0.21	
96	SK083	Ⅶ20b	0.60		0.40	
96	SK084	Ⅶ20b	0.42	0.32	0.05	
96	SK085	Ⅶ20b	0.24	0.21	0.27	SB03
96	SK086	ⅨI1s	0.32	0.27	0.06	
96	SK087	ⅨI1s	0.34	0.32	0.12	
96	SK088	ⅨI1s	0.45	0.40	0.30	
96	SK089	ⅨI1t	0.34	0.30	0.12	
96	SK090	ⅨI1t	0.36	0.32	0.28	
96	SK091	ⅨI1t	0.65	0.34	0.38	
96	SK092	ⅨI1t-2t	0.26	0.23	0.32	
96	SK093	ⅨI1t	0.26	0.23	0.13	
96	SK094	ⅨI1t	0.29	0.27	0.29	
96	SK095	ⅨI1t	0.28	0.26	0.04	
96	SK096	ⅨI1t	0.45	0.40	0.34	
96	SK097	ⅨI1t	0.32	0.26	0.25	
96	SK098	ⅨI1t-ⅨI1a	0.30	0.25	0.36	
96	SK099	ⅨI1t	0.41	0.34	0.57	
96	SK100	ⅨI1t	0.41	0.34	0.60	
96	SK101	ⅨI1t	0.26	0.23	0.03	
96	SK102	ⅨI1t-2t	0.46			
96	SK103	ⅨI1t-2t		0.27	0.03	
96	SK104	ⅨI1a	0.32	0.28	0.16	
96	SK105	ⅨI1a	0.45		0.06	
96	SK106	ⅨI1a	0.38	0.31	0.30	
96	SK107	ⅨI1a	0.28	0.25	0.05	SB05
96	SK108	ⅨI1a			0.04	
96	SK109	ⅨI1a	0.37	0.33	0.34	SB05
96	SK110	ⅨI1a	0.25	0.23	0.42	
96	SK111	ⅨI1a	0.27	0.26	0.29	SB05
96	SK112	ⅨI1a	0.38	0.29	0.30	SB05
96	SK113	ⅨI1b	0.26	0.23	0.69	SB02
96	SK114	ⅨI1b	0.29	0.26	0.40	SB02
96	SK115	ⅨI1b		0.27	0.05	SB02
96	SK116	Ⅶ22t	0.40	0.28	0.32	
96	SK117	Ⅶ22t			0.03	
96	SK118	Ⅶ22t	0.36	0.29	0.03	
96	SK119	Ⅶ22t	0.37	0.36	0.49	
96	SK120	Ⅶ22t	0.31	0.28	0.05	
96	SK121	Ⅶ22t	0.30	0.23	0.02	
96	SK122	Ⅶ22t			0.08	
96	SK123	Ⅶ22t	0.38	0.31	0.03	
96	SK124	Ⅶ22t	0.24	0.22	0.05	
96	SK125	Ⅶ22t	0.24	0.19	0.04	
96	SK126	Ⅶ22t-3t	0.21	0.20	0.05	
96	SK127	Ⅶ22t	0.24	0.19	0.03	SB01
96	SK128	Ⅶ22t	0.34	0.24	0.05	
96	SK129	Ⅶ22a	0.21	0.20		
96	SK130	Ⅶ22a	0.31	0.28	0.05	
96	SK131	Ⅶ22a		0.28	0.24	
96	SK132	Ⅶ22a	0.26	0.25		
96	SK133	Ⅶ22a	0.39	0.32	0.14	
96	SK134	Ⅶ22a	0.27	0.23	0.03	
96	SK135	Ⅶ22a	0.28	0.24	0.04	
96	SK136	Ⅶ22a	0.50	0.37	0.29	
96	SK137	Ⅶ22a	0.35	0.33	0.31	
96	SK138	Ⅶ22a		0.34	0.03	
96	SK139	Ⅶ22a				
96	SK140	Ⅶ22a				
96	SK141	Ⅶ22a	0.32	0.31	0.04	
96	SK142	Ⅶ22a	0.36	0.32	0.26	
96	SK143	Ⅶ22a	0.37	0.35	0.44	
96	SK144	Ⅶ22a	0.41	0.37	0.07	
96	SK145	Ⅶ22a	0.37	0.31	0.41	SB01
96	SK146	Ⅶ22a	0.36	0.27	0.04	
96	SK147	Ⅶ22a	0.24	0.21	0.05	
96	SK148	Ⅶ22a	0.26	0.24	0.33	
96	SK149	Ⅶ22a		0.20	0.05	
96	SK150	Ⅶ22a-2b	0.33	0.29	0.29	
96	SK151	Ⅶ22b	0.44	0.36	0.42	SB01
96	SK152	Ⅶ22b		0.22	0.03	
96	SK153	Ⅶ22b	0.37	0.32	0.03	
96	SK154	Ⅶ22b				
96	SK155	ⅨI3s	0.40	0.38	0.15	SB01
96	SK156	ⅨI3s	0.52	0.40	0.41	SB01
96	SK157	ⅨI3s	0.33	0.28	0.28	SB01

調査区	遺構番号	グリッド	長軸 m	短軸 m	深さ m	備　考
96	SK158	IX13t	0.31	0.29	0.22	
96	SK159	IX13t	0.43	0.30	0.43	SB01
96	SK160	IX13t	0.48	0.45	0.49	SB01
96	SK161	IX13t	0.32	0.29	0.43	SB01
96	SK162	IX13t	0.51	0.36	0.38	
96	SK163	IX13t		0.55	0.46	SB01
96	SK164	IX13t	0.41	0.39	0.32	SB01
96	SK165	IX13t	0.35	0.28		
96	SK166	IX13t-IX13u	0.45	0.39	0.30	
96	SK167	IX13t	0.31	0.29	0.31	
96	SK168	IX13t	0.29	0.22	0.26	
96	SK169	IX13t	0.32		0.27	SB01
96	SK170	IX13t	0.49	0.34	0.14	SB01
96	SK171	IX13t	0.41	0.31	0.34	SB01
96	SK172	IX13u	0.32	0.29	0.21	SB01
96	SK173	IX13u	0.44		0.32	SB01
96	SK174	IX13u	0.38	0.30	0.28	SB01
96	SK175	IX13u	0.73	0.39	0.30	SB01
96	SK176	IX12t	0.20	0.13	0.03	SB01
96	SK177	IX13u	0.29	0.25	0.32	
96	SK178	IX13u	0.29	0.27	0.22	SB01
96	SK179	IX13u-3b	0.33	0.32	0.33	
96	SK180	IX12b-3b	0.46		0.21	
96	SK181	IX13b	0.27	0.22	0.03	
96	SK182	IX13b	0.52		0.24	
96	SK183	IX13b		0.23	0.03	SB01
96	SK184	IX13b		0.33	0.04	
96	SK185	IX13a	0.33	0.27	0.18	
96	SK186	IX13a	0.30	0.26	0.24	
96	SK187	IX13b	0.37	0.35	0.45	SB01
96	SK188	IX13a	0.29	0.26	0.25	
96	SK189	IX13b	0.45	0.38	0.23	SB01
96	SK190	IX13b	0.32	0.25	0.31	
96	SK191	IX13a	0.35	0.35	0.27	
96	SK192	IX13a	0.48	0.44	0.29	SB01
96	SK193	IX13a-4a	0.53	0.37	0.03	
96	SK194	IX13b	0.53	0.47	0.34	SB01
96	SK195	IX13b-3c		0.52	0.08	
96	SK196	IX13c	0.40	0.31	0.34	
96	SK197	IX13c	0.53	0.45	0.34	
96	SK198	IX13c	0.42	0.37	0.22	
96	SK199	IX14c	0.35		0.20	
96	SK200	IX14c	0.38	0.31	0.25	
96	SK201	IX14b	0.35		0.31	
96	SK202	IX13t	0.35	0.29	1.00	
96	SK203	IX14t	0.22	0.17		
96	SK204					欠番
96	SK205					欠番
96	SK206					欠番
96	SK207					欠番
96	SK208	WI18t	0.37	0.32	0.04	
96	SK209	WI18t	0.67	0.40	0.07	
96	SK210	WI16t	0.39	0.31	0.05	
96	SK211	WI16s			0.40	
96	SK212	WI16u			0.20	
96	SK213	WI16s	0.40	0.35	0.05	
96	SK214	WI16s	0.57	0.52	0.04	
96	SK215	WI16s	0.45	0.37	0.03	
96	SK216	WI17s	0.36	0.28	0.05	
96	SK217					欠番
96	SK218					欠番
96	SK219	WI17s	0.47	0.37	0.06	
96	SK220	WI17s	0.40	0.32	0.05	
96	SK221	WI11s	0.43	0.36	0.05	
96	SK222	WI13q	0.52	0.38	0.06	
96	SK223	WI13q	0.62	0.52	0.06	
96	SK224	WI14q	0.49	0.36	0.06	
96	SK225	WI13r	0.39	0.35	0.05	
96	SK226	WI14r	0.38	0.28	0.03	
96	SK227	WI14r	0.30	0.26	0.04	
96	SK228	WI19b	0.29	0.27		SB03
96	SK229	IX11s	0.33	0.23	0.10	
96	SK230	IX11s-1t	0.40		0.55	
96	SK231	IX11t		0.36	0.31	
96	SK232	WI20t-IX11t	0.46	0.41	0.07	
96	SK233	IX11u	0.24	0.21	0.20	
96	SK234	IX11b	0.24	0.22	0.02	SB02
96	SK235	IX12b	0.17	0.11	0.03	SB02
96	SK236	IX12a-3a	0.37	0.32	0.13	
96	SK237	IX13b	0.25	0.19	0.09	
96	SK238	IX13b	0.34	0.28	0.19	
96	SX01	WI16s-16t	2.39	1.31	0.53	
96	SX02(SK10)	IX13u-4a	4.13	1.48	0.37	
96	SX03	WI16t				土器集積と炭化物、焼土塊
96	SX04P.1	IX16b	0.38	0.33	0.30	
96	SX04P.2	IX16b	0.32	0.31	0.30	
96	SX04P.3	IX16b	0.47	0.35	0.42	
96	SX04P.4	IX16b	0.39	0.31	0.26	
96	SX04P.5	IX16b	0.31	0.22		

調査区	遺構番号	グリッド	長軸 m	短軸 m	深さ m	備　考
97	NR01	Ⅶ12e-18o				
97	SD01	Ⅸ10b-11a				(SD03の上層)
97	SD02	Ⅸ10b-Ⅸ11a				(SD03の上層)
97	SD03	Ⅸ10b-Ⅸ11b		4.60	0.25	
97	SD04	Ⅸ13b-14d		1.88	0.24	
97	SD05	Ⅸ14b-14d	1.62～0.52		0.20	
97	SD06	Ⅸ14d-15d		0.76	0.21	
97	SD07	Ⅸ1 2e-3r	5.18	1.40	0.64	SB01の雨落溝
97	SD08	Ⅸ1 5r-6t		6.00	0.67	(96SD21)
97	SD09	Ⅸ1 3s		0.34	0.07	(96SD17)
97	SD10	Ⅶ15n-16p	1.53～0.43		0.13	
97	SD11	Ⅶ17q-18o	1.70～0.48		0.18	
97	SD12	Ⅶ13o-18o		0.43	0.12	
97	SD13	Ⅶ16p-20o		1.57	0.23	
97	SD14	Ⅶ18p-19o		0.43	0.13	
97	SD15	Ⅶ18o-18p		0.40	0.11	
97	SD16	Ⅶ13o-16n		2.29	0.48	
97	SD17	Ⅶ10p-19o		0.50	0.14	
97	SD18	Ⅶ19k-11n		0.79	0.90	(96NR01下層南溝)
97	SD19	Ⅶ18k-8l		0.39	0.10	
97	SD20	Ⅸ1 8s-9t		0.58	0.11	(96SD24)
97	SD21	Ⅸ1 9u-10u	4.97	0.44	0.04	
97	SD22	Ⅶ18p		0.69	0.13	
97	SD23	Ⅸ17e-18d		0.40	0.14	
97	SD24	Ⅸ17e-18e		1.38	0.06	
97	SD25	Ⅸ17f-18f		0.50	0.24	
97	SD26	Ⅸ10b-Ⅸ10a		0.74	0.11	
97	SD27	Ⅸ11a-11b		0.53	0.25	
97	SE01	Ⅸ11a-12a	3.32	3.10	0.45	動物の残欠
97	SE02	Ⅸ1 7s-8t	3.32	3.05	1.40	動物の残欠
97	SE03	Ⅸ1 8r	3.71	3.42	1.32	動物の残欠
97	SK001	Ⅸ1 4s	1.85	1.77	0.93	動物遺存,鉄滓
97	SK002	Ⅸ1 9b			0.14	
97	SK003	Ⅸ1 5s	1.16	0.56	0.37	
97	SK004	Ⅸ1 6s				SD08上面で検出
97	SK005	Ⅸ1 4q	0.60	0.46	0.18	
97	SK006	Ⅸ1 3s	0.36	0.33	0.18	SB01
97	SK007	Ⅸ1 3s	0.32	0.31	0.11	SB01
97	SK008	Ⅸ1 3s	0.31		0.07	SB01
97	SK009	Ⅸ1 3r	0.38	0.32	0.21	SB01
97	SK010	Ⅸ1 3s	0.20	0.16	0.07	
97	SK011	Ⅸ1 3s	0.30	0.28	0.12	SB01
97	SK012	Ⅸ1 3q	0.32	0.30	0.07	
97	SK013	Ⅸ1 4q	0.40	0.29	0.09	
97	SK014	Ⅸ1 4r	0.39	0.32	0.22	SA02
97	SK015	Ⅸ1 4r	0.44	0.37	0.33	SB04
97	SK016	Ⅸ1 4r	0.43	0.35	0.11	
97	SK017	Ⅸ1 4r	0.32	0.31	0.35	SA02
97	SK018	Ⅸ1 4r	0.44		0.28	SB04,灰釉系陶器椀
97	SK019	Ⅸ1 5r	0.24	0.23	0.13	
97	SK020	Ⅸ1 4r	0.30	0.27	0.25	SB07
97	SK021	Ⅸ1 4r	0.34	0.29	0.36	SB07,柱根？
97	SK022	Ⅸ1 4r	0.30	0.24	0.14	
97	SK023	Ⅸ1 5r	0.32	0.30	0.25	SB07
97	SK024	Ⅸ1 4r	0.38	0.34	0.19	SB04
97	SK025	Ⅸ1 4r	0.34	0.30	0.08	
97	SK026	Ⅸ1 4r	0.43	0.37	0.33	SB04
97	SK027	Ⅸ1 5r	0.32	0.30	0.22	SB07
97	SK028	Ⅸ1 5r	0.49	0.41	0.35	SB04
97	SK029	Ⅸ1 5s	0.42	0.36	0.10	
97	SK030	Ⅸ1 5r	0.27	0.22	0.05	
97	SK031	Ⅸ1 5r	0.28	0.19	0.08	
97	SK032	Ⅸ1 5r	0.27	0.23	0.28	
97	SK033	Ⅸ1 5r	0.19		0.05	
97	SK034	Ⅸ1 5r	0.39		0.09	
97	SK035	Ⅸ1 5r	0.29	0.25	0.24	SA02
97	SK036	Ⅸ1 5r	0.49	0.41	0.21	
97	SK037	Ⅸ1 5r	0.35	0.32	0.08	
97	SK038	Ⅸ1 5s	0.33	0.28	0.27	
97	SK039	Ⅸ1 5s	0.31		0.16	
97	SK040	Ⅸ1 5s		0.37	0.23	SA02
97	SK041	Ⅸ1 5s		0.23	0.05	
97	SK042	Ⅸ1 5s	0.44	0.42	0.08	
97	SK043	Ⅸ1 7t	0.41	0.37	0.18	SA03
97	SK044	Ⅸ1 7t	0.40	0.40	0.16	SA03
97	SK045	Ⅸ1 8t	0.24	0.20	0.14	SA03
97	SK046	Ⅸ1 8s	0.32		0.22	SA03
97	SK047	Ⅸ1 8s	0.32	0.31	0.04	
97	SK048	Ⅸ1 8s	0.38	0.35		
97	SK049	Ⅸ1 8s	0.48	0.33	0.42	SA04
97	SK050	Ⅸ1 8s	0.33	0.28	0.12	
97	SK051	Ⅸ1 8s	0.31	0.26	0.28	
97	SK052	Ⅸ1 9s	0.50	0.36	0.39	SB08
97	SK053	Ⅸ1 9s	0.38			
97	SK054	Ⅸ1 9s	0.34	0.32	0.08	
97	SK055	Ⅸ1 9s	0.59			
97	SK056	Ⅸ1 9s	0.50	0.41	0.51	SB08
97	SK057	Ⅸ1 9s	0.30	0.25	0.11	
97	SK058	Ⅸ1 9b	0.35	0.28	0.70	SB06,灰釉系陶器椀
97	SK059	Ⅸ1 9s	0.36	0.30	0.49	SA04
97	SK060	Ⅸ1 9s	0.40		0.22	
97	SK061	Ⅸ1 9s	0.27		0.14	
97	SK062	Ⅸ1 9s	0.78	0.33	0.16	
97	SK063	Ⅸ1 9s	0.31	0.27	0.21	SB08
97	SK064	Ⅸ1 9s	0.35	0.26	0.12	
97	SK065	Ⅸ1 9s	0.27	0.25	0.05	
97	SK066	Ⅸ1 9a	0.81	0.48	0.30	SB08
97	SK067	Ⅸ1 9a	0.19		0.08	

調査区	遺構番号	グリッド	長軸 m	短軸 m	深さ m	備　考
97	SK068	Ⅸ1 9a	0.32	0.25	0.47	SB06
97	SK069	Ⅸ1 9a	0.41	0.31	0.24	
97	SK070	Ⅸ1 9a	0.47	0.36	0.20	
97	SK071	Ⅸ1 9a	0.25	0.20	0.10	
97	SK072	Ⅸ1 9a	0.41	0.33	0.45	SB08
97	SK073	Ⅸ1 9a	0.35	0.31	0.26	
97	SK074	Ⅸ1 9a	0.47	0.37	0.36	
97	SK075	Ⅸ1 9a	0.42		0.15	
97	SK076	Ⅸ1 9a		0.39	0.15	
97	SK077	Ⅸ1 9a	0.38		0.41	
97	SK078	Ⅸ1 9a	0.33	0.29	0.25	
97	SK079	Ⅸ1 9a	0.36	0.37	0.11	灰釉系陶器椀
97	SK080	Ⅸ1 9a	0.27	0.21	0.15	
97	SK081	Ⅸ1 9a	0.29	0.27	0.24	SB08
97	SK082	Ⅸ1 9a	0.32	0.28	0.54	SA04
97	SK083	Ⅸ1 9a	0.38		0.13	
97	SK084	Ⅸ1 9a	0.25	0.17	0.11	
97	SK085	Ⅸ1 9a	0.36		0.14	
97	SK086	Ⅸ1 9a		0.24	0.08	
97	SK087	Ⅸ1 9a	0.52	0.28	0.13	
97	SK088	Ⅸ1 9b	0.33	0.26	0.13	
97	SK089	Ⅸ1 9b		0.21	0.15	
97	SK090	Ⅸ10b	0.34	0.26	0.31	
97	SK091	Ⅸ10b	0.34	0.27	0.53	SB06,炭化物,焼土塊
97	SK092	Ⅸ10a	0.36	0.27	0.08	
97	SK093	Ⅸ10a	0.33	0.28	0.41	SB06,炭化物,焼土塊
97	SK094	Ⅸ10b	0.42	0.32	0.48	SB06,炭化物,焼土塊,鉄製品
97	SK095	Ⅸ10a	0.37		0.06	
97	SK096	Ⅸ14c	0.31	0.28	0.04	
97	SK097	Ⅸ14c	0.20		0.02	
97	SK098	Ⅸ14c	0.37		0.05	
97	SK099	Ⅶ15n	0.31	0.28	0.03	
97	SK100	Ⅶ10l-11m	3.39	3.10	0.91	
97	SK101	Ⅸ10b-Ⅸ10a		1.00	0.75	灰釉系陶器椀皿,砥石
97	SK102	Ⅸ10b-Ⅸ10b		0.85	0.53	
97	SK103	Ⅸ17e-17f			0.52	
97	SK104	Ⅸ16e	1.12	0.91	1.07	動物の残欠
97	SK105	Ⅸ16e			0.05	
97	SK106	Ⅸ1 9b	0.42	0.34	0.21	
97	SK107	Ⅸ1 9b	0.21		0.13	
97	SK108	Ⅸ1 9b	0.24		0.11	
97	SK109	Ⅸ1 9b	0.30		0.40	
97	SK110	Ⅸ1 9b	0.30	0.30	0.29	
97	SK111	Ⅸ1 8s	0.24	0.23	0.15	
97	SK112	Ⅸ10a-11a	1.85	1.43	0.26	

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
1	E-1	96	黒色粘土層上位	ⅨJ 4a	弥生土器	台付甕				6.3*	
2	E-2	97	NR01	ⅧI 7k	土師器	椿ケ坪型壺		18.5		6.2*	
3	E-3	97	NR01	ⅧI12n	土師器	壺			7.0	1.9*	
4	E-4	97	SD13	ⅧI18o	土師器	S字甕		13.7		2.9*,4.7*	
5	E-5	96	検出Ⅰ	ⅨJ 1a	須恵器	蓋				2.3*	
6	E-6	96	SD21	ⅨJ 6c,6d	須恵器	短頸壺				9.5*	
7	E-7	96	検出Ⅰ	ⅧI12s	須恵器	短頸壺		15.2*		3.9*	
8	E-8	97	NR01	ⅧI 5j	須恵器	杯		14.8*	9.2*	4.5	外底ヘラ記号
9	E-9	96	SD01	／	須恵器	杯		14.5*		4.7*	
10	E-10	96	SD07	ⅧI15s	須恵器	杯			12.8*	1.7*	
11	E-11	97	検出Ⅰ	ⅨJ 9a	須恵器	杯		11.0*		3.3	
12	E-12	97	SD18	ⅧI10k	須恵器	蓋		17.9*		3.1*	
13	E-13	96	南北トレンチ	／	須恵器	蓋				2.9*	
14	E-14	96	SK18上層	ⅨJ 4a	須恵器	蓋				1.7*	
15	E-15	96	SD07	ⅧI15s	須恵器	蓋				1.8*	
16	E-16	97	SD18	ⅧI10m	須恵器	蓋				1.1*	
17	E-17	97	NR01	ⅧI 5o	須恵器	長頸壺		9.1*		6.6*	
18	E-18	96	検出Ⅰ	ⅧI20s	灰釉陶器	平瓶				2.4*	
19	E-19	97	NR01砂層	ⅧI10l	灰釉陶器	椀			7.6*	1.1*	
20	E-20	96	NR01南下層	ⅧI10p	灰釉陶器	椀			6.6*	2.0*	
21	E-21	97	SK100	ⅧI11m	灰釉陶器	椀			7.2*	2.1*	
22	E-22	96	検出Ⅰ	ⅧI13q	灰釉陶器	椀			8.8	1.7*	
23	E-23	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉陶器	椀			6.6*	2.0*	
24	E-24	97	NR01	ⅧI 8k	灰釉陶器	椀			6.3*	2.1*	
25	E-25	96	NR01	ⅧI 9s	灰釉陶器	椀			6.8	2.2*	
26	E-26	96	検出Ⅰ	ⅧI20s	灰釉陶器	椀			7.2*	2.2*	
27	E-27	97	NR01	ⅧI10l	灰釉陶器	深椀			8.0*	2.6*	
28	E-28	96	NR01	／	灰釉陶器	深椀			6.6*	4.2*	
29	E-29	96	NR01上層	ⅧI 9p	灰釉陶器	深椀			6.8*	2.3*	
30	E-30	96	SD21	ⅨJ 7c	灰釉陶器	長頸瓶？			10.4	3.3*	
31	E-31	97	NR01	ⅧI15n	灰釉陶器	長頸瓶？			11.6	5.4*	
32	E-32	96	SD07下層	ⅧI15s	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式		7.8*	3.2*	外底墨書
33	E-33	96	SD07下層	ⅧI15s	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅶ期第3型式		7.6*	2.6*	
34	E-34	96	SD07下層	ⅧJ15a	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式		8.0*	4.3*	
35	E-35	96	SD07下層	ⅧJ15a	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅶ期第3型式		8.4*	3.2*	
36	E-36	96	SD07下層	ⅧJ15a	白磁	椀Ⅳ-1類			6.4	3.4*	
37	E-37	96	SD07下層	ⅧI15t	土師器	皿ⅠDb		10.8*		2.7*	
38	E-38	96	SD07下層	ⅧI15r	土師器？	皿ⅠE		8.3	4.6	2.5	
39	E-39	96	SD07下層	ⅧI15r	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6	4.4	2.3	外スス
40	E-40	96	SD07下層	ⅧI15t	灰釉系陶器	片口鉢			12.6	5.9*	内、破面スス
41	E-41	96	SD07下層	ⅧI15s、15t、ⅧJ15a	灰釉系陶器	三筋壺（猿投産）		8.0*	8.8*	23.6*	
42	E-42	96	SD07上層	ⅧI15r	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式		8.0	2.5*	外底墨書
43	E-43	96	SD07上層	ⅧI15s	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅶ期第3型式	16.2*	6.8*	5.0	外、破面スス
44	E-44	96	SD07上層	ⅧI15s	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅶ期第3型式	16.2*	6.4*	5.2	
45	E-45	96	SD07上層	ⅧI15t	灰釉系陶器	椀ⅠD2	Ⅶ期第3型式	15.2*	6.4	4.7	内外、破面スス
46	E-46	96	SD07上層	ⅧI15t	灰釉系陶器	椀Ⅰ不明			7.6*	2.8*	外、破面スス、生焼け
47	E-47	96	SD07上層	ⅧI15t	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.4*	4.8*	2.3	
48	E-48	96	SD07上層	ⅧI15s	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅶ期第3型式	8.0*	5.0*	2.3	
49	E-49	96	SD07上層	ⅧI15r	土師器	皿ⅠC		8.0*	4.8*	2.3	
50	E-50	96	SD07上層	ⅧJ15a	土師器	皿ⅠA		7.3	3.9	2.1	
51	E-51	96	SD07上層	ⅧI15q、15r	土師器	皿ⅠDa？			10.4	2.2*	
52	E-52	96	SD07上層	ⅧJ15a	土師器	椀ⅠE			7.3*	7.6*	
53	E-53	96	SD07上層	ⅧI15s	青磁	椀龍泉窯系Ⅰ-5b類		15.8*		3.0*	
54	E-54	96	SD07上層	ⅧJ15a	土師器	伊勢型鍋		23.8*		2.2*	
55	E-55	96	SD07上層	ⅧI15r	灰釉系陶器	片口鉢	Ⅶ期第3型式	19.6*		3.5*	
56	E-56	96	SD07上層	ⅧI15r	灰釉系陶器	三筋壺（猿投産）		10.0*		2.4*	
57	E-57	96	SD10	ⅧJ17a	灰釉系陶器	広口瓶（猿投産）		26.6		16.8*	96SD07と同一
58	E-58	96	SD07下層	ⅧI18r	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅶ期第3型式		8.8*	2.1*	内外、破面スス
59	E-59	96	SD07下層	ⅧI17r	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅶ期第3型式		7.6*	3.2*	内スス
60	E-60	96	SD07下層	ⅧI19r	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式	16.1	8.0	4.6	内スス
61	E-61	96	SD07下層	ⅧI17r	土師器	皿ⅠB1a			6.6	3.2*	
62	E-62	96	SD07下層	ⅧI17r	灰釉系陶器	片口小瓶（常滑産）	1b～2型式	7.9	9.3	16.7	内外炭化物
63	E-63	96	SD07上層	ⅧI16q、16r	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅶ期第3型式		8.0*	2.6*	外底墨書、外スス
64	E-64	96	SD07上層	ⅧI18r	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅶ期第3型式		8.0*	2.3*	外スス
65	E-65	96	SD07上層	ⅧI15t	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.8	7.0	4.9	
66	E-66	96	SD07上層	ⅧI18r	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式		7.9	3.3*	外底墨書
67	E-67	96	SD07上層	ⅧI19r	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅶ期第3型式			2.8*	
68	E-68	96	SD07上層	ⅧI17r	灰釉系陶器	椀Ⅱ	Ⅶ期第1型式		6.6	4.5*	
69	E-69	96	SD07上層	ⅧI18r	灰釉系陶器	皿Ⅰ			3.5	1.5*	
70	E-70	96	SD07上層	ⅧI17q、17r	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.0	4.3	2.3	内漆被膜
71	E-71	96	SD07上層	ⅧI18r	灰釉系陶器	皿ⅢA	白土原	8.2	4.8	1.6	
72	E-72	96	SD07上層	ⅧI17q	白磁	皿		9.6*		2.2*	
73	E-73	96	SD07上層	ⅧI17q	土師器	皿ⅠB1a		13.6*	6.7	3.8	
74	E-74	96	SD07上層	ⅧI18r	土師器	伊勢型鍋				2.2*	
75	E-75	96	SD07上層	ⅧI20r	灰釉系陶器	広口瓶（常滑産）	2型式	17.2*		2.8*	
76	E-76	96	SD07上層	ⅧI19r	灰釉系陶器	片口鉢（猿投産）	Ⅶ期第3型式	27.0		10.8*	
77	E-77	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.2*	8.0*	5.3	
78	E-78	97	SD08下層	ⅨI16r、6s	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式	17.0	7.2	5.4	
79	E-79	97	SD08下層	ⅨI16r	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式	16.6	7.4	4.8	
80	E-80	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式		8.2*	3.8*	外スス
81	E-81	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式		7.8*	3.0*	
82	E-82	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠE（玉縁椀？）	Ⅶ期第3型式	14.0*		4.3*	
83	E-83	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅶ期第3型式	14.8*	6.8*	4.9	内外スス
84	E-84	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式	16.6*	7.4*	4.9	
85	E-85	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅶ期第3型式	15.4	7.3	5.1	外スス
86	E-86	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式		8.4*	3.5*	外体墨書
87	E-87	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠD2？	Ⅶ期第3型式		7.6*	3.8*	釉着？
88	E-88	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式	15.8		4.2*	
89	E-89	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅶ期第3型式		8.4	3.7*	内、破面スス
90	E-90	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式		7.0*	2.5*	外底墨書、内スス
91	E-91	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式		8.0*	2.8*	外底墨書
92	E-92	97	SD08下層	ⅨI16r	灰釉系陶器	椀Ⅰ不明			7.2	3.3*	外体墨書
93	E-93	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	椀ⅠD2？	Ⅶ期第3型式		6.2*	3.7*	
94	E-94	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	9.2*	5.0*	2.4	
95	E-95	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.7	3.4	2.7	
96	E-96	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6	4.1	2.4	内外底墨書
97	E-97	97	SD08下層	ⅨI16r	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式		3.4	1.1*	外底体墨書
98	E-98	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式		4.0	1.4*	外底墨書
99	E-99	97	SD08下層	ⅨI16r	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式		4.0*	1.2*	外底墨書
100	E-100	97	SD08下層	ⅨI16s	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式	8.4*	4.0*	2.1	

遺物一覧表

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
101	E-101	97	SD08下層	IXi 6s	灰釉系陶器	皿 I D1	第Ⅱ期第3型式	7.7	3.9	2.0	
102	E-102	97	SD08下層	IXi 6s	白磁	椀Ⅳ類		15.4*		3.2*	
103	E-103	97	SD08下層	IXi 6r	白磁	皿V-4b類				1.6*	
104	E-104	97	SD08下層	IXi 6s	白磁	皿Ⅳ-1a類？		10.6*		1.9*	
105	E-105	97	SD08下層	IXi 6s	灰釉系陶器	片口鉢（袋状底）	第Ⅱ期第3型式	27.6*		5.4*	
106	E-106	97	SD08下層	IXi 6s	灰釉系陶器	羽釜（常滑産）	2型式	31.2*		9.1*	外スス
107	E-107	96	SK30	IXj 3s	灰釉系陶器	壺（須恵産？）				9.6*	108、292と同一
108	E-108	96	SD08下層	IXi 6s	灰釉系陶器	壺（須恵産？）				10.0*	107、292と同一
109	E-109	97	SD08中層	IXi 6s	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式		6.8	2.0*	
110	E-110	97	SD08中層	IXi 6r	灰釉系陶器	椀Ⅱ	第Ⅱ期第1型式		7.4*	3.0*	内、底面スス
111	E-111	97	SD08下層	IXi 6s	白磁	椀Ⅳ類or皿類		16.2*		4.0*	
112	E-112	97	SD08上、最上層	IXi 6r	灰釉系陶器	椀 I D2	第Ⅱ期第3型式	14.6*	6.8	5.7	
113	E-113	97	SD08上、最上層	IXi 6s	灰釉系陶器	椀IIA	明和		5.8*	1.9*	外底墨書、内スス？墨痕？
114	E-114	97	SD08上、最上層	IXi 6r	灰釉系陶器	皿 I A1	第Ⅱ期第3型式	8.7	4.9	1.7	
115	E-115	97	SD08上、最上層	IXi 6s	灰釉系陶器	皿 II	尾張第6型式	8.1	4.2	2.1	
116	E-116	97	SD08上、最上層	IXi 6s	灰釉系陶器	皿 II	尾張第7型式	8.2	4.6	2.0	
117	E-117	97	SD08上、最上層	IXi 6s	灰釉系陶器	皿 II	尾張第7型式	8.8	5.2	2.0	
118	E-118	97	SD08上、最上層	IXi 6s	灰釉系陶器	皿IIA	明和	8.7	4.8	1.6	
119	E-119	97	SD08上、最上層	IXi 6r	灰釉系陶器	片口鉢（瀬戸産）	尾張第6型式	29.8*	11.5*	12.4	内、底面スス
120	E-120	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I O	第Ⅱ期第2型式	15.8	7.6	4.5	
121	E-121	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I O	第Ⅱ期第2型式	15.9	7.0	4.8	
122	E-122	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I O	第Ⅱ期第2型式	15.5	7.3	5.3	外スス
123	E-123	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	15.8	6.8	4.7	外体墨書
124	E-124	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	15.3	7.0	4.7	内底墨書
125	E-125	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	15.3	7.3	4.7	
126	E-126	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	16.0*	7.4*	4.1	
127	E-127	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	15.6	7.2	5.1	
128	E-128	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	17.8*	8.2*	4.8	
129	E-129	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1？	第Ⅱ期第3型式	16.5*	8.0	5.1	
130	E-130	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		8.0	2.8*	外底墨書
131	E-131	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		7.4*	3.7*	外体墨書
132	E-132	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I A1？	第Ⅱ期第3型式		6.3	3.4*	
133	E-133	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1？	第Ⅱ期第3型式		7.8*	2.4*	内外、底面スス
134	E-134	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A1？	第Ⅱ期第3型式		7.5	2.5*	内外底墨痕？
135	E-135	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		7.0	1.5*	
136	E-136	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		7.4	3.3*	外体墨書
137	E-137	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		8.0	3.7*	
138	E-138	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		6.2	2.7*	外スス
139	E-139	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		7.7	2.7*	内外底墨書
140	E-140	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	15.7	7.0	4.7	外体墨書、内外スス
141	E-141	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	17.0*	9.0*	5.2	外体墨書
142	E-142	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式				外体墨書
143	E-143	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式				外体墨書
144	E-144	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式				外体墨書
145	E-145	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式				外体墨書
146	E-146	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式				外体墨書
147	E-147	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式				外体墨書
148	E-148	96	SD21	IXj 0b	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式				外体墨書
149	E-149	96	SD21	IXj 7c	灰釉系陶器	椀 I E（玉縁椀？）	第Ⅱ期第3型式	17.4*	7.2	4.5	外底墨書、内、底面スス
150	E-150	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	15.4*	8.4*	4.7	
151	E-151	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	16.8*	8.0	5.0	
152	E-152	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	17.2*	8.0*	4.4	外底墨書
153	E-153	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	16.0*	7.2*	4.6	内底墨痕？
154	E-154	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	16.2	7.0	5.0	
155	E-155	96	SD21	IXj 6b,6c	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	15.8*	7.2*	4.7	内外、底面スス
156	E-156	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		7.8	4.1*	外底墨痕？
157	E-157	96	SD21	IXj 0a	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		6.6	4.2*	
158	E-158	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	14.7		4.9*	外体墨書
159	E-159	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I 不明	第Ⅱ期第3型式			4.0*	外体墨書
160	E-160	96	SD21	IXj 0b	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式			3.9*	外体墨書
161	E-161	96	SD21	/	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式			4.0*	外体墨書
162	E-162	96	SD21	IXj 8b	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.2*	7.0	5.0	
163	E-163	96	SD21	IXj 7c	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式	15.2		3.8*	外体墨書
164	E-164	96	SD21	/	灰釉系陶器	椀 I A	第Ⅱ期第3型式	14.7		3.7*	外体墨書
165	E-165	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.0*	8.4	4.8	内スス
166	E-166	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	15.5	7.8	5.0	
167	E-167	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.0*	8.0*	4.8	
168	E-168	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	15.5	7.6	4.8	
169	E-169	96	SD21	IXj 0b	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	15.2*	7.6	5.1	
170	E-170	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.1*	7.1*	4.1	
171	E-171	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.0	7.9	4.5	
172	E-172	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.1	6.6	4.6	
173	E-173	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.6	7.9	4.8	
174	E-174	96	SD21	IXj 0b	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式		7.9	4.2*	
175	E-175	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式		6.6*	3.4*	内、底面スス
176	E-176	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式		6.8	3.1*	内、底面スス
177	E-177	96	SD21	IXj 0b,6c	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.6	8.2*	5.6	
178	E-178	96	SD21	IXj 7a	灰釉系陶器	椀 I A2	第Ⅱ期第3型式	16.4	8.0	5.4	
179	E-179	96	SD21	IXj 0b	灰釉系陶器	椀 I A3	第Ⅱ期第3型式		7.0	2.2*	外底墨書
180	E-180	96	SD21	IXj 0b	灰釉系陶器	椀 I A3	第Ⅱ期第3型式		6.0*	2.0*	外底墨書
181	E-181	96	SD21	IXj 0b	灰釉系陶器	椀 I A3	第Ⅱ期第3型式		7.2*	3.1*	外底墨書、内外、底面スス
182	E-182	96	SD21	IXj 6b,6c	灰釉系陶器	椀 I B1	第Ⅱ期第3型式	14.8	6.7	4.5	
183	E-183	96	SD21	IXj 0b	灰釉系陶器	椀 I B1	第Ⅱ期第3型式	15.8	6.7	4.7	
184	E-184	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I B1	第Ⅱ期第3型式	16.0	7.4	5.0	
185	E-185	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式	17.2*	8.2*	4.3	外底墨書
186	E-186	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		7.6	2.2*	外底墨書
187	E-187	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I A1	第Ⅱ期第3型式		8.4*	2.2*	外底墨書
188	E-188	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I B1	第Ⅱ期第3型式	15.6*	8.2*	4.8	外底墨書
189	E-189	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I B1	第Ⅱ期第3型式	16.2	7.8	4.7	外体墨書
190	E-190	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I B1	第Ⅱ期第3型式		8.0	3.5*	内外、底面スス
191	E-191	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I B1	第Ⅱ期第3型式		6.8	3.2*	
192	E-192	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I B1	第Ⅱ期第3型式		7.0	4.0*	
193	E-193	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I B2	第Ⅱ期第3型式		7.0	3.4*	
194	E-194	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I B2	第Ⅱ期第3型式		7.9	2.5*	
195	E-195	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I B2	第Ⅱ期第3型式		7.2	2.4*	
196	E-196	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I B2	第Ⅱ期第3型式		7.7	2.0*	内スス
197	E-197	96	SD21	IXj 6b	灰釉系陶器	椀 I C1	第Ⅱ期第3型式	16.4*	7.2*	4.5	釉薬
198	E-198	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I C1	第Ⅱ期第3型式	16.1	7.7	5.3	
199	E-199	96	SD21	IXj 6c	灰釉系陶器	椀 I C1	第Ⅱ期第3型式	16.0	6.8	5.6	内底墨痕？
200	E-200	96	SD21	IXj 6d	灰釉系陶器	椀 I D1	第Ⅱ期第3型式	15.8		5.1*	

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
201	E-201	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.4*	7.0*	5.6	外、破面スス
202	E-202	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.6*	7.4*	5.7	
203	E-203	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式	14.6	6.6	5.3	
204	E-204	96	SD21	ⅨJ 6a	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式	14.8*	7.2*	5.3	内、破面スス
205	E-205	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.4	7.4	5.8	内外スス
206	E-206	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.2	7.6	5.4	
207	E-207	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠD2？	Ⅶ期第3型式	15.4	6.4	5.3	内外、破面スス
208	E-208	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠD2？	Ⅶ期第3型式	15.0	6.1	4.8	
209	E-209	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	椀ⅠD1？	Ⅶ期第3型式	15.4*	6.7	5.0	
210	E-210	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠA2？	Ⅶ期第3型式	15.4*	6.4*	4.8	
211	E-211	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	椀ⅠE	Ⅶ期第3型式	14.0	7.4	5.0	外体墨書
212	E-212	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠE（片口椀？）	Ⅶ期第3型式	14.0	6.4	5.1	
213	E-213	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠE（片口椀）	Ⅶ期第3型式	13.1	6.0	4.3	
214	E-214	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	片口小椀		7.1	3.8	2.2	
215	E-215	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式		3.8	1.7*	外底墨書
216	E-216	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	椀ⅠE	Ⅶ期第3型式		7.3	3.6*	外底刻書、外体ケズリ、外スス
217	E-217	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	子持器台（猿投産）			4.4	3.0*	
218	E-218	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠO	Ⅶ期第2型式		5.1	1.4*	
219	E-219	96	SD21	ⅨJ 7a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.8*	4.4*	2.5	外底墨書、破面摺れ
220	E-220	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.0	4.3	2.6	外体墨書
221	E-221	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式		3.2*	1.5*	内外底墨書
222	E-222	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	9.0	4.4	2.5	内外底墨書
223	E-223	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6*	3.8*	2.6	外底墨書
224	E-224	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.0	4.0	2.7	
225	E-225	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6	4.7	2.5	
226	E-226	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.6*	4.2*	2.4	
227	E-227	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.4	3.5	2.2	
228	E-228	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.5	4.2	2.1	
229	E-229	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.9	3.6	2.2	
230	E-230	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.8	3.4	2.1	外底墨書
231	E-231	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式		4.0	1.3*	外底墨書
232	E-232	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.1	3.6	2.2	
233	E-233	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.5	4.2	2.0	
234	E-234	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠE	Ⅶ期第3型式	9.4*	5.0	2.3	
235	E-235	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.3	3.4	3.1	
236	E-236	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式	8.8*	4.4*	2.3	
237	E-237	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.0	4.0	2.3	
238	E-238	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.2	4.5	2.1	外スス
239	E-239	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.0	3.8	2.3	
240	E-240	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.4*	4.4*	2.5	外底墨書
241	E-241	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅶ期第3型式		4.4	0.8*	内外底墨書
242	E-242	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.1	4.0	1.8	
243	E-243	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.0	3.9	2.3	
244	E-244	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅶ期第3型式	8.4*	4.4*	2.3	
245	E-245	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅶ期第3型式	8.9	4.4	2.2	
246	E-246	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅶ期第3型式	8.3	4.6	2.4	
247	E-247	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅶ期第3型式	8.8	5.2	2.2	釉着
248	E-248	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	8.5*	5.6*	2.0	外底墨書
249	E-249	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	7.8*	4.6*	2.0	外底墨書
250	E-250	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.0	4.3	2.4	
251	E-251	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.2	4.2	2.1	
252	E-252	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.8	4.7	2.4	
253	E-253	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.0*	3.8*	3.0	外底墨書、内スス
254	E-254	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.8	4.3	2.3	外底墨書
255	E-255	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅶ期第3型式	8.5	4.5	2.3	外底墨書
256	E-256	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅶ期第3型式	8.3	4.0	2.3	外底墨書
257	E-257	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅶ期第3型式	8.6*	4.8*	2.5	外底墨書
258	E-258	96	SD21	ⅨJ 7c	土師器	椀ⅠO			6.8*	2.0*	
259	E-259	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	椀ⅠA		14.2	6.6	4.0	
260	E-260	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	皿ⅠB2a			7.4*	3.0*	
261	E-261	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿ⅠA1a		13.4	7.4	3.6	
262	E-262	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	皿ⅠA1a		12.9	6.6	3.6	
263	E-263	96	SD21	ⅨJ 7c	土師器	皿ⅠA1a		13.8	7.2	3.6	外スス？
264	E-264	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿ⅠA2a		13.5*	7.4*	3.6	
265	E-265	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	皿ⅠAa		15.0*		3.6*	
266	E-266	96	SD21	ⅨJ 6b,6c	土師器	皿ⅠA2a			7.3	3.0*	
267	E-267	96	SD21	ⅨJ 7c	土師器	皿ⅠAa		12.8*		5.0*	
268	E-268	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿ⅠAa		12.4*		2.7*	
269	E-269	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿ⅠAa		13.4*		2.9*	
270	E-270	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿ⅠA1a			6.4	1.9*	
271	E-271	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿ⅠA2a			6.2*	1.5*	
272	E-272	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	皿ⅠA2a			6.0	1.4*	
273	E-273	96	SD21	ⅨJ 6d	土師器	皿Ⅱ1		13.4		2.6*	
274	E-274	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿Ⅱ1		13.4*		2.2	
275	E-275	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿Ⅱ1		12.4*		2.2*	
276	E-276	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	皿ⅠA1b		8.3	4.4	1.6	
277	E-277	96	SD21	ⅨJ 6c	土師器	皿ⅠA1b		7.4*	4.4*	1.7	
278	E-278	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	皿ⅠC		7.4*	4.4*	2.1	
279	E-279	96	SD21	ⅨJ 6d	土師器	皿ⅠC		7.8	4.4	2.5	
280	E-280	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	皿ⅠC			5.5	1.7*	
281	E-281	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	皿ⅠC		7.1*	4.8*	2.2	
282	E-282	96	SD21	ⅨJ 6b	白磁	皿Ⅳ-1b類			3.2	1.5*	
283	E-283	96	SD21	ⅨJ 6c	白磁	椀Ⅳ類		16.0*		5.2*	
284	E-284	96	SD21	ⅨJ 7b	白磁	椀Ⅳ類		15.6*		4.2*	
285	E-285	96	SD21	ⅨJ 6b	白磁	椀Ⅳ類		14.6*		4.0*	
286	E-286	96	SD21	ⅨJ 6b	白磁	椀Ⅳ類		14.6*		2.3*	
287	E-287	96	SD21	ⅨJ 6b	白磁	椀Ⅳ-1類			6.2	2.2*	
288	E-288	96	SD21	ⅨJ 6b	白磁	椀Ⅳ-1類			6.6	2.5*	外、破面スス
289	E-289	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	片口鉢（渥美産？）	Ⅶ期第3型式	25.8*		9.2*	内スス、96SD07と接合
290	E-290	96	SD21	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	片口鉢（猿投産）	Ⅶ期第3型式	23.4*		7.8*	
291	E-291	96	SD21	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	片口鉢（猿投産）	Ⅶ期第3型式		13.6*	3.3*	内、破面スス
292	E-292	96	SD21	ⅨJ 6d	灰釉系陶器	甕（渥美産？）			18.6*	7.6*	107、108と同一
293	E-293	96	SD21	ⅨJ 6b	土師器	伊勢型鍋		24.6		8.7*	外スス
294	E-294	96	SX04.P4	ⅨJ 6b	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式		7.4*	2.3*	
295	E-295	96	SB01.SK145	ⅨJ 2a	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.2	8.0	5.4	内、破面スス
296	E-296	96	SB01.SK159	ⅨI 3t	土師器	皿ⅠB2b			4.8*	1.6*	
297	E-297	96	SB01.SK166	ⅨI 3t	土師器	皿ⅠC			4.5	1.6*	
298	E-298	96	SB01.SK161	ⅨI 3t	土師器	皿ⅠC		6.8*	4.8*	1.7	
299	E-299	96	SD22	ⅨJ 3b	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅶ期第3型式		7.4*	2.6*	内スス
300	E-300	96	SD22	ⅨJ 3b	土師器	皿ⅠB2a			6.6*	1.6*	

遺物一覧表

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
301	E-301	96	SD22	ⅨJ 3b	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	8.2*	5.2*	2.0	
302	E-302	96	SD22	ⅨJ 3b	灰釉系陶器	水注（猿投産）					15-8と同一？
303	E-303	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	灰釉系陶器	碗Ⅱ		15.0*	8.0*	5.3	
304	E-304	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	13.8*	7.0*	5.3	
305	E-305	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	14.2*	6.8*	4.9	
306	E-306	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	16.6*	8.2*	5.3	
307	E-307	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	灰釉系陶器	皿ⅠA3	Ⅶ期第3型式	7.6*	4.0*	2.1	
308	E-308	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	7.9*	4.8*	2.2	
309	E-309	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	灰釉系陶器	皿Ⅱ	Ⅶ期第1型式	8.0	5.0	1.5	釉着
310	E-310	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	土師器	皿ⅠB		13.9		2.2*	
311	E-311	97	SD07上層	Ⅸ1 3r	土師器	伊勢型鍋		30.4*		14.6*	外スス
312	E-312	97	SB04.SK18	Ⅸ1 4r	灰釉系陶器	碗ⅠC1	Ⅶ期第3型式	16.7	7.7	4.6	
313	E-313	96	SA01.P4	ⅨJ 1a	灰釉系陶器	碗ⅠA	Ⅶ期第3型式	15.1		4.7*	
314	E-314	96	SK190	ⅨJ 3b	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.8*	8.4	5.0	
315	E-315	96	SK03	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.5	4.2*	2.4	
316	E-316	96	SK06	Ⅸ1 3t	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式		3.8	1.5*	外底墨書、外、破面スス
317	E-317	96	SD13	Ⅷ120s	灰釉系陶器	碗ⅠE	Ⅶ期第3型式		7.2*	3.2*	外底刻書、外体ケズリ
318	E-318	96	SD13	Ⅷ120s	灰釉系陶器	片口鉢（猿投産）				6.1*	
319	E-319	96	SD16	Ⅷ120s	土師器	皿ⅠB2a			7.0*	1.7*	
320	E-320	96	SD16	Ⅷ120s	灰釉系陶器	皿ⅢA	白土原	8.0*	4.0*	2.2	
321	E-321	96	SD16	Ⅷ120s	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅶ期第3型式	7.4*	3.8*	1.6	
322	E-322	96	SD17	Ⅸ1 1s	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	16.8*	8.0	5.0	
323	E-323	96	SD17	Ⅷ120s	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	14.8*	6.6*	5.6	内スス
324	E-324	96	SD17	Ⅸ1 1s	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	15.0	7.4*	6.0	
325	E-325	96	SD17	Ⅸ1 3s	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.6	4.4	2.7	
326	E-326	96	SD17	Ⅸ1 3s	土師器	皿ⅠA2b		8.0*	5.0*	2.2	
327	E-327	96	SD17	Ⅸ1 3s	土師器	皿ⅠA1b		7.5	3.4	2.3	
328	E-328	96	SD19	Ⅸ1 2s	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		8.8	3.3*	
329	E-329	96	SD19	Ⅸ1 2s	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		6.1	3.3*	破面スス
330	E-330	96	SD19	Ⅸ1 1s	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	15.0*	7.2*	5.2	
331	E-331	96	SD19	Ⅸ1 2s	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		6.4	1.6*	
332	E-332	96	SD19	Ⅸ1 1s	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	8.9	4.5	2.4	
333	E-333	96	SE04下層	ⅨJ 2c	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.5	7.8	5.5	外底墨書
334	E-334	96	SE04下層	ⅨJ 2c	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.7	7.4	5.3	
335	E-335	96	SE04下層	ⅨJ 3c	灰釉系陶器	碗ⅠC1	Ⅶ期第3型式	16.3	7.3	4.7	
336	E-336	96	SE04下層	ⅨJ 3c	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.5	4.8	2.7	
337	E-337	96	SE04下層	ⅨJ 2c	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6	4.0	2.6	外底墨書
338	E-338	96	SE04中上層	ⅨJ 2c、3c	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.9	4.1	2.4	
339	E-339	96	SE04中上層	ⅨJ 2c、3c	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6*	4.4*	2.4	
340	E-340	96	SE04中上層	ⅨJ 2c	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.4	3.8	2.5	内漆被膜
341	E-341	96	SE04中上層	ⅨJ 3c	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅶ期第3型式	8.6	4.6	2.2	
342	E-342	96	SE04中上層	ⅨJ 3c	白磁	碗Ⅳ-1a類			6.8*	3.2*	
343	E-343	96	SE03	ⅨJ 1a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.6	7.0	5.3	
344	E-344	96	SE03	ⅨJ 1a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.7*	7.7*	5.2	内外スス
345	E-345	96	SE03	ⅨJ 1a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.7*	8.0	4.9	内外スス
346	E-346	96	SE03	ⅨJ 1a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	5.4*	7.4*	4.7	内底墨書
347	E-347	96	SE03	ⅨJ 1a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.4	3.3	2.5	
348	E-348	96	SE03	ⅨJ 1a	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	8.2	4.5	2.2	
349	E-349	96	SK75	Ⅷ120t	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	14.6	8.0	4.9	
350	E-350	96	SK75	Ⅷ120t	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	14.7	5.9	5.5	
351	E-351	96	SK75	Ⅷ120t	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		7.2	2.7*	外スス？
352	E-352	96	SK75	Ⅷ120t	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		6.1	4.0*	内外スス
353	E-353	96	SK75	Ⅷ120t	灰釉系陶器	碗ⅠE（片口碗？）	Ⅶ期第3型式	12.2*		3.3*	
354	E-354	96	SK75	Ⅷ120t	土師器	皿ⅠB2a			5.4*	1.7*	
355	E-355	96	SK75	Ⅷ120t	土師器	伊勢型鍋				2.3*	外スス
356	E-356	97	SK101	Ⅸ110t	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	14.8	6.0	5.2	外、破面スス
357	E-357	97	SK101	Ⅸ110t	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	14.9	7.2	5.1	
358	E-358	97	SK101	Ⅸ110t	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	15.3	6.0	5.5	内外スス
359	E-359	97	SK101	ⅨJ10a	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	14.4	6.8	5.0	
360	E-360	97	SK101	ⅨJ10a	灰釉系陶器	碗ⅠA	Ⅶ期第3型式	15.9*		3.3*	
361	E-361	97	SK101	ⅨJ10a	灰釉系陶器	皿ⅠA3	Ⅶ期第3型式	8.0	4.1	2.0	
362	E-362	97	SK101	Ⅸ110t	灰釉系陶器	皿ⅠA3	Ⅶ期第3型式	7.4	2.9	2.0	外スス
363	E-363	96	SX01	Ⅷ116t	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	16.4	7.3	5.3	
364	E-364	96	SX01	Ⅷ116t	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	8.6	5.2	2.3	
365	E-365	96	SX01	Ⅷ116t	土師器	皿ⅠDb		9.2	8.8	6.6	
366	E-366	96	SX01	Ⅷ116t	灰釉系陶器	碗ⅠA	Ⅶ期第3型式	15.0*		4.3*	
367	E-367	96	SX01	Ⅷ116t	灰釉系陶器	碗ⅠA	Ⅶ期第3型式		8.4	2.3*	
368	E-368	96	SX01	Ⅷ116t	土師器	皿ⅠDa		16.3*		6.5*	
369	E-369	96	SX01	Ⅷ116t	土師器	皿ⅠDa		16.1*		4.0*	
370	E-370	96	SX01	Ⅷ116t	土師器	皿ⅠDa			9.2	2.3*	
371	E-371	96	SX01	Ⅷ116t	土師器	皿ⅠDa			9.9	3.7*	
372	E-372	96	SX03	Ⅷ116t	土師器	皿ⅠDa		18.2*		11.1*	96SX01、96SD10と接合
373	E-373	96	SD10	ⅧJ17a	土師器	皿ⅠDa		18.4*		5.8*	
374	E-374	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.4	7.4	5.1	
375	E-375	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.4	8.0	4.9	
376	E-376	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.2*	7.4*	4.5	
377	E-377	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式		7.4	4.5	
378	E-378	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式	16.6	8.0	5.0	
379	E-379	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	15.8	7.7	5.3	内外、破面スス
380	E-380	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.4	3.5	2.2	
381	E-381	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.8*	3.8*	2.4	
382	E-382	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.4	4.8	2.3	
383	E-383	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.8*	5.2*	2.5	
384	E-384	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.6*	4.2*	2.2	
385	E-385	96	SK30下層	ⅨJ 3a	白磁	碗Ⅴ-4b類				3.3*	
386	E-386	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	片口鉢（猿投産）	Ⅶ期第3型式	28.5*	12.8	11.5	
387	E-387	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	片口鉢（猿投産）	Ⅶ期第3型式	24.2	11.5	9.5	
388	E-388	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	三ッ口鉢(渥美産？)	Ⅶ期第3型式	20.2	10.4	8.1	内外スス
389	E-389	96	SK30下層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	広口壺		19.7*		9.4*	
390	E-390	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠO	Ⅶ期第2型式	16.5	7.8	4.4	
391	E-391	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.4*	7.2*	5.0	
392	E-392	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠE（片口碗？）	Ⅶ期第3型式	15.8	7.2	4.7	
393	E-393	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.7*	8.2*	4.5	
394	E-394	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.8*	8.2*	4.7	
395	E-395	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	16.2*	7.4	5.1	
396	E-396	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		7.2*	3.1*	内外スス
397	E-397	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠO	Ⅶ期第2型式	8.3	4.8	2.7	
398	E-398	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.8*	3.6*	2.1	
399	E-399	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.8	4.8	2.6	
400	E-400	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.8*	4.8*	2.2	内スス

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
401	E-401	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.5	3.9	2.5	
402	E-402	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	7.8	4.0	2.3	
403	E-403	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.2	5.2	2.2	
404	E-404	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	甕（常滑産）	2型式	52.0*	16.8*	74.0*	96SD07,96SD21と接合
405	E-405	96	SK30上層	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	甕（常滑産）	2型式		12.8*	42.4*	96SK08,96SK29,96SD07と接合
406	E-406	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠE（玉縁碗？）	Ⅶ期第3型式	15.8*	8.0*	4.4	
407	E-407	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	14.8*	6.8*	5.3	
408	E-408	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		8.0	3.2*	
409	E-409	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅶ期第3型式	8.3	5.0	2.0	
410	E-410	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.2*	3.7	2.5	
411	E-411	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	甕（常滑産）	1b型式	20.7*		23.7*	
412	E-412	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	三筋壺（猿投産）			8.1	22.6*	
413	E-413	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	水注？（猿投産）				11.0*	10-8と同一？
414	E-414	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	細頸瓶	1b型式		10.8	6.0*	
415	E-415	96	SX02	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	広口瓶（猿投産）			12.2	13.5*	96SB05,96SK109と接合
416	E-416	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	碗ⅠE（玉縁碗？）	Ⅶ期第3型式	16.6*	8.8*	4.8	外スス
417	E-417	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.0*	6.0*	5.4	内底墨痕？
418	E-418	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.8	3.4	2.4	外スス
419	E-419	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.4	4.4	2.4	
420	E-420	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式	8.4	4.2	2.0	外底墨書
421	E-421	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅶ期第3型式	8.2*	4.0*	2.2	
422	E-422	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅶ期第3型式	7.6	4.2	2.0	
423	E-423	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.5	4.0	2.4	
424	E-424	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.9	4.4	2.4	外底墨書
425	E-425	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.9	4.4	2.2	
426	E-426	96	SK19	ⅨJ 4b	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.4	4.2	2.2	
427	E-427	96	SK19	ⅨJ 4b	土師器	皿ⅠC		8.1	4.1	2.4	内外スス
428	E-428	96	SK19	ⅨJ 4b	土師器	伊勢型鍋		22.7*		4.0*	内外スス
429	E-429	96	SK19	ⅨJ 4b	土師器	伊勢型鍋		24.9*		2.9*	外スス
430	E-430	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.7*	7.5	4.6	外底墨書
431	E-431	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA	Ⅶ期第3型式	15.1		2.6*	外体墨書
432	E-432	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.4	6.7	5.4	
433	E-433	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		6.7	1.8*	
434	E-434	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		7.4*	2.3*	外底墨書
435	E-435	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1？	Ⅶ期第3型式	16.6*	7.4*	4.9	
436	E-436	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA2？	Ⅶ期第3型式		7.6	2.6*	外スス
437	E-437	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠB1	Ⅶ期第3型式	15.8	6.3	4.7	外底墨書
438	E-438	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠB1	Ⅶ期第3型式	16.0	7.8	4.9	内底墨書
439	E-439	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠB1	Ⅶ期第3型式	16.3		4.5*	内外底墨書
440	E-440	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠB2	Ⅶ期第3型式		7.6	2.8*	
441	E-441	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠB2	Ⅶ期第3型式		7.3	2.9*	
442	E-442	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.2	7.2	5.5	外体墨書
443	E-443	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.2	7.5	5.6	外底墨書
444	E-444	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.6*	7.4*	5.5	内外、破面スス
445	E-445	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式	14.8	7.0	5.2	内スス
446	E-446	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式	15.2	7.6	5.2	内スス（接合した一方のみ）
447	E-447	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD2	Ⅶ期第3型式	15.7	6.6	5.3	
448	E-448	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD1？	Ⅶ期第3型式	15.4*	7.4*	5.3	
449	E-449	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD2？	Ⅶ期第3型式	14.8	7.0	4.8	
450	E-450	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠD3？	Ⅶ期第3型式		6.8*	2.5*	内外、破面スス
451	E-451	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠE（中碗）	Ⅶ期第3型式	14.0*	6.7*	4.8	外体ケズリ
452	E-452	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠE（玉縁碗）	Ⅶ期第3型式	15.8*	7.6*	5.4	外体ケズリ
453	E-453	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠE（玉縁碗）	Ⅶ期第3型式	14.7*	6.4	4.7	外体墨書、外スス、外体ケズリ
454	E-454	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	7.8	3.7	2.8	外スス？
455	E-455	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6	4.1	2.4	外体底墨書
456	E-456	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.3	4.6	2.4	
457	E-457	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.4	3.9	2.3	外底墨書
458	E-458	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.0	4.1	1.9	内底墨痕？
459	E-459	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6*	4.4*	2.5	
460	E-460	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.4	4.7	2.4	
461	E-461	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.4*	5.0*	2.4	
462	E-462	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式	8.0	4.3	2.0	
463	E-463	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式	7.9	3.8	2.2	
464	E-464	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	8.0	4.7	2.0	
465	E-465	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.9	4.3	2.3	
466	E-466	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.0*	4.3*	2.5	外体墨書
467	E-467	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅶ期第3型式	8.8	5.0	2.8	外底墨書
468	E-468	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅶ期第3型式	7.4	4.4	2.1	外底墨書
469	E-469	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.0*	4.0*	2.3	外体墨書
470	E-470	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.4	4.5	2.4	
471	E-471	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.7	4.3	2.2	
472	E-472	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	7.6	3.9	2.1	内漆皮膜
473	E-473	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅶ期第3型式	8.3	4.7	2.2	外底墨書
474	E-474	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅶ期第3型式	8.8*	4.7	2.4	外底墨書
475	E-475	96	SK18下層	ⅨJ 4a	土師器	皿ⅠA1b		8.1	4.2	2.3	
476	E-476	96	SK18下層	ⅨJ 4a	土師器	皿ⅠC		7.8	4.2	2.4	
477	E-477	96	SK18下層	ⅨJ 4a	土師器	皿ⅠA2a		13.6*	7.7	3.4	内スス
478	E-478	96	SK18下層	ⅨJ 4a	土師器	水滴？		2.1	4.0	3.3	
479	E-479	96	SK18下層	ⅨJ 4a	白磁	碗Ⅳ類		15.6*		2.4*	
480	E-480	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	片口鉢（猿投産）		24.6*		7.1*	97SD08下層と接合
481	E-481	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	三筋壺（猿投産）		9.8*		4.7*	
482	E-482	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	四耳壺（猿投産）		9.4		2.1*	
483	E-483	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	四耳壺（猿投産）				8.2*	
484	E-484	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	広口瓶（猿投産）		17.9		16.6*	96SD07,97SD07上層と接合
485	E-485	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	広口瓶（猿投産）			12.9	9.8*	96SD21と接合
486	E-486	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	広口瓶（猿投産）			10.2	9.5*	
487	E-487	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.6*	8.4*	5.3	
488	E-488	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.0*	8.0*	4.4	外体墨書
489	E-489	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA	Ⅶ期第3型式	15.1		3.4*	外体墨書、口縁部に施釉？
490	E-490	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式		8.0*	1.5*	外底墨書
491	E-491	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式		6.8	3.0*	
492	E-492	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式		7.0*	4.2*	外底墨書
493	E-493	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		6.8	3.3*	内スス
494	E-494	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1？	Ⅶ期第3型式	16.1	7.7	5.2	外スス
495	E-495	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.3	6.8*	4.7	外底墨書
496	E-496	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	16.2	7.2	4.9	外底墨書
497	E-497	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式		8.3*	2.8*	外体墨書
498	E-498	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式		7.4	3.5*	内スス
499	E-499	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式		7.3	2.4*	
500	E-500	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		8.4*	2.9*	外底墨書

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
501	E-501	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅷ期第3型式		6.1*	1.9*	内外底墨書
502	E-502	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA1？	Ⅷ期第3型式	17.0		4.3*	外体墨書
503	E-503	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅷ期第3型式		6.9	2.6*	外底墨書
504	E-504	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA2	Ⅷ期第3型式	16.0*	8.2*	5.1	外体墨書,外スス
505	E-505	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA1	Ⅷ期第3型式		7.0*	1.8*	外底墨書,外,破面スス
506	E-506	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA2？	Ⅷ期第3型式	15.7	6.9	4.8	
507	E-507	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA3	Ⅷ期第3型式		7.0	4.3*	外体墨書
508	E-508	96	SK18下層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA3			6.5	2.2*	
509	E-509	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠB1	Ⅷ期第3型式	15.6	7.2	5.2	
510	E-510	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠB2	Ⅷ期第3型式		7.4	4.0*	外底墨書
511	E-511	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠB2	Ⅷ期第3型式		7.9*	2.3*	外底墨書
512	E-512	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠC1	Ⅷ期第3型式	16.6	8.2	5.1	外スス
513	E-513	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式		7.6	3.5*	内外底墨書
514	E-514	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	15.0	6.8	5.6	
515	E-515	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	15.6	7.4	5.6	外底墨書
516	E-516	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	15.2	8.0	5.6	内外底墨書
517	E-517	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	15.4*	7.0*	5.2	
518	E-518	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	14.6*	8.6*	5.4	
519	E-519	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠD1	Ⅷ期第3型式	15.0*	7.4	5.3	外スス
520	E-520	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠD2？	Ⅷ期第3型式		7.2	2.2*	
521	E-521	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀Ⅰ不明		16.3	7.4	5.1	
522	E-522	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠE（中椀）	Ⅷ期第3型式	13.5	6.2	4.8	
523	E-523	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠE（中椀）	Ⅷ期第3型式	10.2*	5.0*	3.6	
524	E-524	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠO	Ⅷ期第2型式		5.5	1.5*	
525	E-525	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠE（片口皿）	Ⅷ期第3型式	9.2	4.7	1.5	
526	E-526	96	SK18中層	ⅨJ 4a	白磁	椀ⅤorⅤⅠ類		17.2*		5.0*	
527	E-527	96	SK18中層	ⅨJ 4a	白磁	椀Ⅴ-2a類		14.2*		4.5*	破面スス
528	E-528	96	SK18中層	ⅨJ 4a	白磁	椀Ⅳ類		15.2*		3.5*	
529	E-529	96	SK18中層	ⅨJ 4a	白磁	椀Ⅳ-1類			6.8*	2.1*	
530	E-530	96	SK18中層	ⅨJ 4a	白磁	皿		9.5*		1.8*	
531	E-531	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	8.0*	4.8*	2.3	外底墨書
532	E-532	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	8.2	4.3	2.2	外底墨書,内外スス
533	E-533	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	8.4*	4.6*	2.3	内スス
534	E-534	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	8.2*	5.0*	2.3	
535	E-535	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	8.0	4.3	2.2	
536	E-536	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	8.4	4.7	2.4	
537	E-537	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	8.6*	4.0*	2.4	
538	E-538	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	8.4	4.1	2.1	
539	E-539	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	8.4	4.5	2.3	外底墨書
540	E-540	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	7.9	4.2	2.4	外底墨書
541	E-541	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	8.4	4.3	2.2	外底墨書
542	E-542	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	8.2*	4.0*	1.9	外底墨書
543	E-543	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	8.7	4.2	2.3	外底墨書
544	E-544	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅷ期第3型式	8.4	4.4	2.2	外体墨書
545	E-545	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	7.8*	3.0*	1.6	外体底墨書
546	E-546	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式		4.0*	1.0*	外底墨書
547	E-547	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式		4.0	1.1*	外体底墨書
548	E-548	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	8.1	4.1	1.9	外体底墨書
549	E-549	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅷ期第3型式	8.6*	3.8*	2.0	
550	E-550	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅷ期第3型式	8.4	4.5	1.8	
551	E-551	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅷ期第3型式	8.4*	4.4*	2.2	外底墨書
552	E-552	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅷ期第3型式	8.2	4.2	2.3	
553	E-553	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅷ期第3型式	8.0*	4.4*	2.2	釉着
554	E-554	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB1	Ⅷ期第3型式	8.8*	4.4*	2.3	
555	E-555	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	8.3	3.7	2.2	
556	E-556	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	8.8*	4.6*	2.3	内スス
557	E-557	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	8.5	4.9	2.3	
558	E-558	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	8.4	4.7	2.2	
559	E-559	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	7.8	3.6	2.1	
560	E-560	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	8.0	4.4	1.8	
561	E-561	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	7.8	4.0	2.1	
562	E-562	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	7.8*	3.6*	1.8	外スス
563	E-563	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	8.1	4.2	2.4	
564	E-564	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅷ期第3型式	8.0	4.8	1.9	
565	E-565	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅷ期第3型式	9.0*	5.2*	2.2	
566	E-566	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅷ期第3型式	9.0*	4.2*	2.4	
567	E-567	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅷ期第3型式	8.6*	5.0*	2.0	
568	E-568	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅷ期第3型式	8.4*	5.6*	1.6	
569	E-569	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	7.9	4.5	2.5	
570	E-570	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	7.9	4.1	2.4	
571	E-571	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	7.9	4.1	2.6	
572	E-572	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	7.8*	4.0*	2.4	
573	E-573	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅷ期第3型式	7.6*	4.6*	2.2	
574	E-574	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	8.3*	4.3*	2.2	
575	E-575	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	8.1	4.4	2.5	外底墨書
576	E-576	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	8.1	4.9	2.4	外底墨書
577	E-577	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅷ期第3型式	8.1	5.1	2.3	外底墨書
578	E-578	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	8.0*	4.4*	2.3	外底墨書
579	E-579	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD1	Ⅷ期第3型式	8.7*	4.3*	2.3	外底墨書
580	E-580	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅷ期第3型式	8.0	4.0	2.2	
581	E-581	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠC1	Ⅷ期第3型式	9.2*	5.0*	2.4	外底墨書
582	E-582	96	SK18中層	ⅨJ 4a	土師器	皿ⅠA1b		8.5	4.9	2.2	
583	E-583	96	SK18中層	ⅨJ 4a	土師器	皿ⅠA2b		8.0	4.0	1.7	
584	E-584	96	SK18中層	ⅨJ 4a	土師器	皿ⅠC			4.4	1.5*	
585	E-585	96	SK18中層	ⅨJ 4a	土師器	皿ⅠDb		10.1*	9.4*	8.2	
586	E-586	96	SK18中層	ⅨJ 4a	土師器	皿ⅠB2a		14.6*	6.6*	3.2	
587	E-587	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	広口瓶？（常滑産）	2型式	28.4*		6.0*	
588	E-588	96	SK18中層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	甕（常滑産）	2型式		15.0*	7.9*	
589	E-589	96	SK18中層	ⅨJ 4a	土師器	伊勢型鍋		20.2*		5.0*	
590	E-590	96	SK18中層	ⅨJ 4a	土師器	伊勢型鍋		19.4*		3.1*	外スス
591	E-591	96	SK18中層	ⅨJ 4a	土師器	伊勢型鍋		21.0*		4.8*	外スス
592	E-592	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠC1？	Ⅷ期第3型式	13.6*	6.8*	4.6	
593	E-593	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀Ⅱ	Ⅷ期第1型式	14.6*	7.6*	4.7	
594	E-594	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀Ⅱ	Ⅷ期第1型式	14.4*	7.6*	4.9	
595	E-595	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀Ⅱ	Ⅷ期第1型式	14.4*	6.2	5.4	
596	E-596	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀Ⅱ	Ⅷ期第1型式	16.2*	8.0*	5.7	
597	E-597	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀Ⅱ	Ⅷ期第1型式	15.0*	6.6*	5.4	
598	E-598	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀Ⅱ	Ⅷ期第1型式		7.6*	2.8*	
599	E-599	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	椀ⅠA	Ⅷ期第3型式				外体墨書
600	E-600	96	SK18上層	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠB2	Ⅷ期第3型式	7.8*	3.8*	1.9	

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
601	E-601	96	SK18上層	ⅨJ4a	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-4類		16.6*		5.9*	
602	E-602	96	SK18上層	ⅨJ4a	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-4類		15.8*		6.9*	
603	E-603	97	SB06.SK58	ⅨJ9b	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	14.8	6.2	5.4	内、破面スス、釉着
604	E-604	97	SA02.SK35	ⅨI5r	灰釉系陶器	広口壺（常滑産）		22.6*		2.5*	
605	E-605	97	SA02.SK34	ⅨI5r	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第7型式		7.0*	3.3*	内外スス
606	E-606	97	SA02.SK34	ⅨI5r	土師器	皿Ⅱ3		8.0*		1.3	
607	E-607	97	SK32	ⅨI5r	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.8*	4.2*	1.3	外底墨書、内スス
608	E-608	97	SK79	ⅨJ9a	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式	15.1	7.2	5.6	
609	E-609	96	SD12	ⅧI18t	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		9.2*	3.0*	
610	E-610	97	SD04	ⅨJ14c	灰釉系陶器	碗ⅠO	Ⅶ期第2型式		8.0	2.7*	
611	E-611	97	SD04	ⅨJ13c	灰釉系陶器	碗ⅠO	Ⅶ期第2型式		7.2*	2.7*	外底墨書、外スス
612	E-612	97	SD04	ⅨJ13c	灰釉系陶器	碗ⅠD1	Ⅶ期第3型式		6.5	2.5*	外底墨書
613	E-613	97	SD04	ⅨJ14c	灰釉系陶器	碗ⅠA	Ⅶ期第3型式	14.6*		3.5*	外体墨書
614	E-614	97	SD04	ⅨJ14b	灰釉系陶器	碗ⅠC1	Ⅶ期第3型式	15.6*	8.0*	5.0	内スス
615	E-615	97	SD04	ⅨJ13c	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		7.4	2.7*	内外、破面スス
616	E-616	97	SD04	ⅨJ13c	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		7.0	2.2*	内外スス？
617	E-617	97	SD04	ⅨJ13b	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	8.8	4.7	2.3	外底墨書
618	E-618	97	SD04	ⅨJ13b, 14b	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式		3.6	1.4*	
619	E-619	97	SD04	ⅨJ14c	灰釉系陶器	皿ⅠC2	Ⅶ期第3型式	8.4*	5.4*	1.9	
620	E-620	97	SD04	ⅨJ12c	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		6.0*	2.9*	外底墨書
621	E-621	97	SD04	ⅨJ13d	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		5.9	2.3*	
622	E-622	97	SD04	ⅨJ14c	土師器	伊勢型鍋		27.0*		4.8*	外スス
623	E-623	97	SD04	ⅨJ13b, 13c	灰釉系陶器	鍋（常滑産）	3型式	25.0*		3.0*	外スス
624	E-624	97	SD05	ⅨJ14c	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		7.2*	2.3*	外底墨書、内漆被膜
625	E-625	97	SD05	ⅨJ14c	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式		5.9	4.0*	
626	E-626	97	SD05	ⅨJ14c	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式		6.8*	2.3*	
627	E-627	97	SD05	ⅨJ14b	土師器	皿Ⅱ1		13.6*	8.4*	2.4	
628	E-628	97	SD05	ⅨJ14c	灰釉系陶器	片口鉢（瀬戸産）	尾張第6型式	29.4*		11.2*	
629	E-629	97	SD03	ⅨJ10a, 11a	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	15.8*	9.0*	4.9	
630	E-630	97	SD03	ⅨJ11b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	14.1	5.2	4.9	外底墨書
631	E-631	97	SD03	ⅨJ11a	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		5.3	2.2*	外底墨書
632	E-632	97	SD03	ⅨJ11a	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	14.2	5.0	5.6	
633	E-633	97	SD03	ⅨJ11a	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.4*	4.3	2.0	外底墨書
634	E-634	97	SD03	ⅨJ11a	土師器	伊勢型鍋				2.2*	外スス
635	E-635	97	SD03	ⅨJ10a	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-4類		14.6*		5.1*	
636	E-636	97	SD25	ⅨJ17f	灰釉系陶器	碗ⅠA1	Ⅶ期第3型式	16.4	8.0	4.7	外底墨書
637	E-637	97	SD24	ⅨJ17e	灰釉系陶器	碗ⅡA	尾張第6型式		6.4*	2.1*	
638	E-638	97	SD24	ⅨJ17e	灰釉系陶器	皿ⅡA	尾張第7型式	7.6*	5.0*	1.3	
639	E-639	96	SD24	ⅨJ8b	灰釉系陶器	片口鉢	尾張第7型式	33.0*	13.2	12.9	
640	E-640	96	SD01	ⅧI11t	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		8.2*	2.5*	
641	E-641	96	SD01	ⅧI11t	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		7.8	3.2*	
642	E-642	96	SD01	ⅧI11t	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		6.7	2.4*	
643	E-643	96	SD01	ⅧI11t	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		7.4*	2.0*	
644	E-644	96	SD01	ⅧI11t	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第7型式		6.0*	4.5*	内外スス
645	E-645	96	SD01	ⅧI11t	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		5.0*	2.1*	
646	E-646	96	SD01	ⅧI11t	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞新	15.0*	5.0*	5.3	外底墨書
647	E-647	96	SD01	ⅧI11t	灰釉系陶器	広口瓶（猿投産）				7.1*	
648	E-648	96	SD01	ⅧI11t	古瀬戸	四耳壺	前Ⅲ・Ⅳ期		8.5	5.8*	96NR01下層北溝と接合
649	E-649	96	SD04	ⅧI12r	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		5.5	3.4*	
650	E-650	96	SD04	ⅧI12s	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		4.8*	2.9*	
651	E-651	97	SE03下層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅠB1	Ⅶ期第3型式		8.5*	1.4*	内外底墨書
652	E-652	97	SE03下層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第6型式	7.6	4.3	1.7	
653	E-653	97	SE03下層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅢA		14.4	5.6	6.0	外底墨書
654	E-654	97	SE03下層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	13.9	5.2	5.9	外底墨書
655	E-655	97	SE03下層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	14.0*	5.4	5.4	
656	E-656	97	SE03下層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	8.4	5.4	1.7	外底墨書
657	E-657	97	SE03下層	ⅨI8t	土師器	皿Ⅱ1		14.0*	9.2*	2.5	内スス
658	E-658	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式		6.0*	2.2*	内スス
659	E-659	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅠD2	Ⅶ期第3型式	8.2	5.0	2.2	外底墨書
660	E-660	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式	7.8*	4.0*	2.3	
661	E-661	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式	12.5	5.7	5.0	
662	E-662	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第8型式	13.5	6.0	5.8	
663	E-663	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	14.8*	6.0*	5.6	外底墨書
664	E-664	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.5	4.6	1.8	
665	E-665	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.5	5.1	1.8	外底墨書
666	E-666	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	8.6	4.9	1.6	外底墨書
667	E-667	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	8.6	4.6	1.9	
668	E-668	97	SE03中層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	8.2	5.0	1.8	内外底墨書
669	E-669	97	SE03中層	ⅨI8t	土師器	伊勢型鍋		28.7*		18.0*	外スス
670	E-670	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	甕（3型式）		38.7*		6.3*	
671	E-671	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	三耳壺（猿投産）		8.4		7.5*	
672	E-672	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	甕		21.2*		9.4*	
673	E-673	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	14.0*	5.2*	5.8	
674	E-674	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	14.0*	5.8*	5.9	
675	E-675	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	14.0*	6.0*	5.4	
676	E-676	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	14.6*	6.4*	5.6	
677	E-677	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅠA3	Ⅶ期第3型式	7.6	4.4	2.0	
678	E-678	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.8*	5.0*	1.7	
679	E-679	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.5	4.8	1.9	
680	E-680	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.4	5.0	1.7	
681	E-681	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.6	5.0	1.8	
682	E-682	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.5	5.1	1.9	
683	E-683	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.5	4.9	1.8	
684	E-684	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	白土原	8.1*	4.2	2.0	
685	E-685	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	7.6*	4.0*	1.7	内スス
686	E-686	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	8.0	4.6	1.5	
687	E-687	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	8.8	4.9	1.7	
688	E-688	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	白土原	8.8*	4.9	1.9	
689	E-689	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.6*	5.2*	1.7	
690	E-690	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.1	3.8	1.7	
691	E-691	97	SE03上層	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.4	5.0	1.7	
692	E-692	97	SE03上層	ⅨI8t	土師器	皿Ⅱ4		6.2*	3.6*	1.1	
693	E-693	97	SE03上層	ⅨI8t	土師器	伊勢型鍋		30.0*		7.9*	外スス
694	E-694	97	SE02	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第7型式		5.6	1.9*	内スス
695	E-695	97	SE02	ⅨI8t	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第7型式		6.0*	1.2*	
696	E-696	97	SE02	ⅨI7s	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	8.4	5.3	2.1	
697	E-697	97	SE02	ⅨI8t	灰釉系陶器	皿ⅠB3	Ⅶ期第3型式	8.1*	4.0*	1.6	
698	E-698	97	SE02	ⅨI7s	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	14.0	5.3	6.3	
699	E-699	97	SE02	ⅨI7s	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	13.6*	4.9	5.6	外底墨書
700	E-700	97	SE02	ⅨI7s	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	13.3	5.5	5.6	外底墨書、外スス

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
701	E-701	97	SE02	ⅨI 7s	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	8.0	4.6	1.5	外底墨書
702	E-702	97	SE02	ⅨI 8s	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	13.9*	4.4	5.4	外底墨書
703	E-703	97	SE02	ⅨI 8t	土師器	皿Ⅱ2		11.2*		2.6*	
704	E-704	97	SE02	ⅨI 8t	土師器	皿Ⅱ3		8.6*		1.2	
705	E-705	97	SE02	ⅨI 8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.2	4.4	1.3	
706	E-706	97	SE02	ⅨI 7s	土師器	羽釜		21.4		13.5*	外スス
707	E-707	97	SK104	ⅨJ16e	灰釉系陶器	皿ⅢA	白土原	7.9	4.7	1.8	外底墨書
708	E-708	97	SK104	ⅨJ16e	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		5.8	2.7*	
709	E-709	96	SE01	ⅧI15s	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	7.6	4.6	2.0	
710	E-710	96	SE01	ⅧI15s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.9	4.7	1.3	
711	E-711	96	SE05	ⅨJ 7b	灰釉系陶器	片口鉢（瀬戸産）	尾張第6型式		12.4*	10.2*	
712	E-712	96	SE05	ⅨJ 7b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	13.2	4.8	5.2	外底墨書
713	E-713	96	SE05	ⅨJ 7b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	11.4	4.2*	4.3	外スス
714	E-714	96	SE05	ⅨJ 7b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		4.4	2.2*	外底墨書
715	E-715	96	SE05	ⅨJ 7b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		5.0	3.9*	外底墨書
716	E-716	96	SE05	ⅨJ 7b	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	7.8	4.9	1.6	外底墨書、内スス
717	E-717	96	SE05	ⅨJ 7b	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.0*	4.8*	1.3	
718	E-718	96	SE05	ⅨJ 7b	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.8*	4.6*	1.4	外底墨書
719	E-719	96	SE06	ⅨI 7t	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	13.2*	6.2*	5.6	外底墨書、内スス
720	E-720	96	SE06	ⅨI 7t	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		4.8	4.9*	外底墨書
721	E-721	96	SE06	ⅨI 7t	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.8*	4.2*	1.4	外底墨書
722	E-722	96	SE06	ⅨI 7t	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞新	9.0	5.0	1.1	外底墨書
723	E-723	96	SE06	ⅨI 7t	古瀬戸	四耳壺	前Ⅰb期	9.2*		4.2*	
724	E-724	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	13.2*	3.7*	5.1	
725	E-725	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		4.0*	1.8*	外底墨書
726	E-726	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		3.8	2.2*	
727	E-727	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		5.6*	1.7*	外底墨書
728	E-728	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	9.1*	5.0*	1.4	外底墨書
729	E-729	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.2*	3.9*	1.2	外底墨書
730	E-730	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古		5.4	0.5*	外底墨書
731	E-731	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.6*	3.7*	1.6	
732	E-732	97	SK01下層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.4*	4.8*	1.3	
733	E-733	97	SK01下層	ⅨI 4s	土師器	皿Ⅱ3		8.1	3.4	1.4	
734	E-734	97	SK01下層	ⅨI 4s	土師器	伊勢型鍋				1.3*	
735	E-735	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式		6.4	1.9*	
736	E-736	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	8.2*	5.9	2.1	外底墨書
737	E-737	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	13.2*	5.4*	5.9	
738	E-738	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		5.3	3.4*	
739	E-739	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	7.8*	4.4*	1.6	
740	E-740	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	13.8*	4.6*	5.3	外底墨書
741	E-741	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.5	4.8	1.3	
742	E-742	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.5*	3.3	1.4	
743	E-743	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.7	5.2	1.2	
744	E-744	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.9	5.4	1.2	
745	E-745	97	SK01上層	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.0*	4.8	1.3	外底墨書
746	E-746	97	SE01	ⅨJ11a	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	14.4*	6.0*	5.2	外底墨書
747	E-747	97	SE01	ⅨJ12a	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		5.0	1.7*	外底墨書
748	E-748	97	SE01	ⅨJ11a	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		6.0*	1.4*	内外スス
749	E-749	97	SE01	ⅨJ11a	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞新	14.1	3.4	5.2	外底墨書
750	E-750	97	SE01	ⅨJ12a	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.6*	4.4*	1.6	
751	E-751	97	SE01	ⅨJ11a	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.6*	4.8*	1.6	
752	E-752	97	SE01	ⅨJ11a	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古		4.6	0.6*	外底墨書
753	E-753	97	SE01	ⅨJ11a	古瀬戸	水注	前Ⅲ・Ⅳ期	2.6*		2.7*	
754	E-754	97	SE01	ⅨJ11a	灰釉系陶器	甕（常滑産）	6 b 型式)	17.8*	3.2*	11.4*	
755	E-755	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	碗ⅢA（中碗）	明和	11.5	3.8	4.8	
756	E-756	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	13.9	4.8	5.1	
757	E-757	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	14.0*	5.0*	4.9	
758	E-758	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	13.7	5.2	5.1	
759	E-759	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	13.4	5.2	5.1	外底墨書
760	E-760	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	13.7*	4.7	5.2	
761	E-761	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		4.6*	4.4*	
762	E-762	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	皿Ⅱ	尾張第7型式	8.7	5.8	1.4	
763	E-763	97	SK02上層	ⅨJ 9b	古瀬戸	四耳壺	前Ⅱ期			4.9*	
764	E-764	97	SK02上層	ⅨJ 9b	土師器	皿Ⅱ1		12.4	10.2	2.2	
765	E-765	97	SK02上層	ⅨJ 9b	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-5a類		16.0*		2.7*	
766	E-766	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	片口鉢（常滑産）	6 b 型式	27.2*		6.3*	
767	E-767	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	片口鉢（瀬戸産）	尾張第7型式	24.5*		9.7*	
768	E-768	97	SK02上層	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	甕（常滑産）	6 a 型式	42.4*		9.8*	
769	E-769	96	NR01下層北溝	ⅧI 9r	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式	15.4*	6.4*	4.9	破面スス
770	E-770	96	NR01下層北溝	ⅧI 9q	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式	7.8	4.0	2.2	
771	E-771	96	NR01下層北溝	ⅧI 9p	灰釉系陶器	碗ⅠD2？	Ⅶ期第3型式	15.0*	5.5*	5.0	
772	E-772	96	NR01下層北溝	ⅧI 9r	灰釉系陶器	片口鉢			12.4	1.8*	外底墨痕
773	E-773	96	NR01下層北溝	ⅧI 9r	白磁	碗					
774	E-774	96	NR01下層北溝	／	古瀬戸	小天目	後Ⅲ・後Ⅵ期（古）	5.2*	2.6*	1.7	
775	E-775	96	NR01下層南溝	ⅧI10r	灰釉系陶器	碗ⅠD3	Ⅶ期第3型式		7.2*	2.6*	
776	E-776	96	NR01下層南溝	ⅧI10s	灰釉系陶器	碗ⅠA3	Ⅶ期第3型式		7.4*	2.4*	外スス
777	E-777	96	NR01下層南溝	ⅧI10q	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第7型式	14.4	5.0	5.1	内外、破面スス
778	E-778	96	NR01下層南溝	ⅧI10q	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第9型式	14.2*	5.2*	5.2	内外、破面スス
779	E-779	96	NR01下層南溝	ⅧI10r	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		5.0*	0.9*	外底墨書
780	E-780	96	NR01下層南溝	ⅧI10r	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和	14.0*	5.4*	5.0	外底墨書
781	E-781	96	NR01下層南溝	ⅧI10r	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		4.8*	2.8*	
782	E-782	96	NR01下層南溝	ⅧI10r	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		5.2*	4.0*	外底墨書、内スス
783	E-783	96	NR01下層南溝	ⅧI10q	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	14.4*	5.0*	5.4	
784	E-784	96	NR01下層南溝	ⅧI10p	灰釉系陶器	碗ⅢA	大洞東	12.8	4.4	3.7	
785	E-785	96	NR01下層南溝	ⅧI10r	灰釉系陶器	皿ⅢA	明和	8.0*	4.0*	1.5	
786	E-786	96	NR01下層南溝	ⅧI10p	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.4*	5.0*	1.5	
787	E-787	96	NR01下層南溝	ⅧI10r、10s	土師器	皿Ⅱ3		8.5		1.6	内外スス
788	E-788	96	NR01下層南溝	ⅧI10q	土師器	皿Ⅱ3		9.0*		1.3	
789	E-789	96	NR01下層南溝	ⅧI10q	土師器	皿Ⅱ3		8.0*		1.4	
790	E-790	96	NR01下層南溝	ⅧI10q	青磁	碗		17.8*		2.0*	
791	E-791	96	NR01下層南溝	ⅧI10p	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-2類		16.3*		4.7*	
792	E-792	96	NR01下層南溝	ⅧI10p	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-2類？				2.4*	
793	E-793	96	NR01下層南溝	ⅧI10p	青磁	碗龍泉窯系Ⅱ類？			4.6*	2.5*	
794	E-794	96	NR01下層南溝	ⅧI10s	土師器	伊勢型鍋		27.8*		7.1*	外スス
795	E-795	96	NR01下層南溝	ⅧI10r	土師器	羽釜		23.2*		8.0*	外スス
796	E-796	96	NR01下層南溝	ⅧI10q	土師器	羽釜		23.8*		4.9*	外スス
797	E-797	96	NR01下層南溝	ⅧI10s	灰釉系陶器	片口鉢（猿投産）	Ⅶ期第3型式		12.0	6.8*	内底墨痕
798	E-798	96	NR01下層南溝	ⅧI10p	灰釉系陶器	四耳壺（猿投産）			9.0*	7.5*	
799	E-799	96	NR01下層南溝	ⅧI10q	古瀬戸	花瓶	中Ⅰ・Ⅱ期		4.8	2.5*	
800	E-800	96	NR01下層南溝	ⅧI10r	古瀬戸	擂鉢	後Ⅵ期		13.6*	4.8*	

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
801	E-801	96	NR01下層南溝	Ⅷ110r	灰釉系陶器	甕		42.4*		6.2*	
802	E-802	96	NR01中上層	Ⅷ110t	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		6.0*	4.2*	外底墨書
803	E-803	96	NR01中上層	Ⅷ1 9p,9r	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		5.2*	3.4*	内外スス
804	E-804	96	NR01中上層	Ⅷ1 9s	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞新		5.4*	0.7*	外底墨書
805	E-805	96	NR01中上層	Ⅷ1 9q	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-5a類		15.5*		2.3*	
806	E-806	96	NR01中上層	Ⅷ1 9s	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-5a類		15.5*		2.2*	
807	E-807	96	NR01中上層	Ⅷ110q	灰釉系陶器	四耳壺			8.6	6.5*	
808	E-808	96	NR01中上層	Ⅷ1 9s	古瀬戸	瓶子	前Ⅲ・Ⅳ期		7.0*	3.7*	
809	E-809	96	NR01中上層	Ⅷ111s	古瀬戸	瓶子	前Ⅲ・Ⅳ期		10.8*	4.2*	
810	E-810	96	NR01中上層	Ⅷ110q	古瀬戸	卸皿	中期		6.4	1.2*	
811	E-811	96	NR01中上層	Ⅷ1 9q	古瀬戸	袴腰形香炉	後Ⅰ・Ⅱ期	6.8*		2.3	
812	E-812	96	NR01中上層	Ⅷ1 9s	古瀬戸	縁釉小皿	後Ⅰ・Ⅱ期	9.0*	5.6*	1.5	
813	E-813	96	NR01中上層	Ⅷ110r	古瀬戸	卸皿	後期		6.6	1.3*	
814	E-814	96	NR01中上層	Ⅷ110q	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅱ期	23.2		4.1*	
815	E-815	96	NR01中上層	Ⅷ1 9q	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅲ期		4.3	3.1*	
816	E-816	96	NR01中上層	／	灰釉系陶器	甕(常滑産)	5型式	40.0*		9.7*	
817	E-817	96	NR01中上層	Ⅷ110t	灰釉系陶器	甕(常滑産)	6a型式	19.2*		5.7*	
818	E-818	96	NR01中上層	Ⅷ1 9r	灰釉系陶器	甕(常滑産)	6a型式		16.8	6.4*	
819	E-819	96	NR01砂層	Ⅷ1 9q	古瀬戸	四耳壺	前Ⅳ期		9.0*	2.4*	内スス
820	E-820	96	NR01砂層	Ⅷ1 9s	古瀬戸	不明			4.5	3.0*	
821	E-821	97	SD18	Ⅷ110l	灰釉系陶器	皿ⅠE(片口皿)	Ⅶ期第3型式	9.2*	4.0*	1.7	
822	E-822	97	SD18	Ⅷ111l	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式		6.0*	2.5*	外底墨書
823	E-823	97	SD18	Ⅷ110m	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		6.4*	3.7*	外底墨書,外スス
824	E-824	97	SD18	Ⅷ110k	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		4.8*	2.0*	外底墨書
825	E-825	97	SD18	Ⅷ110m	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		5.2	1.2*	外底墨書
826	E-826	97	SD18	Ⅷ110l	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		6.0*	2.9*	外底墨書
827	E-827	97	SD18	Ⅷ110m	灰釉系陶器	碗ⅡB	大洞東	13.4*	3.6*	3.7	外底墨書
828	E-828	97	SD18	Ⅷ110l	灰釉系陶器	碗ⅡB	大洞東	12.8*	3.8*	3.5	外底墨書
829	E-829	97	SD18	Ⅷ110l	土師器	皿Ⅱ2		10.8*		2.3	
830	E-830	97	SD18	Ⅷ110l	灰釉系陶器	皿ⅠA2	Ⅶ期第3型式	7.8*	3.4*	1.7	釉着
831	E-831	97	SD18	Ⅷ110m	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞古	7.8*	4.0*	1.4	内底墨痕,内外スス?
832	E-832	97	SD18	Ⅷ110m	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞新	8.0*	4.8*	1.4	
833	E-833	97	SD18	Ⅷ110l	灰釉系陶器	広口壺(猿投産)				11.7*	内,破面スス
834	E-834	97	SD18	Ⅷ110k	古瀬戸	平碗	後Ⅱ期		4.8*	3.6*	
835	E-835	97	SD18	Ⅷ110l	古瀬戸	折縁深皿	中Ⅳ期	20.2		5.1*	破面炭化物
836	E-836	97	SD16	Ⅷ1 4o	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞新	8.2	4.2	1.0	外底墨書
837	E-837	97	SD16	Ⅷ1 4o	古瀬戸	縁釉小皿	後Ⅱ期	10.2*	5.8	2.4	
838	E-838	97	SD16	Ⅷ1 4o	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期	23.6		4.7*	
839	E-839	97	SK100	Ⅷ110m	灰釉系陶器	片口鉢(常滑産)	10型式	27.6*		7.6*	
840	E-840	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115n	灰釉系陶器	碗ⅠA2	Ⅶ期第3型式		8.2*	2.8*	
841	E-841	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110l	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式		5.4	3.7*	内,破面スス
842	E-842	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 9m	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式		5.6*	3.5*	
843	E-843	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110n	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式		5.0	1.9*	
844	E-844	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110m	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		6.0*	4.7*	外底墨書
845	E-845	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115n	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		5.4*	2.2*	外底墨書
846	E-846	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 3j	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		4.4*	1.7*	外底墨書
847	E-847	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110m	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		5.4*	3.1*	内スス
848	E-848	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110l	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		4.4*	1.8	外底墨書
849	E-849	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 8k	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		4.2*	2.1*	
850	E-850	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110m	灰釉系陶器	碗ⅡA	明和		4.2*	1.7*	外底墨書
851	E-851	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 3j	灰釉系陶器	皿ⅡA	明和	7.4*	4.2*	1.2	外底墨書
852	E-852	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114n	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞古		4.2	0.6*	外底墨書
853	E-853	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 6j	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞古		5.4*	0.9*	外底墨書
854	E-854	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 9m	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞古	6.8*	4.0*	1.1	外底墨書
855	E-855	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 9l	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞古		3.6*	0.7*	外底墨書
856	E-856	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 7k	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞古		4.6*	0.7*	外底墨書
857	E-857	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ111m	灰釉系陶器	碗ⅡA	大畑大洞古	12.0*	4.2*	4.7	
858	E-858	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110n	灰釉系陶器	碗ⅡB	大洞東	13.0*	4.5*	3.9	
859	E-859	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114m	灰釉系陶器	碗ⅡB	大洞東		3.2	0.7*	外底墨書
860	E-860	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110n	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞古	8.2*	5.2*	1.4	
861	E-861	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114n	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞新	6.6*	4.8*	1.0	外底墨書
862	E-862	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ113n	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞古	9.0*	5.0*	1.6	
863	E-863	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110l	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞新				外底墨書
864	E-864	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 8k	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞新		4.0*	0.5*	外底墨書
865	E-865	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114n	灰釉系陶器	皿ⅡA	大畑大洞新		5.0*	0.5*	外底墨書
866	E-866	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115n	灰釉系陶器	碗ⅡB	生田	10.4*	3.0	2.2	
867	E-867	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ116o	灰釉系陶器	碗ⅡB	生田		4.7	1.5*	
868	E-868	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 7l	白磁	碗Ⅳ類				1.8*	
869	E-869	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110m	白磁	碗Ⅳ-1類			6.4*	1.8*	
870	E-870	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 9m	白磁	皿		10.6*		2.3*	
871	E-871	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110m	土師器	皿Ⅱ3		8.8*		1.4	
872	E-872	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 8k	土師器	皿Ⅱ1		12.2*		1.7	
873	E-873	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110m	土師器	皿Ⅱ4		7.0*		1.5	
874	E-874	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 8k	土師器	皿Ⅱ4		7.0*		1.3	内外スス?
875	E-875	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 8k	土師器	皿Ⅱ		11.8		3.0*	
876	E-876	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110m	土師器	内耳鍋		25.2*		8.1*	外スス
877	E-877	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114n	灰釉系陶器	甕				5.0*	内スス
878	E-878	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 4o	古瀬戸	瓶子	前Ⅲ・Ⅳ期		10.6*	4.5*	
879	E-879	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 8l	古瀬戸	卸皿	中Ⅰ・Ⅱ期		9.0*	1.1*	
880	E-880	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114n	古瀬戸	天目茶碗	中Ⅲ期	11.0		4.3*	
881	E-881	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115n	古瀬戸	平碗	中Ⅲ・Ⅳ期		4.7	1.9*	外底墨書
882	E-882	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114n	古瀬戸	土瓶蓋	中Ⅲ・Ⅳ期	11.6*	7.0*	2.4	内外スス
883	E-883	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 9l	古瀬戸	折縁深皿	中Ⅳ・後Ⅰ期		16.2	5.0*	
884	E-884	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ113n	古瀬戸	内耳鍋	後Ⅰ・Ⅱ期	22.0		6.3*	
885	E-885	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115n	古瀬戸	縁釉小皿	後Ⅰ・Ⅱ期		4.4*	1.0*	外底墨書
886	E-886	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 3p	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅲ期	12.0		4.7*	
887	E-887	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114n	古瀬戸	四耳壺	後Ⅰ・Ⅱ期	15.8*		3.0*	
888	E-888	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115n	古瀬戸	縁釉小皿	後Ⅲ期	10.8*	5.2*	2.7	外スス
889	E-889	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ116n	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅲ期		4.0	2.4*	
890	E-890	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 7l	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅲ期	29.0		1.9*	
891	E-891	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 9n	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期(古)	25.8*		3.6*	
892	E-892	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115n	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期(新)	29.0		4.1*	
893	E-893	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 7k	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期(新)	24.2*		4.8*	
894	E-894	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 9l	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期		13.6*	3.5*	
895	E-895	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115n	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期?		9.6*	4.5*	
896	E-896	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 7k	古瀬戸	桶	後Ⅳ期	27.0*		4.3*	
897	E-897	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ111m	瓦器	火鉢		41.4*		3.4*	
898	E-898	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 8k	瓦器	火鉢?				5.3*	
899	E-899	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 5k	瓦						
900	E-900	97	NR01砂層	Ⅷ110m	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期(新)~大窯1		13.8*	3.5*	

遺物一覧表

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	種別	器種	時期	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
901	E-901	97	NR01砂層	Ⅷ110n	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅳ期（新）		4.0	1.2*	
902	E-902	97	NR01砂層	Ⅷ110k	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅳ期（新）		4.0	1.3*	
903	E-903	96	SD09		灰釉系陶器	碗ⅠD1？	Ⅶ期第3型式	16.2*	7.6	5.3	
904	E-904	96	SD09	Ⅷ119r	土師器	皿ⅠB1a		14.4*	7.4*	3.4	
905	E-905	96	SD09	Ⅷ119r	灰釉系陶器	碗ⅠB2	Ⅶ期第3型式		7.4*	1.7*	
906	E-906	96	検出	ⅨJ 3a	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第6型式	15.6*	7.4*	5.0	内底墨痕？
907	E-907	96	検出	ⅨJ 8a	灰釉系陶器	碗ⅠA	Ⅶ期第3型式			3.2*	外体墨書
908	E-908	96	検出	Ⅷ117s	灰釉系陶器	碗ⅠB1	Ⅶ期第3型式		7.1	1.7*	外底墨書
909	E-909	96	検出	ⅨJ 6c	灰釉系陶器	碗Ⅱ	尾張第7型式			1.7*	外底墨書
910	E-910	96	検出	ⅨJ 4a	灰釉系陶器	皿ⅠO	Ⅶ期第2型式	9.2*	5.2*	2.5	
911	E-911	96	検出	ⅨI 1s	灰釉系陶器	皿ⅠO	Ⅶ期第2型式	8.3	5.2	2.4	
912	E-912	96	検出		灰釉系陶器	皿ⅠA1	Ⅶ期第3型式	8.6	4.0	3.1	
913	E-913	96	検出	Ⅷ115t	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古	13.2*	4.9	4.9	
914	E-914	97	検出	ⅨJ13b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		5.6*	3.7*	外底墨書
915	E-915	96	検出	ⅨJ 8b	灰釉系陶器	碗ⅢA	大畑大洞古		5.6*	3.2*	外底墨書
916	E-916	96	検出	ⅨJ 5b	灰釉系陶器	碗ⅢA	明和		5.0*	2.2*	外底墨書
917	E-917	97	検出	ⅨJ17e	灰釉系陶器	皿ⅢA？	明和		4.0*	1.6*	外底墨書
918	E-918	96	検出	ⅨJ 5c	灰釉系陶器	皿ⅢA	白土原	7.8*	4.8*	1.8	外底墨書
919	E-919	96	検出	ⅨJ 5b	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古		5.0*	0.9*	外底墨書
920	E-920	97	検出		灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	8.0	4.9	1.4	外底墨書
921	E-921	97	検出	ⅨJ 8a	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.8	5.0	1.5	外底墨書
922	E-922	97	検出	ⅨI 4s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古				外底墨書
923	E-923	97	検出	ⅨJ 8a	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古				外底墨書
924	E-924	97	検出	ⅨI 8t	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞古	7.9	5.2	1.3	外底墨書
925	E-925	97	検出		灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞新		4.8*	1.2*	外底墨書
926	E-926	97	検出	Ⅷ116n	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞新	7.0*	5.0*	1.0	外底墨書、内墨痕？
927	E-927	97	検出	ⅨI 7s	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞新		4.6	0.8*	外底墨書
928	E-928	97	検出	ⅨJ 9b	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞新	7.8*	5.4*	1.0	外底墨書
929	E-929	96	検出	ⅨJ 5c	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞新				外底墨書
930	E-930	97	検出	Ⅷ110m	灰釉系陶器	皿ⅢA	大畑大洞新				外底墨書
931	E-931	96	検出	ⅨI 1s	白磁	碗Ⅴ類			6.0*	2.8*	
932	E-932	96	検出	ⅨI 3s	白磁？	碗Ⅲ類？			5.8*	2.8*	
933	E-933	96	検出	ⅨI 1s	白磁	皿		7.8*		1.9*	
934	E-934	97	検出	ⅨI 3r	青磁	皿		10.8*		1.6*	外スス
935	E-935	97	検出	ⅨJ17e	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-4類		16.4*		3.8*	
936	E-936	97	検出	ⅨJ17e	青磁	碗		17.0*		5.7*	
937	E-937	97	検出	ⅨI 6r	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-5b類		14.8*		2.9*	
938	E-938	96	検出	ⅨJ 1a	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-5b類		12.2*		1.8*	
939	E-939	97	検出	ⅧI 5p	青磁	碗龍泉窯系Ⅰ-5b類			3.8*	4.1*	
940	E-940	96	検出	ⅨI 4s	青磁	碗Ⅱ類？			6.3*	2.4*	
941	E-941	96	検出		灰釉系陶器	経筒		19.2*		9.8*	
942	E-942	97	検出		灰釉系陶器	鳶口壺（常滑産）	6a型式	5.0*		6.4*	
943	E-943	96	検出		灰釉系陶器	羽釜（常滑産）	2～3型式			4.3*	外スス
944	E-944	96	検出		灰釉系陶器	広口瓶（猿投産）			10.2*	8.9*	
945	E-945	97	検出	ⅨI14r	灰釉系陶器	合子（猿投産）			7.8	2.0*	
946	E-946	97	検出	Ⅷ117n	灰釉系陶器	花瓶		4.7		2.1*	
947	E-947	97	検出	ⅨI 6s	古瀬戸	水注	中期	3.0		4.6*	
948	E-948	96	検出	ⅧJ20a	古瀬戸	緑釉小皿	後期		5.4*	1.3*	内外底墨書、破面スス
949	E-949	96	検出	ⅧJ20a	古瀬戸	緑釉小皿	後期		4.4*	1.3*	外底墨書

青白磁水注（包含層出土、1：2）

土製品 ＊加工円盤・陶丸（954～1307）は別途記載

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	器種	長軸 cm	短軸 cm	厚さ cm	備考
950	E-950	96	SD21	ⅨJ 6b	円塔	径6.1	高2.4		緑釉
951	E-951	96	SK18下層	ⅨJ 4a	陶硯(猿投産)	13.3	9.0	2.5	方形硯
952	E-952	96	SK18中層	ⅨJ 4a	陶硯(猿投産)	9.5	6.2	1.3	方形硯
953	E-953	96	SK18中層	ⅨJ 4a	陶硯(猿投産)	12.8	8.3	2.8	風字硯
1308	E-1308	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115j	土錘	7.4	2.2	2.1	孔径0.7×0.7cm
1309	E-1309	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ14k	土錘	7.2	2.2	2.2	孔径0.7×0.6cm
1310	E-1310	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115j	土錘	7.3	2.1	1.8	孔径0.7×0.6cm
1311	E-1311	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ15o	土錘	3.6*	2.5	2.2	孔径1.1×1.1cm
1312	E-1312	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114m	土錘	3.3*	2.4	2.3	孔径1.0×0.9cm
1313	E-1313	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ113m	土錘	3.7*	2.2	2.1	孔径1.2×1.2cm
1314	E-1314	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ114n	土錘	5.2	3.0*	1.4*	
1315	E-1315	97	SD24	ⅨJ 17e	土錘	2.2*	2.0*	1.0*	
1316	E-1316	97	検出	ⅨJ 17e	土錘	4.6	1.5	1.5	孔径0.4×0.4cm
1317	E-1317	96	検出	ⅨJ 8a, 8b	土錘	3.7	1.8	1.9	孔径0.4×0.4cm
1318	E-1318	96	検出	Ⅷ119t	土錘	3.7	1.3	1.3	孔径0.4×0.4cm
1319	E-1319	96	検出	ⅨJ 1a	土錘	3.1*	1.2	0.7	孔径0.7×0.18cm

木製品

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	器種	長軸 cm	短軸 cm	厚さ cm	樹種	備考
1320	W-1320	97	SD08下層	Ⅸ1 6r	木簡	7.5*	6.9*	0.4	ヒノキ	
1321	W-1321	97	SD08下層	Ⅸ1 6s	木簡	12.4	5.0*	0.5	ヒノキ	
1322	W-1322	97	SD08下層	Ⅸ1 6s	木簡	10.2*	2.3*	0.4	ヒノキ	
1323	W-1323	96	SD07下層	Ⅷ118r	人形	9.3	2.9	2.4	ヒノキ	
1324	W-1324	96	SD07下層	Ⅷ116q	横槌	36.3	6.0	6.2	ヒイラギ	
1325	W-1325	96	SD07下層	Ⅷ115r	用途不明棒状品	29.5	2.0	2.0	ヒノキ	
1326	W-1326	96	SD07	Ⅷ116q, 16r	箸状木製品	10.6*	0.7	0.6	ヒノキ	
1327	W-1327	96	SD21	ⅨJ 6a	用途不明品	5.2*	6.5	1.2	ヒノキ	
1328	W-1328	96	SD21	ⅨJ 6a	用途不明品	3.4*	3.1	2.0	ヒノキ	
1329	W-1329	96	SE04下層	ⅨJ 2c	曲物底(蓋)板	15.9	3.2	0.3	ヒノキ	
1330	W-1330	96	SE04下層	ⅨJ 3c	箸状木製品	24.3*	0.6	0.6	ヒノキ	
1331	W-1331	96	SE04下層	ⅨJ 3c	箸状木製品	18.3*	0.6	0.6	ヒノキ	
1332	W-1332	96	SE04下層	ⅨJ 3c	柄杓(杓部)	径13.6	高8.7		ヒノキ	
1333	W-1333	97	SE03下層	Ⅸ1 8t	曲物底(蓋)板	21.2	21.2	1.0	ヒノキ	
1334	W-1334	97	SE03下層	Ⅸ1 8t	曲物底(蓋)板	14.9	7.4*	0.4	ヒノキ	
1335	W-1335	97	SE03下層	Ⅸ1 8t	曲物底(蓋)板	14.4	7.8*	0.5	ヒノキ	
1336	W-1336	97	SE03下層	Ⅸ1 8t	曲物底(蓋)板	19.7	9.8*	1.0	ヒノキ	
1337	W-1337	96	SE05	ⅨJ 7b	曲物底板	20.8	20.8	0.9	ヒノキ	
1338	W-1338	97	SE02	Ⅸ1 7s	用途不明品(柄)	28.9	2.6	1.5	ヒノキ	
1339	W-1339	97	SK104	ⅨJ16e	櫛	4.0	3.8*	0.7	イスノキ	
1340	W-1340	97	SK104	ⅨJ16e	杓子状木製品			1.8	ヤナギ属	
1341	W-1341	96	SE06	Ⅸ1 7t, 8t	柄杓	径13.0	高8.2		ヒノキ	柄部：51.7×2.2×1.2cm
1342	W-1342	96	SE06	Ⅸ1 7t, 8t	曲物底(蓋)板	13.8	13.8	0.8	ヒノキ	
1343	W-1343	96	SE06	Ⅸ1 7t, 8t	曲物底(蓋)板	14.3	14.3	0.9	ヒノキ	
1344	W-1344	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ110l	曲物底(蓋)板	9.5*	2.7	0.4	ヒノキ	
1345	W-1345	96	NR01下層南溝	Ⅷ110q	曲物底(蓋)板	12.6*	3.4*	0.6	ヒノキ	
1346	W-1346	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 3i	曲物底(蓋)板	15.4*	6.9*	0.6	ヒノキ	
1347	W-1347	97	NR01砂層	Ⅷ110m	椀	底径7.6*			クリ	
1348	W-1348	97	NR01砂層	Ⅷ110m	椀	底径8.2*			クリ	

石製品

番号	登録番号	調査区	遺構	グリッド	器種	長軸 cm	短軸 cm	厚さ cm	樹種	備考
1349	S-1349	97	検出	ⅨJ 9a	管玉	2.0	0.8	0.7		
1350	S-1350	96	SD21	ⅨJ 7b	砥石	5.4*	5.0	3.5	凝灰岩	
1351	S-1351	96	SD21	ⅨJ 6b	砥石	6.2	4.6	2.7	泥質凝灰岩	
1352	S-1352	96	SD21	ⅨJ 6b	砥石	7.4	5.8	4.8	凝灰質泥岩	
1353	S-1353	97	SK101	ⅨJ10a	砥石	12.8	7.1	3.2	泥質凝灰岩	
1354	S-1354	96	SK18上層	ⅨJ 4a	砥石	6.7	5.4	3.7	泥質凝灰岩	
1355	S-1355	96	SK18	ⅨJ 4a	砥石	3.5*	1.8	1.7	泥質凝灰岩	
1356	S-1356	96	SK18	ⅨJ 4a	砥石	*3.4	2.6	1.5	凝灰岩	
1357	S-1357	97	SE03上層	Ⅸ1 8t	砥石	3.9*	3.8*	2.0	凝灰岩	
1358	S-1358	97	SE02	Ⅸ1 8t	砥石	2.8*	4.8*	2.1	凝灰岩	
1359	S-1359	96	NR01下層南溝	Ⅷ110s	砥石	4.9*	3.9*	2.8*	泥質凝灰岩	
1360	S-1360	96	NR01下層南溝	Ⅷ110r	砥石	6.1*	3.4*	2.5*	凝灰岩	
1361	S-1361	96	NR01下層南溝	Ⅷ110p	砥石	6.2*	4.9*	3.8*	凝灰岩	
1362	S-1362	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ1 5j	砥石	4.4	3.5	1.3*	凝灰岩	
1363	S-1363	96	検出Ⅰ	ⅨJ 8b	砥石	2.5*	3.5	0.9*	凝灰岩	
1364	S-1364	97	検出Ⅰ	ⅨJ17e	砥石	4.1*	2.5	0.9*	泥質凝灰岩	
1365	S-1365	97	検出Ⅰ	Ⅸ1 7s	砥石	7.0	4.7	1.9	凝灰岩	
1366	S-1366	96	検出Ⅰ	Ⅷ11t	砥石	4.0*	4.0*	0.8	泥岩	
1367	S-1367	97	SD08下層	Ⅸ1 6s		径6.9	高1.0*			
1368	S-1368	96	SD21	ⅨJ 7b	加工円盤	2.4	2.2	1.1	凝灰岩	
1369	S-1369	96	検出Ⅰ	ⅨJ 5c	加工円盤	2.7	2.3	1.4	凝灰岩	
1370	S-1370	97	NR01灰色粘土層	Ⅷ115m	硯	5.8*	1.8*	1.3	ホルンフェルス	

金属製品（1371～1404）＊別途記載

遺物集計表

総点数

	尾張型		東遠型		その他の灰釉系			土師器		古瀬戸			中国陶磁	合計
	椀	皿	椀	皿	鉢	瓶	壺型	皿	鍋	前期	中期	後期		
	9803	1069	6314	1299	274	1511	165	1348	4106	62	30	828	173	26982

破片数

	尾張型		東遠型		その他の灰釉系			土師器		古瀬戸			中国陶磁	合計
遺構	椀	皿	椀	皿	鉢	瓶	壺型	皿	鍋	前期	中期	後期		
９６ＫＳＤ０７	305	31	26	9	9	55	18	103	41				4	601
９７ＫＳＤ０８	335	36	19	6	5	22	2	21	36				6	488
９６ＫＳＤ２１	1115	108	19	11	26	68	7	416	28				14	1812
９６ＫＳＫ３０（ＳＸ０２）	389	35	1		10	74	26	12	5				8	560
９６ＫＳＫ１８	1218	212	11	11	19	233	33	182	65				16	2000
９７ＫＳＥ０３	167	28	137	17	1	10	4	47	71				2	484
９７ＫＳＥ０２	70	12	133	10	2	13	1	31	103				2	377
９７ＫＳＫ０１	60	4	155	82		13		44	23					381
９７ＫＳＥ０１	7	1	42	13	1	11	1	4	2	1				83
９７ＫＳＥ０５	14	1	63	22	2	12		7	3	1			1	126
９７ＫＳＥ０６	13		28	7		3		4	1	1				57
９６ＫＮＲ０１	332	20	741	140	29	145	22	297	69	20	3	111	19	1948
９７ＫＮＲ０１	683	37	1761	290	30	115	9	1446	123	7	13	337	19	4870

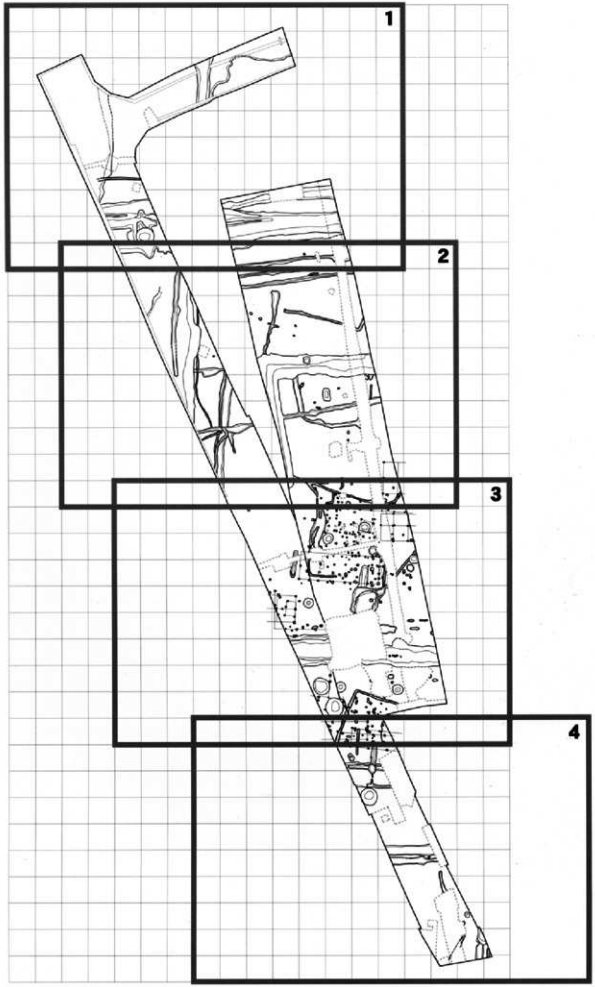
口縁部残存率（/12）

	尾張型		東遠型		その他の灰釉系			土師器		古瀬戸			中国陶磁	合計
遺構	椀	皿	椀	皿	鉢	瓶	壺型	皿	鍋	前期	中期	後期		
９６ＫＳＤ０７	144	56	11	15	5	1	18	28	6				4	288
９７ＫＳＤ０８	198	95	20	5	4	1		5	8				8	344
９６ＫＳＤ２１	834	321	9	12	14	1		264	7				13	1475
９６ＫＳＫ３０（ＳＸ０２）	261	136			2	2	2	2	1				3	430
９６ＫＳＫ１８	619	682	9	10	16	10	2	72	13				17	1651
９７ＫＳＥ０３	101	155	142	106	1	3		16	13				1	538
９７ＫＳＥ０２	25	22	105	28		1		17	12				1	211
９７ＫＳＫ０１	20	5	76	140				22	7					270
９７ＫＳＥ０１	3	1	37	20	1	3		2	1	2				70
９７ＫＳＥ０５	7		45	32	2			1	1				1	89
９７ＫＳＥ０６	10		21	15				2	1	1				50
９６ＫＮＲ０１	112	20	315	103	7	12	1	117	19			31	7	744
９７ＫＮＲ０１	200	13	687	147	19	3	1	351	25	1	4	105	8	1504

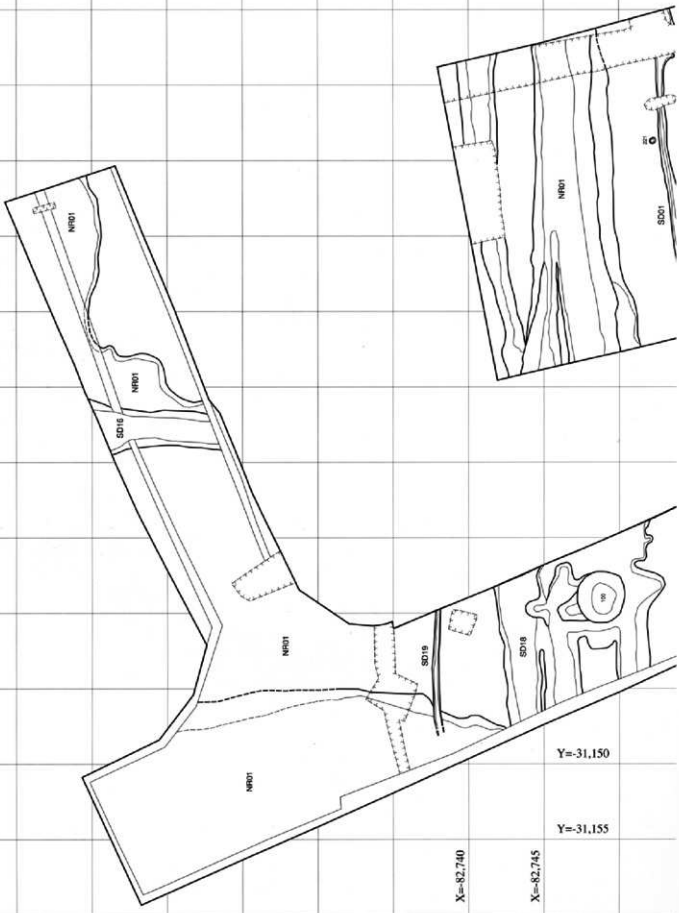
図　版

調査区配置図　（1：5000）
基本遺構割付図
基本遺構図　（1：250）
遺物図版　縮尺は1：4を原則とし、それと異なる場合にのみ、
　　縮尺を記載した。

図版1　下津北山遺跡調査区配置図（1：5000）


1
2
3
4

図版3　基本遺構図1（1：250）



図版4　基本遺構図2（1：250）

図版5　基本遺構図3（1：250）

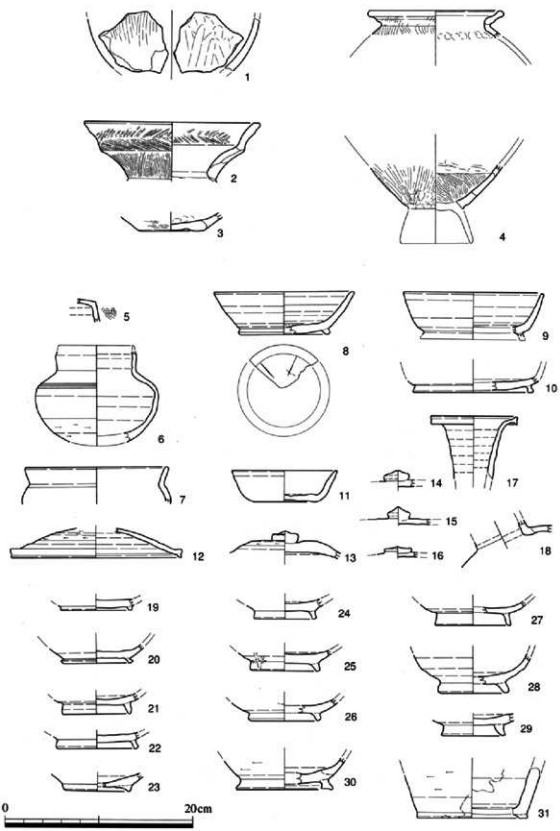
Y=-31,130

Y=-31,135

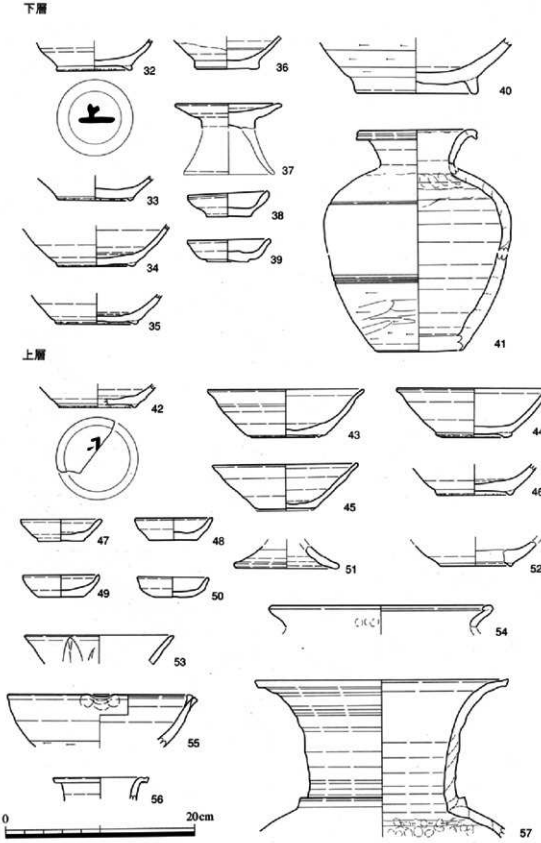
X=-82,830

X=-82,835

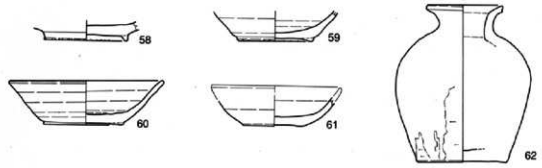
図版6　基本遺構図4（1：250）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
20cm

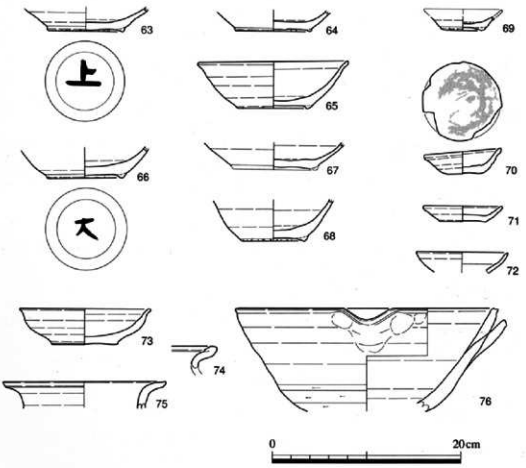
図版8　96区ＳＤ07　（方形区画北溝）出土土器



下層

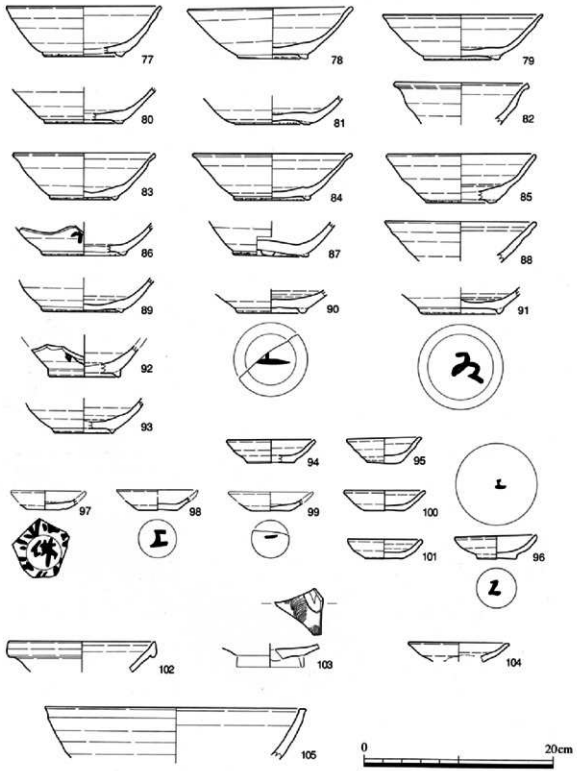


上層

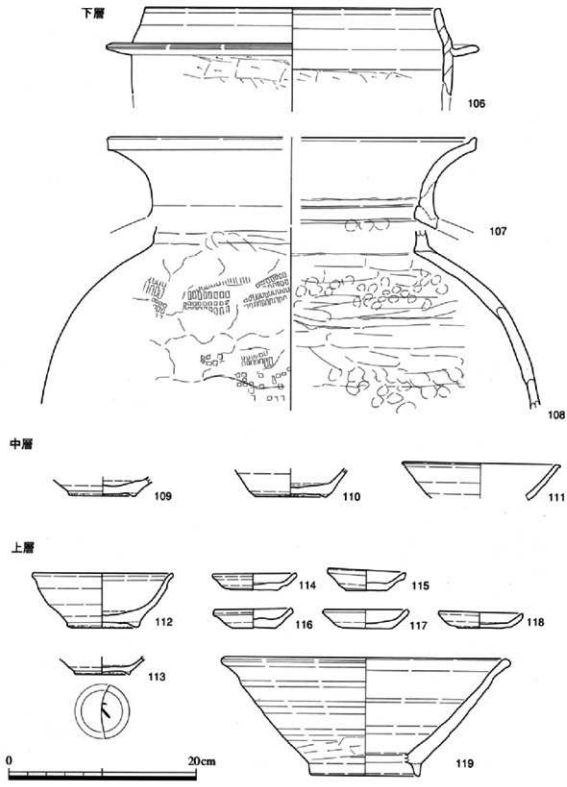


図版10　97区ＳＤ08（方形区画南溝）出土土器

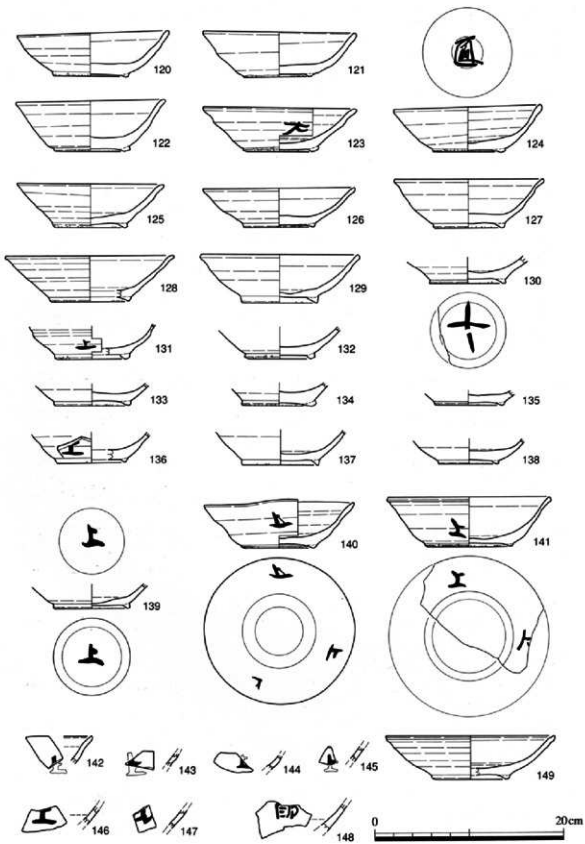
下層



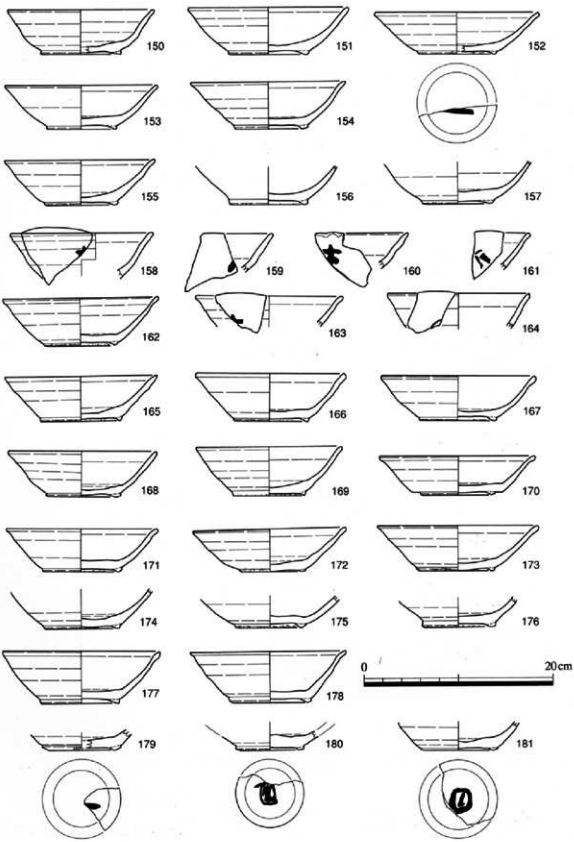
図版11　97区ＳＤ08（方形区画南溝）出土土器



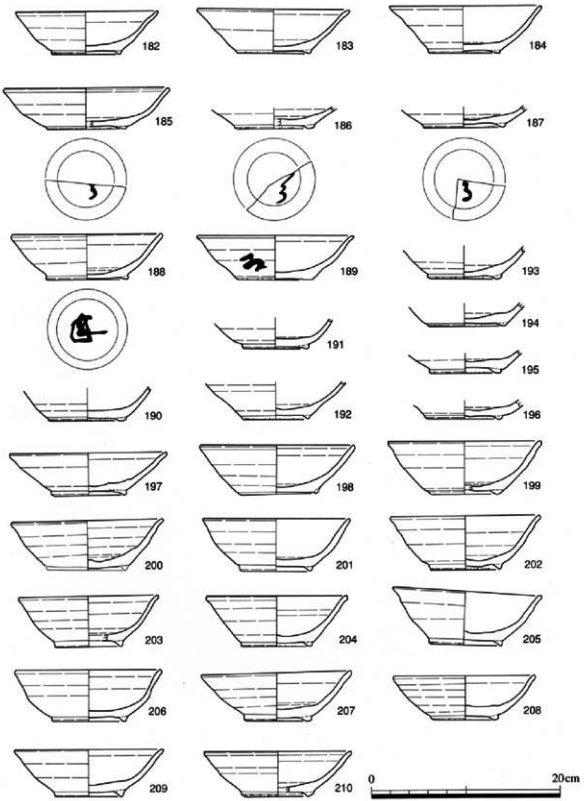
図版12　96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器



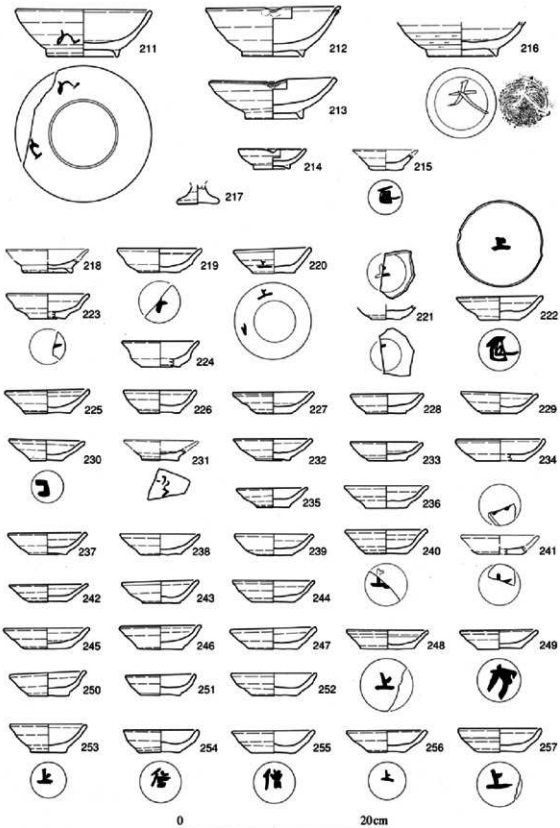
図版13　96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器



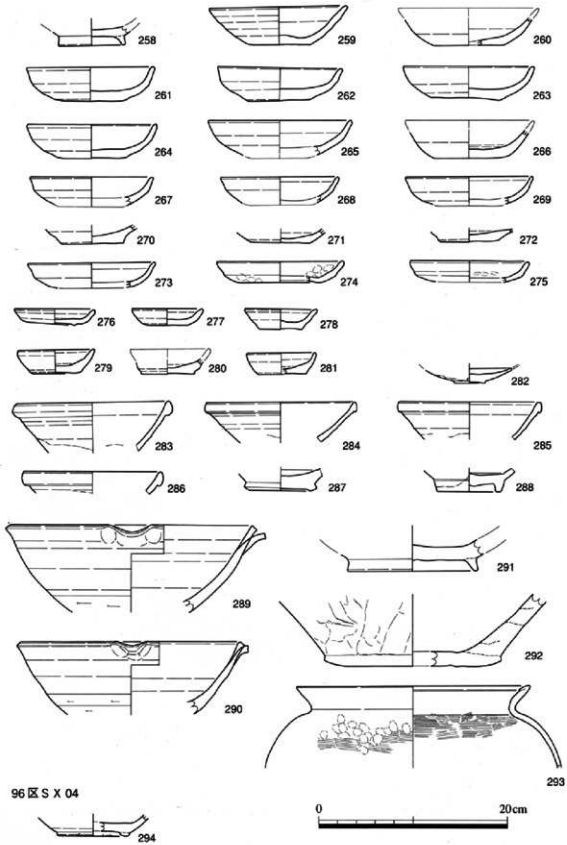
図版14　96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器

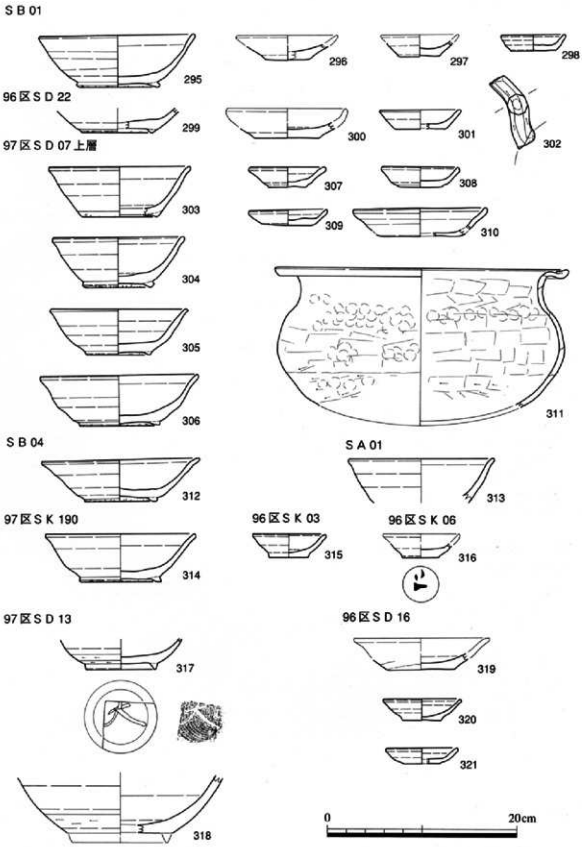


図版15　96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器

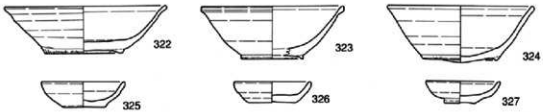


図版16　96区ＳＤ21（方形区画南溝）出土土器




S B 01
295
296
297
298
96区S D 22
299
300
301
302
97区S D 07 上層
303
307
308
304
309
310
305
311
306
S B 04
S A 01
312
313
97区S K 190
96区S K 03
96区S K 06
314
315
316
97区S D 13
96区S D 16
317
319
320
321
318
0
20cm

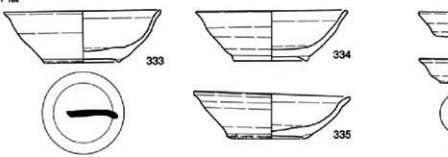
96区SD17



96区SD19

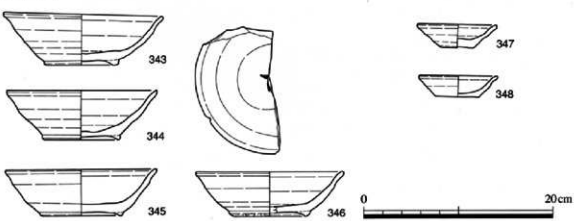
96区SE04

下層

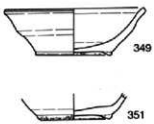


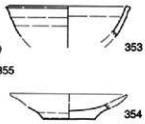
中上層

96区SE03

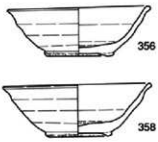


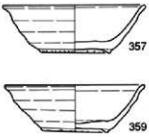
96区SK75

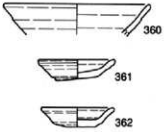




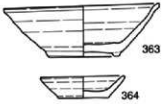
97区SK101

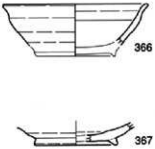


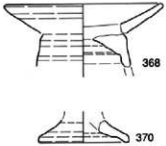


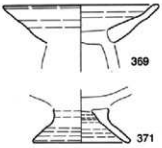


96区SX01

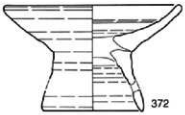




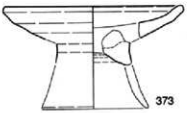




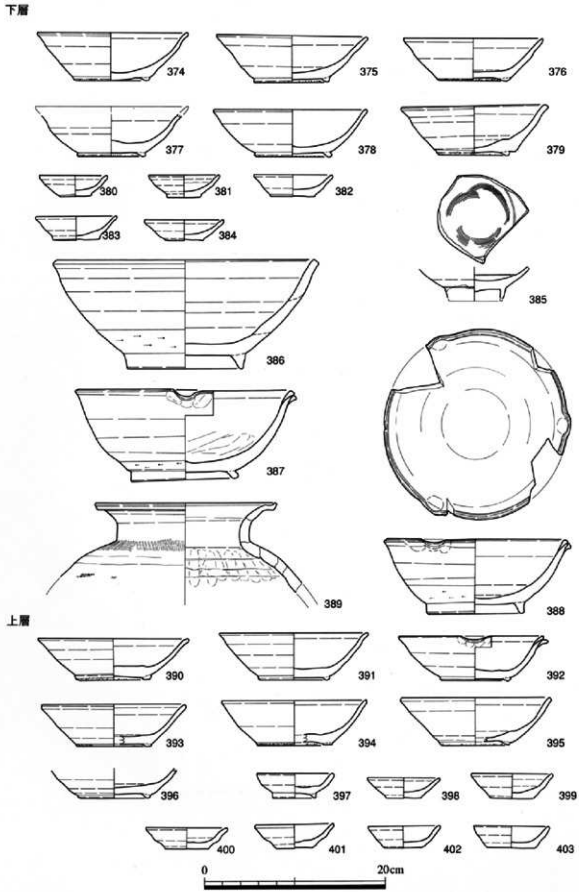
96区SX03

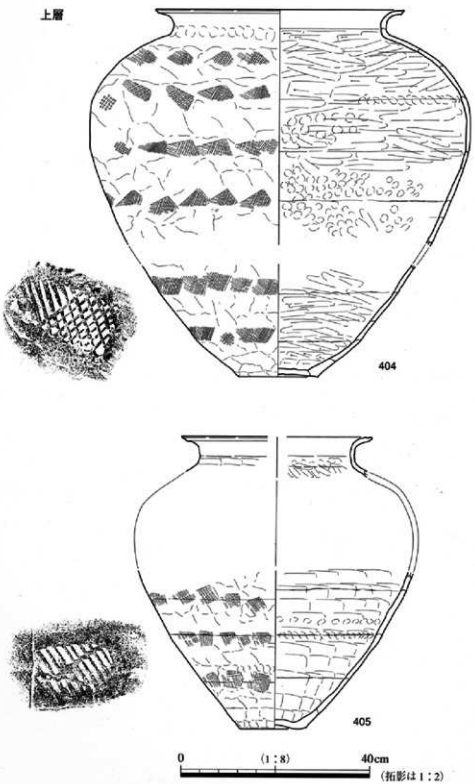


96区SD10



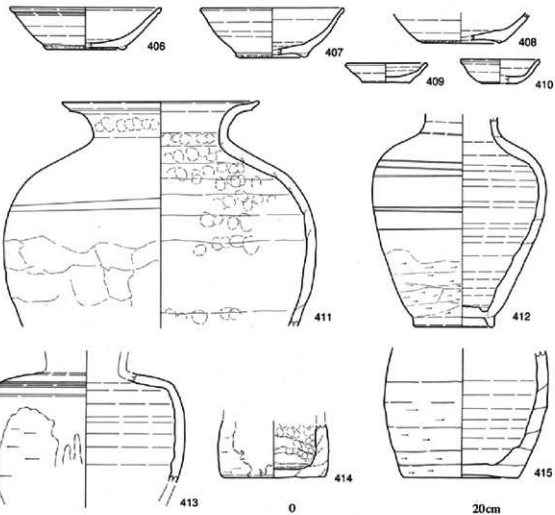
図版20　96区ＳＫ30出土土器



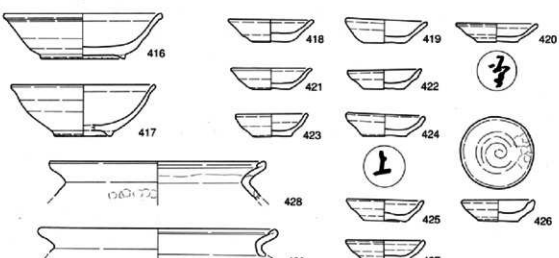

上層
404
405
0
(1:8)
40cm
(拓影は1:2)

図版22　96区SX02・96区SK19出土土器

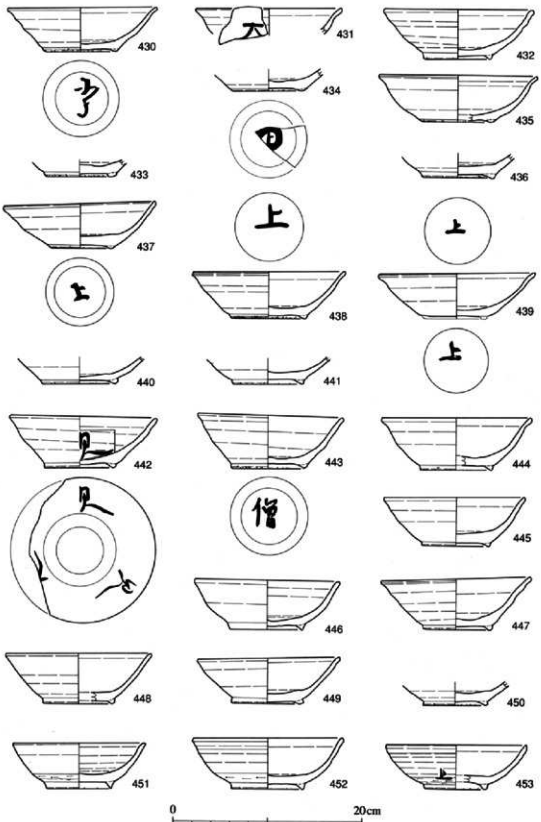
96区SX02



96区SK19

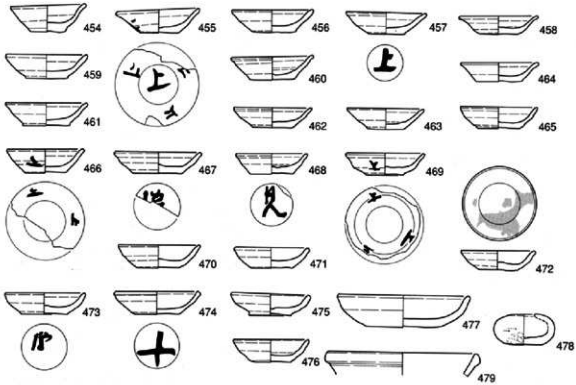


下層

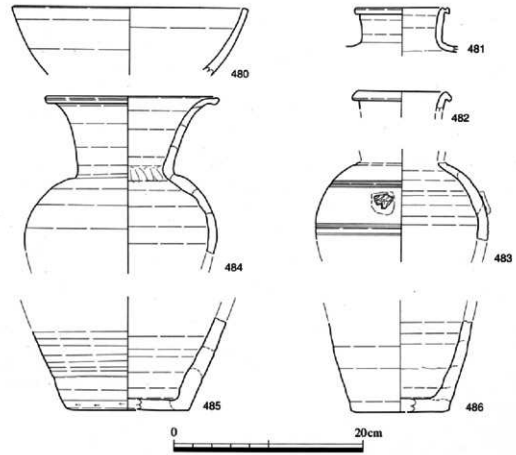

430
431
432
434
435
433
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
0
20cm

図版24　96区ＳＫ18出土土器

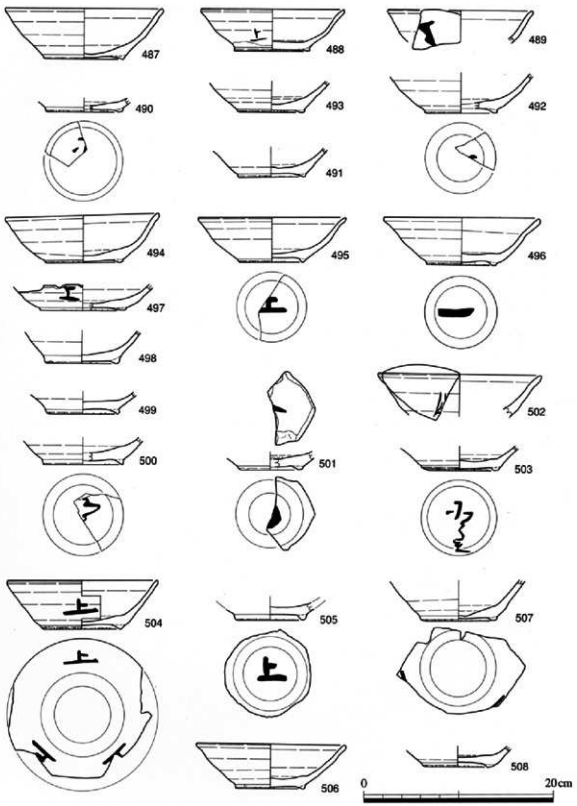
下層



中層

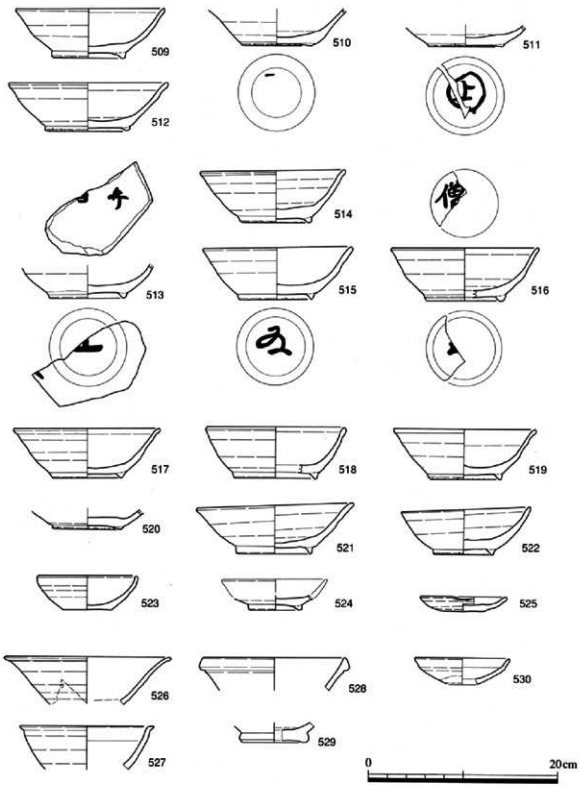


中層

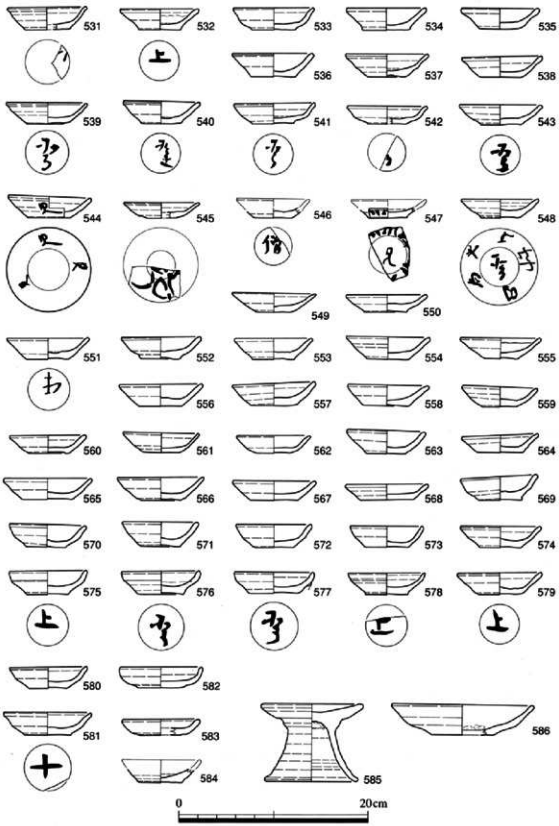

487
488
489
490
493
492
491
494
495
496
497
498
499
502
500
501
503
504
505
507
506
508
0
20cm

図版26　96区ＳＫ18出土土器

中層

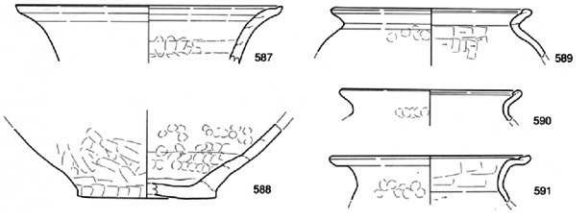


中層

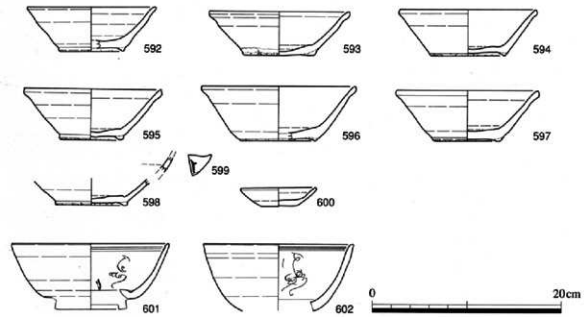

531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
582
581
583
584
585
586
0
20cm

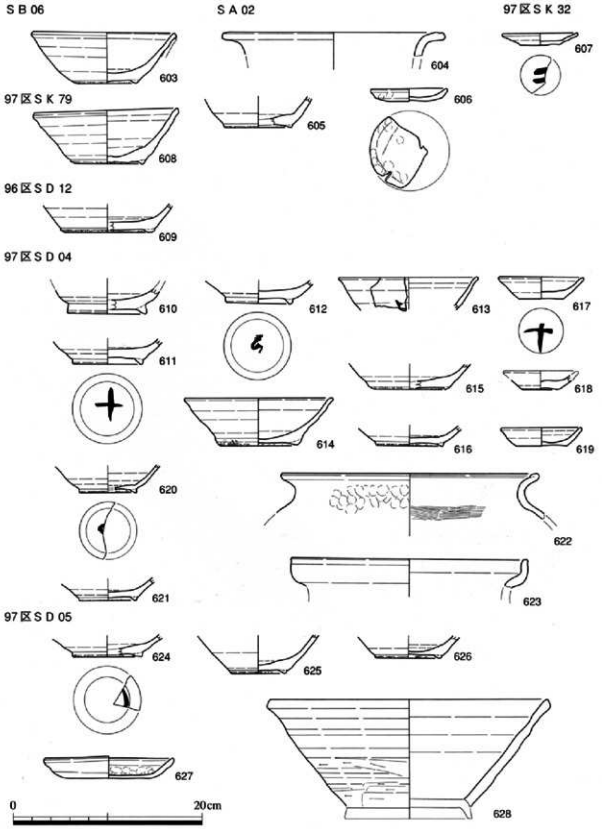
図版28　96区ＳＫ18出土土器

中層



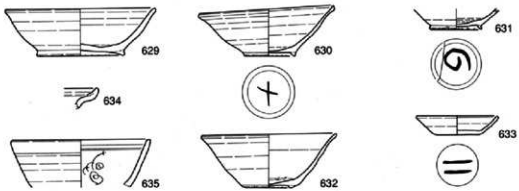
上層



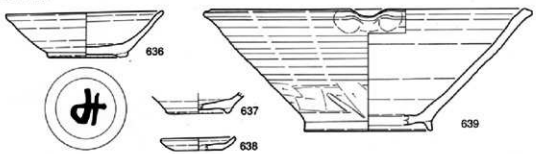

S B 06
603
S A 02
604
605
606
97区S K 32
607
97区S K 79
608
96区S D 12
609
97区S D 04
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
97区S D 05
624
625
626
627
628
0
20cm

図版30　II期 溝出土土器

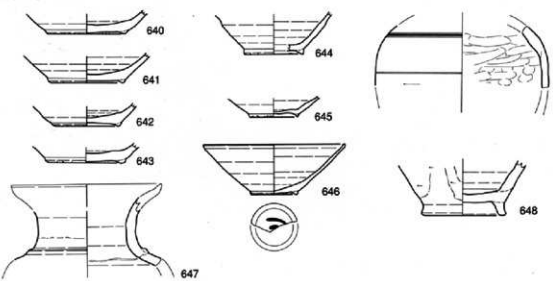
97区SD03



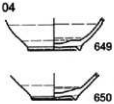
97区SD25



96区SD01



96区SD04

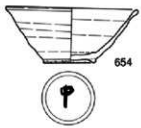


97区SE03

下層

651

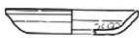
653


654

656

652

655


657

中層

658

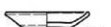
661

662

664

659

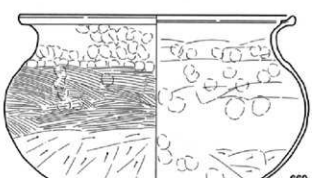
663


666

665

660

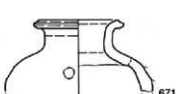
667

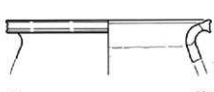

669

668

上層

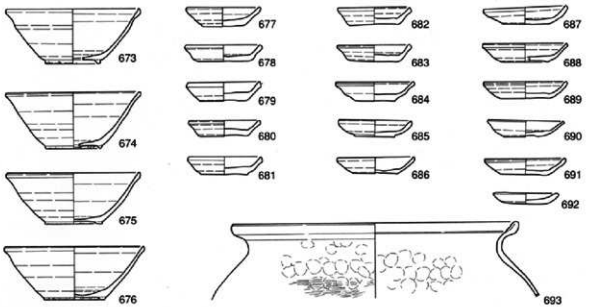
670


671

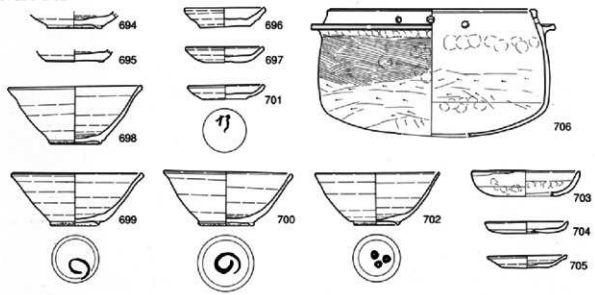

672

0　20cm

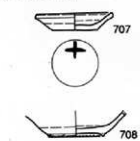
97区SE03上層



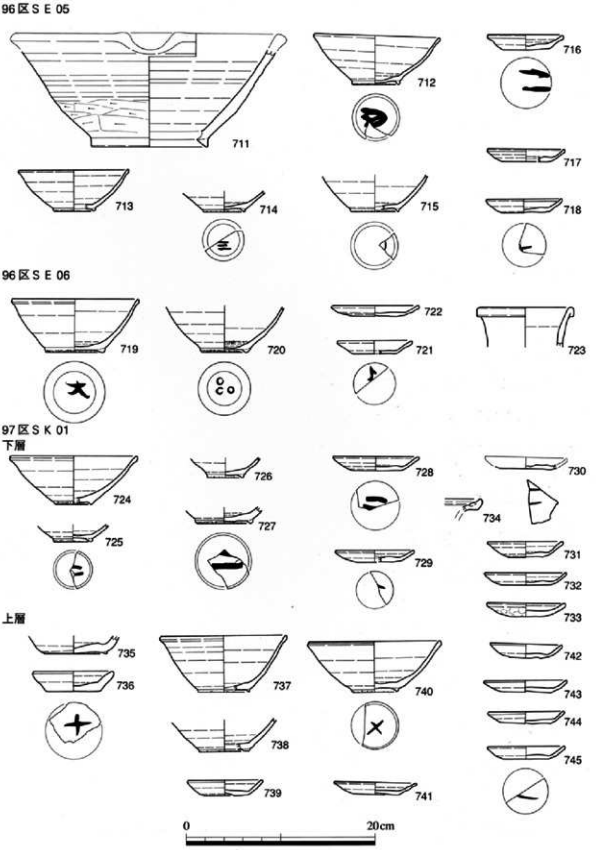
97区SE02



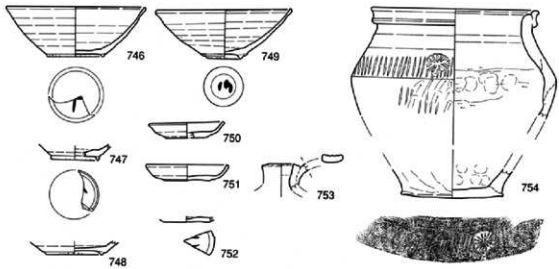
97区SK104



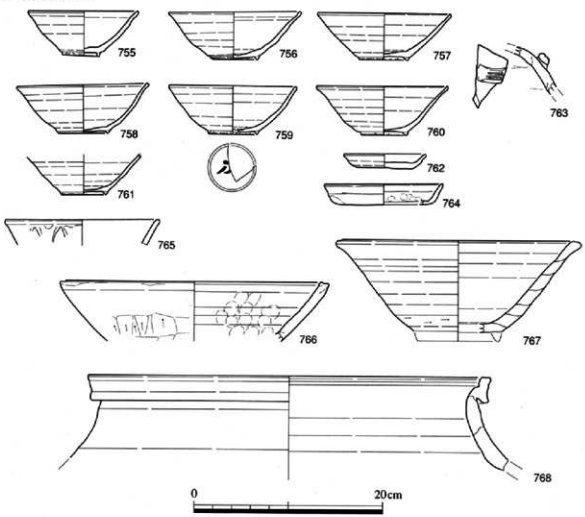
97区SE01


96区 S E 05
711
712
713
714
715
716
717
718
96区 S E 06
719
720
721
722
723
97区 S K 01
下層
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
上層
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
0
20cm

97区SE01

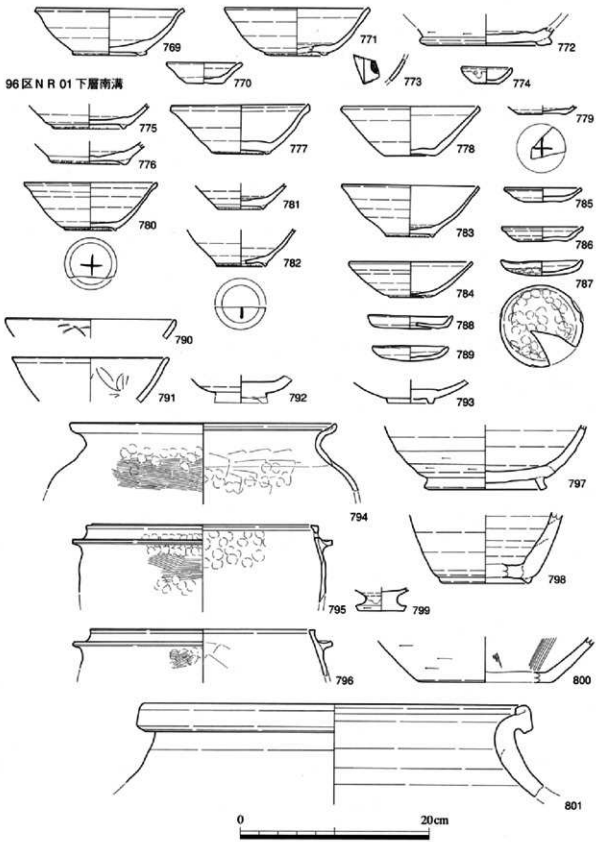


97区SK02上層

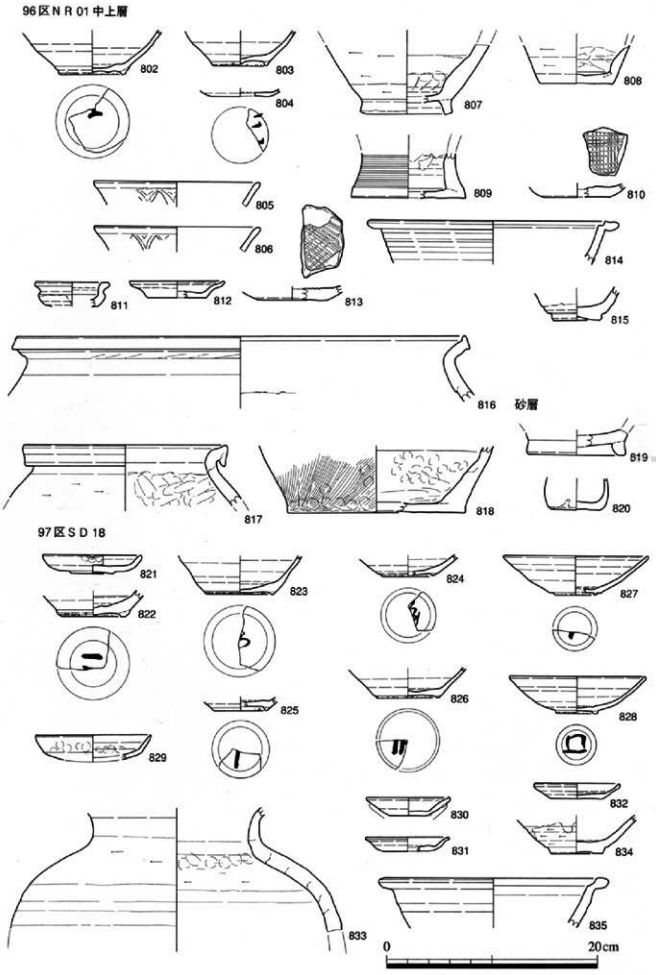


96区ＮＲ01下層北溝

96区ＮＲ01下層南溝



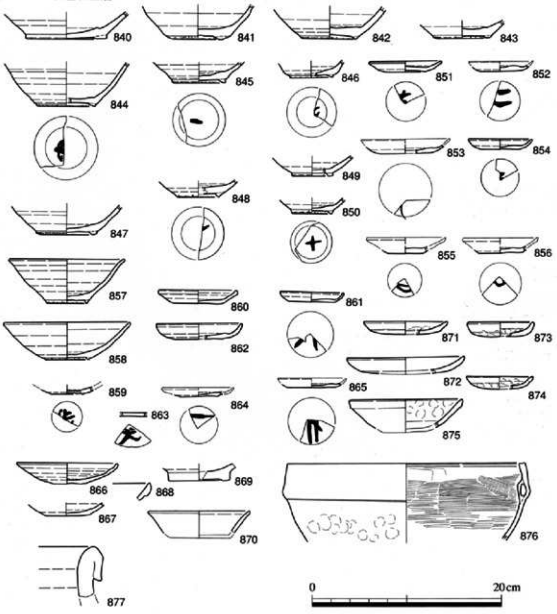
図版36　96区ＮＲ01・97区ＳＤ18出土土器



97区ＳＤ16

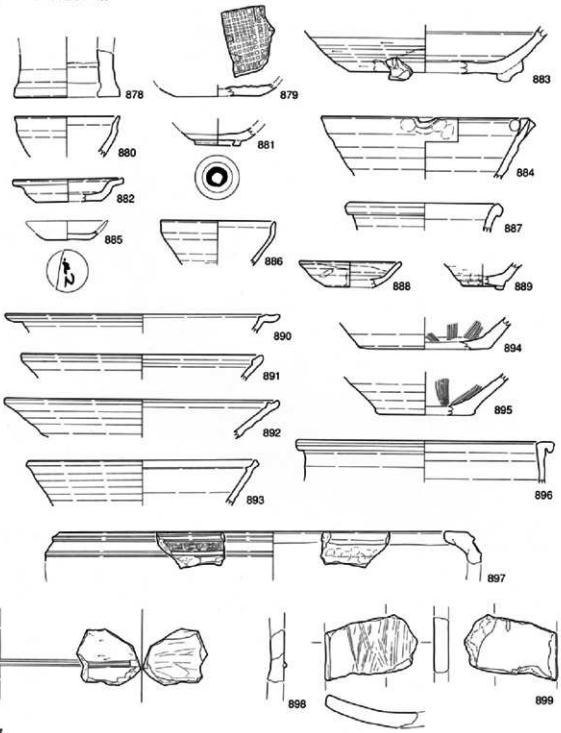
97区ＳＫ100

97区ＮＲ01灰色粘土層

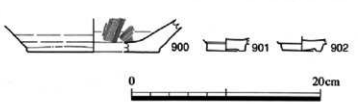


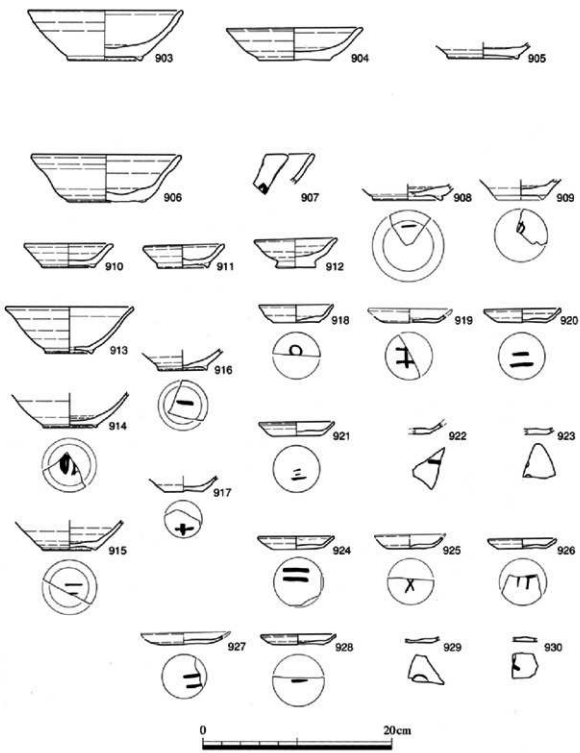
図版38　97区ＮＲ01出土土器

97区ＮＲ01灰色粘土層

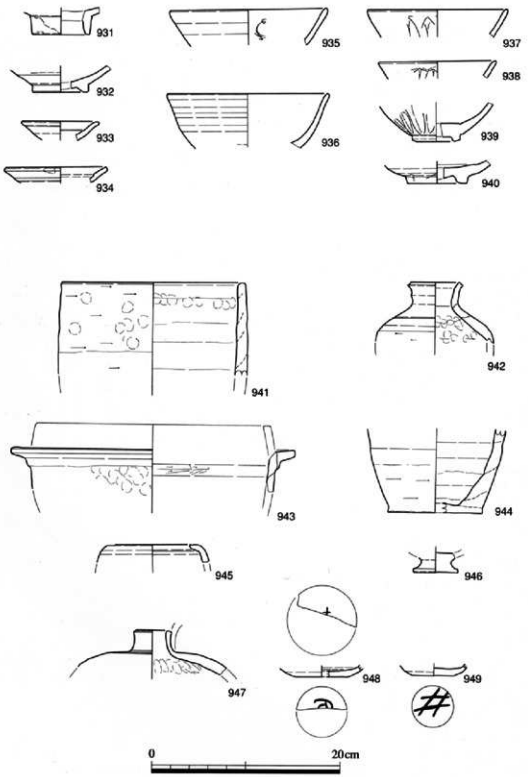


砂層

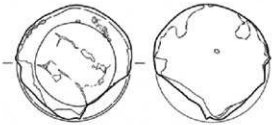



903
904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
916
914
917
915
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
0
20cm

図版40　その他の土器

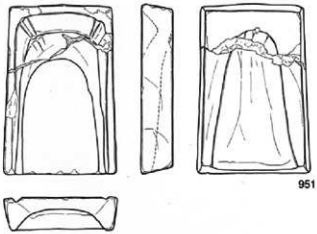

931
932
933
934
935
936
937
938
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948
949
0
20cm

96区SD21

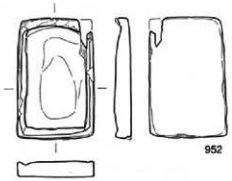


96区SK18

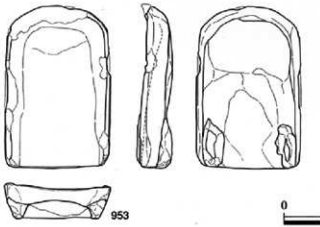
下層



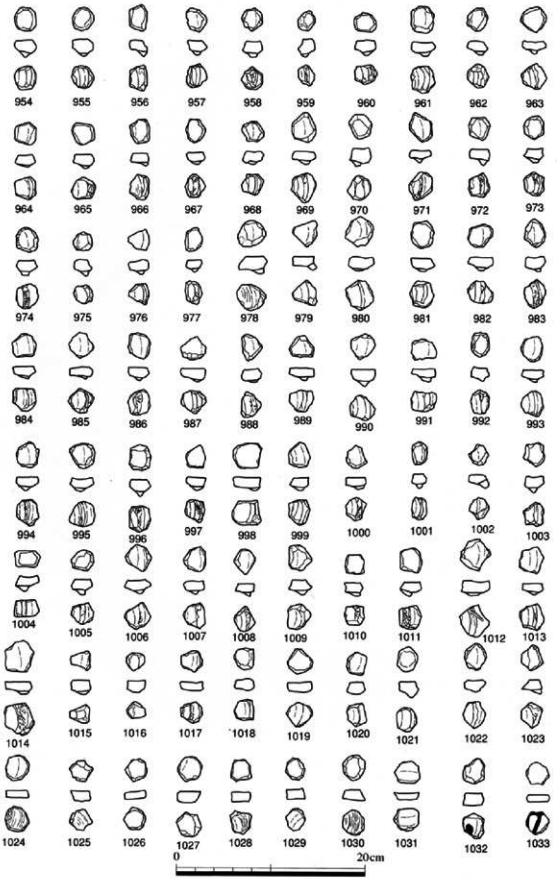
中層

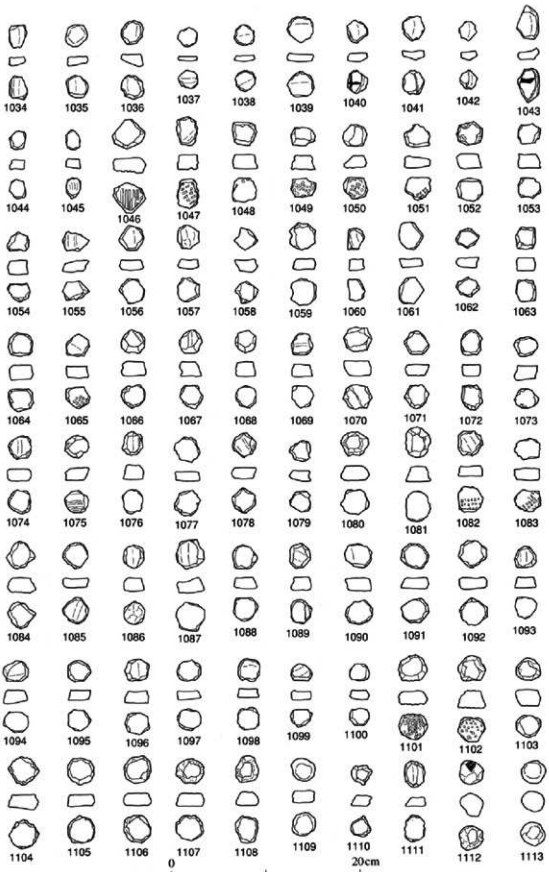


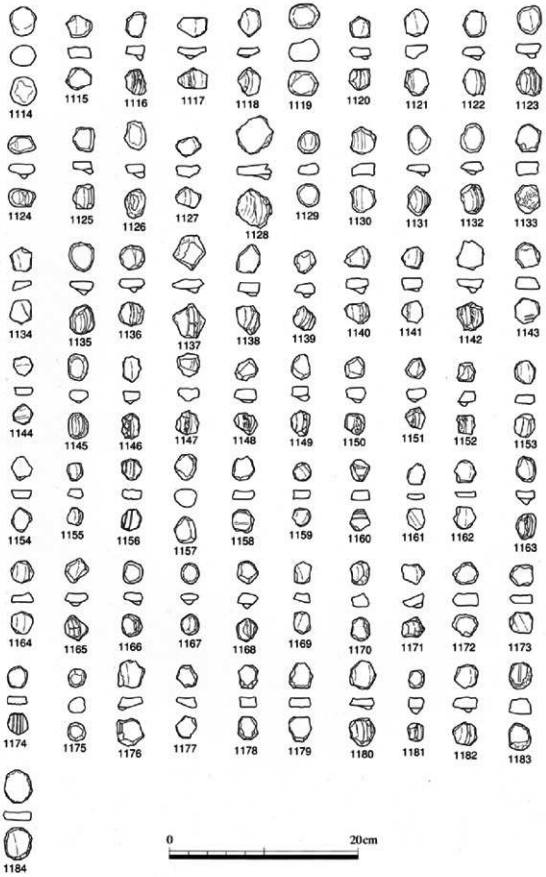
中層

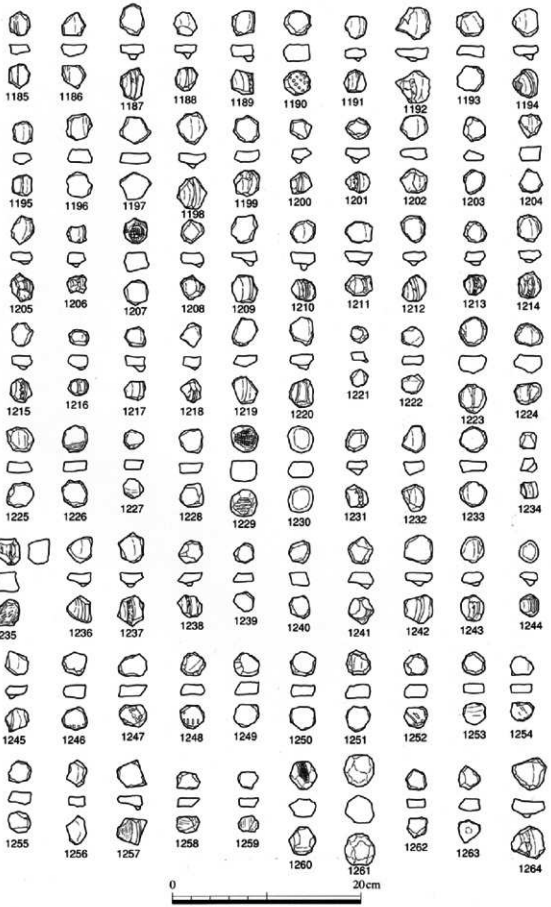


図版42　加工円盤

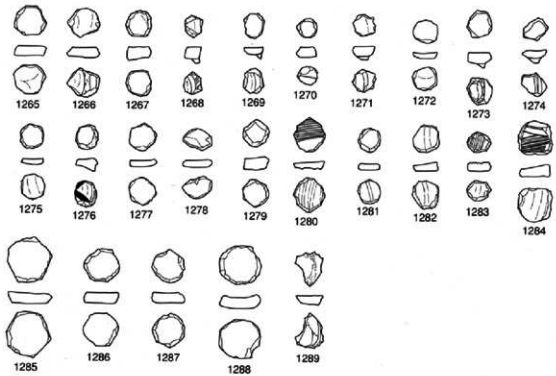

954
955
956
957
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1011
1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
1028
1029
1030
1031
1032
1033
0
20cm


1034
1035
1036
1037
1038
1039
1040
1041
1042
1043
1044
1045
1046
1047
1048
1049
1050
1051
1052
1053
1054
1055
1056
1057
1058
1059
1060
1061
1062
1063
1064
1065
1066
1067
1068
1069
1070
1071
1072
1073
1074
1075
1076
1077
1078
1079
1080
1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
0
20cm

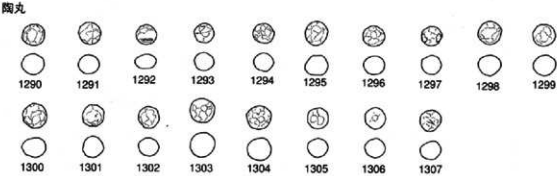

1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
1139
1140
1141
1142
1143
1144
1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1180
1181
1182
1183
1184
0
20cm


1185
1186
1187
1188
1189
1190
1191
1192
1193
1194
1195
1196
1197
1198
1199
1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
1216
1217
1218
1219
1220
1221
1222
1223
1224
1225
1226
1227
1228
1229
1230
1231
1232
1233
1234
1235
1236
1237
1238
1239
1240
1241
1242
1243
1244
1245
1246
1247
1248
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
1260
1261
1262
1263
1264
0
20cm

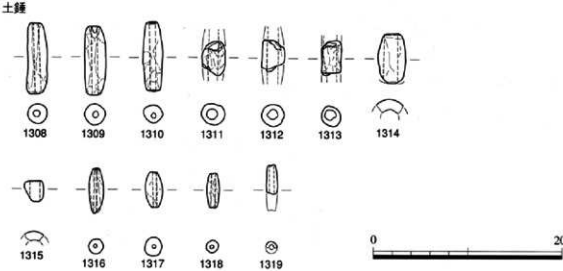
加工円盤


1265
1266
1267
1268
1269
1270
1271
1272
1273
1274
1275
1276
1277
1278
1279
1280
1281
1282
1283
1284
1285
1286
1287
1288
1289

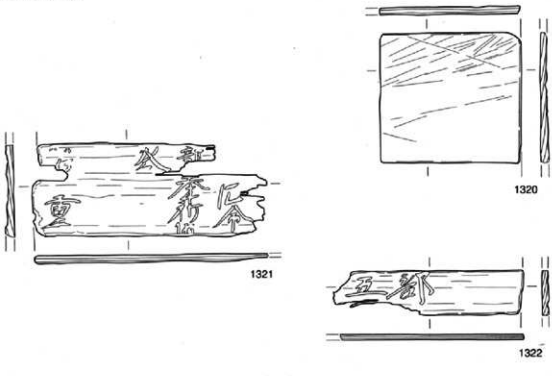
陶丸

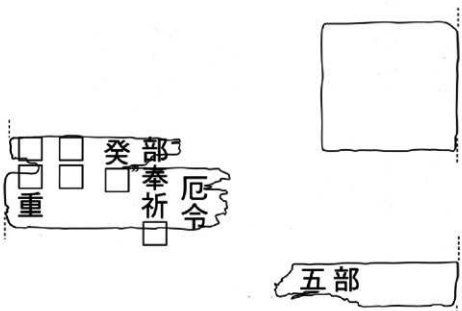

1290
1291
1292
1293
1294
1295
1296
1297
1298
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307

土錘

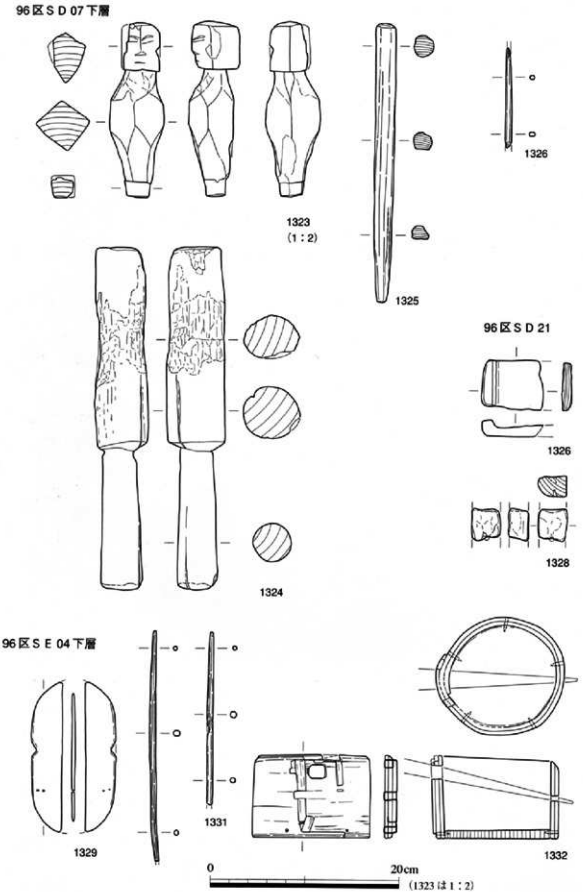

1308
1309
1310
1311
1312
1313
1314
1315
1316
1317
1318
1319
0
20cm

97区ＳＤ08下層

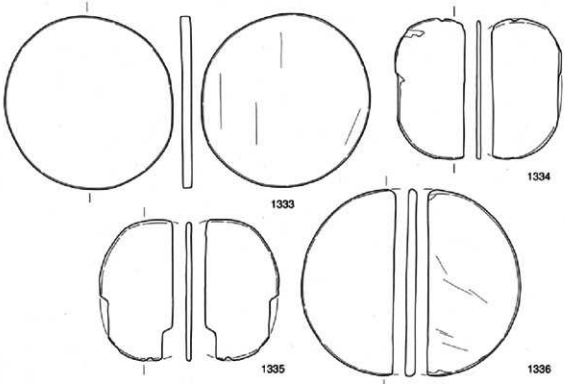




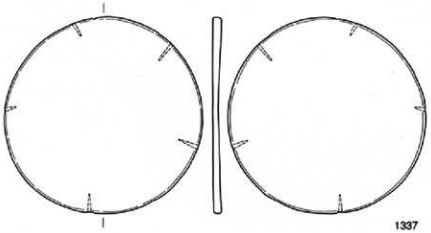
木簡釈文


96区SD07下層
1323
(1：2)
1325
1326
1324
96区SD21
1326
1328
96区SE04下層
1329
1331
1332
0
20cm
(1323は1：2)

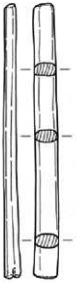
97区SE03下層



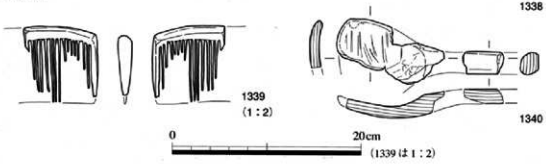
96区SE05



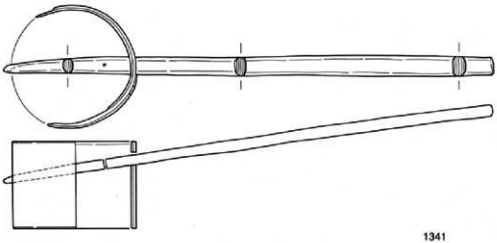
97区SE02



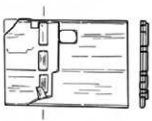
97区SK104

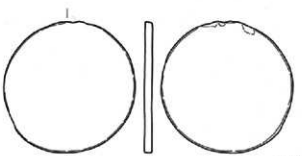


96区S E 06

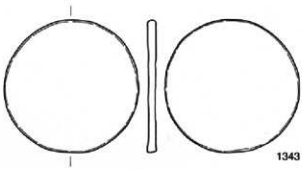


1341



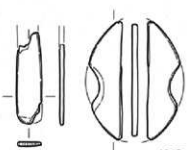


1342



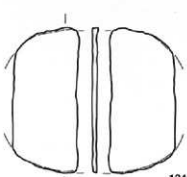
1343

96区・97区N R 01



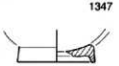
1334

1345

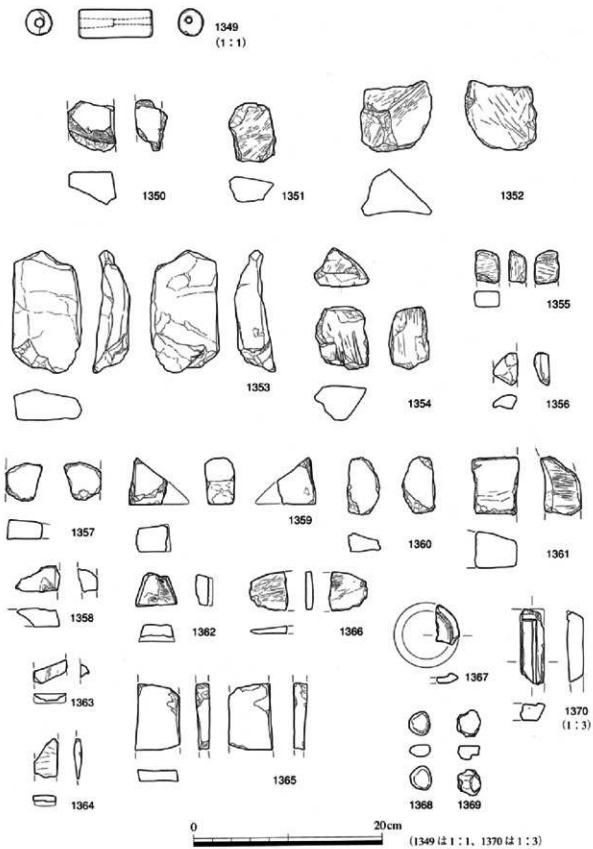


1346

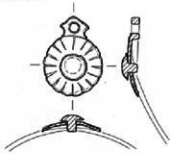
1347

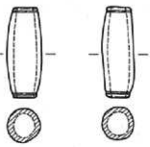


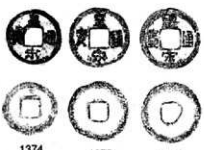
1348

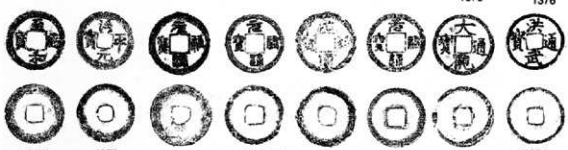

1349
(1：1)
1350
1351
1352
1353
1354
1355
1356
1357
1358
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
1368
1369
1370
(1：3)
0
20cm
(1349は1：1、1370は1：3)

青銅製品

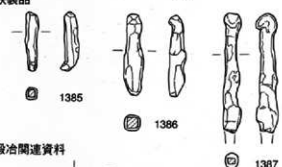

1371

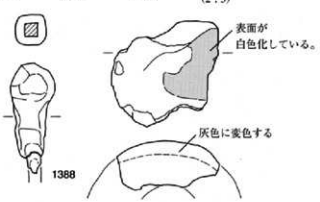

1372　1373


1374　1375　1376


1377　1378　1379　1380　1381　1382　1383　1384 (2:3)

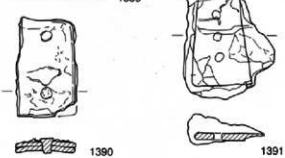
鉄製品

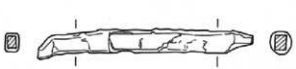

1385　1386　1387

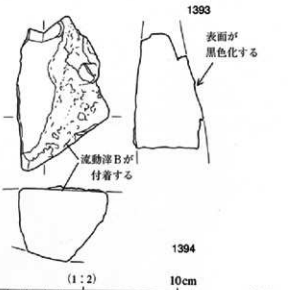

1388　表面が白色化している。　灰色に変色する　1393

鍛冶関連資料

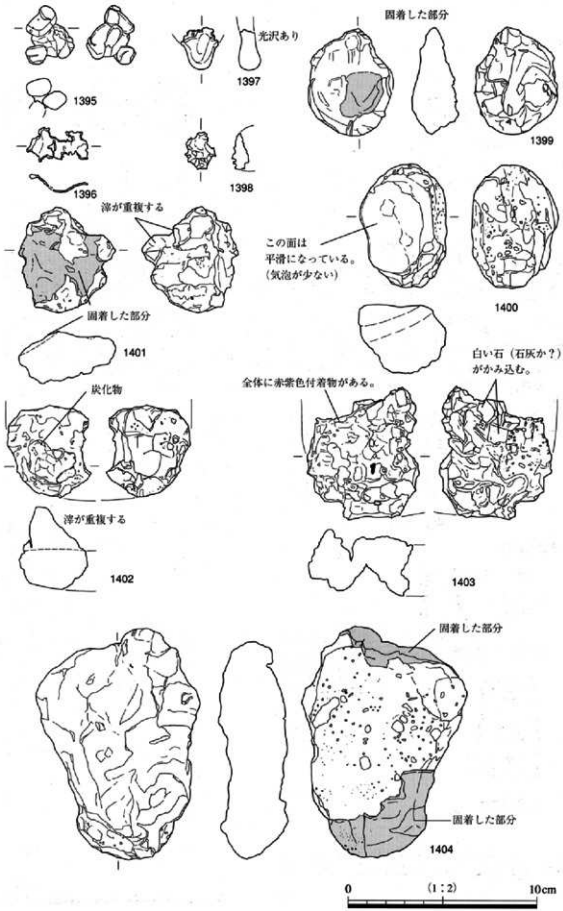
1389


1390　1391


1392

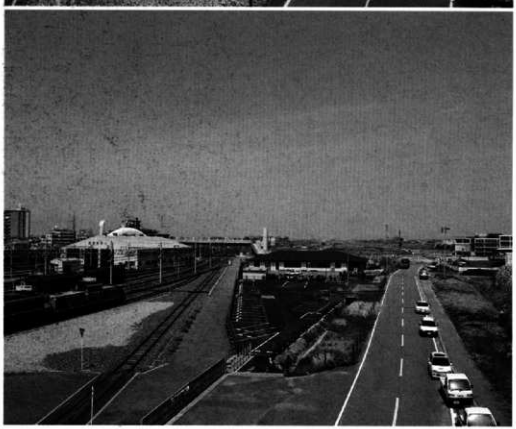

表面が黒色化する　流動滓Bが付着する　1394

0　(1:2)　10cm　(1374～1384はほぼ2:3)


1395
光沢あり
1397
1396
1398
滓が重複する
固着した部分
1401
炭化物
滓が重複する
1402
固着した部分
1399
この面は
平滑になっている。
（気泡が少ない）
1400
白い石（石灰か？）
がかみ込む。
全体に赤紫色付着物がある。
1403
固着した部分
固着した部分
1404
0
（1：2）
10cm

図版54　調査区遠景

稲沢跨線橋から遺跡を望む
（1996年6月）

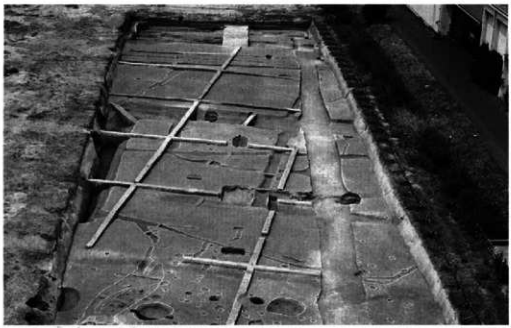


稲沢跨線橋から遺跡を望む
（2000年3月）

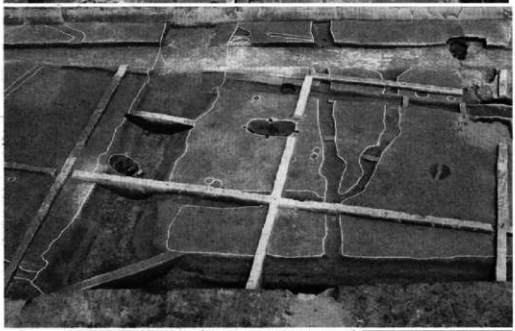
SB 01 周辺
南から

方形区画南半の遺構群
西から

図版56　96区ＳＤ07周辺・96区ＮＲ01



96区ＳＤ07
96区ＮＲ01
南から



方形区画北半遺構群
西から

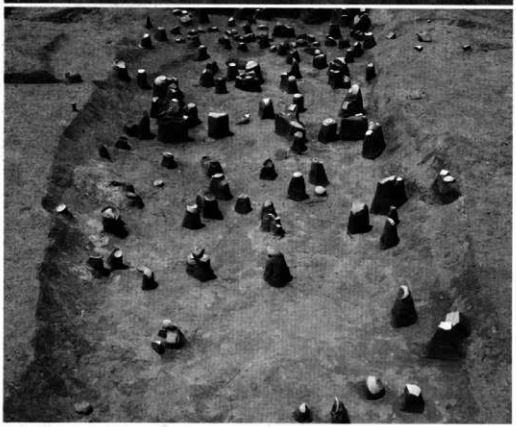
96区ＮＲ01土層断面
西から

方形区画西溝
人形出土状況

方形区画西溝
常滑産小瓶出土状況

方形区画西溝遺物出土状況
南から

96区SD07土層断面
西から



96区SD21遺物出土状況
東から

96区ＳＤ21遺物出土状況
南から

左；緑釉円塔出土状況
右；「僧」墨書陶器出土状況

96区ＳＤ21底面の柱穴
―96区ＳＸ04

図版60　96区土坑遺物出土状況

96区SE04下層
遺物出土状況

96区SK109断面

96区SK08断面

96区ＳＫ30上層北半
遺物出土状況

96区ＳＫ18中層北西
遺物出土状況

左；96区ＳＫ18
方形硯出土状況
右；96区ＳＫ18
墨書陶器「そう」？出土状況

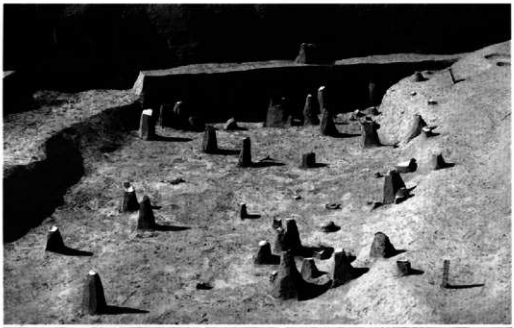
96区ＳＥ05
曲物出土状況

96区ＳＥ05
カメ遺体出土状況

96区ＳＥ06
柄杓出土状況

97区全景
南から

97区方形区画南溝と建物
南から



97区ＳＤ08遺物出土状況
東から

97区ＳＤ08土層断面
東から

97区ＳＤ08下層
木簡出土状況

左；97区ＳＤ08上層
方形硯出土状況
右；97区ＳＫ58断面

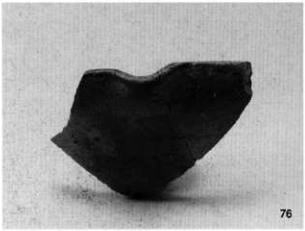
97区ＳＫ104下層
遺物出土状況

97区ＳＫ01
曲物出土状況

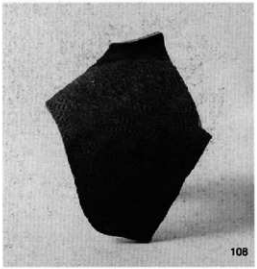
図版66　方形区画溝ほか出土壺、甕、鉢、鍋など

40

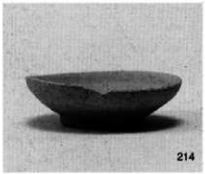
62


76

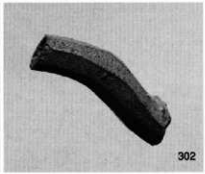
106


108

293


214

217


302

387

388

389

415

411

412

414

図版68　96区ＳＫ18ほか出土壺、甕、鉢、鍋など

57

484

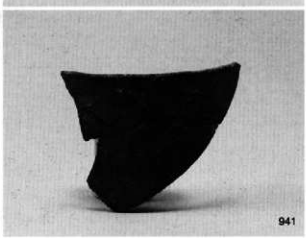
483

485

671

648

883


941

60

73

122

123

124

125

141

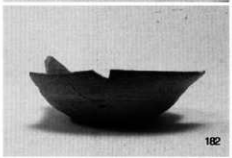
166

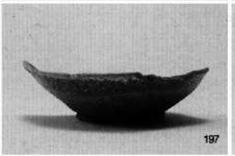
168

172

173

177


182


197

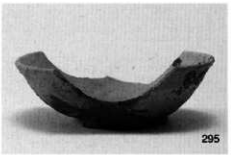
206

211

212

213

図版70　土坑出土灰釉系陶器椀ほか


295

349

350

375

392

416

96区SE04

97区SK101・97区SK18

96区SX01

96区SK18ほか

438

443

445

446

447

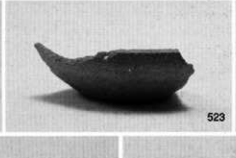
449

496

515

519

469


523

525

654

755

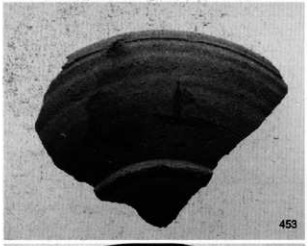
97区SE03上層

438

139

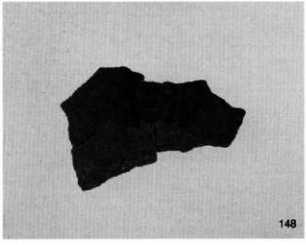
82

511

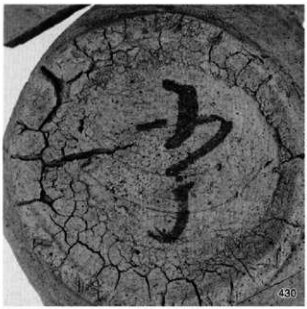

453

248

311

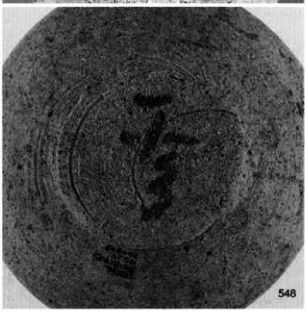

148

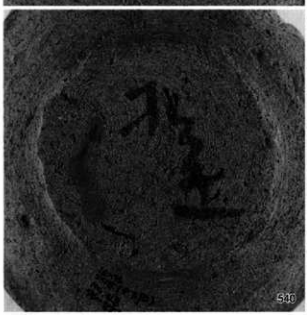
図版74　墨書「そう」？


430

503

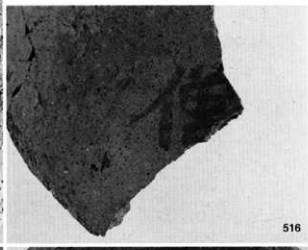
542

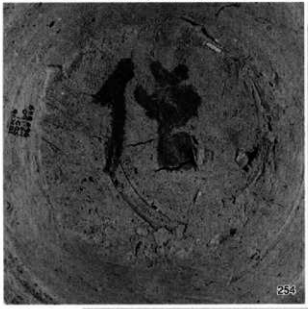

548

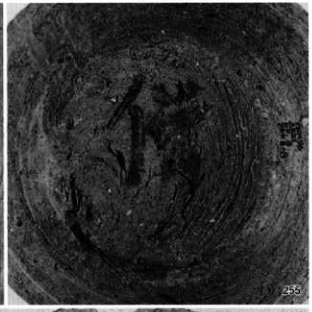

549

541

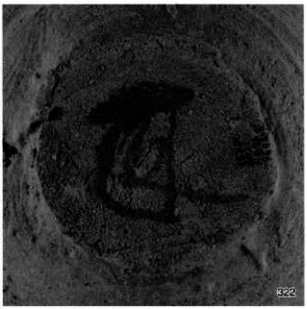
443

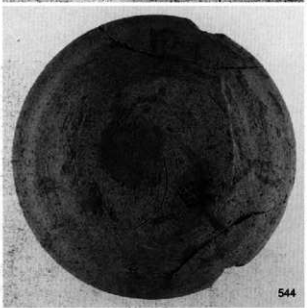

516


254


255

図版76　墨書「國」？、「見」

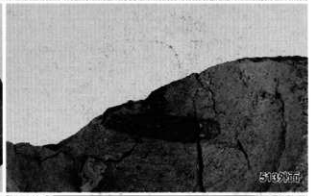


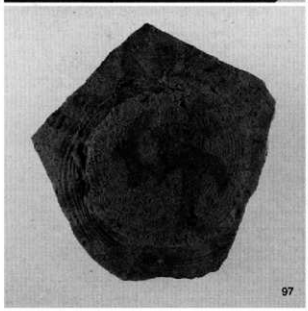


515

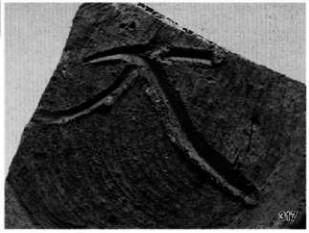
616

513底面


513外面


97

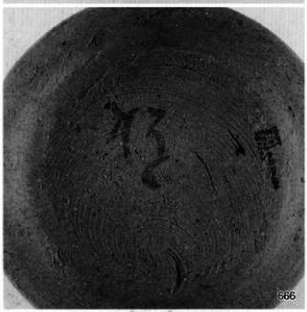
218

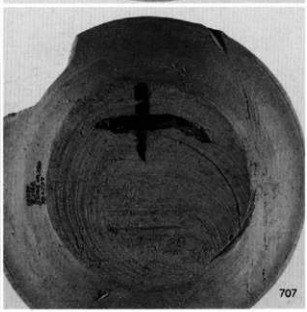

317

図版78　II期の墨書

668外面

668内面


666


707

836

450

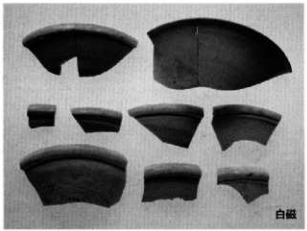
951

953

952

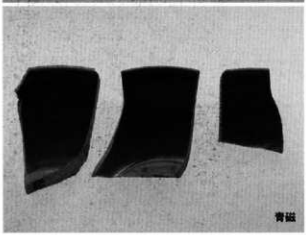
図版80　貿易陶磁器など

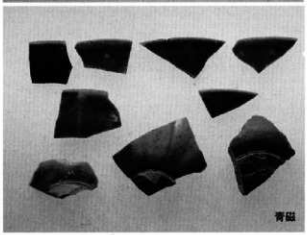
緑釉陶器

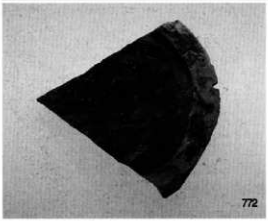

白磁

白磁内面

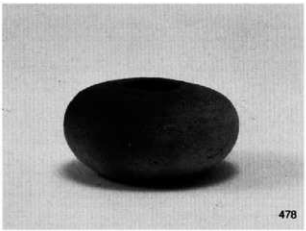
白磁外面

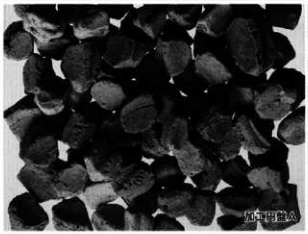

青磁

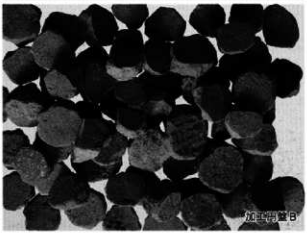

青磁

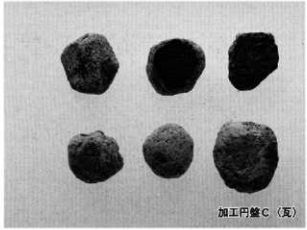

772

950

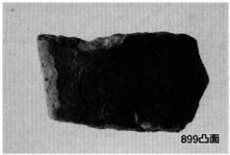

478

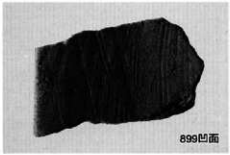

加工円盤A

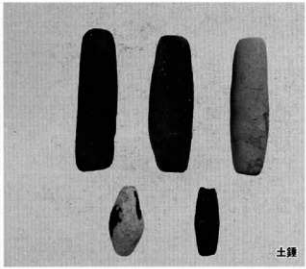

加工円盤B


加工円盤C（瓦）

2

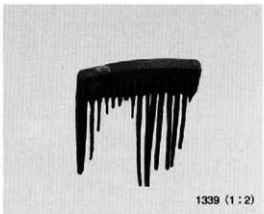

899凸面


899凹面


土錘

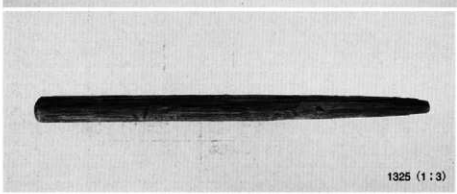
図版82　木製品、石製品、金属製品

1323（2：3）

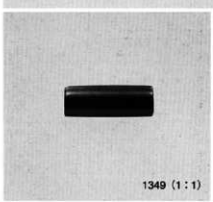


1339（1：2）

1324（1：3）

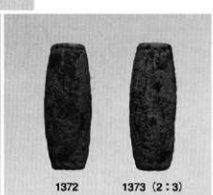


1325（1：3）



1349（1：1）

1371（2：3）



1372　1373（2：3）

報告書抄録

ふりがな	おりづきたやまいせき
書名	下津北山遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第88集
編著者名	早野浩二・鈴木正貴・鬼頭剛・堀木真美子・尾崎和美・薗山誠一・森勇一
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24
発行年月日	西暦　2000年8月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番	北緯 ・・・	東経 ・・・	調査期間	調査面積㎡	調査原因
おりづきたやまいせき 下津北山遺跡	いなざわし しもつきた やまちょう・しもつみなみ やまちょう・しもつこ いどちょう 稲沢市下津北山町・下津南山町・下津小井戸町	23220	09060	35度15分10秒	136度49分30秒	199605～199609 199712～199803	2,000㎡ 2,100㎡	尾張西部都市拠点地区土地区画整理に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下津北山遺跡	集落	古墳～平安	なし	土師器、須恵器、灰釉陶器、管玉	
	集落	平安、鎌倉・室町時代	溝、掘立柱建物、柵、土坑、井戸、自然流路	緑釉円塔、陶硯、木簡、人形木製品、横槌、灰釉系陶器、中国陶磁、古瀬戸、土師器 加工円盤、塊子の環座	方形区画、 大量の墨書陶器

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第88集

下津北山遺跡

2000年9月29日

編集・発行　財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

印　　刷　（資）東海プリント社

正誤表　　愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第88集　『下津北山遺跡』

	（誤）	（正）
挿図目次　右段18行目	古環境変遷	古環境変遷図
4頁　20・21行目小見出し	自然堤防の形式	自然堤防の形成
15頁　第8図土層断面図④、4	2.5Y4/1シルト、10YR4/4極細砂質	2.5Y4/1シルト、10YR4/4極細砂質入
第54図　キャプション	古墳環境変遷図	古墳環境変遷図
114頁　20行目小見出し	尾張国衙	尾張国衙
116頁　3行目	読み取れる	読みとれる
117頁　29行目小見出し	魚住・神出窯	神出窯
117頁　29・30行目	魚住・神出窯	神出窯

なお、図版36の縮尺が1：4ではなく、1：3になっています。ご注意下さい。